

1998 (平成10) 年度

講 義 内 容

国 文 科
英 文 科
放 射 線 科
専攻科(放射線技術科学専攻)
仙 教 科

駒澤短期大学

講 義 內 容

目 次

I 国文科・英文科・放射線科

1	専門教育科目		
	(1) 国 文 科	1	
	(2) 英 文 科	47	
	(3) 放 射 線 科	113	
2	他学部履修科目	他	1
3	日本語・日本事情科目	日	1
4	教職・資格講座	教	1

II 専 攻 科 (放射線技術科学専攻) … 専 1

III 仏 教 科 (一夜間開講一)

1	専門教育科目		
	2 他学部履修科目	仏	他 1
	3 仏教学部開設科目	仏	他 33

国 文 科	専 門 教 育 科 目	国 文 科
	英 文 科	英 文 科
科 目	放 射 線 科	放 射 線 科
	他 学 部 履 修 科 目	他 学 部 履 修 科 目
科 目	日 本 語 ・ 日 本 事 情 科 目	日 本 語 ・ 日 本 事 情 科 目
	教 職 ・ 資 格 講 座	教 職 ・ 資 格 講 座
専 攻 科	放 射 線 技 術 科 学 専 攻	放 射 線 技 術 科 学 専 攻
仏 教 科	専 門 教 育 科 目	専 門 教 育 科 目
	他 学 部 履 修 科 目	他 学 部 履 修 科 目
(夜 間 開 講)	他 学 部 履 修 科 目	仏 教 学 部 開 設 科 目

I 国文科・英文科・放射線科

1 專門教育科目

(1) 國文科

(1) 国 文 科

古 典 文	法 (古 瀬 順 一)	7
古 典 文	法 (片 山 晴 賢)	7
国 語 演 習	I (平成9年度以前入学生：国文演習 I)	
	(片 山 晴 賢)	8
国 文 演 習	I (安 藤 幸 輔)	8
国 文 演 習	I (石 割 透)	9
国 文 演 習	I (大 室 英 爾)	9
国 文 演 習	I (小 林 治)	10
国 文 演 習	I (坂 口 博 規)	10
国 文 演 習	I (佐 原 作 美)	11
国 文 演 習	I (鈴 木 裕 子)	11
国 文 演 習	I (清 田 啓 子)	12
国 文 演 習	I (藺 部 幹 生)	12
国 語 演 習	II (平成10年度以降入学生適用)	
	(休 講)	
国 文 演 習	II (片 山 晴 賢)	13
国 文 演 習	II (安 藤 幸 輔)	13
国 文 演 習	II (石 割 透)	14
国 文 演 習	II (大 室 英 爾)	14
国 文 演 習	II (小 林 治)	15
国 文 演 習	II (坂 口 博 規)	15
国 文 演 習	II (佐 原 作 美)	16
国 文 演 習	II (鈴 木 裕 子)	16
国 文 演 習	II (清 田 啓 子)	17
国 文 演 習	II (藺 部 幹 生)	17
上 代 文 学	史 (平成9年度以前入学生：国文学史 I)	
	(佐 原 作 美)	18
中 古 文 学	史 (平成9年度以前入学生：国文学史 I)	
	(鈴 木 裕 子)	18
中 世 文 学	史 (平成9年度以前入学生：国文学史 I)	
	(藺 部 幹 生)	19
近 世 文 学	史 (平成9年度以前入学生：国文学史 I)	
	(清 田 啓 子)	19
近 代 文 学	史 (平成9年度以前入学生：国文学史 II)	
	(大 室 英 爾)	20
現 代 文 学	史 (平成9年度以前入学生：国文学史 II)	
	(小 林 治)	20
国 文 学 概 論	(安 藤 幸 輔)	21
国 文 学 概 論	(坂 口 博 規)	21
国 語 学	(奥 原 淳 子)	22
国 語 学	(片 山 晴 賢)	22
中 国 文 学 講 読	(功 刀 正)	23
中 国 文 学 講 読	(清 水 浩 子)	23
上 代 文 学 講 読	(平成9年度以前入学生：国文講読 I <上代>)	
	(佐 原 作 美)	24
中 古 文 学 講 読	(平成9年度以前入学生：国文講読 II <中古>)	
	(鈴 木 裕 子)	24

中世文学講読	(平成9年度以前入学生：国文講読Ⅲ〈中世〉)	
	(藺部幹生)	25
近世文学講読	(平成9年度以前入学生：国文講読Ⅳ〈近世〉)	
	(菅野一雄)	25
近代文学講読	(平成9年度以前入学生：国文講読Ⅴ〈近・現代〉)	
	(井上優)	26
現代文学講読	(平成9年度以前入学生：国文講読Ⅴ〈近・現代〉)	
	(小林治)	27
国語史	(片山晴賢)	27
口語文法	(奥原淳子)	28
中国文学史	(功刀正)	28
和歌文学	(坂口博規)	29
物語文学	(藺部幹生)	29
説話文学	(藺部幹生)	30
連歌・俳諧	(菅野一雄)	30
近・現代詩	(大室英爾)	31
児童文学	(吉田司雄)	31
古典戯曲演劇	(清田啓子)	32
近代戯曲演劇	(休講)	
比較文学入門	(石割透)	32
女性史入門	(高嶋めぐみ)	33
文芸創作	(安藤幸輔)	33
有職故実	(大塚英子)	34
文化概論	(大室英爾 他6名)	35
周縁芸術Ⅰ	(小林治)	35
周縁芸術Ⅱ	(休講)	
国文学特殊研究	(佐原作美・安藤幸輔・石割透・鈴木裕子・藺部幹生)	36
上代文学研究	(川上順子)	36
中古文学研究	(鈴木裕子)	37
中世文学研究	(坂口博規)	37
近世文学研究	(清田啓子)	38
近・現代文学研究	(石割透)	38
国語学研究	(休講)	
書道実習Ⅰ	(那須隆吉)	39
書道実習Ⅱ	(那須隆吉)	39
情報処理解	(中原誠)	40
応用情報処理解	(中原誠)	41
表現現法	(笹瀬王子)	41
編集実務	(長谷川孝)	42
ジャーナリズム研究	(籾野寿雄)	42
秘書概論	(湯浅陽子)	43
秘書実務	(森本正恵)	44
卒業研究Ⅰ	(佐原作美)	45
卒業研究Ⅱ	(石割透)	45
卒業研究Ⅲ	(片山晴賢)	46

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
古 典 文 法	こ せ じゅん いち 古 瀬 順 一	短 国 1 必	4

講義のねらい

古典読解に役立つ文法理論を展開する。

講義の内容・
授業スケジュール

前期は教科書を中心にした授業になる。特に「文」および「文章」の構成に視点をあて、古典の特性を明らかにしていく。
後期は毎時プリントを配布し、古典語の助詞・助動詞を中心にした授業を展開する。

履修上の留意点

欠席すると授業内容が分断されるため、理解が困難になる。特に復習を欠かさないようにして欲しい。

成績評価の方法

期末試験（ペーパーテスト）の点数を重視した評価となる。

教 科 書

塚原鉄雄『新講古典文法』（新典社）

参 考 書 等

参考文献等は授業中に紹介していく。

そ の 他

講義形式の授業になる。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
古 典 文 法	かた やま はる かた 片 山 晴 賢	短 国 1 必	4

講義のねらい

古典読解に役立つ文法理論を展開する。

講義の内容・
授業スケジュール

前期は教科書を中心とし、後期はプリントを配布し、古典語の助詞・助動詞を中心とした授業となる。

履修上の留意点

予習・復習を怠らず、毎時間『古語辞書』を持参すること。

成績評価の方法

出席状況・定期試験・小テストをもとに総合的に評価する。

教 科 書

塚原鉄雄『新講古典文法』（新典社）

科目名	担当者名	配当学年	単 位
国語演習 I	かた やま はる かた 片 山 晴 賢	H10以降入学生/短国1選必	2
国文演習 I		H9以前入学生/短国1必	

講義のねらい	国語学研究の基礎的な知識を養うことに主眼をおき、今年度は真名本『伊勢物語』をとりあげる。
講義の内容・授業スケジュール	建部綾足校訂『伊勢物語』の影印本がテキストであるので、「万葉仮名」の読みを学んだ後に、本文読解を中心として発表し、その後に表記法を他の資料と比較したものを各自発表してもらう。
履修上の留意点	演習であるので、出席を重視し、各自分担で発表を中心に進めるので、自からの問題意識をもって授業にのぞんでほしい。
成績評価の方法	レポートにより成績評価する。
教科書	真名本『伊勢物語』(翰林書房) ¥1,800
参考書等	授業時間に指示する。

科目名	担当者名	配当学年	単 位
国文演習 I	あん どう こう すけ 安 藤 幸 輔	H10以降入学生/短国1選必	2
		H9以前入学生/短国1必	

講義のねらい	近代日本文学の代表的作家と作品を対象とし、作品を正しく、深く読む方法を身につけるようにする。すなわち、作品をまず自分で読み、次に先覚者の考え方も参考にして、最後に真の作品の主題、表現、構成について理解するようにする。漱石、一葉、康成、潤一郎など17人の作品(前期)直哉、犀屋、かの子、芙美子を中心とする。(後期)
講義の内容・授業スケジュール	各自が研究したものを発表し、適宜に質疑応答をする形をとる。 発表者は、あらかじめ指定された方式による発表内容をコピーによって全員に配布する。
履修上の留意点	レポート、発表によって評価する。 出席を重視する。発表者以外の者も発言を求める。
教科書	『近代の短篇小説』(菁柿堂) 1,545円 ほか
参考書等	その都度指示する。

科目名	担当者名	配当学年	単位
国文演習 I	いしわり 石割	H10以降入学生/短国1選必	2
		H9以前入学生/短国1必	

講義のねらい	志賀直哉の短篇小説を細かく読み、検討していく。
講義の内容・授業スケジュール	それぞれ、時間ごとに報告者を決め、その報告に基づいて授業を進めていく。
履修上の留意点	受講者は、報告者に限らず、必ず扱う作品を細かく読んで授業に臨むこと。
成績評価の方法	評価は、それぞれの報告と、それを更に深めた内容にして提出するレポートによって、主として行なう。
教科書	『清兵衛と瓢箪・網走まで』『小僧の神様・城の崎にて』(以上。新潮文庫)

科目名	担当者名	配当学年	単位
国文演習 I	おおむろ 大室英	H10以降入学生/短国1選必	2
		H9以前入学生/短国1必	

講義のねらい	近代日本文学のなかの童話作品を題材とし、その作品(作家)をいかに考え、いかにわがものとするか。
講義の内容・授業スケジュール	宮澤賢治の童話を読む。作品の主題や構想の卓抜さ豊かさを味わい、加えて問題となる作品生成の過程、難解とされる詩、初めての創作体験となった短歌などの世界へ分け入ることにより、賢治文学の深さと広がり、その特質を考える。
履修上の留意点	「演習」であるから受講者全員が1~2作を分担し、研究発表をすることになる。したがって、発表者は、それに備えての調査、研究に努めなければならないし、聴く側も相応の問題意識を持って臨まなければならないだろう。
成績評価の方法	研究発表、及びその「まとめ」としてのレポートの提出が成績評価の際の最低条件となる。
教科書	『注文の多い料理店』『新編 風の又三郎』『新編 銀河鉄道の夜』『宮澤賢治詩集』(いずれも新潮文庫)他にプリントを準備する。
参考書等	授業にてその都度指示する。

科目名	担当者名	配当学年	単 位
国 文 演 習 I	こ ばやし 小 林 おさむ 治	H10以降入学生/短国1選必	2
		H9以前入学生/短国1必	

講義のねらい

宮澤賢治の散文作品、および野間宏、安部公房の初期短編小説を読み、作家について調査することを通じて、個々の作家における思想と実践（行動）と作品の関係の様相、ならびにそれぞれが抱えている問題点について考える。

講義の内容・授業スケジュール

上記の作家たちの作品をそれぞれ指定し、作品ごとに報告者ならびに質問者を決め、その報告を出発点として質問者との対話を経て、指導、助言していくという形で授業を進めていく。なお、対象作家、作品は開講時にプリントを配布し、希望制によって決定する。

履修上の留意点

受講者は自分の担当作家、作品だけでなく、開講時に指示する全対象作品を通読して出席することが必須であり、報告書にどしどし質問をぶつけることで授業に参加していただきたい。理想としては、報告者、質問者、受講者、教員との討論にまでたどりつきたいとは考えている。

成績評価の方法

それぞれの報告および課せられたレポート等の内容に、出欠状況を加味して評価する。

教 科 書

開講時にプリントを配布し、現在、容易に入手可能なテキストを指示する。

参 考 書 等

報告の過程で、必要に応じてその都度指示する。

そ の 他

報告に必要な調査、報告の要領、ならびに留意事項等について、あらかじめ詳しく説明するが、作品を調査し、考察していく過程で不明な点が生じたならば、教員に相談、質問していただきたい。年間を通じて文学研究に必要な基本的手続きとその意義を知ることが当演習の目的である。

科目名	担当者名	配当学年	単 位
国 文 演 習 I	さか ぐち ひろ き 坂 口 博 規	H10以降入学生/短国1選必	2
		H9以前入学生/短国1必	

講義のねらい

『十六夜日記』の作者阿仏が、安嘉門院に女房として仕えていた若き日、身分ある男性との恋に破れた体験をもとにした物語的回想記を読む。自らを王朝物語のヒロインになぞらえる上で、先行文学を下敷きにした表現が多く見られ、後々歌人としても優れた才能を発揮する作者の若き頃の表現能力など理解してほしい。

講義の内容・授業スケジュール

開講当初に女流文学の流れを概観し、阿仏尼の伝記を考える。テキストが写本影印を収めており、草仮名の読みを学んだ後に、6月頃より受講者に作品を分担して、本文読解を中心に発表してもらい、11月頃より演習課題を与えて作品を再吟味してもらう。

成績評価の方法

演習であり出席重視。レポートの発表内容をもって評価する。

教 科 書

永井義憲校注『うたたね』（新典社刊）¥824

科目名	担当者名	配当学年	単位
国文演習Ⅰ	佐原 作美	H10以降入学生/短国1選必	2
		H9以前入学生/短国1必	

講義のねらい

平安朝前期に成立した『竹取物語』を対象に演習授業を行う。知ってのとおり『竹取物語』は、『源氏物語』の中で「物語の出で来はじめの祖（おや）なる竹取物語」と書かれているように、わが国の物語文学の祖と見られ、古くから時代や階層を超えて多くの人々に親しまれ読み継がれて来た作品である。作品のもつ諸問題を考察しつつ読んでいきたい。

講義の内容・授業スケジュール

演習は受講生による自主的な調査やその口頭発表をもとに進められるものである。したがって、受講生に少しずつ分担割当てを課し、その担当者の発表を中心に質疑応答などをまじえながら一年間で通読できるように進めていきたい。

履修上の留意点

科目の性格上、どうしても受講生による調査研究をふまえ、時にはプリントなどを併用し口頭発表によって授業を展開することになるので、受講生の積極的で意欲的な姿勢が望まれよう。作品を単に読解するのみならず、安易を排し地道に根気よく一字一字を読み進めることが大切になって来るので、その点を理解し承知の上で授業にのぞんでほしい。

成績評価の方法

成績評価は平常の授業の出席状況やレポート、発表、小テストなどをもって判断する。

教科書

新潮古典集成『竹取物語』（新潮社刊）

参考書等

参考書は授業の中で指示する。

科目名	担当者名	配当学年	単位
国文演習Ⅰ	鈴木 裕子	H10以降入学生/短国1選必	2
		H9以前入学生/短国1必	

講義のねらい

この演習の目的は、主として三つあります。まず、古典文学に親しむこと。次に、文芸研究の方法の基礎を学ぶこと、そして、各自が自分の考えを持ち、それを言葉に表現して他者にわかりやすく伝える訓練をすること。

講義の内容・授業スケジュール

平安時代の歌物語『伊勢物語』を、影印本で読みます。変体仮名の読み方や、古典の文章を読解することに慣れましょう。また、和歌が人々の人生に於いてどのような機能を果たすものかを考えながら、当時の社会や人々の生活への関心を深めましょう。

履修上の留意点

授業は、受講者の分担報告を中心として進めますので、担当者がいかに熱意をもって作品を深く読み、多角的に調査し、考察してきたかにより、授業の水準が決まることは言うまでもありません。担当者の発表で授業がおもしろくもつまらなくもなりますから、十分に準備しておくこと。が、それだけではなく、受講生全員にも、発表を受け身で聞き流しているだけではなく、質問・意見などを活発に発言するよう、積極的な授業参加の姿勢を強く望みます。

成績評価の方法

学年末にレポートを提出してもらい、その内容を中心に、授業中の発表や発言、出席状態などの平常点を加味して評価します。

教科書

『天福本伊勢物語（完本）』（武蔵野書院）、『変体仮名の手引き』（武蔵野書院）

参考書等

参考書などは、授業で指示します。

科目名	担当者名	配当学年	単 位
国 文 演 習 I	せい だ けい 子 清 田 啓 子	H10以降入学生/短国1選必 H9以前入学生/短国1必	2

講義のねらい

演習は、研究方法を実習する科目であるので、参加する学生の研究・調査とその発表がこの時間の中心になる。

講義の内容・授業スケジュール

今年度の演習材料として、井原西鶴の『世間胸算用』をとりあげる。初めに、西鶴の生涯と業績を通観し、以後、この作品の各章を受講者に分担して研究してもらう。そして、その成果を発表してもらうが、それについての検討には全員が参加することになる。

履修上の留意点

演習という科目の性質上、出席すること、論議に加わることが最重要となる。積極的に発言することと、他の意見を充分聞きとる姿勢が望ましい。

成績評価の方法

出席状況(三分の一以上の欠席は〈不可〉となる)及び、発表の研究内容、折々の宿題や夏期レポート等によって評価する。定期試験は行わない。

教 科 書

富士昭雄編『世間胸算用』(明治書院) ¥1,400

参 考 書 等

教場で指示。

科目名	担当者名	配当学年	単 位
国 文 演 習 I	その へ みき お生 蘭 部 幹 生	H10以降入学生/短国1選必 H9以前入学生/短国1必	2

講義のねらい

国文学研究の基本的な方法を実戦的に獲得することを目標とする。今年度は、中世を代表する歌人である藤原定家の異父兄に当たる隆信の私家集『隆信集』をとりあげる。担当歌の正確な解釈は勿論のこと、国歌大観を用いて用例を検索したり、歌語の文学史的な位置づけを考えたりすることを通して、自分で研究が出来るような基礎作業を身につけたい。

講義の内容・授業スケジュール

演習形式で、各人が年間に二首の和歌を担当して発表を行うが、追加や訂正のための発表も数えると、年間に十回程度の発表回数になる。また、授業時間外に研究方法や内容についての個別ディスカッションを行い、より完成度の高い研究成果があげられるように努力する。

履修上の留意点

用例の検索や分析、また、発表のための資料作りなどには、相当な時間を要するので、この科目を履修するには、それだけの覚悟が必要となる。また、担当教員と対等に意見交換をするくらいの気構えも欲しい。

成績評価の方法

発表内容によって60点分の評価を下し、他の受講生の発表に対する意見・質問によって40点分の評価を下す。また、必要に応じてレポート提出を求めることもあるが、追再試験を含む定期試験は一切行わない。

教 科 書

プリントを配布する。

参 考 書 等

必要が出てくれば時間内に指示する。

科目名	担当者名	配当学年	単位
国文演習Ⅱ	かた 片 やま 山 はる 晴 かた 賢	短国2必 (H9以前入学生)	2

講義のねらい

国語学研究の基礎的な知識を養うことに主眼をおき、今年度は『火堯和尚再吟』をとりあげる。

講義の内容・
授業スケジュール

江戸初期成立の駒沢大学図書館収蔵『火堯和尚再吟』を読むにあたり、中世国語の特質について学んだ後に、本文を味読し禅林特有の用語・用法を各自発表してもらう。

履修上の留意点

各自の分担発表を中心に進めるので、自らの問題意識をもって授業にのぞんでほしい。

成績評価の方法

レポートにより成績評価する。

教科書

禅籍抄物『火堯和尚再吟 略注』（翰林書房） ¥2,800

参考書等

授業時間に指示する。

科目名	担当者名	配当学年	単位
国文演習Ⅱ	あん 安 どう 藤 こう 幸 すけ 輔	短国2必 (H9以前入学生)	2

講義のねらい

近代日本文学の代表的作家と作品を対象とし、作品を正しく、深く読む方法を身につけるようにする。すなわち、作品をまず自分で読み、次に先覚の考えかたをも参考にし、最後に真の作品の主題、表現、構成について理解するようにする。

講義の内容・
授業スケジュール

各自が研究したものを発表し、適宜に質疑応答をする形をとる。
発表者は、発表する内容を定められた方式によってコピーして全員に配布する。

履修上の留意点

レポート、発表によって評価する。
出席を重視する。発表者以外の者の発言を求める。

教科書

『現代の小説』（菁柿堂） ¥1,545
希望する作家の作品（直哉、治、康成、由紀夫など）を題材とする方法をとる。（後期）

参考書等

その都度指示する。

科目名	担当者名	配当学年	単 位
国 文 演 習 II	いし かり 石 割 とおる 透	短 国 2 必 (H9以前入学生)	2

講義のねらい

谷崎潤一郎の、代表的な小説を細かく読み、検討していく。この時間では主として谷崎の昭和期の作品を中心に扱いたい。

講義の内容・
授業スケジュール

それぞれ、時間ごとに報告者を決め、その報告に基づいて授業を進めていく。

履修上の留意点

受講者は、報告者に限らず、扱う作品を必ず緻密に読みこんで授業に臨むこと。

成績評価の方法

評価は、年度1～2回のそれぞれの報告と、それを更に深めた成果を反映したレポートによって行なう。

教 科 書

扱うテキストは、『痴人の愛』『卍』『蓼喰う虫』『春琴抄』『細雪』『少将滋幹の母』(以上、新潮文庫)など。

科目名	担当者名	配当学年	単 位
国 文 演 習 II	おお むろ えい じ 大 室 英 爾	短 国 2 必 (H9以前入学生)	2

講義のねらい

近代日本文学のなかの短篇小説を題材とし、その作品(作家)をいかに考え、いかにわがものとするか。

講義の内容・
授業スケジュール

国木田独歩の作品を読む。主に短篇小説を対象とするが、独歩の小説の生命は詩であると言われるように、その作品に流れる抒情的性格について考えることが中心となろう。したがって「欺かざるの記」、早い時期の詩篇、それに「武蔵野」、「空知川の岸辺」といった作品も対象となるはずである。

履修上の留意点

「演習」であるから受講生全員が1～2作を分担し、研究発表をすることになる。したがって発表者は、それに備えての調査、研究に努めなければならないし、聴く側も相応の問題意識を持って臨まなければならないだろう。

成績評価の方法

研究発表及びその「まとめ」としてのレポートの提出が成績評価の際の最低条件となる。

教 科 書

『武蔵野』『牛肉と馬鈴薯・酒中日記』(いずれも新潮文庫)。他にプリントを用いる。

参 考 書 等

授業にてその都度指示する。

科目名	担当者名	配当学年	単位
国文演習Ⅱ	小林 治 <small>こばやし おさむ</small>	短国2必 (H9以前入学生)	2

講義のねらい

安部公房、島尾敏雄、小島信夫、深沢七郎、加賀乙彦、村上龍、村上春樹などの第二次戦後派以降、現在に至るまでの作家の作品、あるいは上野英信などによるルポルタージュ文学作品を読み、戦後の日本文学の可能性と限界について考える。演習Ⅰからの積み重ねの科目として、個々に自分が文学を読むこと、もしくは文学として作品を読むことを対象化して考えることを意識しながら、作品に向かってほしい。

講義の内容・授業スケジュール

上記の作家たちの作品をそれぞれ指定し、作品ごとに報告者ならびに質問者を決め、その報告を出発点として質問者との対話を経て、指導・助言していくという形で授業を進めていく。なお、対象作家、作品は開講時にプリントを配布し、希望制によって決定する。

履修上の留意点

受講生は自分の担当作家、作品だけでなく、開講時に指示する全対象作品を通読して出席することが必須であり、報告者にどしどし質問をぶつけることで授業に参加していただきたい。理想としては、報告者、質問者、受講者、教員との討論にまでたどり着ければとは考えている。

成績評価の方法

それぞれの報告および課せられたレポート等の内容に、出欠状況を加味して評価する。

教科書

開講時にプリントを配布し、現在、容易に入手可能なテキストを指示する。

参考書等

報告の過程で、必要に応じてその都度指示する。

その他

報告に必要な調査、報告の要領、ならびに留意事項等について、あらかじめ詳しく説明するが、作品を調査し、考察していく過程で不明な点が生じたならば、教員に相談、質問すること。

科目名	担当者名	配当学年	単位
国文演習Ⅱ	坂口 博 規 <small>さかぐち ひろき</small>	短国2必 (H9以前入学生)	2

講義のねらい

鎌倉時代後期、後深草上皇の後宮に生きた二条という女性の回想の記『とはずがたり』を読む。上皇の寵愛を受けながら、同時に作中「雪の曙」と称される藤原(西園寺)実兼と、「有明の月」と称される上皇の弟仁和寺御室性助法親王の二人の男性から愛され交渉を持つ。当時の宮廷貴族社会の頹廢的な風潮の中に生きた作者の、その赤裸々な愛欲遍歴の大胆な告白の記は、古典文学においては他に例を見ない作品である。その告白は、後に西行法師を理想に仰ぎ出家した作者が、真摯な求道心をもって諸国修行の旅を重ね、自己の前半生の贖罪の体験を通して得たところの愛欲の苦悩を超克した告白だと理解されたい。

講義の内容・授業スケジュール

授業では三人の男性との交渉を中心として読み進める。女性の手になる回想の記として、本作品は日記文学のジャンルに入る。これは紀行文学・隨筆文学等と共に「自照文学」と称される。自照(自己、その人生を観照する)の精神は、平安王朝時代の女流文学の伝統に立つものだが、自ずと本作品が生まれた中世という時代の特徴が指摘され、また作者固有の感性・闊達な自在の精神が考えられ、まず女性の手になる文学の歴史を概観し導入としたい。テキストは口語訳も補われておりその読解は主に作者の心理の読みなどを中心に進めたい。受講者に作品を分担して、その点について各自の読みを問う。

成績評価の方法

演習につき各担当者の発表内容を中心として評価する。特に出席重視。

教科書

福田秀一校注『とはずがたり』(新潮社刊) ¥2,270

科目名	担当者名	配当学年	単 位
国 文 演 習 II	佐 原 作 美 さ はら さく み	短 国 2 必 (H9以前入学生)	2

講義のねらい

平安朝の前期に成立し、わが国の仏教説話集の祖とされる『日本霊異記』をもとに演習を行う。この作品は、上中下巻の三巻に116の説話を収めたものであるが、その思想的主張は序文に見られるように、仏教思想とくに因果応報の思想をもとにしての教化善導にあると言える。当時の一般庶民が何に苦しみ悩み、何に光明を見出そうとしていたかなど、古代社会にあってその底辺にあった人々の心情や思想行動がよく描写されている。作品の読解をもとに、当時の社会状況や人々の心性を見ていきたいと思う。

講義の内容・授業スケジュール

科目の性格上、受講生による調査の発表を中心に進めることになろう。具体的には、上中下の各巻ごとに、受講生が任意に担当する説話を選び、その調査をもとに口頭による発表とそれへの質疑応答をまじえながら授業を展開していきたい。

履修上の留意点

演習授業という点からどうしても受講生の発表が中心となるが、単に説話の内容やあらすじを知るだけに終らせず、作品や登場人物の背景となっている社会的時代的な状況をも視野に入れて、より多角的に理解を深めることが必要である。作中人物を追体験する程の気概を持ってのぞんでほしい。

成績評価の方法

成績評価はの授業時の発表やレポートや出席状況などを見て判断する。

教 科 書

新潮日本古典集成『日本霊異記』（新潮社刊）¥2,200

参 考 書 等

参考書等は授業の折に指示する。

科目名	担当者名	配当学年	単 位
国 文 演 習 II	鈴 木 裕 子 すず き ひろこ	短 国 2 必 (H9以前入学生)	2

講義のねらい

今から千年ほど昔、平安時代の日本では、女性たちによって数多の物語作品や日記文学などが書かれました。そのなかでも『枕草子』は特異な作品と言えるかも知れません。『源氏物語』など他の作品と比較しながら『枕草子』を精読し、文学的位置について考えてみましょう。

もちろん、この授業が、前年度から引き続き、受講生各自が自分の考えを持ち、それを言葉に表現して他者にわかりやすく伝える訓練の場であるということ言うまでもありません。

講義の内容・授業スケジュール

『枕草子』の日記的章段、随想的章段を中心に読みますが、適宜、類聚的章段をも扱います。合わせてその周辺の資料をも読み、より深く作品と歴史的背景について考察したいと思います。

履修上の留意点

授業は、受講者の分担報告を中心として進めますので、担当者がいかに熱意をもって作品を深く読み、多角的に調査し、考察してきたかにより、授業の水準が決まることは言うまでもありません。担当者の発表で授業がおもしろくもつまらなくもなりますから、十分に準備してくること。が、それだけではなく、受講生全員にも、発表を受け身で聞き流しているだけではなく、質問・意見などを活発に発言するよう、積極的な授業参加の姿勢を強く望みます。

成績評価の方法

学年末にレポートを提出してもらい、その内容を中心に、授業中の発表や発言、出席状況（授業に欠席・遅刻しないことが前提）などの平常点を加味して評価します。

教 科 書

『枕草子』上・下 石田履二訳注（角川文庫） その他プリント教材

参 考 書 等

参考書などは、授業で指示します。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
国 文 演 習 II	せい だ けい こ 清 田 啓 子	短 国 2 必 (H9以前入学生)	2

講義のねらい	一年次で習得した国文学研究方法を、さらに発展させ、作品を全体として捉え、論じることができるよう、参加者の知恵を結集していきたい。
講義の内容・授業スケジュール	上田秋成の『雨月物語』を材料としてとり上げる。九章ある物語を、各自希望により選んでもらい、個人あるいはグループで研究を深めてもらう。その成果を発表し、参加者全員の検討を経て、作品論を仕上げしてほしいと思う。
履修上の留意点	演習という科目の性質上、出席すること、論議に加わることが最重要となる。積極的に発言すること、他の意見を充分聞きとる姿勢が望ましい。
成績評価の方法	出席状況(三分の一の欠席は〈不可〉となる)及び、発表の内容、折々の宿題や夏期レポート等によって評価する。定期試験は行わない。
教科書	水野総校注『雨月物語』(明治書院) ¥1,200
参考書等	教場で指示する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
国 文 演 習 II	その へ みき お 蘭 部 幹 生	短 国 2 必 (H9以前入学生)	2

講義のねらい	国文学研究の方法を実践的に獲得することを目標とする。今年度は、中世を代表する文学ジャンルである説話をとりあげる。各自が好きな題材とテーマを選び、一年かけてその説話を研究する。完成度の高い研究を求める。
講義の内容・授業スケジュール	演習形式で、各人が選んだ題材について年間に四段階に分けて発表を行うが、追加や訂正のための発表も数えると、年間に十回程度の発表回数になる。また、授業時間外に研究方法や内容についての個別ディスカッションを行い、より完成度の高い研究成果があげられるように努力する。
履修上の留意点	同類話の比較や歴史的資料の検索、また、発表のための資料作りなどは、相当な時間を要するので、この科目を履修するには、それだけの覚悟が必要となる。また、担当教員と対等に意見交換をするくらいの気構えも欲しい。
成績評価の方法	発表内容によって60点分の評価を下し、他の受講生の発表に対する意見・質問によって30点分の評価を下す。それ以上の成績を得たい場合はレポートを提出する。それ以外の場合でも、必要に応じてレポート提出を求めることもあるが、追再試験を含む定期試験は一切行わない。
教科書	なし。
参考書等	必要が出てくれば時間内に指示する。

科目名	担当者名	配当学年	単 位
上代文学史 国文学史 I	佐 原 作 美 さ ばら さく み	短国1・2選 H9以前入学生/短国1必	4

講義のねらい

無文字時代の文学のありようから、文字を得て記録され、今日にまで継承されて来た飛鳥奈良時代の文学作品を中心に上代文学の流れを、史的背景をふまえながら考察していきたい。

講義の内容・
授業スケジュール

神話を豊富に含む古事記や日本書紀や風土記などの散文文学をはじめ、万葉集などの韻文学など、それぞれの作品の一端にふれながら、上代文学のおもしろさを発掘していきたい。

履修上の留意点

教科書に載っている例文や、配布されるであろうプリントの他に、上記の作品を積極的に読んで欲しいと思う。

成績評価の方法

課題のレポートや定期試験その他出席状況などを見て判断する。

教 科 書

山岸徳平編『作品中心 日本文学史』(新典社刊) ¥927

参 考 書 等

授業時に指示する。

科目名	担当者名	配当学年	単 位
中古文学史 国文学史 I	鈴 木 裕 子 すず き ひろ こ	短国1・2選 H9以前入学生/短国1必	4

講義のねらい

平安時代の文学の流れを通観します。

講義の内容・
授業スケジュール

平安時代の文学作品に触れることで、時代の思潮を理解し、古典文学に親しむ契機となり得るように、実際の作品をできるだけ読んでいくつもりです。変体仮名を読む機会も設けます。

履修上の留意点

授業は、教科書の他にプリント教材を配布し、それらを用いての講義を中心に行いません。が、教師の一方通行にならないように、適宜、受講生に短い発表を課します。その他積極的な質問や感想・意見など建設的な発言は歓迎します。

成績評価の方法

期末に試験を行いません。(前期一回、後期一回) その他、授業中の発表、小テスト、出席状態などの平常点を加味して総合的に評価します。

教 科 書

『日本文学史』久保田淳編(おうふう) その他プリント教材

参 考 書 等

参考書などは、授業で指示します。

科目名	担当者名	配当学年	単位
中世文学史	そのへみきお 園部 幹生	短国1・2選	4
国文学史 I		H9以前入学生/短国1必	

講義のねらい

中世期の国文学史全般について講義する。しかし、時代がかわれば文学がかわるというものではない。種々の中世文学が生み出されるには、それまでの文学の伝統を無視することはできない。そこで、この講座では特に中古から中世にかけての文学史的展開を中心に講義する。それも単に年代や作品・作家の羅列ではなく、作品が生み出される背景や、作品と作品との関連、或いは文学史的な意義付けなどについて考えてみたい。また、担当教員の専門である説話文学の視点を生かした講義にしたいとも考えている。

講義の内容・授業スケジュール

前期には、韻文を中心に講義し、後期には散文を中心に講義する予定でいる。

履修上の留意点

文学史が暗記ではないことを理解し、問題意識を持って授業に臨むことが必要である。特に、現代的な価値観では計れない文学史的な意義を問いなおしてほしい。なお、毎時限、その日の講義内容に対する意見文を書いて提出することを求めるので、必ず原稿用紙を持参すること。

成績評価の方法

毎時限提出する意見文で50点分を評価し、12月末の時間内に50点満点の筆記試験を行う（暗記科目ではないので、試験はテキスト・ノート・参考書等何でも持ち込み参照可）。また、必要に応じて、レポート提出を求めることもある。なお、追再試験はレポート提出とするが、これについては、1月の授業時間内に指示する。

教科書

浅見和彦・天野文雄・小島孝之・田村柳杏編『編年中世の文学』（新典社） 2,060円

参考書等

必要が出てくれば時間内に指示する。

科目名	担当者名	配当学年	単位
近世文学史	せいだけいこ 清田 啓子	短国1・2選	4
国文学史 I		H9以前入学生/短国1必	

講義のねらい

近世（江戸時代）の文学の流れを通観する。江戸時代は、庶民が力を発揮できた時代であると同時に、政治的束縛も各分野に及ぼされた。そのような中で、文学を志した人々のあり方はどんなものであったか、どういう作品が生み出されたかを探って行きたい。

講義の内容・授業スケジュール

教科書とする『近世文学史』には、作品もかなり掲載されているので、なるべく丁寧にその意義を見きわめつつ、近世初期から末期までの変遷を辿ることになる。

履修上の留意点

文学とは何か、を、常に念頭においてほしい。

成績評価の方法

学年末の定期試験、夏期レポート、折々の提出物等による。

教科書

『近世文学史』佐藤毅他編（双文社出版） ¥1,800

参考書等

教室で指示する。

科目名	担当者名	配当学年	単 位
近代文学史	おおむろ えい し 大 室 英 爾	短国1・2選	4
国文学史Ⅱ		H9以前入学生/短国1必	

- 講義のねらい** 近代から現代にいたる文学の流れをたどりながら、その史的意味を考える。
- 講義の内容・授業スケジュール** 主要な作品をとりあげて検討を加えつつ、それらを時代・場所・環境などから相対的、具体的に捉えてゆく作業が中心となる。
- 履修上の留意点** テキストに掲げてある作品およびその他の必要とする作品は、指示に従い、あらかじめ読んでから授業に臨むことが求められる。
- 成績評価の方法** 定期試験の他随時課題の提出を求める。それらの評価と出度状況を重視した総合評価。
- 教科書** 『日本文学史概説—近代編—』（有精堂）
- 参考書等** 開講時および授業にて指示する。

科目名	担当者名	配当学年	単 位
現代文学史	こばやし おさむ 小 林 治	短国1・2選	4
国文学史Ⅱ		H9以前入学生/短国1必	

- 講義のねらい** 現代日本文学の流れを概観しつつ、時代との関わりの中で生成される作品の系譜を考える。現代の起点を関東大震災のあった大正12（1923）年前後に置き、以降、昭和の終り（1988）まで見ていくことになる。
- 講義の内容・授業スケジュール** 前期は総編と昭和20年の敗戦までを、後期にそれ以後を取り上げる予定。
- 履修上の留意点** 授業で取り上げた作品は、できるだけ多くを授業と平行して読むことが望まれる。また、特に詳しくふれる作品はあらかじめ指示するので、必ず読んでおくこと。
- 成績評価の方法** 定期試験の結果、レポートの内容等を総合し、さらに出欠状況を加味して評価する。
- 教科書** 三好行雄編『近代文学史必携』（学燈社—別冊國文學—）¥1,000
- 参考書等** 『時代別日本文学史事典（現代編）』（東京堂出版）

科目名	担当者名	配当学年	単 位
国文学概論	あん どう こう すけ 安 藤 幸 輔	H10以降入学生/短国1・2選	4
		H9以前入学生/短国2必	

講義のねらい

古代から現代に至るまでの日本文学を概観する。すなわち、古代、中古、中世、近世、近代の代表的な文学作品をジャンル、表現による特徴によって考え、底流となっている時代、社会をも視野に入れて、史的な展開のあとを辿る。

講義の内容・授業スケジュール

主として、作品に現われた〈笑い〉をとらえて、日本民族の知性、感性の特徴をみるようにする(近世まで)。次に〈女性の生き方〉を考えることで、文学と時代の特徴を考える(近代)。更に〈文学の風土〉を考える(戦後)。

履修上の留意点

〈笑い〉〈女性〉〈風土〉を考える上での具体的な文学作品の原文を読み、作品についてなるべく深く詳細に検討しながら概観してゆくようにする。

成績評価の方法

出席を重視し、レポートを提出させる。

教科書

追って指示する。

参考書等

その都度指示する。

科目名	担当者名	配当学年	単 位
国文学概論	さか ぐち ひろ まさ 坂 口 博 規	H10以降入学生/短国1・2選	4
		H9以前入学生/短国2必	

講義のねらい

日本文学は原始より長い歴史をもち、政治や社会や風土と深くかかわりながら、複雑多様で豊かな展開を示してきた。個々の作品や作家を考える上で、そうした日本文学がいかなる背景のもとで生成したのかを理解することは大切なことである。日本文学の本質をきわめ、その諸相を十分に把握することで作品・作家の抱えた諸問題への深い関心が喚起される。即ち、日本文学を研究する上で様々な視点があることを知り、問題意識を持つ必要があるからである。文学作品を研究するには客観的立場に立って「論証」することが要求され、単に個人の主観的印象や価値判断を与えるものではない。日本文学とはいかなるものか、日本文学研究とはいかなるものかを考えるのが目的である。

講義の内容・授業スケジュール

日本文学について、各ジャンルの様相・文学理念・風土との関係・時代や社会とのつながり等を中心に概観する。講座名に「国文学概論」となっていて、今「日本文学」という語を用いているが、学術体系の名称として、この「国文学」と「日本文学」という用語をめぐって論争の時期もあった。まずその問題から説き始めて、以下テキストを読み進めることを中心に、主に文学理念を考えてゆく。

成績評価の方法

学年末の定期試験の成績をもとに評価する。

教科書

阿部正路・上坂信男・神作光一・寺本直彦編著『日本文学概論』(右文書院刊) ¥2,000円

科目名	担当者名	配当学年	単 位
国 語 学	おく はら じゅん こ 奥 原 淳 子	H10以降入学生/短国1・2選 H9以前入学生/短国2必	4

講義のねらい

本講義の目標は「日本語を分析的に見つめる指標を得て、自己の言語感覚をみがくこと」にある。

講義の内容・授業スケジュール

日常使用している日本語が、どのような過程を経て成立してきたのか、また、現在はどのような問題点、及び動きがあるのか、音韻・文字・語彙など各方面から概説する。
また、あわせて、「仮名書き論語」も読み進めていく。

履修上の留意点

授業には、受身でなく、自ら考え、分析し、発表するという姿勢で臨んで欲しい。

成績評価の方法

筆記試験の結果/授業態度/課題の提出状況

教 科 書

春日正三・古瀬順一・輝博元・川口明美著『国語学概説』（双文社出版）¥1,800

参 考 書 等

その都度指示する。

科目名	担当者名	配当学年	単 位
国 語 学	かた やま はる かた 片 山 晴 賢	H10以降入学生/短国1・2選 H9以前入学生/短国2必	4

講義のねらい

国語学についての基本的な知識を提供し、資料をもとに以下のような角度から考察したい。

講義の内容・授業スケジュール

日本語の特質について、音韻・文芸・語彙等について講義し、『仮名がき論語』から現実の問題を取り出し、なぜそうなっているかを考察する。

履修上の留意点

資料の予習・復習を怠らず、自からの問題意識を持って講義にのぞむこと。

成績評価の方法

出席状況・定期試験・小テストをもとに総合的に評価する。

教 科 書

大友信一編『仮名がき論語』（翰林書房） ¥2,500

参 考 書 等

授業時間に指示する。

科目名	担当者名	配当学年	単位
中国文学講読	功 <small>く</small> 刀 <small>めき</small> 正 <small>ただし</small>	H10以降入学生/短国1・2選	4
		H9以前入学生/短国2必	

講義のねらい

中国の韻文を主に、多く読むことに努め、中国文学に親しみ、読解力を培いたい。

講義の内容・授業スケジュール

詩経・楚辞・漢魏六朝の古体詩・唐宋の近体詩を、文学史を追いながら、その代表的作品を精読し、中国の韻文の読解力・鑑賞力を養う。併せて、中国文学の日本文学への影響も考えてゆきたい。

履修上の留意点

特に復習・精読に重点を置く。

成績評価の方法

講読の成績・筆記試験並びに平常の出欠状態を勘案して評価する。

教科書

中村璋八編著『中国思想文学通史』（明治書院） ¥1,800

参考書等

講義時に紹介する。

その他

講読主体。

科目名	担当者名	配当学年	単位
中国文学講読	清 <small>し</small> 水 <small>みづ</small> 浩 <small>ひろ</small> 子 <small>こ</small>	H10以降入学生/短国1・2選	4
		H9以前入学生/短国2必	

講義のねらい

古来、我国は中国から様々な影響を受けている。文学も例外ではない。特に平安文学が唐の文学、『白氏文集』などから多大な影響を受けていることは周知のことと思う。

講義の内容・授業スケジュール

そこで、本講義では中国の文学、特に詩を中心に先秦より唐代までの中国の文学系譜をたどり、各時代の作品を鑑賞しながら、時代の特徴を知り、次の時代にどのような影響を与えたかを考えてみたい。余裕があれば、日本文学への影響も考えたい。

履修上の留意点

授業の進行は、漢文の基礎力があるものとして進めるので、自信のない方は高校の教科書を復習するか、岩波ジュニア新書の『漢文の読みかた』（奥平卓著）などで、基本的な知識を身につけておいてほしい。

成績評価の方法

成績の評価は二回の試験と授業時の発表等で判定する。

教科書

『中国思想文学通史』（明治書院）を使用する。

科目名	担当者名	配当学年	単 位
上代文学講読 国文講読Ⅰ(上代)	佐原 作美	短国1・2選 H9以前入学生/短国1・2選必	4

講義のねらい

授業では『万葉集』を対象にその講読を行う。『万葉集』は承知のごとく、舒明朝(629-641)の頃から奈良朝の天平宝字3年(759)までの約120年間の和歌約4,500首が収められている、わが国最大の和歌集である。そこで授業では、『万葉集』の中から代表的な歌人で個性豊かな、山上憶良の和歌を中心に講読していきたい。

講義の内容・授業スケジュール

『万葉集』を理解するには、作品を読解し作者を知るほかに、当時の歴史や社会的文化的な背景を視野に入れながら読んでいくことが大切である。そうした点を考慮に入れ踏まえながら、作品を読んでいきたい。

成績評価の方法

成績評価は、レポートや出席状況をもって判断する。

教科書

土橋 寛編『作者別 万葉集』おうふう(桜楓社)刊 ¥1,800

科目名	担当者名	配当学年	単 位
中古文学講読 国文講読Ⅱ(中古)	鈴木 裕子	短国1・2選 H9以前入学生/短国1・2選必	4

講義のねらい

『源氏物語』は、それが書かれた平安の昔からたくさんの人々に読み継がれて来た日本文学の傑作です。『源氏物語』のどこにそのような価値があるのでしょうか。受講者の一人一人に答を見付けてもらいたいと思います。そのためには、とにかく原文を自分の力で読まなくてはなりません。作品を正確に読み、理解し、感じ、考え、といったことを授業を通して繰り返し、最後には、他者の評価を鵜呑みにするのではない、自分自身の『源氏物語』評価がもてるようになるとよいと考えています。

講義の内容・授業スケジュール

今年は、朝顔の巻から読みます。いよいよ栄華の階を上って行く光源氏ですが、一方では人知れず憂愁の影を抱いていきます。単純な古代の英雄ではない光源氏像をとらえつつ、物語の構造や方法についても理解を深めていきましょう。

履修上の留意点

授業は、テキストを用いての講義を中心に行ないます。が、教師の一方通行にならないように、受講生の積極的な質問や感想・意見など建設的な発言は歓迎します。

成績評価の方法

期末に試験を行ないます。(前期一回、後期一回)その他、授業中に適宜小テストを実施し、出席状態などの平常点を加味して評価します。

教科書

『源氏物語三』新潮日本古典集成 新潮社を基本テキストとするが、既に角川文庫『源氏物語四』など持っている人はそれでも構わない。

参考書等

参考書などは、授業で指示します。

科目名	担当者名	配当学年	単位
中世文学講読	その 蘭 部 ^{みき} 幹 ^お 生	短国1・2選	4
国文講読Ⅲ(中世)		H9以前入学生/短国1・2選必	

講義のねらい

住吉物語は、はやく平安時代に成立して落窪物語や源氏物語にも影響を与えたが、改作が重ねられた。現存するもの鎌倉時代に擬古物語として作られた作品である。異本を含めた諸本もたいへんに多く、中には御伽草子の域にまで達した本もある。何度も改作が繰り返された作品だけに、住吉物語はたいへんおもしろい。そのおもしろさを味わうことも講座のねらいではあるが、加えて、流動し変質する作品を講読することを通して、中世文学のあり方や享受の問題について考えてみたい。

講義の内容・授業スケジュール

前後期を通して、住吉物語全編を通読する。その過程で、可能な限り、古本系や異本系の住吉物語にも触れながら、文学史的な展開の問題や、作品の質的变化の問題についても触れる予定でいる。

履修上の留意点

本文の内容を理解するだけではなく、作品の変質の意味や文学のあり方などについて、問題意識を持って授業に取り組むことを求めたい。なお、毎時間、その日の講義内容に対する意見文の提出を求めるので、必ず原稿用紙を持参すること。

成績評価の方法

毎時限に提出する意見文によって50点分を評価し、12月末の時間内に50点満点の筆記試験を行う。(暗記科目ではないので、試験はノート・参考書等何でも持ち込み参照可)。また、必要に応じて、レポート提出を求めることもある。なお、追再試験はレポート提出とするが、これについては1月の授業時間内に指示する。

教科書

プリントを配布する。

参考書等

岩波新日本古典文学大系『落窪物語住吉物語』

科目名	担当者名	配当学年	単位
近世文学講読	かん 管 の ^{かず} 野 ^お 雄	短国1・2選	4
国文講読Ⅳ(近世)		H9以前入学生/短国1・2選必	

講義のねらい

現在の劇場で上演される「文楽」は、「浄瑠璃」演奏による人形芝居で、世界の人形劇の中でも独特なものである。この「浄瑠璃」とは、中世後期に発生し、近世に発展・盛行した芸能である。浄瑠璃詞章の作者として代表的なのが近松門左衛門である。近松はたくさんの名作を残したが、その晩年に『女殺油地獄』という作を書いた。この作品は、罪もない油屋の主婦を金のためにむごたらしく殺してしまう若者の物語である。

この講義において、浄瑠璃とはどういうものか、近松はどういう作品を作ったか、『女殺油地獄』の主人公やその周囲の人々に近松がどういう眼を向けていたか、何を観客に訴えようとしていたか、などを学習して考えてもらう。

講義の内容・授業スケジュール

浄瑠璃の歴史、近松門左衛門の略歴などを説明し、『女殺油地獄』をくわしく読む。言葉の意味、引用されている先行作品、表現技巧などをこまかく吟味し、現在の「文楽」で上演する形態も適宜考察しながら読んで行く。

履修上の留意点

だいたい講義式で進める。時々全員での斉読を行う。毎時出欠をとる。学生の私語や無礼には厳しく対応する。

成績評価の方法

随時小テスト(テキスト・ノート携行)を行い、その結果と出欠状況などを総合して評価する。

教科書

諏訪春雄・中村光生著『校註冥途の飛脚・女殺油地獄』(笠間書院) ¥800

参考書等

講義の進展につれ、随時参考資料や観劇資料を紹介する。

科目名	担当者名	配当学年	単位
近代文学講読 国文学講読Ⅴ(近・現代)	井上 優	短国1・2選 H9以前入学生/短国1・2選必	4

講義のねらい

「森鷗外の文学と同時代の言説」というテーマで、一年を通して、彼の明治期の文学テキストを、その他の作者の文学テキストのみならず、それ以外のさまざまな領域の資料とアクセスさせることによって、考察して行く。ここでの一年という長丁場を一人の作者に費やすということは、しかし、鷗外という作家、あるいはそのテキストを中心化し、特権化することではないし、それらについての物知りの文学愛好者となることを目指すことでもない。そのような自閉性とは全く逆の行為、すなわち鷗外の文学テキストを文学の中で完結させるのではなく、外へ開いたとき、そこに何が立ち上がってくるのかを見極める作業になる。文学テキストはある特定の歴史的状況の中で生成されるが(=テキストの歴史性)、あらゆる歴史もまた叙述によることでテキストの生成という範疇に現象する(=歴史のテキスト性)がゆえに、文学テキストとそれが生み出された同時代の資料とは、文学と歴史、テキストとコンテキストといった序列的な二項対立からいったん解除されざるを得ない。文学テキストを他の言説から特権的な位置につけるのではなく、政治経済、哲学思想、宗教、他の芸術などと並べ合わせてみることで、文学が周囲の言説と連動しながら現実を作り出し、人々を巻き込んで行く装置として機能する様を探求することを試みたい。そこではテキストは単に社会現象を映す歴史的資料ではなく、社会の編成の装置としての面貌が明るみに出されてくるはずだ。鷗外の文学テキストを扱うのは、そのようなインター・テクスチュアリティの中でどのような力がいかに循環しており、そしてその力が人々の行動にいかん作用するのかを考えて行くための、ケース・スタディとして受け止めてもらいたい。そうした検討をくり返しつつ、今日わたしたちが知らず知らずのうちに縛られている近代的な発想を対峙化し、自らの〈常識の殻〉に少しでもヒビを入れることを勇敢に実践し、それがやまらぬ快楽となることを志そう。

講義の内容・授業スケジュール

取り扱う具体的なテキストと内容は、『舞姫』と法制度の問題、『文づかひ』における〈唇〉というトポスの力学(松浦寿輝『口唇論』はいうまでもなく、音楽好きの学生は97年のGLAYのヒット曲『口唇』などを自由に関わらせて考えてみてもよいだろう)、『半日』と精神病学、『キタ・セクスアリス』と近代セクシュアリティ、『大発見』と衛生学(アジア諸国へ向けられた大陸衛生を含めて)、ならびに仮名遣調査との関連などである。また、鷗外の住居であった観潮楼の跡が現在、千駄木の文京区立鷗外記念本郷図書館となっていて、鷗外の原稿や遺品などが展示されている(無料で見ることができ)ので、できればその見学なども行ないたい。

履修上の留意点

文学の授業に関してこれは言うまでもないことだが、テキストを読まずに出席した場合や、用意するよう指示されたものを持参せずに入室した学生については、その時間は出席とは見なさないで注意すること。文学講読の授業にテキストを読まずに参加することにはいかなる意義があるのだろうか。時間割の都合や、試験だけ受けて単位さえ取ればよいというような安易な受講は、結果としてそれとは反する事態に陥ることになる。読むことや書くこと、討論に意欲ある学生の受講を歓迎する。

成績評価の方法

学年末に教場での筆記試験を行おうと思うが、普段の授業の折りにも何らかの小課題を課し提出してもらうことも考えている。出席状況や授業中の姿勢をも考慮して、多面的に評価したい。一年かけて連続的かつ発展的に話が進んで行くので、うかつな遅刻や欠席を繰り返すと授業内容の見通しが立たなくなり、たまに講義を聴いても理解しがたくなるので、そうしたことは極力避けられたい。おせっかいとは思いますが念のため。

教科書

『森鷗外全集』(ちくま文庫) 各980円の第一巻と二巻を用意されたい。少し大きめの書店に行けば必ず手に入る。細かく注がついており便利。なお、授業はこの文庫のページに沿って行う。

参考書等

授業の中で指示する。また、資料としてプリントを配布するが、それらは試験が終るまでなくさないよう、ファイルするなどして大切に保存しておくこと。

その他

講義を中心に進めるが、時々には機会をみて受講学生が調査報告する場も設けたい(鷗外テキストや日本文学のみならず、発表者が目下興味をもっていることでもよい)。教師が教壇上から一方的にレクチャーする授業にならず、真剣な中にも親密な対話が可能な空間を目指したい。

科目名	担当者名	配当学年	単 位
現代文学講読 国文講読V(近・現代)	こばやし おさむ 小林 治	短国1・2選 H9以前入学生/短国1・2選必	4

講義のねらい

戦後日本において、その新たな可能性が追究されたアヴァンギャルド文学運動の渦中から登場した安部公房が遺した作品のほとんどは、現実を写そうとする旧来のリアリズムと対極にある。皮相なリアリズムによっては切り捨てられ、あるいは隠蔽されて、闇に葬られてきた生活者の身体感を露出させているという意味において、これほど現実を映している作品は稀有といつてよいだろう。そのような安部公房の作品を、一年間読み進めたい。

講義の内容・授業スケジュール

昭和20年代の初期短編作品から、昭和40年前後までの長編諸作品まで順次取り上げていく。

履修上の留意点

文庫本、全作品集、全集などを用意して、あらかじめ安部作品を読んでおいて授業に出席のこと。

成績評価の方法

定期試験の結果、レポートの内容等を総合し、さらに出欠状況を加味して評価する。

教科書

安部公房
『水中都市・デンドロカカリヤ』
『R62号の発明・鉛の卵』
『けものたちは故郷をめざす』
『第四間水期』
『石の眼』
『砂の女』
(すべて新潮文庫)

参考書等

授業で、その都度指示する。

科目名	担当者名	配当学年	単 位
国語史	かた やま はる かた 片山 晴 賢	短国1・2選	4

講義のねらい

日本語の通事的な変遷について基礎的な知識を養うことに主眼をおきたい。

講義の内容・授業スケジュール

前期は日本語の通事的な変遷について、後期は主に中世・近世・近代の音韻・文法・文学等を中心に授業を進めたい。

履修上の留意点

積極的に授業に参加に、つねに言葉に対して問題意識をもっていただきたい。

成績評価の方法

出席状況・定期試験・レポート提出により総合的に評価する。

教科書

佐藤喜代治『国語史』(下)(おうふう)

参考書等

随時紹介する。

科目名	担当者名	配当学年	単位
口語文法	おく ばら じゅん こと 奥原淳子	短国1・2選	4

講義のねらい

本講義の目標は、「言語を客観的に分析する態度を育てること」にある。
高校までに学んできた伝統的な国文法をいま一度確認した上で、外国語としての日本語という視点も加え、現在使用されている日本語の文法的現象をとらえ直していく。

講義の内容・授業スケジュール

目標の具現化のためには、「問題発見能力の涵養」が必要である。身近な事例から様々な問題点を探っていきたい。
授業は、講義と学生による調査・発表の二本立てで進めていく。

履修上の留意点

授業には、受身でなく、自ら調べ、分析し、発表するという姿勢で臨んで欲しい。大切なことは、種々の言語現象を「当たり前だ」とやり過ごすのではなく、「おもしろい」「不思議だ」と感じることである。
調査・発表を通じて、関連資料の調べ方・レジュメの書き方・発表の仕方なども併せて学んでほしい。

成績評価の方法

筆記試験の結果／提出物／研究発表／授業態度

教科書

適宜プリントを配布する。

参考書等

その都度指示する。

科目名	担当者名	配当学年	単位
中国文学史	く ぬぎ ただし 功 刀 正	短国1・2選	4

講義のねらい

中国の散文を多く読み、漢文訓読の基本を理解し、中国文学に親しみ、読解力を培いたい。

講義の内容・授業スケジュール

先秦諸子百家・漢魏六朝、並びに唐宋八家の代表的な文を精読し、中国文学への理解を深め、鑑賞力を養う。また、中国文学の日本文学に与えた影響なども明らかにしたい。

履修上の留意点

特に復習・精読に重点を置く。

成績評価の方法

講読の成績・筆記試験並びに日常の出欠状態を勘案して評価する。

教科書

中村璋八編著『中国思想文学通史』（明治書院）¥1,800

参考書等

講義時に紹介する。

その他

講読主体。

科目名	担当者名	配当学年	単位
和歌文学	さか ぐち ひる き 坂 口 博 規	短国1・2選	4

講義のねらい

鎌倉時代初期に成立した私家集『建礼門院右京大夫集』を読む。平家一門全盛の世、高倉天皇中宮となった平清盛女徳子(安徳天皇母)の宮廷に女房として仕えた、右京大夫と称された女性の個人歌集である。他人詠も含めて361首の歌が、全体はば年代順に配列されており、その半生の回想の記の体を示していることから、日記文学としての自照精神を問うことも出来る。徳子の宮廷に仕えていた折に、平清盛の孫に当たる貴公子資盛と恋に陥り、以後平家一門都落ちに伴う資盛の流転、壇の浦での死別を体験し、その追想の日々を過ごす。その動乱期の戦乱に運命を翻弄された作者の人生を考えてみたい。

講義の内容・授業スケジュール

開講時、和歌文学の流れを通観し、また女性の手になる自照文学の流れを概説したい。作者はまた一時似絵(肖像画)の名手であり歌人でもあった藤原隆信との稔らぬ恋も体験する。授業では、資盛・隆信二人の男性との交渉時に詠まれた歌を中心に作品を読み進めていく。講読とは違い作品研究という形で本文を読解する。

成績評価の方法

学年末の定期試験の成績をもとに評価する。

教科書

糸賀さみ江校注『建礼門院右京大夫集』(新潮社刊) ¥1,940

科目名	担当者名	配当学年	単位
物語文学	その へ みま お 蘭 部 幹 生	短国1・2選	4

講義のねらい

中古(平安時代)の代表的な歴史物語の中から、『大鏡』をとりあげる。昨年度は国文講読Ⅱにおいて大鏡を扱い、序文と伊弉伝、及び、その関連作品を読んだので、今年度は序文と兼通伝を中心に読み進めたい。その関連から、栄花物語や記録類・説話集類も読むことになる。歴史物語としての『大鏡』について理解するだけでなく、時代や人物に関する認識を持ち、そこに登場してきた人物や出来事がどのように受けとめられ、評価されてきたのかを見る目を養いたい。

講義の内容・授業スケジュール

前期の前半は、序文を購読する。前期の後半から後期にかけては、兼通伝や関連作品を読み進める。

履修上の留意点

前期の前半の序文については、平成9年度の「国文講読Ⅱ(中古)」で講義した内容と重複することになるので、平成9年度に「国文講読Ⅱ(中古)」を受講した学生はその旨を了解のうえを受講すること。また、毎時限、その日の講義内容に対する意見文を書いて提出することを求めるので、必ず原稿用紙を持参すること。

成績評価の方法

毎時限提出する意見文で50点分を評価し、12月末の時間内に50点満点の筆記試験を行う(試験は、テキスト・ノート・辞書・参考書等何でも持ち込み参照可)。また、必要に応じて、レポート提出を求めることもある。なお、追再試験はレポートとするが、これについては、1月の授業時間内に指示する。

教科書

特に指定しないので、『大鏡』の全文が載っているものであれば何でもよい。むしろ、受講生がそれぞれ異なる『大鏡』を持参して、違いを検討しながら読み進めることができれば、その方がよいと考えている。

参考書等

必要が出てくれば時間内に指示する。

科目名	担当者名	配当学年	単位
説話文学	その 蘭 部 幹 生	短国1・2選	4

講義のねらい

今年度は、代表的な説話文学作品の中から、宇治拾遺物語をとりあげる。特に、宇治拾遺物語編者の意識がどのようなものであったかを考えるために、宇治拾遺物語に収録されている説話に内在する編者もしくは説話伝承者の視点を読み解いていきたい。近年、宇治拾遺物語を扱った講義では、その内容を論文としてまとめており、論文に先行するという意味で、学問的レベルとしては、宇治拾遺物語研究の最先端をめざす。

講義の内容・授業スケジュール

前期の前半は、宇治拾遺物語編者論を中心に講義する。前期の後半から後期にかけては、宇治拾遺物語に収録された箇々の説話を検討する。その関連から、他の説話集や歴史物語、及び、記録類における同類話を読む必要も出てくる。どの説話をどのような順序で読むかは、各時限に学生諸君から出される意見や疑問などによって決定するので、スケジュールの大半は、実際には学生諸君自身の問題意識に委ねられることになる。

履修上の留意点

前期の前半の編者論については、平成9年度の「国文特講Ⅲ(中世)」で講義した内容と一部重複することになるので、平成9年度に「国文特講Ⅲ(中世)」を受講した学生はその旨を理解のうえで受講すること。また、毎時限、その日の講義内容に対する意見文を書いて提出することを求めるので、必ず原稿用紙を持参すること。

成績評価の方法

毎時限提出する意見文で50点分を評価し、12月末の時間内に50点満点の筆記試験を行う(筆記試験はテキスト・ノート・参考書等全て持ち込み参照可。但し、受講生が少ない場合はレポートに変更する)。なお、追再試験はレポート提出とするが、これについては、1月の授業時間内に指示する。

教科書

角川文庫『宇治拾遺物語』中島悦次校注(¥720)

参考書等

『駒澤短大国文』28号

科目名	担当者名	配当学年	単位
連歌・俳諧	かん の かず お 菅 野 一 雄	短国1・2選	4

講義のねらい

いま俳句と川柳は静かなブームで、それらを作る人・読んで楽しむ人の数は増加の一途をたどっているようである。俳句・川柳のルーツを探ると、それらは江戸時代の「俳諧」から出て来ている。そしてその「俳諧」は、さらにその前の「連歌」から分かれて発達してきたものである。この「連歌」や「俳諧」を現在作る人は数少ない。しかし中世・近世においては、貴族・武士・町人にわたって幅広く流行した文芸であった。「連歌」も「俳諧」も、五・七・五の長句と七・七の短句との唱和を基本とし、原則としてグループで作って行く詩歌である。

この「連歌」と「俳諧」の歴史や特質を学習し、代表的な作品例を鑑賞し、「連歌・俳諧」というものがどういうものであるのかということを考えてもらう。

講義の内容・授業スケジュール

連歌・俳諧の歴史、その代表的な作者、基礎的な規則などを説明し、具体例として、連歌から飯尾宗祇らの『水無瀬三吟百韻』、俳諧から松尾芭蕉らの『猿蓑』の中の一・二篇をとり上げ、これをじっくり読解、鑑賞する。

履修上の留意点

だいたい講義式で進め、毎時出欠をとる。学生の私語や無礼には厳しく対応する。

成績評価の方法

随時小テスト(テキスト・ノート携行)を行い、その結果と出欠状況などを総合して評価する。

教科書

プリント

参考書等

講義の進展につれていろいろな資料を紹介する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
近・現代詩	おおむる えいじ 大室英爾	短国1・2選	4

講義のねらい

近代詩を読む。「明治ノ歌ハ、明治ノ歌ナルベシ、古歌ナルベカラズ」として伝統的な和歌、俳句、川柳の思想と様式を離れ、いわゆる「新体」の詩の実現をはかった「新体詩抄」からはじめて、現代にいたるまで、その時々を代表する完成度の高い詩をとりあげて読み、考え、鑑賞する。併せて近代詩の流れにも検討を加える。

講義の内容・授業スケジュール

個々の詩の味読が中心となろう。毎時1～3作のペース。時に感想、印象の類をペーパーに書いて提出してもらい、それをもとに鑑賞を深めていくことも考えている。

履修上の留意点

その時間に取り扱う作品は必ず読んでくること。

成績評価の方法

前・後期二回のレポートを主とし、その他の提出物および出席状況を総合して評価する。

教科書

『展望・近代詩——その歴史と作品』（双文社）
その他プリントを準備する。

参考書等

授業にてその都度指示する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
児童文学	よしだ もりお 吉田 司 雄	短国1・2選	4

講義のねらい

現代日本の児童文学作品を読みすすめることによって、文学テキストの魅力を理解し、〈子供〉をめぐる社会的文化的諸問題についても併せて考えてゆきたい。また、実際に短い童話の創作にチャレンジすることで、文章を書くことの楽しさと難しさを体験してもらいたい。

講義の内容・授業スケジュール

まず始めに近代日本の児童文学を概観する。そのうえで本年度は戦後日本の現代児童文学を中心に取り上げたい。竹山道雄『ビルマの堅琴』、壺井栄『二十四の瞳』、山中恒『赤毛のポチ』、いぬいとみこ『木かけの家の小人たち』などを読む予定。

履修上の留意点

1～2週毎に1作品くらいのペースでどどんいろいろな作品を読んでゆくので、旺盛な好奇心と読書意欲とをもって受講すること。

成績評価の方法

未定。例年通りならば、夏休みに童話創作の宿題、学年末に教場試験、なお、随時作品の感想等の提出を求めることがあるので、そうした平常点も重視する。

教科書

宮川健郎『現代児童文学の語るもの』（NHKブックス）950円。他は教場で指示。短い作品はプリントを配布するが、文庫本の購入を求めることもある。

参考書等

授業中にそのつど指示する。

その他

一応講義形式で行う予定だが、聴講人数に応じて授業スタイルを工夫したい。

科目名	担当者名	配当学年	単 位
古典戯曲演劇	せい だ けい こ 清 田 啓 子	短国1・2選	4

講義のねらい

日本の古典芸能に親しみ、鑑賞眼をやしなうための、必要な知識を与えることを目的とする。参加者には、能・人形浄瑠璃・歌舞伎をそれぞれ最低一回鑑賞し、レポートを提出する義務を課す。

講義の内容・授業スケジュール

日本演劇の大まかな歴史を解説し、随時都内又は近郊で上演される上記三種の芸能に関して解説・案内する。基本的に浄瑠璃の歴史を中心に、他に及ぶ予定であるが、上演の現実的な状況から、厳密なスケジュールは立てられない。

履修上の留意点

上記三種の芸能を鑑賞する余力——時間的、経済的、精神的余裕——が必要である。

成績評価の方法

上記三種のレポートと、総括としての期末試験による。

教科書

影山正隆編『人形浄瑠璃関係資料(抄)』(新典社) ¥515

参考書等

教場にて参考書は指定する。

科目名	担当者名	配当学年	単 位
比較文学入門	いし わり とおる 石 割 透	短国1・2選	4

講義のねらい

一つの作品が成立するに際して、強い影響を与えた作品と比較することで、その作品の特質、その作家の創造性を追完したい。

講義の内容・授業スケジュール

この時間では、和漢洋の種々な作品から材料を得て成立している作品が多く、書斎の所産とも形容される芥川龍之介の初期の作品を中心にして、その作品の成立の材料となった作品と比較することで、芥川文学の特質、近代文学としての芥川の作品を検討したい。

履修上の留意点

受講者は、授業時に扱かう芥川の作品、それに関わる作品を読んでくること。それは前もって授業の中で指示する。

成績評価の方法

評価は、年に二度ほど提出することになるレポートで主として行なう。

教科書

『芥川龍之介全集1』(ちくま文庫)

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
女 性 史 入 門	たかしま 高 嶋 めぐみ	短国1・2選	4

講義のねらい

日本古代・中世・近世・近代の家族・婚姻の具体像を探りながら女性の生き方を考え、また新聞などの記事・統計をもとに、現在わきあがっている女性周辺のさまざまな問題について考察していく。

講義の内容・
授業スケジュール

時代を①原始古代 ②中世 ③近世 ④近代に分け、各時代の社会、家族、女性の社会的地位の変遷などについて実態面および法的側面などから講述していく。

履修上の留意点

講義に集中すること。他人を思いやり、迷惑をかけること。

成績評価の方法

総合評価 (①出席、受講の状況 ②レポートまたは試験)

教 科 書

特に指定はしない。

参 考 書 等

講義内容と関連して、適宜指示する予定。

そ の 他

ビデオ・OHP など適宜使用する予定。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
文 芸 創 作	あん どう こう すけ 安 藤 幸 輔	短国1・2選	4

講義のねらい

・実作をしながら小説の方法を身につける。
(童話、現代詩をふくむが、以下の内容説明は、「小説」で代表させる)。

講義の内容・
授業スケジュール

- A) 小説はどんなものであるかを理解する。
1. 構成の三要素を理解する。
 2. 表現の三要素を理解する。
 3. 主題をどのように設定するか考える。
 4. 読者との関係を理解する。
- B) 実際に作品を書いて、発表する。
1. 原稿用紙の使い方(ワープロの場合)
 2. 作品を添削批評する(合評もする)
 3. 雑誌を発行し、(年2回以上)作品を掲載し、学内や関係方面に配布する。
- C) 作品を書くための準備、心得を学ぶ。
1. 取材はどうするか。
 2. メモの取り方。
 3. 推敲はどうするか。
 4. 他人の作品の模倣、盗みは、どこまで許されるか。
- D) 創作の参考となる近現代の作家の作品を読む。

成績評価の方法

実作品の提出によって評価する。

教 科 書

葉山修平著『新・文章の方法』(笠間書院)1,300円 その他は追って指示する。

参 考 書

そのときどきに指示する。

科目名	担当者名	配当学年	単位
有職故実	おお つか ひて こ 大塚英子	短国1・2選	4

講義のねらい

「有職故実」の本来の意味は、故実(正しい前例)に精通していることであって博搜された前例に基づき、多くは国家的行為の当事者が正しいと判断した方法によって行事を実施し、それをまた記録して故実化しようとするという、政治的文化的営為によって形成された、前近代のシステムである。本講座は、こうした「有職故実」の細目を学習して古典解読の参考に供するだけでなく、そのシステムを対象化して論じることにより、日本文化の研究に一視点を提供したい。

具体的な方法としては、平安朝の儀式書・有職故実書に記されている年中行事や服飾の制度を詳説し、物語や絵巻に描かれる風俗・文化との関係を考察する。

講義の内容・授業スケジュール

前期A、「有職故実」とは何か。学年最初の講義日に説明。

B、平安朝の服飾文化

1. 古代服制の歴史的变化をたどり、平安初期に唐風服飾として完備した時の姿を、各種の資料から考える。
2. 律令服飾制を規範としながら、平安貴族社会がどのような流行を生み、それがまたいかなる制度を生じたかを考える。
3. 平安文学の中心となる撰閑期の男性装束・女性装束を細部にわたって解説。また、かさね色目の標本で当時の色を調べる。
4. 『源氏物語絵巻』のビデオを見る。

後期A、平安朝の年中行事

1. 『源氏物語』の花宴をめぐる、曲水宴・重陽宴と比較。文化的年中行事の考察。
2. 正月の年中行事を詳説。特に朝賀の儀式の持つ政治的意味について考える。

B、平安朝における官職位階の制度。

成績評価の方法

夏休みレポート「源氏物語絵巻における服飾と調度」と、学年末テストを総合して評価。

教科書

河鱸実英『有職故実』(塙書房) ¥1,900 及びプリントを使用。

参考書等

『日本の絵巻1(コンパクト版)』(中央公論社) ¥1,400

科目名	担当者名	配当学年	単位
文化概論	おおむろ えいじ 大室英爾	短国1・2選	4

講義のねらい

主題を「タブー」(taboo)とし、下記のような日程と担当者によって、それぞれ専門とする立場からアプローチがなされる。

講義の内容・授業スケジュール

以下に示すスケジュールにしたがって授業は進められる。講義内容をはじめとするその他の詳しいことがらは、各担当者によって指示されるのでそれに従うこと。

★各担当ごとのスケジュール

- ◎4月15日(水) オリエンテーション、ガイダンス 大室英爾
- ① 近代文学とタブー 《4/22、5/6、5/13、5/20 (4回)》 井上優
 ② タブーと宗教 《5/27、6/3、6/10、6/17 (4回)》 佐藤憲昭
 ③ 上代文学の中に見えるタブー 《6/24、7/1、7/8、7/15 (4回)》 川上順子
 ④ 教育におけるタブー 《9/16、9/30、10/7、10/14 (4回)》 末藤美津子
 ⑤ 歴史におけるタブー 《10/21、10/28、11/11 (3回)》 茂野隆晴
 ⑥ 慣習のタブー 《11/18、11/25、12/2、12/9 (4回)》 高嶋めぐみ
- ◎12月16日(水) まとめ 大室英爾

科目名	担当者名	配当学年	単位
周縁芸術 I	こばやし おさむ 小林治	短国1・2選	4

講義のねらい

本講義における周縁芸術とは、文学の周縁にあって、文学を触発し、影響を与え、その想像力を飛躍させ、同時に自己洞察させてきたところの他の様々な芸術、例えば音楽、演劇、映画、美術、写真などを指すこととする。ここでは、それら他ジャンルの芸術と言語表現による芸術-文学作品との関わりの諸相を、日本の近現代に事例をとってみていく。なお、外国文学と日本文学の関わりを考察する比較文学的事例もいくつか入るであろう。

講義の内容・授業スケジュール

宮沢賢治、横光利一、安部公房、村上龍、村上春樹などの作家、作品と周縁芸術の関係を順次みていく。例えば、賢治と音楽、演劇、横光と映画、安部と演劇、写真、村上龍と音楽、映画、村上春樹と音楽などの予定である。

履修上の留意点

授業で取り上げた作品は、できるだけ多くを授業と平行して読むことが望まれる。また、特に詳しく触れる作品はあらかじめ指示するので、必ず読んでおくこと。

成績評価の方法

定期試験の結果、レポートの内容等を総合し、さらに出欠状況を加味して評価する。

教科書

その都度、適宜プリントを配布する。

参考書等

授業で、その都度指示する。

科目名	担当者名	配当学年	単位
国文学特殊研究	佐原 作美	短国1・2選	4

講義のねらい

「夢」を共通テーマとして、下記のような日程と担当者によるそれぞれの立場からの考察がなされることになる。

講義の内容・授業スケジュール

各事項については、各担当者からその都度指示がなされるが、受講者はそれに従うこと。

◎項目と日程および担当者は下記の通りである。

- | | | |
|-------------|--|-------|
| ① 古代文学における夢 | 《4/16、4/23、5/7、5/14、5/21 (5回)》 | 佐原 作美 |
| ② 王朝文学における夢 | 《5/28、6/4、6/11、6/18、6/25 (5回)》 | 鈴木 裕子 |
| ③ 説話における夢 | 《7/2、7/9、7/16、9/17、9/24、10/1 (6回)》 | 蘭部 幹生 |
| ④ 近代文学における夢 | 《10/8、10/22、10/29、11/5、11/12 (5回)》 | 石割 透 |
| ⑤ 現代文学における夢 | 《11/19、11/26、12/3、12/10、12/17、1/14 (6回)》 | 安藤 幸輔 |

履修上の留意点

◎最初の授業の時(4/16)にオリエンテーションを行うので、受講希望者は必ず出席のこと。

成績評価の方法

出席およびレポートにより評価する。

教科書

授業の折に指示する。

参考書等

授業の折に指示する。

科目名	担当者名	配当学年	単位
上代文学研究	川上 順子	短国1・2選	4

講義のねらい

『古事記』を中心として、『日本書紀』・『風土記』等、日本上代の書物なかの、散文で書かれた文学作品を対象として講義を行う。神話から発して説話・物語に結実する上代文学の流れを押えて、個々の上代文学作品がどのような意義をもつのか考えていく。

講義の内容・授業スケジュール

前期は『古事記』上巻のなかの出雲神話をとりあげて、誰でもよく知っているオオクニヌシの神話と、『出雲国風土記』の相違を考えながら、『古事記』の神話がどのようにして創り上げられていったか研究する。それに先立ってスサノオという神についても考えることになるであろう。さらに時間があれば『古事記』の三輪山神話を研究して、『常陸国風土記』その他にみえるヘビの説話との比較・検討をこころみたい。

後期は『古事記』中巻のヤマトタケル物語を研究するところから始めて、遍歴する貴種の話を考える。『古事記』下巻のオケ・ヲケの物語も貴種流離譚であるが、これは『播磨国風土記』との関わりのなかで考えたい。時間が許せば「古風土記逸文」の楽しい話を順次紹介したい。

履修上の留意点

授業の前に教科書を読み、話のあら筋や内容を把握してから出席すると、講義の内容がよくわかり、深く理解することができる。上代文学のすばらしさを実感してもらいたい。

成績評価の方法

レポートによる評価を行う。出席を毎回とり参考にす。随時小論文提出を行うので専用ノートを用意して講義にそなえること。

教科書

①倉野憲司校注『古事記』(岩波文庫) ②大久間喜一郎編『古代説話風土記篇』(おうふう)

参考書等

授業時に指示する。

科目名	担当者名	配当学年	単 位
中古文学研究	すずき ひろこ 鈴 木 裕 子	短国1・2選	4

講義のねらい

『源氏物語』という作品は、一見すると、平安王朝の貴族たちのはなやかなみやびの生活が絵巻のように繰り広げられているというように思えるかもしれませんが、それが書かれた時代、作者やその周囲の女性たちにとって、現実の生活は、決してはなやかでみやびやかなだけのものではありませんでした。『源氏物語』には、そうした女性たちの問題意識が書き込まれているはずです。特に、光源氏という英雄が不在となった宇治十帖は、王権や家の意思や予言といった呪縛から解放された物語世界であり、だからこそ、そこには女性の生の問題が提起されているのではないかと思います。宇治十帖を「女性の物語」として読みながら、現代を生きる私たちにも通じる問題意識を読み取ってみたいと思います。授業が、自分自身のありかたを見詰める契機となることができればよいと希望しています。

講義の内容・授業スケジュール

今年は大君物語について、その結婚拒否の問題を中心に検討します。まず、三部構成説を説明し、第三部の物語世界の特色を考えます(匂宮・紅梅・竹河三帖を概説しながら)。それから、薫と八宮、八宮と大君、大君と薫の人間関係の問題について考えていきましょう。

履修上の留意点

授業は、テキストやプリント教材を用いての講義を中心に行ないます。が、教師の一方通行にならないように、受講生の積極的な質問や感想・意見など建設的な発言は歓迎します。

成績評価の方法

期末に試験を行ないます。(前期一回、後期一回) その他、授業中に適宜小テストを実施し、出席状態などの平常点を加味して評価します。

教科書

『源氏物語八、九』玉上琢弥訳注(角川文庫)を基本テキストにします。が、全文が出ているものなら、手元にある本を活用して下さって結構です。ただし、抄本は不可。

参考書等

参考書などは、授業で指示します。

科目名	担当者名	配当学年	単 位
中世文学研究	さか ぐち ひろき 坂 口 博 規	短国1・2選	4

講義のねらい

我が国の歌人の中でも、特に平安時代末に生きた歌人西行法師は広く親まれ、その歌は愛誦されている。西行は後代に影響を与え中世文学の開拓者とも考えられ、その精神は継承されている。その西行の生涯を通して中世文学の精神を考えたい。

講義の内容・授業スケジュール

西行の歌のうち、特に旅の歌を中心に詠みながらその生涯を考える。従って通年で若い時期の旅の歌から詠む形をとってゆく。

成績評価の方法

定期試験時にレポートを提出してもらい、その評価と、及び出席内容をもって評価する。

教科書

開講時に指示する。西行の歌集(山家集他)ならどの出版物も可。

科目名	担当者名	配当学年	単位
近世文学研究	せい だ けい こ 清 田 啓 子	短国1・2選	4

講義のねらい

江戸人の機智と縦横に示すジャンルの一つに黄表紙がある。「金々先生栄華夢」に始まり、文化三年合巻に吸収されるまで、小さな書型に多くの要素が詰め込まれた。本年度は、初期から最盛期にかけての傑作とされる作品を読み、時代風潮・風俗・精神状況などを探ってみたい。

講義の内容・授業スケジュール

作品を年代順にとり上げ、他ジャンルとの接触その他を視野に入れながら、作者たちの主張を味わって行きたい。

履修上の留意点

俗語で書かれているので分かりやすいが、江戸時代独特の事物・習慣があるので、それらを調べる労を惜しまないでほしい。

成績評価の方法

未定。

教科書

『江戸の戯作絵本』(一)及び(二) 小池正胤他編(社会思想社・教養文庫) (一) ¥734、(二) ¥756

参考書等

教室で指示する。

科目名	担当者名	配当学年	単位
近・現代文学研究	いし わり とおる 石 割 透	短国1・2選	4

講義のねらい

一九一〇年代から一九二〇年代に発表された、わが国の代表的な小説を多様な角度から読み、同時代の文学史、表現史を検討したい。

講義の内容・授業スケジュール

扱う作品は芥川龍之介「羅生門」「奉教人の死」「秋」谷崎潤一郎「少年」「帮間」「小さな王国」「白昼鬼語」志賀直哉「清兵衛と瓢箪」「十一月三日午後」「雨蛙」内田百閒「冥途」「旅順入城式」など、また、それらの作品や時代に関わりのある菊池寛、宇野浩二、近松秋江、江戸川乱歩などの作品も自由にとりいれて、この時代の文学の問題を考えていく予定。

履修上の留意点

文庫本などで接することが難しい作品を扱う場合もあるが、そうした作品も、受講者は必ず授業でとりあげる作品を前もって読んで授業に臨んでほしい。

成績評価の方法

レポートなどでは、これまでの研究文献にもたれかかることのない、若々しい斬新な視角によるものを期待したい。

教科書

芥川龍之介『羅生門・鼻・芋粥・偷盗』『奉教人の死・煙草と悪魔』『大導師信輔の半生・手巾・湖南の扇』(以上、岩波文庫)、谷崎潤一郎『刺青・秘密』(新潮文庫)、『美食倶楽部一谷崎潤一郎大正作品集』(ちくま文庫)志賀直哉『清兵衛と瓢箪・網走まで』『小僧の神様・城の崎にて』(以上、新潮文庫)内田百閒『冥途・旅順入城式』(岩波文庫)

参考書等

授業時に提示する。

科目名	担当者名	配当学年	単 位
書道実習Ⅰ	な す たか よし 那 須 隆 吉	短国1・2選	2

講義のねらい

芸術全体の中で書道が東洋独自の芸術として、どんな特質を持つのかを考察しながら、書道の基礎的知識と技法を習得すると共に鑑賞力を養う。

講義の内容・授業スケジュール

- 執筆法、用筆法、運筆法及び用具用材とその取り扱い方について学ぶ。
- 書体とその変遷を理解する。
 - 初歩的な楷書、行書、草書の書法を習得する。
 - 仮名の単体、連綿体を学び、平仮名、片仮名の成立、及びいろは歌、五十音図について理解する。

履修上の留意点

遅刻をしないように、又道具を忘れないように。

成績評価の方法

出席、清書の提出（又、随時レポートの提出）等を総合して評価する。

教科書

『大学書写書道教育』（第一法規出版）

参考書等

随時紹介する。

科目名	担当者名	配当学年	単 位
書道実習Ⅱ	な す たか よし 那 須 隆 吉	短国1・2選	2

講義のねらい

漢字仮名の代表的古典を学び、書道についての理解と鑑賞力を高め、書道文化の素晴らしさを味わいたい。

講義の内容・授業スケジュール

- 古典の解説と臨書により、楷書法、行書法、草書法、仮名書法の習熟をはかる。
- 変体仮名、及び代表的古筆について理解を深める。
- 実社会で役立つ実用書道（手紙文、宛名書き、のし紙等の書き方）を学び、一層書道に親しめるようにしたい。

履修上の留意点

遅刻をしないように、又道具を忘れないように。

成績評価の方法

出席、清書の提出（又、随時レポートの提出）等を総合して評価する。

教科書

『大学書写書道教育』（第一法規出版）〈書道実習Ⅰ、Ⅱ併用〉

参考書等

随時紹介する。

科目名	担当者名	配当学年	単 位
情報処理	なか はら 中 原 まこと 誠	短国1・2選	4

講義のねらい

コンピュータ利用技術の進歩は、ダウンサイジングと低価格化を招き、「コンピュータは高価で利用は難しい」というイメージを払拭し、社会のあらゆる面に於いてコンピュータによる情報処理は必須となってきている。全社員にパーソナルコンピュータを与え、すべての業務をコンピュータ処理する企業も増えており、コンピュータに関する知識と利用技術は必須となってきている。このような実社会の現状を踏まえ、この講座では、基本的なコンピュータ知識と利用技術の習得に重点をおき、講義と実習を併用しておこなう。

講義の内容・授業スケジュール

- (1) 前期
ビジネスレターの作成を通して、ワードプロセッサの利用技術とビジネス社会の基本実務の知識習得に重点をおいて進める。
- (2) 後期
コンピュータの基本機能と利用技術に関する講義とパソコンを利用したビジネス諸表の作成をおこない、コンピュータの理解と一般的な利用技術を習得することに重点を置く。

履修上の留意点

本講座は、情報処理の基本を中心に講義するので、コンピュータ関連の知識は皆無でも受講可能である。
但し、実習がかなりのウェイトをしめるので、欠席した場合は、次の時限の講義を理解することが難しくなる。年間を通して、無欠席で受講する覚悟が必要である。

成績評価の方法

出席状況等の平常評価と試験を組み合わせで総合的に評価する。
試験は、前期（講義時間内）と期末（全学一斉）におこなう。

教科書

すべてプリントを使用する。講義開始時に、都度、配布する。

参考書等

開講時に紹介する。

科目名	担当者名	配当学年	単位
応用情報処理	なかはら まこと 中原 誠	短国1・2選	4

講義のねらい

ここ数年世の中はコンピュータブームに沸き、多くの企業で全従業員に1台ずつのパーソナルコンピュータが与えられ、企業内に張り巡らされたネットワークを経由して、誰もが簡単に様々なデータを手に入れ、自らの業務に役立つ情報に加工できるようになってきた。

もはや、企業においてはワープロや表計算ソフトを使えることは当たり前となり、むしろデータをどのように処理すればより業務に役立つ情報になるかということを考える知恵が重要視されるようになりつつある。

こうした点を踏まえ本講座では、最近のデータベース技術の概要と利用法を、講義と実習を通じて学びながら、データの有効な活用法を習得することを狙いとする。

講義の内容・授業スケジュール

前期

前期はデータベース技術の概要と利用法の基本を、実習を通じて習得する。

後期

データベース内のデータを他のアプリケーション（表計算ソフト、ワープロソフト等）を利用して、より役立つ情報に加工する技術を習得する。

履修上の留意点

本講座の受講にあたっては、ワープロの知識は必須で、できれば表計算ソフトの知識があることが望ましい。

実習のウェイトがかなり高く、欠席による遅れを次の時限の講義で取り戻すことがなかなか難しいため年間を通して欠席をしない覚悟が必要である。

成績評価の方法

出席状況等の平常評価と試験の組み合わせで総合的に評価する。

試験は、前期（講義時間内）と期末（前学一斉）に行う。

教科書

すべてプリントを使用する。講義開始時に、都度配布する。

参考書等

開講時に紹介する。

科目名	担当者名	配当学年	単位
表現法	まさせ おうじ 笹 瀬 王 子	短国1・2選	4

講義のねらい

日本語の構造や特質の理解を通じ、文章表現力を養うのが本講義の主眼である。

表現とは、自己発現の手段であると共に、他者や社会とのコミュニケーションをはかる手段でもある。そのことを踏まえ、明晰で論理的な、そして何よりも正しい表現方法の習得を目指す。

講義の内容・授業スケジュール

教科書を中心に現代日本語の表現について学ぶ。それと並行して、プリントなどの各種教材を参考に語彙力や書く力の向上をはかる。

履修上の留意点

随時に課す、課題を通して積極的な講義への参加をのぞむ。

成績評価の方法

授業中に実施する各種課題、レポート等を総合的に評価する。

教科書

影山尚之他編『日本語と表現の工夫』（双文社出版）¥1,796

参考書等

教場にて、適宜指示する。

科目名	担当者名	配当学年	単 位
編集実務	はせがわ たかし 長谷川 孝	短国1・2選	4

講義のねらい

編集とは、「だれかに一何かを一伝える」という過程に携わる仕事です。つまり「何か」に気づき、その中の意味をとりたて、表現の形を与えて、受け手に引き渡していく、一連の過程が編集という仕事です。そこでは、ものごとの何に目をつけ、何を読みとるのかという「視点(目のつけどころ)」が問われます。この授業では、書籍・新聞・雑誌など印刷媒体の編集を中心に、企画・取材、原稿の整理やレイアウト、原稿づくりなどの、「どう」伝えるのかに必要な知識・技能とともに、「何を・なぜ」伝えるのかを主要なテーマとして考えながら、「自分の視点」を育てることを目指したいと思っています。

「だれかに一何かを一伝える」という過程は本来、日常生活や仕事の中でだれもが行っていることでもありますから、編集について考えることは実は、一人ひとりが何をどのように読みとり、どのように伝えて生きているかを考えることだ、とも言えます。現在の情報社会は、多様な情報を主体的に選択し活用できる「よき受信人」であるだけでなく、一人ひとりが情報の発信人になるよう求められていると言われます。こうした観点からも、編集を考えてみることであれば、と思います。個人紙(誌)づくりの課題には、こうしたねらいもあります。

成績評価の方法

B4判2つ折り4ページの個人紙(誌)を課題作品として提出してもらいます。

教科書

教科書は使いません。(随時、プリントを使用します)

参考書等

長谷川孝編著『新聞をつくろう』(さ・え・ら書房) ¥1,236 を随時、参考にします。

科目名	担当者名	配当学年	単 位
ジャーナリズム研究	はた の とし お 篁 野 寿 雄	短国1・2選	4

講義のねらい

ジャーナリズムとは何かについて学習した上で、ニュースや報道のあり方を事例に則して分析する。こうした過程を通して、世界規模の情報社会のなかで情報を正確に取材・報道する人材(マスメディア志望者)、あるいは、情報を自律的に解釈・判断できる人間(読者)を育成する。

講義の内容・授業スケジュール

前期は主としてマスコミ、マスメディア、ニュースなどの基礎知識を習得する。取材から紙面化までの情報の流れも追う。後期は報道と人権、報道倫理といった諸問題を、プライバシーや名誉棄損の裁判例なども参照しながら具体的に考える。

第一線の記者、論説委員、アメリカ勤務などの体験を生かし、全期を通して、その都度主要ニュースの解説、分析をするほか、日米ジャーナリズムの比較なども試みる。放送局や新聞社の見学も行う。

履修上の留意点

実際に起こったニュースを中心にしたクラスなので、学生は常にニュースに関心と注意を払い、質問、意見表明などで授業に積極的に参加してほしい。そのためには、毎日、新聞を読むこと。

成績評価の方法

ニュース分析、小論文、簡単なルポ、見学記など年間数本のレポートを提出してもらい、それらを総合して評価する。

教科書

使用しない。

参考書等

その都度指示する。

その他

私語厳禁、公語(意見発表)歓迎。

科目名	担当者名	配当学年	単位
秘書概論(前期)	湯 浅 陽 子 ゆ あさ よう こ	短国1・2選	2

講義のねらい

わが国における秘書の業務は、西暦645年大化改新の頃に誕生し、明治のはじめに秘書という言葉が用いられるようになったという。この秘書に対する一般的な概念は、それ以後あまり変わってはいない。しかし、時代の変遷に伴って秘書業務の内容は変わり、それは各分野における経営組織体の中で重要な位置を占めるまでになってきている。すなわち、経営者の日常業務が、情報の横溢、スピードの要求等の渦中にある今、その円滑な流れを全うするためには、上司の本務業務補佐のための秘書の能力が期待され、また、大いに役立っているからである。

秘書の仕事は大から小まで様々な種類があり、それに携わる秘書の能力・経験も様々である。しかし、どんな小さな仕事を受け持つ場合でも、上司を理解し、上司に匹敵して役立つ秘書の能力発揮が求められ、秘書はそれに応えなければならない。上司およびその業務内容を理解するためには、秘書の本質・形態・課題等に関する秘書理論を学ぶことが必要なのである。

講義の内容・授業スケジュール

授業回数

1. 4月第3週 オリエンテーション(授業のねらいと進め方)
2. " 第4週 秘書検定について
3. 5月第2週 企業組織と人間行動
4. " 第3週 経営者と秘書の機能
5. " 第4週 秘書の形態
6. " 第5週 秘書の業務とその特質
7. 6月第1週 秘書と交流分析
8. " 第2週 予備日
9. " 第3週 秘書と人間関係
10. " 第4週 秘書と情報
11. 7月第1週 秘書に求められるもの
12. " 第2週 予備日
13. " 第3週 前期終了科目定期試験

履修上の留意点

1～2年後には社会人になろうという人が受講するのであるから、正当な理由の無い欠席・遅刻は許されない。事後承諾を受けるのではなく、事前に何らかの形で連絡しておく配慮が必要である。授業中は自分を大人の女性として意識し、学生同士の言葉遣いにも留意して、自分達で学ぶ環境作りを心がけてほしい。

成績評価の方法

出席およびレポート提出の有無を重視する。日常に課する小レポートも加味する。いかなるレポートも〆切日を過ぎたものは受け取らない。2年生は就職活動で欠席を余儀無くされることがあるが、「私の就職活動報告」と題して欠席したその日の活動を翌週に発表してもらい、欠席分を補う。これら日常点の他に定期試験の得点とを総合して評価する。

教科書

開講時に指示する。

その他

主に講義形式で授業を進める。取り扱う関連分野が多領域にわたるため、ビデオ教材を使うこともある。その際は前の週に予告するとともに、当日に教務課正面のビデオ教場使用欄(黒板)にて案内するので、前もって指示されているビデオ教場に入ってもらいたい。予約によって多少異なるが、1-301教場になることが多いであろう。

ただ講義を聞くというのではなく、これから直面する就職のこと、結婚、家庭と仕事との両立の問題、40代・50代をどんなふうにご覧したいのか等々、自分のライフサイクルの中の現時点と未来を、秘書という事務能力の優れた女性の職能を通して考える機会になればと思っています。自分のライフプランや職業に対する意識を再確認するために、出席票を兼ねて意見を書いてもらうことも多くなる。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
秘書実務（後期）	もり もと まさ え 森 本 正 恵	短国1・2選	2

講義のねらい

秘書業務の基本を修得する。
 企業で働く秘書として必要な資質、職務知識、一般知識、マナー・接遇、技能などの分野について学び、即戦力として実務知識が役立つような講義を目的とする。
 文部省認定秘書技能検定試験の受験にも対応できる。

講義の内容・
授業スケジュール

授業の進め方としては、秘書や秘書の仕事について考え理解し行動でき、表現できるように適宜レポートや実技（来客対応・電話対応など）を課題として与えながら実務能力がつくように進めていく。

（授業計画）

1. オリエンテーション（ねらいと進め方）
2. 秘書の役割と心がまえ
3. 会 話（話し方、聞き方、敬語）
4. 接 遇（来客対応、電話対応）
5. 日程管理（行動予定、出張、旅行）
6. 交際業務と環境整備（慶弔のマナー、仕事のしやすい環境）
7. 文書作成（社内文書、社外文書、グラフ）
8. 文書管理（ファイリング、郵便の扱い）
9. 会 議（会議の種類と準備、後始末）
10. 美しい立ち居振舞い（おじぎ、イスの立ち方座り方、物の扱い）
11. 実 技①（接遇——受付、取次、案内、接待、見送り）
12. 実 技②（電話対応）
13. 実 技③（報告の仕方、状況対応）
14. ま と め

履修上の留意点

毎回講義と演習を中心に進めますので、資料を参考にして課題をきちんとこなすこと。
 提出物については、締切日を守るように自己管理すること。

成績評価の方法

小テスト及び定期テストの成績。レポート等の提出物。実技。授業への参加意識などを含んだ総合評価とする。

教 科 書

野坂裕子・能勢照代・森本敦司共著『セクレタリアル・オフィスワーク・ノート』
 （燃焼社）¥1,800

そ の 他

なお、適宜ビデオを使用し、秘書や秘書の仕事について具体的な理解ができるようにするとともに、立ち居振舞いや話し方について自己を客観的に見られる資料とする。

科目名	担当者名	配当学年	単位
卒業研究Ⅰ	佐原作美	短国2選	4

講義のねらい

この科目は、研究論文の作成を目的としたものである。特に、上代から近世にわたる作品や作者を対象とする。したがって、そのために必要な基礎知識や調査研究の方法手順などについてその概略を講義する。

講義の内容・授業スケジュール

一通りの講義の後、受講生各人から6月上旬を目途に研究テーマを提出してもらうことになろう。その結果、論題やテーマによっては他の専門の教員の指導を受けるということもあろう。論文は冬休み明けの最終授業時あたりに清書し製本して提出するというスケジュールのもとに進めていくことになろう。

履修上の留意点

他の科目と違って、自から選んだテーマについての論文の作成であるだけにやり甲斐がある一方、それだけに各自の努力が必要であることを肝に銘じてほしい。

成績評価の方法

提出された論文の内容によって評価する。

教科書

新典社刊『日本文学研究のために』（山岸徳平編）¥1,000

科目名	担当者名	配当学年	単位
卒業研究Ⅱ	石割透	短国2選	4

講義のねらい

二年間の学習の一つの達成として、自己の研究テーマ、自己のモチーフに基づいた分野の研究を追究し、これ迄の研究成果を十分に吸収し、視野に収めたうえで一つの論文を作成していく。この時間は、そうした論文を実際にかき、その質をより高いものに仕上げていくための、実際の指導を行う。この時間は、研究テーマを近・現代文学に関わる者が受講してほしい。

講義の内容・授業スケジュール

四月から五月にかけては、論文の具体的なテーマを各自が決めるまでの期間として、研究の基本的な方法、研究を進めるうえでの基本的な文献、多様な研究方法のありようを紹介する。各自の研究テーマが決められた六月以降は、テーマに基づいた指導を個々に具体的にに行ない、進行状況、問題点を指摘し、指導する。そのようにして自己のテーマを深めながら、十二月末或いは一月のはじめに、四百字詰め原稿用紙三十枚から四十枚の論文を提出する。

履修上の留意点

二年間の学習成果をまとめる意味で、できるだけ多くの学生に受講してほしいと思う。論文を書くことで、直接のテーマを超えた、多くのことが見え、新たな発見がなされるに違いない。受講者は、他の受講者のテーマにも関心をもち、互いに話し合ったり、刺激を与えあったりすることができれば、と思う。

成績評価の方法

完成した論文によるとともに、授業時の学習意欲、積極性に高い評価を与えたい。

教科書

特に指定はしない。

科目名	担当者名	配当学年	単位
卒業研究Ⅲ	かた やま はる かた 片 山 晴 賢	短国2選	4

講義のねらい

卒業研究Ⅲは、国語学についての研究論文を作成するための講座である。国語学研究上必要な方法論・資料収集等の方法について講義する。

講義の内容・
授業スケジュール

具体的な論文の例示をして、中世を中心とした音韻・文法・語彙・文字等の特質を概観し、各自の研究対象を確認し、助言した後でそのテーマにそった資料収集を進めてもらう。夏休み中に主な資料のカードを作成してもらい、10月初に論文作成にとりかかり、12月に各自点検の為の面談を行った後に提出してもらう。

履修上の留意点

各自の自主的な作業で進められるので、論文を作成するという意欲が必要となる。

成績評価の方法

論文作成過程の中の努力・意欲をみて、さらに論文を評価する。

教科書

面談の中で指示する。

1 專 門 教 育 科 目

(2) 英 文 科

(2) 英 文 科

必修科目【一 類】

英米文学概論	(熊崎久子)	51
英語音声学	(モエ, R. A.)	52
英文法論	(梅原敏弘)	53
英文講読 I	(滝静寿)	53
英文講読 I	(高野秀夫)	54
Freshman English	(キーズ, P.)	54
英文学史	(滝静寿)	55
英語学概論	(岡本誠)	56
英作文	(梅原敏弘)	56
英作文	(岡本誠)	57
英作文	(高野秀夫)	57
英文講読 II	(熊崎久子)	58
英文講読 II	(滝静寿)	58
Spoken English	(エルウッド, M. K.)	59
Spoken English	(グリフィス, J.)	59

必修科目【二 類】

英米文学概論	(熊崎久子)	60
英語音声学	(モエ, R. A.)	61
Intensive English I	(グリフィス, J.)	62
Intensive English I	(シエレン, K.)	64
Intensive English II	(アシュウェル, T.)	65
Intensive English II	(ウォレス, G.)	66
Intensive English III	(山縣裕)	67
Intensive English III	(アシュウェル, T.)	67
Intensive English III	(マクサマック, M. W.)	68
Intensive English IV	(キーズ, P.)	68
Intensive English IV	(マクサマック, M. W.)	69
Intensive English IV	(オデー, J.)	69
英文学史	(滝静寿)	70
Intensive English V	(郷司正彦)	71
Intensive English V	(デンドウ, G.)	71
Intensive English VI	(アシュウェル, T.)	72
Intensive English VI	(エルウッド, M. K.)	72
Intensive English VI	(デンドウ, G.)	73
Group Discussion	(郷司正彦)	74
Group Discussion	(ウォレス, G.)	75
Group Discussion	(デンドウ, G.)	76
Group Discussion	(マクフィー, N. P.)	76
Reading Comprehension	(郷司正彦)	77
Reading Comprehension	(ウォレス, G.)	77
Reading Comprehension	(オデー, J.)	78
Reading Comprehension	(グリフィス, J.)	79

選択科目【一類・二類共通】

情報処理 I	(湯浅陽子)	80
Advanced English I A	(アシュウェル, T.)	81
Advanced English I B	(アシュウェル, T.)	81
時事英語	(岡本誠)	82
戯曲研究	(熊崎久子)	83
英語演習 I [ディクテーション]	(岡本誠)	84
英語演習 II [シャーロック・ホームズ]	(滝静寿)	84
英語演習 III [口語英語の基礎訓練]	(梅原敏弘)	85
英語演習 IV [リスニング]	(岡本誠)	86
英語演習 V [ポキャビュラリービルディング]	(梅原敏弘)	87
英語演習 VI [英語表現]	(高野秀夫)	88
米文学演習	(休講)	
ジャーナリズム研究	(篠野寿雄)	88
西洋古典文学	(水島陽子)	89
イギリス史	(休講)	
イギリス文化事情	(マクフィー, N. P.)	89
アメリカ史	(モエ, R. A.)	90
アメリカ文化事情	(休講)	
アメリカ演劇	(熊崎久子)	91
20世紀米文学	(休講)	
20世紀英文学	(高野秀夫)	92
同時通訳 I	(モエ, R. A.)	93
同時通訳 II	(モエ, R. A.)	95
聖書研究	(水島陽子)	96
ビジネスイングリッシュ	(町井靖)	96
秘書概論	(湯浅陽子)	97
秘書実務	(森本正恵)	98
秘書英語	(森本正恵)	99
作品作家研究 [ロマン派の詩]	(熊崎久子)	100
作品作家研究 [世紀末文学]	(滝静寿)	101
作品作家研究 [20世紀アメリカ小説]	(吉沢栄治郎)	101
作品作家研究 [19世紀英文学]	(高野秀夫)	102
情報処理 II	(ブルックス, D.)	103
言語と文化	(岡本誠)	105
英語表現研究	(梅原敏弘)	106
Advanced English II A	(モエ, R. A.)	107
Advanced English II B	(モエ, R. A.)	108
英語とコンピュータ	(ブルックス, D.)	109
表現法	(笹瀬王子)	111
日本語教育法	(休講)	

《必修科目》【一 類】

科目名	担当者名	配当学年	単位
英米文学概論	くまざき ひさこ 熊崎久子	短英1必	4

講義のねらい

古代英語の時代より、中世英語の時代、文芸復興期を経、浪漫主義、古典主義等々の長く、膨大な歴史と伝統の上に結実をみせた19世紀イギリス文学と逞しい開拓精神と果てしない夢と希望の上に独自の浪漫主義を開花させた19世紀アメリカ文学を、それぞれの時代の趨勢を背景に概観する。産業革命の影響を受け、大きく変動していく社会と揺れ動く人心を反映させたヴィクトリア女王朝のイギリス文学は明治の日本文学にも少なからぬ影響を与えています。英国同様に産業革命の影響を受け、また、辺境の消滅による失意から、リアリズム文学へ、自然主義文学へと変革するアメリカ文学は後にこの国独自の文学者を生み出します。南部作家、黒人作家等です。それらの背景を踏まえて社会と文学の接点にも目を向けます。

講義の内容・授業スケジュール

- ①前期 ヴィクトリア朝の英文学
 4月 英文学の流れ——古代英語時代から18世紀まで、ヴィクトリア朝概観
 5月 詩歌
 6月 小説
 7月 アイルランド文芸運動、児童文学、世紀末文学
- ②後期 19世紀米文学
 9月 独立以前からロマンティシズム興起まで
 10月 ロマンティシズム興隆からリアリズム発生まで
 11月 リアリズムの確立、自然主義の台頭、第一次世界大戦前後
 12月 新劇、ロスト・ジェネレーションの作家、黒人作家、南部作家
 1月 補足とまとめ

授業の進め方

- ① 予定表に従い、作家と作品について論じる。重要な作品については必要な箇所を引用し参照します。特に韻律が主要な役割を果たす詩歌の場合は解説のみでは十分な理解ができないので作品を引用し朗読します。
- ② 必要に応じ講義概要を配布する。あるいは黒板に板書します。
- ③ 終了前10分間弱を質問の時間に当てます。

履修上の留意点

広い範囲の作品作家を扱うことになるので、予定表を参考にあらかじめその日のための予備知識を備えて出席すること。出席するだけでは内容の把握が出来ません。またその日の疑問は必ずその日に質問をし、解決しておくこと。

成績評価の方法

1. 定期試験の成績……50%
2. 年2回提出のレポートの評価……30%
3. 授業中に提出をもとめた小レポート……20%

教科書

正式の教科書は特にありません。
 準テキスト：『要説イギリス文学史』（佐瀬順夫著 英宝社）
 『要説アメリカ文学史』（同上）

参考書等

引用も多く専門的なものとしては、『英文学史』（斎藤勇著 研究社）
 『アメリカ文学史』（同上）があります。
 その他、英米文学史関係の本であれば殆ど差異はありません。自分に合ったものを各自選んでほしい。辞書的なものは『英米文学辞典』（研究社）、『イギリス文学案内』（朝日出版社）、『アメリカ文学案内』（朝日出版社）などがあります。

科目名	担当者名	配当学年	単位
英語音声学	Moe, Richard A. (モエ, リチャード A.)	短英 1 必	4

講義のねらい

To teach students how they can improve their aural skills and listening comprehension abilities of English as it is naturally spoken by native speakers. This course will not concentrate on theory but instead the practical application of phonetics. In other words, students will be taught less about what Phonetics is from an academic viewpoint, but rather how to use it to enable them to improve their listening comprehension and transcription skills.

講義の内容・授業スケジュール

The essential elements of the course will concentrate on sound recognition, accurate sound reproduction and representation through the use of phonetic symbols, and the correct interpretation of sound into proper English.

[Note: Lesson content may vary from the scheduled lesson plan as a result of holidays, class cancellations, the need to spend more or less time on certain subjects, or other similar factors.]

- 4月2週 Explanation of course. Explanation of Phonetics. Distribution of phonetic symbols chart.
- 3週 Voiced and voiceless sounds. Classification of major vowels. Classification of consonants.
- 4週 Pronunciation of vowels and diphthongs.
- 5月2週 Pronunciation of consonants.
- 3週 Sound sequence. Consonant clusters. Length or duration. Liaison or linking. Assimilation. Elision and contraction.
- 4週から12月3週まで Exercises involving the actual application of phonetic principles.

履修上の留意点

Although attendance will not be taken, students will be expected to attend class regularly and promptly. Tests will not be announced. Students who are absent on the day of a test will receive a score of zero for that test. Tardy students without valid excuses will not be permitted to take tests and as such, they will also receive a score of zero. As a rule, there will be no make-up tests, however, if a student can prove that she was absent, or tardy, for a legitimate reason, then she may qualify to take a make-up test at the end of the year. Students are advised to take careful notes during the lectures. Outside practice and preparation are essential and often will make the difference between passing and failing. Accordingly, students are urged to apply what they are learning outside of class. Talking in class will not be tolerated and students who fail to observe this rule will be expelled.

成績評価の方法

The final grade will be based entirely on the average of an indeterminate number of unannounced tests given throughout the year plus *alpha*. *Alpha* represents the difference between 100 and the average of the student with the highest average. [Final Grade = Avg. + α] Attendance is not a factor because it will not be taken due to the large size of the class.

教科書

No assigned textbook. A phonetic symbols chart will be distributed at the start of the course. Students are advised to listen to English language materials, such as radio broadcasts, TV programs, videos, songs, etc., in their free time.

参考書等

Students will need a notebook and may use dictionaries in class. Students must use pencils when taking tests, however, during class either pens, pencils, or other markers are acceptable.

その他

Students are encouraged to consult with the teacher at any time regarding course content, their performance, or any other matters. Test results and current averages will be posted. Students with low grades are advised to consult with the teacher at an early date in order to discuss ways of improving their performance.

科目名	担当者名	配当学年	単位
英文法論	うめ はら とし ひろ 梅 原 敏 弘	短英1必	4

講義のねらい

基本的な文構造の知識の再確認と日本人が得に苦手とする文法項目の克服を主眼とする。

講義の内容・授業スケジュール

受講者が多く演習形式がとれないので、ハンドアウトをあらかじめ配り、ハンドアウトに記されたそれぞれのセンテンスに含まれる重要な文法項目を逐次解説していくという形をとる。センテンスの量はかなり多く、中にはやや理解の難しい文法概念を含んだものもあるので、受講者は毎回必ず講義に出席し、こまめにノートを取る必要がある。講義は基本的な文構造の知識の再確認から始まり、時制、アスペクト、名詞の数と冠詞等の日本人に難しい文法項目を順次取り上げ、解説していくことにする。練習問題も配布するが、課題として自宅でやってもらう。

履修上の留意点

ハンドアウトには英語のセンテンスのみが記されていて解説は書かれていないので、毎回講義に出席し、ノートをこまめに取らないと試験で合格点をとることは難しい。講義の内容を理解し、正確にノートテイキングをするためには、あらかじめ家で十分下調べをしてセンテンスの意味をよく理解しておくことが肝要である。

成績評価の方法

前期終了時または後期開始時、及び学年末にそれぞれ試験をおこない、その結果によって成績評価をする。

教科書

使用せず。ハンドアウトを配布。

参考書等

クワーク著『現代英語文法』(紀伊国屋書店)
松波 有編『英文法』(大修館)
正保富三著『英語の冠詞がわかる本』(研究社)

科目名	担当者名	配当学年	単位
英文講読 I	たき せい じゅ 滝 静 寿	短英1必	2

講義のねらい

チャールズ・ラムの『シェイクスピア物語』の中の作品(未定)を取り上げ、輪読・鑑賞する。子供向けに平易に書き直されたものであるが、文学的格調の高い文体を通し、ラムのシェイクスピアに対する思い入れを考えていく。また、原典の一部を対訳を通して読み、シェイクスピアの言葉の特質を考えてみる。途中で映画を鑑賞する。

講義の内容・授業スケジュール

(前期) ラムの『シェイクスピア物語』を輪読・鑑賞する。
(後期前半) 原典の一部を対訳を通して読む。
(後期後半) シェイクスピアの作品の映画を鑑賞し、劇作家とその作品を研究する。

履修上の留意点

小グループに分け、輪番制で研究発表をする。割り当てられた所は、文法的な問題はもとより、全て責任をもって質問や意見に答えてもらう。
予習が第一、授業に対する積極的な態度が第二、遅刻、欠席には厳しく臨む。

成績評価の方法

授業態度、出席率、意見の発表、小テスト、学年末テスト等の総合評価。

教科書

未定。

科目名	担当者名	配当学年	単 位
英文講読 I	たかのひでおの野秀夫	短英 1 必	2

講義のねらい

- ① Natural Speed で英語を読み、聞く能力を高める。
- ② 教科書：いわゆるクリスマスの読物のなかでディケンズの『クリスマス・キャロル』はとりわけ有名です。特に冷酷な主人公が亡霊に導かれてやさしい人間に生まれ変わる心の動きに注目しながら読み進めていく予定です。

講義の内容・授業スケジュール

- ① テープの英語
- ② 教科書を逐字訳しながら、内容、文構造の基本理解を図り、英国文学の知識を広げる。

履修上の留意点

毎回教科書の逐字訳をするので必ず予習は欠かさないこと。

成績評価の方法

前期・後期各一回テスト・レポート・平常点

教科書

Charles Dickens : *A Christmas Carol*

科目名	担当者名	配当学年	単 位
Freshman English	Keyes, Peter (キーズ, ピーター)	短英 1 必	2

講義のねらい

To have the students speaking in English from the beginning of the course and to concentrate on subject matter that is of interest to the student. To put them on the road to greater fluency and to increase their listening skills.

講義の内容・授業スケジュール

Short conversations using authentic language in a wide range of situations and settings will be expanded upon and listening exercises will also be used. There will be a lot of group and pairs work with the students acting as teacher form time to time. The instructor will also develop blackboard stories so that the student can start to learn how to tell stories in English even though they are beginners.

The lessons will cover everyday functions such as offering and accepting food, greetings, talking about the past and future, talking about oneself, family and friends, agreeing and disagreeing. The main text covers seven skill areas.

These are communications, business, socializing, travel, hotels, money, and food and drink. Each of these themes will be expanded upon by the teacher.

履修上の留意点

Homework will consist in preparing a journal of activities and in preparation reviewing what has been learnt.

成績評価の方法

The students will be graded throughout the year for classroom effort and will be required to keep a journal in English. This will also be graded. Marks will also be given for high attendance.

教科書

Text: 'Basic Survival'
Authors: Peter Viney
Publisher: Heinemann
Supplimentary Material will be handed out by the teacher.

参考書

'Survival English'
An A4 size journal and note pad (There is no need to bring these at the first lesson. The teacher will explain in more detail in class).
An English Japanese dictionary.

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
英 文 学 史	たき 滝 せい 静 じゅ 寿	短 英 2 必	4

講義のねらい

歴史を背景に、イギリス文学の流れを、その時代の代表的な作品、作家を取り上げながら概観する。講義形式であるので、ノートをとって貰う。

講義の内容・
授業スケジュール

- (4月) イギリス文学史の年間講義の概略の説明、イギリスについての基礎知識、アングロ・サクソン時代までの簡単な歴史。
- (5月) 古英語時代の詩歌等『ベイウルフ』を中心に。ノーマン・コンクエストによる言語・文化の変遷。
- (6月) 16世紀までの歴史。中英語の文学チョウサー、ラングランドを中心に。ギリシヤ・ローマ演劇について。
- (7月) 17世紀までの歴史、中世のイギリス演劇。ヒューマニズムについて。
- (9月) エリザベス朝の文学と演劇、特にシェイクスピアを中心に。
- (10月) 18世紀までの歴史、・ピューリタニズムについて、特にミルトン、バンヤンを中心に。王政復古について。
- (11月) 19世紀までの歴史。ポープ等について。散文の登場、ジャーナリズムの発展、サムエル・ジョンソン等を中心に。
- (12月) ヴィクトリア朝の歴史と文芸。
- (1月) イギリス文学史の総まとめ。

履修上の留意点

出欠はとらない代わりに、前期、後期のレポートを提出し、それが出席率になる。未提出者は単位修得はできない。

成績評価の方法

学年末のペーパーのテストが主で、前後期各1回提出のレポートを参考に評価する。

教 科 書

特に教科書は使用しない。

参 考 書 等

教場で説明。

科目名	担当者名	配当学年	単位
英語学概論	おかもと まこと 岡本 誠	短英2必	4

講義のねらい

「もし私が鳥だったならば」という表現は、英語では“If I were a bird”になる。といった程度のことはもう御存知のはず。しかし、どうして“I were”となるのか。こう尋ねられるとなかなか答えられない。これには実は英語の歴史的背景がある。

日本人は中学校以来英語をよく勉強させられるが、その英語そのものがどういう歴史をたどってきたかは全然視野に入っていない。今や国際語の地位を得たこの言語は、そもそもいかなる出生、生立ちであるのか。その道程を概観することは大いに意味があるのである。それはただ単に一外国語のレベルにとどまらず敷衍性を持つからである。つまり、我々の母語である日本語をあらためて見なおすヒントを得ることになる。

本講義は、とあるドイツ北方の言葉が海を越えてイギリスの島にわたり、その後は国際語へと変貌をとげていく、英語の劇的な出世物語を少しでも理解しようとするものである。

講義の内容・授業スケジュール

前期：英語の時代区分。印度・ヨーロッパ語と英語の関係。英語が影響を受けることになったブリテン島の対外関係。ノルマン人によるフランス語の影響。ルネサンスと英語（前半）。
後期：ルネサンスと英語（後半）。17世紀の英語の自己発見。大英帝国を背景とした英語。アメリカの台頭とその英語。世界各地の Englishes。

履修上の留意点

教科書を講義を進める際の参考の道標として使用するが、事前に次のところを読んでおくこと。

成績評価の方法

学期末試験。必要に応じてレポートを課す。小テスト。

教科書

『えいご・エイゴ・英語学』（松柏社） ¥2,500

参考書等

適宜プリントを配布するが、どうしてもという際は次のものが最も網羅的である。
ポーノケイブル著・永嶋大典他訳『英語史』（研究社） ¥7,210

科目名	担当者名	配当学年	単位
英作文	うめはら としひろ 梅原 敏 弘	短英2必	2

講義のねらい

日本人が英語を書くときに犯す誤りには共通のパターンがあるように思われる。そうした誤りのパターンを意識し、そうした間違いを犯さないように心がければ、英文を書くとき間違いを犯す確率は低くなる。この英作文の授業では、間違いやすいパターンに注意し、そうした間違いを犯さないように英文を書く練習をする。

講義の内容・授業スケジュール

Common Errors in English Writing という教科書を、Unit 1 から Unit 20 まで、順をおって学習していく。この教科書には日本人が犯しやすい誤りの事例が多数載せられ、Unit 毎に其の誤りがパターン化されている。各 Unit には相当な量の練習問題があるので、一回の授業で1 Unit をこなすことが出来るかどうかは分からないが、予定としては一回の授業で1 Unit を済ましていくつもりである。

履修上の留意点

練習問題の量が多いので予習をしっかりとすること。就職活動のために欠席は最小限にとどめること。

成績評価の方法

前・後期の試験の結果、および出席を総合的に勘案して決める。

教科書

木塚晴夫著『Common Errors in English Writing』 マクミラン ランゲージハウス

科目名	担当者名	配当学年	単位
英作文	おか もと まこと 岡 本 誠	短英2必	2

講義のねらい

外国の人がたどたどしい日本語で話しかけてきたとき「お上手ですね」と言ってあげる人は多い。しかし、たどたどしい日本語の文章を見ても「お上手ですね」とは言わないであろう。たどたどしい文章というのはバカにされるのである。話しことばは口から出たとたんに消えてしまうからいい。相手に通ずればいいのである。ところが書いた文は残るからしまつに悪い。ちょっと英語で文を書かせてみれば、たちどころにその人の英語力が分かる。英作文とはその意味で恐いものである。

ところが世はインターネットの時代になってしまった。話しことばの電話とちがって読む力と書く力が要求されるのがインターネットである。既にアメリカの会社の職場は静かであるという。電話が鳴らないからである。相手の都合にお構いなく電話を鳴らすよりは、そっと e-mail を出すのだ。このことは、仕事の上では書くことは話すことよりも大切になるかもしれないことを暗示している。つまり、英語で自分を表現できることが文書の形式で要求されることが増えるであろう。

ともかく、たどたどしい英語の文よりもまじなものを書けるようになるよう努力してほしい。

講義の内容・授業スケジュール

前期：こちらで漫画(無料のもの)を用意するので、登場人物に自由な発想で発話をさせてみる。
後期：よりよい翻訳を意識した作業を行なってみる。

履修上の留意点

積極的に発表してほしい。質問は随時可。英々辞書等の辞書必携のこと。

成績評価の方法

積極的な講義への参加。学期末試験。宿題。出席状況。小テスト。

教科書

特定の教科書は使わない。プリント等こちらで用意する。

科目名	担当者名	配当学年	単位
英作文	たか の ひて お 高 野 秀 夫	短英2必	2

講義のねらい

日常、大学生活において役に立つ、口語英語表現の英作の例文を多数練習し、Case by Case ですぐに英語で自分の意思が伝えられるような、実践的な英作文の授業を目指す。
また、日常生活の出来事を伝えるための身近なニュース英語表現の向上をも図る。

講義の内容・授業スケジュール

- ① ニュース英語テープの活用。
- ② 「コミュニケーションのための口語英作文」のテキスト使用。
- ③ “Self-Expression in English”の向上のための“A Short Speech”。

履修上の留意点

- ① 日常の出来事を30分間でよいから毎日英文で書き表す習慣を身につけること。
- ② 教科書の練習問題の解答、レポート提出を忘れぬこと。

成績評価の方法

- ① レポート(いろいろな話題を英語で書き表す。)
- ② 前期・後期のテスト
 - (a) テープの英語
 - (b) 教科書
 - (c) 自由英作文(辞書持込可)
- ③ 平常点

教科書

- ① *TV News Watching・21 Approaches*
- ② *The Road From Writing To Speaking*

科目名	担当者名	配当学年	単位
英文講読Ⅱ	くま ざま ひさ こ 熊 崎 久 子	短英2必	2

講義のねらい

- ① 20世紀英文学の中でも特異な存在であるD.H.ロレンスの後半生について、妻フリーダが綴った思い出の記、「私ではなく、風が……」を読みます。
- ② 併せてロレンス自身の書いた短編小説、詩、エッセイ、および書簡を読み、人生、愛、性、芸術、宗教など、あらゆる分野に互り独自の見解を披瀝しているロレンス自身の生き方とその思想に触れたいと思います。

講義の内容・授業スケジュール

- ① 前期 第一週 D.H.ロレンスについて解説
第二週以降 “Not I, but the wind…” を読む。
最終週 質疑応答とまとめ。
- ② 後期 “The World of D.H.Lawrence” を読む。
最終週 質疑応答とまとめ。

授業の進め方

- ① 「私ではなく、風が……」は簡単な文章で綴られていますので速読をいたします。
作品中に言及されているロレンスの詩、小説、紀行文などはその都度、一部引用して鑑賞します。受講者全員による朗読とディスカッションを行います。
- ② 配布プリントはロレンス自身の英語で書かれたものですからじっくりと文章と内容を味わいます。この場合も受講者全員の発表と意見の交換を行います。

履修上の留意点

十分な予習が必要です。あらかじめ内容を把握して教場に臨んでください。朗読、意見発表は申し出制としますので準備を十分にし、積極的に参加してください。

成績評価の方法

前期、後期各一回行う試験の評価……60%
平常点……40%

教科書

- ① “Not I, but the Wind”(Frieda Lawrence 著、弓プレス)
- ② D.H.Lawrence の作品、プリントを配布します。

科目名	担当者名	配当学年	単位
英文講読Ⅱ	たき せい じゅ 滝 静 寿	短英2必	2

講義のねらい

旧約聖書の『創世記』を輪読し、西洋文化の根底をなす世界観に接し、ユダヤ教、キリスト教、イスラム教の違いを概観してみる。平易な英語で書かれているので、速読に馴れることを目的にする。

講義の内容・授業スケジュール

- (4月) 『聖書』、『聖書物語』について
- (5月) 「創世記」 “天地創造” から “バベルの塔” まで
- (6月) “ノアの箱舟”
- (7月) “天地創造” のビデオ鑑賞
- (9月) “アブラハム”
- (10月) “ソドム”
- (11月) “イサク”
- (12月) “ヨセフ” から “モーゼの十戒” (出エジプト記) への導入と、ビデオ鑑賞
- (1月) 全体のまとめ

履修上の留意点

教員のみでなく学生からも常に問題を提起し、読むだけでなく、各ストーリーにももたらされた意味等を考えながら進めていく。
必ず予習し、積極的な意見の発表を義務づける。予習しない者は入室を拒否する。

成績評価の方法

授業を進めていく過程での平常点、出席率、小テスト、学年末テスト等の総合評価。

教科書

“The Story Bible” by Pearl S.Buck Vol. 1 英宝社

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
Spoken English	Elwood, M. K. (エルウッド, M. K.)	短 英 2 選	2

講義のねらい

The course will teach students to express themselves well in spoken English and to respond appropriately to others in conversation. Emphasis will be placed on the functions required for giving and receiving information in everyday business and social situations such as meeting acquaintances, accepting and declining invitations, making requests, shopping, and ordering food.

講義の内容・
授業スケジュール

The primary focus will be on mastering functional language points of spoken English through such conversational tasks as role-playing, dialogue completion, and information-gap activities as well as expressing creative ideas and opinions.

成績評価の方法

Students will have assigned material to prepare in advance for each class. Grades will be based on active class participation and a final oral exam.

教 科 書

"*New Person to Person, Student Book 1*" by Jack C. Richards, David Bycina, and Sue Brioux Aldcorn (Oxford University Press), ISBN no. 4346781, ¥1,980

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
Spoken English	Griffiths, J. (グリフィス, J.)	短 英 2 選	2

講義のねらい

The principal aim of this course will be to improve the ability of the students to express themselves effectively in conversational English in a variety of situations.

講義の内容・
授業スケジュール

Each class will cover different conversational topics in the news, popular films and music, on the Internet, or in the textbook. During each semester, every student will be expected to make one short presentation on a topic of their choice.

履修上の留意点

During the course of two semesters, students will be expected to become reasonably competent in the material presented in the textbook. Regular attendance and enthusiastic participation in classroom activities will be required to complete the course.

成績評価の方法

Attendance and class participation will count for 50% of final grade. Presentations and test scores will count for the other 50%. Every three unexcused absences will automatically lower the final grade ten full points. Every two times a student is late for class, it will count as one absence.

教 科 書

Interchange I: English for international communication

そ の 他

Any questions or problems a student has concerning the class should be discussed directly with the instructor.

《必修科目》【二 類】

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
英米文学概論	くま ざき ひさ こ 熊 崎 久 子	短英1必	4

講義のねらい

古代英語の時代より、中世英語の時代、文芸復興期を経、浪漫主義、古典主義等々の長く、膨大な歴史と伝統の上に結実をみせた19世紀イギリス文学と遅しい開拓精神と果てしない夢と希望の上に独自の浪漫主義を開花させた19世紀アメリカ文学を、それぞれの時代の趨勢を背景に概観する。産業革命の影響を受け、大きく変動していく社会と揺れ動く人心を反映させたヴィクトリア女王朝のイギリス文学は明治の日本文学にも少なからぬ影響を与えています。英国同様に産業革命の影響を受け、また、辺境の消滅による失意から、リアリズム文学へ、自然主義文学へと変革するアメリカ文学は後にこの国独自の文学者を生み出します。南部作家、黒人作家等です。それらの背景を踏まえて社会と文学の接点にも目を向けます。

講義の内容・授業スケジュール

- ①前期 ヴィクトリア朝の英文学
 4月 英文学の流れ —— 古代英語時代から18世紀まで、ヴィクトリア朝概観
 5月 詩歌
 6月 小説
 7月 アイルランド文芸運動、児童文学、世紀末文学
- ②後期 19世紀米文学
 9月 独立以前からロマンティシズム興起まで
 10月 ロマンティシズム興隆からリアリズム発生まで
 11月 リアリズムの確立、自然主義の台頭、第一次世界大戦前後
 12月 新劇、ロスト・ジェネレーションの作家、黒人作家、南部作家
 1月 補足とまとめ

授業の進め方

- ① 予定表に従い、作家と作品について論じる。重要な作品については必要な箇所を引用し参照します。特に韻律が主要な役割を果たす詩歌の場合は解説のみでは十分な理解ができないので作品を引用し朗読します。
- ② 必要に応じ講義概要を配布する。あるいは黒板に板書します。
- ③ 終了前10分問答を質問の時間に当てます。

履修上の留意点

広い範囲の作品作家を扱うことになるので、予定表を参考にあらかじめその日のための予備知識を備えて出席すること。出席するだけでは内容の把握が出来ません。またその日の疑問は必ずその日に質問をし、解決しておくこと。

成績評価の方法

1. 定期試験の成績……50%
2. 年2回提出のレポートの評価……30%
3. 授業中に提出をもとめた小レポート……20%

教科書

正式の教科書は特にありません。
 準テキスト『要説イギリス文学史』（佐瀬順夫著 英宝社）
 『要説アメリカ文学史』（ 同上 ）

参考書等

引用も多く専門的なものとしては、『英文学史』（斎藤勇著 研究社）
 『アメリカ文学史』（ 同上 ）があります。
 その他、英米文学史関係の本であれば殆ど差異はありません。自分に合ったものを各自選んでほしい。辞書的なものは『英米文学辞典』（研究社）、『イギリス文学案内』（朝日出版社）、『アメリカ文学案内』（朝日出版社）などがあります。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
英 語 音 声 学	Moe, Richard A. (モエ, リチャード A.)	短 英 1 必	4

講義のねらい

To teach students how they can improve their aural skills and listening comprehension abilities of English as it is naturally spoken by native speakers. This course will not concentrate on theory but instead the practical application of phonetics. In other words, students will be taught less about what Phonetics is from an academic viewpoint, but rather how to use it to enable them to improve their listening comprehension and transcription skills.

講義の内容・
授業スケジュール

The essential elements of the course will concentrate on sound recognition, accurate sound reproduction and representation through the use of phonetic symbols, and the correct interpretation of sound into proper English.
 [Note: Lesson content may vary from the scheduled lesson plan as a result of holidays, class cancellations, the need to spend more or less time on certain subjects, or other similar factors.]

- 4月2週 Explanation of course. Explanation of Phonetics. Distribution of phonetic symbols chart.
- 3週 Voiced and voiceless sounds. Classification of major vowels. Classification of consonants.
- 4週 Pronunciation of vowels and diphthongs.
- 5月2週 Pronunciation of consonants.
- 3週 Sound sequence. Consonant clusters. Length or duration. Liason or linking. Assimilation. Elision and contraction.
- 4週から12月3週まで Exercises involving the actual application of phonetic principles.

履修上の留意点

Although attendance will not be taken, students will be expected to attend class regularly and promptly. Tests will not be announced. Students who are absent on the day of a test will receive a score of zero for that test. Tardy students without valid excuses will not be permitted to take tests and as such, they will also receive a score of zero. As a rule, there will be no make-up tests, however, if a student can prove that she was absent, or tardy, for a legitimate reason, then she may qualify to take a make-up test at the end of the year. Students are advised to take careful notes during the lectures. Outside practice and preparation are essential and often will make the difference between passing and failing. Accordingly, students are urged to apply what they are learning outside of class. Talking in class will not be tolerated and students who fail to observe this rule will be expelled.

成績評価の方法

The final grade will be based entirely on the average of an indeterminate number of unannounced tests given throughout the year plus *alpha*. *Alpha* represents the difference between 100 and the average of the student with the highest average. [Final Grade = Avg. + α] Attendance is not a factor because it will not be taken due to the large size of the class.

教 科 書

No assigned textbook. A phonetic symbols chart will be distributed at the start of the course. Students are advised to listen to English language materials, such as radio broadcasts, TV programs, videos, songs, etc., in their free time.

参 考 書 等

Students will need a notebook and may use dictionaries in class. Students must use pencils when taking tests, however, during class either pens, pencils, or other markers are acceptable.

そ の 他

Students are encouraged to consult with the teacher at any time regarding course content, their performance, or any other matters. Test results and current averages will be posted. Students with low grades are advised to consult with the teacher at an early date in order to discuss ways of improving their performance.

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
Intensive English I	Griffiths, J. (グリフィス, J)	短 英 1 必	2

講義のねらい

This course will concentrate on improving the oral and aural skills of students in English.

Exercises are designed to enable students to respond automatically and correctly in speaking situations. In other words, students will be taught how to actually use the English they have studied prior to entering college in conversational situations.

講義の内容・
授業スケジュール

This course will be conducted in the L.L. At the start of the course students will be given printouts of the material to be covered in class. It will be essential that they review the assigned lessons prior to each lesson, otherwise they may find themselves unable to keep up with the rapid pace of the class. Each class will begin with a 20-question multiple choice comprehension test over the previous lesson's content. After that the students will record the next lesson and practice it according to the instructions of their teacher. Such exercises may vary according to teacher or be supplemented with additional materials.

[Note: Lesson content may vary from the scheduled lesson plan as a result of holidays, class cancellations, the need to spend more or less time on certain subjects, or similar factors.]

前 期

- 4月2週 Distribution of study materials. Explanation of course. Assignment.
- 3週 Record Unit 1a Situations practice.
- 4週 Unit 1a Situations comprehension test. Record Unit 1c Episode practice.
- 5月2週 Unit 1c Episode comprehension test. Record Unit 2a Situations practice.
- 3週 Unit 2a Situations comprehension test. Record Unit 2c Episode practice.
- 4週 Unit 2c Episode comprehension test. Record Unit 3a Situations practice.
- 6月1週 Unit 3a Situations comprehension test. Record Unit 3c Episode practice.
- 2週 Unit 3c Episode comprehension test. Record Unit 4a Situations practice.
- 3週 Unit 4a Situations comprehension test. Record Unit 4c Episode practice.
- 4週 Unit 4c Episode comprehension test. Record Unit 5a Situations practice.
- 7月1週 Unit 5a Situations comprehension test. Record Unit 5c Episode practice.
- 2週 Unit 5c Episode comprehension test. Record Unit 6a Situations practice.

後 期

- 9月3週 Unit 6a Situations comprehension test. Record Unit 6c Episode practice.
- 4週 Unit 6c Episode comprehension test. Record Unit 7a Situations practice.
- 10月1週 Unit 7a Situations comprehension test. Record Unit 7c Episode practice.
- 2週 Unit 7c Episode comprehension test. Record Unit 8a Situations practice.
- 3週 Unit 8a Situations comprehension test. Record Unit 8c Episode practice.
- 4週 Unit 8c Episode comprehension test. Record Unit 9a Situations practice.
- 5週 Unit 9a Situations comprehension test. Record Unit 9c Episode practice.
- 11月2週 Unit 9c Episode comprehension test. Record Unit 10a Situations practice.
- 3週 Unit 10a Situations comprehension test. Record Unit 10c Episode practice.
- 4週 Unit 10c Episode comprehension test.
- 12月1週 Supplemental lessons.
- 2週 Make-up tests.
- 1月2週 Student evaluation Questionnaires.

履修上の留意点

Preparation before class is absolutely essential. Students who do not have a solid understanding of the content of the material being covered will not be able to respond promptly nor correctly, and as such, will find themselves failing. Also, because the course is fast-paced, it will be necessary to practice speaking outside of class. Traditional study methods of only reading and memorizing and not actually speaking out loud will be insufficient. As for speaking ability, students will be graded on their pronunciation also. In other words, they will be expected to demonstrate what they are learning in Phonetics. As can be seen from the grading method, regular and prompt attendance is important because it will directly affect the final grade. Each class will begin with a test. Students who come late will not be allowed to take the test; their grade for that test will be "0". Students who are absent will not be allowed to take the test at a later date. They also will receive a "0" for that test. At the end of each semester makeup tests may be given to certain students who qualify. If a student was absent from both the Situations and Episode comprehension tests of a particular unit for a reason deemed valid by her instructor, then she may be given a makeup test for that unit. It should be noted that the makeup tests, unlike the comprehension tests, is a 100-question speaking test lasting only about 5 minutes and covering all the material in that unit. Students are given only one chance to answer questions as they hear them and their answers are recorded. Pronunciation, grammar, and content must all be perfect for an answer to be correct.

成績評価の方法

Evaluation will be based on attendance, participation, and ability. Final grades will primarily be based on the average score of all LCTs (Listening Comprehension Tests).

教科書

No assigned textbook.

参考書等

Printouts of the main study material will be distributed by teachers to the students. Students, however, will be required to provide their own audio tapes. A 90-minute tape is needed to record Situation Exercises and a 60-minute tape is needed to record Episode Exercises.

その他

Students are encouraged to consult with their teacher at any time regarding course content, their performance, or any other matters. Results of comprehension tests will be posted regularly outside the English Department Resources Room.

科目名	担当者名	配当学年	単 位
Intensive English I	Schellin, Keith (シエレン, キース)	短英 1 必	2

講義のねらい

This course will concentrate on improving the oral and aural skills of students in English. Exercises are designed to enable students to respond rapidly and correctly in speaking situations. In other words, students will be taught how to actually use the English they have studied prior to entering college in conversational situations.

講義の内容・授業スケジュール

This course will be conducted in the L.L.. At the start of the course students will be given printouts of the material to be covered in class. It will be essential that they review the assigned lessons prior to each lesson, otherwise they may find themselves unable to keep up with the rapid pace of the class. Each class will begin with a 20-question multiple choice comprehension test over the previous lesson's content. After that the students will record the next lesson and practice it according to the instructions of their teacher. Such exercises may vary according to teacher or be supplemented with additional materials.

履修上の留意点

Printouts of the main study material will be distributed by teachers to the students. Students, however, will be required to provide their own audio tapes. A 90-minute tape is needed to record Situation Exercises and a 60-minute tape is needed to record Episode Exercises.

成績評価の方法

Evaluation will be based on attendance, participation, and ability. Final grades will be calculated by the following formula:

$$((100 - 10X - 5Y) + 2Z) / 3 + a = \text{Final Grade}$$
 X = number of absences, Y = number of times tardy, Z = average of all grades,
 a = adjustment based on Teacher's evaluation

教科書

Provided in class by instructor.

参考書等

none

その他

none

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
Intensive English II	Ashwell, Tim (アッシュウェル, ティム)	短 英 1 必	2

講義のねらい

In this course, students will be guided to read extensively in English so that they may begin to find that reading in English can be a rewarding experience.

講義の内容・
授業スケジュール

Students will be asked to buy one reader each at the beginning of the year. These readers will be shared with other students in the class and students will be told how many readers they will be expected to read each term. In addition, work will be done on developing particular reading skills in class.

履修上の留意点

Students are expected to attend all classes and to be punctual. Reasons for absence are expected to be communicated to the teacher preferably in advance. Unexcused absences or lateness will incur penalties in the final grade.

成績評価の方法

Grades will be based on: i) reviews of books read; ii) effort in class; iii) attendance.

参 考 書 等

特になし

そ の 他

特になし

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
Intensive English II	Wallace, George (ウォレス, ジョージ)	短 英 1 必	2

講義のねらい

This course will concentrate on improving students' reading skills in English, and will also seek to make students more aware readers of English. By this I mean, they will be required not only to read for content but to assess the value/validity of what they are reading and to comment upon it in clear, simple English.

講義の内容・
授業スケジュール

At the start of the year students will be required to buy the text to be used and will be told what is expected of them. Each week they will read the main passage of the chapter (to be covered in that week's class) for their homework. To ensure this is strictly adhered to, a test will be given at the start of each class to gauge how thoroughly the students did their homework. Then in class they will be required to summarize the passage in their own words, and also to comment on it, offering their own opinions and criticisms.

履修上の留意点

Students who are absent for more than three classes in the year will automatically fail (Unless they can produce proof of why they were unavoidably absent, e.g. hospitalization).

Coming late to class twice will be counted as one absence, so students should take care to be on time.

成績評価の方法

Grades will be based on

- (i) the number of absences.
- (ii) the number of times late to class.
- (iii) the aggregate score of the weekly tests.
- (iv) the zest with which students participate in classroom discussions.
- (v) the contribution students make to classroom morale.

Note: For students with a bona fide excuse for being absent from class, there will be a make-up test at the end of each term. A bona fide excuse will need written proof (e.g. a doctor's note in case of illness).

教 科 書

The text to be used is "A Reading Power 2,800円" by Beatrice, S, MikvLecky, published by Addison, Wesley.

参 考 書 等

All students must bring a dictionary to every class (either a bilingual one or preferably an English-English dictionary by Longman or Oxford University Press).

そ の 他

特になし。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
Intensive English III	やま がた 山 縣 ゆたか 裕	短 英 1 必	2

講義内容は開講時指示する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
Intensive English III	Ashwell, Tim (アシュウェル, ティム)	短 英 1 必	2

講義のねらい

This course is designed to provide students with opportunities to listen to short videoreports made by a small Los Angeles T. V. company which cover such topics as fitness, food and education and revolve around interviews with local people. The emphasis will be on comprehension through listening, not reading, and students will be expected to speak out in class.

講義の内容・授業スケジュール

Each video report will be studied for 3 or 4 lessons. Students will normally be required to prepare vocabulary in advance, but, in class, first, the topic will be introduced and then sections of the video will be studied using intensive questioning. There will be sections of the video report which will not be covered in class and students will be expected to study these themselves outside class by borrowing copies of the tapes from the L. L. office. In the final class on each video report, students will be given a test. At no stage will a script be given out.

履修上の留意点

There will be no retests.

成績評価の方法

Grades will be based on effort in class and on an average of all the test results over the year. Attendance will be assessed as part of the effort grade.

教 科 書

All materials will be provided by the instructor.

科目名	担当者名	配当学年	単 位
Intensive English Ⅲ	Maksimuk, M. W. (マクサマック, M. W.)	短英 1 必	2

4月の開講時に詳しいシラバス(授業計画)を配布します。

科目名	担当者名	配当学年	単 位
Intensive English IV	Keyes, Peter (キーズ, ピーター)	短英 1 必	2

講義のねらい

To have the students speaking in English from the beginning of the course and to concentrate on subject matter that is of interest to the student. To put them on the road to greater fluency and to increase their listening skills.

講義の内容・
授業スケジュール

Short conversations using authentic language in a wide range of situations and settings will be expanded upon and listening exercises will also be used. There will be a lot of group and pairs work with the students acting as teacher from time to time. The instructor will also develop blackboard stories so that the student can start to learn how to tell stories in English even though they are beginners.

The lessons will cover everyday functions such as offering and accepting food, greetings, talking about the past and future, talking about oneself, family and friends, agreeing and disagreeing. The main text covers seven skill areas.

These are communications, business, socializing, travel, hotels, money, and food and drink. Each of those themes will be expanded upon by the teacher.

履修上の留意点

Homework will consist in preparing a journal of activities and in preparation reviewing what has been learnt

成績評価の方法

The students will be graded throughout the year for classroom effort and will be required to keep a journal in English. This will also be graded. Marks will also be given for high attendance.

教 科 書

Text ; 'Basic Survival'
Authors ; Peter Viney
Publisher ; Heinemann
Supplimentary Material will be handed out by the teacher.

参 考 書 等

'Survival English'
An A4 size journal and note pad (There is no need to bring these at the first lesson. The teacher will explain in more detail in class).
An English Japanese dictionary.

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
Intensive English IV	Maksimuk, M. W. (マクサマック, M. W.)	短 英 1 必	2

4月の開講時に詳しいシラバス(授業計画)を配布します。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
Intensive English IV	O'Dea, Jeff (オデー, J.)	短 英 1 必	2

講義のねらい

To develop communicative language skills. Focussing on speaking :
In particular... Eye contact... Expression... Voice Projection... Gestures... Fluency
and listening.

講義の内容・
授業スケジュール

Students taking this class will be expected to participate fully in all class activities.
class activities will be approximately : 60% pairwork
30% listening
10% small group work

履修上の留意点

Students may be absent for 2 classes at no penalty. After this, each time the student
is absent, their end of year score will be reduced by 2%. For example, if a student
is absent from 6 lessons, they will lose 8%. (Exceptions may be made in the case of
serious illness or injury)

成績評価の方法

(i) Presentations Total Value 60%
Working in pairs, students will be evaluated on their presentation of a dialogue in
front of the class. Evaluation will occur on 4 separate occasions during the year.
Twice in term one and twice in term two. Dialogues will be based on the language
studied in class. Students will have time to prepare their presentations in class.
Students will be given a score out of fifteen for each presentation. The score will be
based on how well they demonstrate the following five basic skills (1)Eye contact...
(2) Expression... (3)Projection of Voice... (4)Gestures... (5)Fluency. These five skills
will be the main focus of most lessons through-out the year, so students will have
plenty of opportunity to work on and improve these skills.
During the presentation, each skill will be scored using the following point system
3 =GOOD 2 =SATISFACTORY 1 =POOR 0 =NOT DEMONSTRATED
The highest possible score being 15
(ii) Listening Quizzes Total Value 40%
Again on four separate occasions students will be given listening quizzes based on the
language covered in class. Two quizzes in term one and two quizzes in term two. Each
quiz will be worth 10%

教 科 書

Text not yet decided. Will advise later.

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
英 文 学 史	たき 滝 せい 静 じゅ 寿	短 英 2 必	4

講義のねらい

歴史を背景に、イギリス文学の流れを、その時代の代表的な作品、作家を取り上げながら概観する。講義形式であるので、ノートをとって貰う。

講義の内容・
授業スケジュール

- (4月) イギリス文学史の年間講義の概略の説明、イギリスについての基礎知識、アングロ・サクソン時代までの簡単な歴史。
- (5月) 古英語時代の詩歌等『ベイウルフ』を中心に。ノーマン・コンクエストによる言語・文化の変遷。
- (6月) 16世紀までの歴史。中英語の文学チョウサー、ラングランドを中心に。ギリシャ・ローマ演劇について。
- (7月) 17世紀までの歴史、中世のイギリス演劇。ヒューマニズムについて。
- (9月) エリザベス朝の文学と演劇、特にシェイクスピアを中心に。
- (10月) 18世紀までの歴史、・ビュウリタニズムについて、特にミルトン、バンヤンを中心に。王政復古について。
- (11月) 19世紀までの歴史。ポープ等について。散文の登場、ジャーナリズムの発展、サムエル・ジョンソン等を中心に。
- (12月) ヴィクトリア朝の歴史と文芸。
- (1月) イギリス文学史の総まとめ。

履修上の留意点

出欠はとらない代わりに、前期、後期のレポートを提出し、それが出席率になる。未提出（期日まで）者は単位修得はできない。

成績評価の方法

学年末のペーパーのテストが主で、前後期各1回提出のレポートを参考に評価する。

教 科 書

特に教科書は使用しない。

参 考 書 等

教場で説明。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
Intensive English V	郷 司 正 彦 ごう し まさ ひこ	短 英 2 必	2

講義のねらい

The aim of this course is to acquire some useful skills in taking the TOEIC. While the TOEFL is for those who plan to study in the U. S. and Canada, the TOEIC is designed to measure the English-language listening comprehension and reading skills of non-native English speakers who, in the future, plan to work abroad. Many companies in Japan require their employees to take the test to assess their receptive skills in English. The general register of the TOEIC is real-life, business-type English.

In the course the students will take several sample examinations and be encouraged to analyze their own shortcomings, and plan their own studies. Discussing with the instructor, the students will set their own goal (test scores for the listening part and reading part).

講義の内容・授業スケジュール

Grammar and reading comprehension will be mainly taught in the first semester. In the second semester, Listening will be focused on in the class.

履修上の留意点

The main purpose of the course is for an individual student to learn to become an autonomous learner in English, so she should be responsible for her own study.

成績評価の方法

Attendance as well as class participation are most important. The students will be evaluated based on class work and test scores.

教 科 書

To be announced in the first lesson in April.

そ の 他

The lesson will be held in the LL Classroom.

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
Intensive English V	Dendo, Gary (デンドウ, ゲーリー)	短 英 2 必	2

講義のねらい

The purpose of this course is to familiarize students with the TOEIC test and improve their test scores.

講義の内容・授業スケジュール

Students will be taught strategies for taking the TOEIC test and will complete practice exercises and drills during each class. Recognizing why mistakes were made will be an important function of these tasks. The TOEIC test will be given in class at the beginning and end of the first semester, and at the end of the second semester. Students will be expected to show improvement on their test scores as the academic year progresses.

履修上の留意点

When a student is absent from class, it is her responsibility to get the assignment from the teacher or a classmate and complete it by the next class. Failure to do so will result in poor class performance.

成績評価の方法

Final grades will be calculated by the following formula:

$$\frac{(100-5x)+y+z+A}{3}$$

x=Number of absences, two late arrivals will equal one absence

y=TOEIC test scores

z=Homework and quiz average

A=Adjustment based on teacher evaluation of effort and improvement

教 科 書

Building Skills for the TOEIC Test. Gina Richardson and Michele Peters, Longman, ¥2,390

そ の 他

Students are encouraged to talk to the teacher if they have any problems concerning the class.

科目名	担当者名	配当学年	単位
Intensive English VI	Ashwell, Tim (アシュウェル, タイム)	短英 2 必	2

講義のねらい

In this course, students will be encouraged to write extensively in English in order to develop greater fluency and greater belief in using English as a means of communication and as a way to express oneself.

講義の内容・授業スケジュール

Each week students will be given a target number of pages to complete in their diaries and some class time may be set aside for diary writing. Students will also work from the textbook in class to build up basic skills. Assignments which require students to draft and redraft will be set for homework.

履修上の留意点

Students are expected to excuse themselves for any absences and will be penalised in their final grades for unexcused absences or lateness. Deadlines for assignments must be met.

成績評価の方法

Grades will be based on: i) diaries; ii) assignments; iii) effort shown in class; iv) attendance.

教科書

"Significant Scribbles", Lingual House.

参考書等

特になし

その他

Students should buy a floppy disc onto which they can type their assignments.

科目名	担当者名	配当学年	単位
Intensive English VI	Elwood, M. K. (エルウッド, M. K.)	短英 2 必	2

講義のねらい

The course will teach students to express themselves in written English. Emphasis will be placed on the elements and tools of English necessary to organize relevant ideas, support those ideas with evidence or examples, and connect them to produce coherent, well-organized sentences, paragraphs, and essays.

講義の内容・授業スケジュール

The primary focus will be on mastering the basic structures and forms used in written English. A variety of styles will be attempted such as expository description, biographical narrative, letters, reviews, and fiction.

成績評価の方法

There will be a short writing related to the points covered in class. In addition, students will keep a journal which will be handed in monthly. Grades will be based on class participation and homework.

教科書

Words in Motion: An Interactive Approach to Writing, by David Olsher (Oxford University Press), ISBN no. 4344525, ¥2,300

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
Intensive English VI	Dendo, Gary (デンドウ, ゲーリー)	短 英 2 必	2

講義のねらい

This course will concentrate on improving the English writing skills of students through the application of various structured and free-writing exercises. Students will complete a consistent format of writing activities during the academic year.

講義の内容・
授業スケジュール

Every week students will complete a short guided writing exercise reviewing grammar and sentence structure. (Approximately 30 minutes)

Assignments and exercises during the course will include the following:

- Diary Writing
- Dictation Practice
- Creative Writing
- Story Writing
- Current Event Report
- Descriptive Compositions

履修上の留意点

When a student is absent from class, it is her responsibility to get the assignment from the teacher or a classmate and complete it by the next class.

成績評価の方法

Final grades will be calculated by the following formula:

$$\frac{(100-5X) + y + A}{2}$$

x = Number of absences

y = Average of class assignments

A = Adjustment based on teacher evaluation

教 科 書

No text will be used.

参 考 書 等

Handouts from various sources will be provided for the students.

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
Group Discussion	郷 司 正 彦 ごう し まさ ひこ	短 英 2 必	2

講義のねらい

This course aims to improve students' ability to discuss their ideas in English. Students will from groups or pairs to talk about various topics such as about local affairs, environmental problems, health, cultural differences, and so on. Students will be required to read related reading materials before each class.

講義の内容・
授業スケジュール

1st Semester. Give personal opinions about current events.
2nd Semester. Talk about global issues.

履修上の留意点

Active participation is the most important element in this course. Students should broaden their interests and knowledge by reading books, newspapers and magazine, and by watching TV news.

成績評価の方法

Evaluation will be based on attendance, class participation, and homework assignments.

教 科 書

Students will not be required to buy a textbook.

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
Group Discussion	Wallace, George (ウォレス, ジョージ)	短 英 2 必	2

講義のねらい

The primary aim of this course is to get students into the habit of discussing topics of conversation in natural everyday English.

 講義の内容・
授業スケジュール

Before students can begin to discuss anything in English, two areas must be worked on intensively the first is their vocabulary as without a sufficient active vocabulary to draw upon, their attempts at discussion will founder. The second is their confidence, as without this vital ingredient even the most studious and able student will feel unable to converse freely in English.

Each week a topic of discussion will be presented to the class by the teacher. At the start of the academic year, the topics will tend to be quite simple (e.g., Describe someone you know), but as the year progresses, the topics will become more demanding.

After the topic to be discussed has been explained, students will work in groups of four, sounding each other out for ideas and vocabulary, with one of the four acting as "secretary" writing down the group's thoughts.

Groups will then appoint a spokesperson (someone different from the secretary) who will report to the class on what each group came up with. The teacher will coordinate this group reporting, writing down on the black-board words, phrases and ideas that each group thought of. By pooling the various groups' information, the class will learn not from reference to dictionaries, but by relying on themselves and their classmates. In doing so they will gain in confidence as they soon realize how big their passive vocabulary is, and see how thinking around a subject can lead to a more interesting approach to studying English than rote learning and translation.

履修上の留意点

As much of the class work will be done in small groups, it is essential that all students actively participate, without relying on their classmates to cover for them. The teacher will closely monitor all group discussions to check that all members are doing their utmost to contribute to the group's brainstorming and discussion sessions.

成績評価の方法

By the very nature of this class, there will be minimal written work to be assessed. Grades will be dependent on (i) the individual student's attendance record, (ii) their level of participation in the group's discussion, (iii) their overall contribution to the class (e.g., asking questions when something is not clear, answering promptly and in English when asked a question by the teacher.)

教 科 書

There will be no set text to be used in this class. The teacher will provide photocopied materials as and when required.

参 考 書 等

Students should all bring a pocket dictionary to class each week (either a bilingual one or preferably an English-English dictionary by Longman or Oxford University Press).

そ の 他

Points students should be under no illusions about!
Any student absent from class without a good reason (and without proof that their reason is valid) on more than three occasions will automatically fail the class for the whole year.

Two late arrivals for class will be assessed as one absence. Arriving late for class more than half a dozen times in the year will guarantee a student a "fail" grade.

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
Group Discussion	Dendo, Gary (デンドウ, ゲーリー)	短英 2 必	2

講義のねらい

This course will concentrate on developing the oral skills of students through discussion.

講義の内容・授業スケジュール

Students will participate in discussions focusing on current events, controversial issues, and personal interests. Special emphasis will be put on the study of news and current events throughout the academic year. Students will study relevant vocabulary to assist in comprehension and discussion of class materials. Sources for class materials will include various textbooks, magazine and newspaper articles, as well as units developed by the teacher.

Details of class activities will be explained at the first class meeting.

履修上の留意点

Regular attendance and active participation are absolutely necessary. Students will be expected to keep themselves informed of news and current events as well as review materials on a regular basis.

成績評価の方法

Grades will be based on daily class performance and attendance.

教 科 書

No text will be used. Bringing dictionaries to class is highly recommended.

参 考 書 等

Various types of handouts will be used to facilitate discussion.

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
Group Discussion	Macphee, N. P. (マクフィー, N.P.)	短英 2 必	2

講義のねらい

This course aims to develop Love of English through Friendly discussions amongst fellow students.

講義の内容・授業スケジュール

Topics for discussion will be chosen by the students. There will be homework every week and students must prepare material for the talks.

履修上の留意点

2 Late arrivals count as one absence. Attendance, discussion materials and participation count towards end of year grades.

成績評価の方法

End of year grade: attendance materials, participation and an end of year spoken exam each count 25%

教 科 書

A dictionary is required every class.

参 考 書 等

Materials will be produced by the students.

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
Reading Comprehension	ごう し まさ ひこ 郷 司 正 彦	短 英 2 必	2

講義のねらい

This is a second-year reading class, a continuation of Intensive English II. Students will further improve their reading skills and comprehension ability. Original English texts will be used as reading materials in this course. The course will cover various types of writing including short stories, newspaper articles, and magazine articles.

講義の内容・
授業スケジュール

1st Semester. Reading for information
2nd Semester. Reading for meaning

履修上の留意点

Students will need to increase their reading speed in order to improve their comprehension. Therefore they will be required to read a substantial amount of reading materials.

成績評価の方法

Evaluation will be based on attendance, class participation, and homework assignments, and test scores.

教 科 書

To be announced in the first lesson in April. Handouts will also be distributed by the teacher.

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
Reading Comprehension	Wallace, George (ウォレス, ジョージ)	短 英 2 必	2

講義のねらい

The aim of this course is to develop students' reading ability in English. Students will learn (i) how to skim (speed-read) to assess what the subject/theme of a text/passage is, (ii) how to find keywords in a text, (iii) how to use context to guess the meanings of words they do not know.

講義の内容・
授業スケジュール

Every fortnight the teacher will provide the class with a passage of English taken from a newspaper or a magazine (whose target audience is principally native speakers of English). In pairs the students will read through the passage underlining any words or phrases they do not understand. Then they will team up with other groups to see which words' meanings can be found without recourse to a dictionary. By pooling their knowledge, the students not only save time and effort, they also take a more active interest in the class.

After pooling their knowledge, however, the students will still be faced with some words they do not know. The next stage of the learning process is to get the students to guess the meaning of the words they don't know without using a dictionary. In their groups students will be encouraged to guess the meaning of unfamiliar words from a careful study of the context in which they appear. Groups will appoint a spokesperson who will then report to the class as a whole what their guesses were.

The teacher will then explain (in English) what the meanings of difficult words are, showing how the words can be expressed in more basic English where appropriate (e.g. It is elementary = It is very simple).

The students will then have a chance to ask for explanation/help on any points of grammar, etc. which trouble them.

Students will be expected to learn the words that are new to them for their homework, and to read through the passage taking in the most important information (e.g., if the passage is about the peace negotiations in Bosnia, the students will be expected to know where Bosnia is and why it was at war).

To ensure that students do their homework, there will be a test every other week. One part of the test will be on vocabulary and usage, the other on comprehension (of the text studied the week before).

履修上の留意点

As much of the class work will be done in small groups, it is essential that all students actively participate. Relying on one's classmates to do all the work for you will not be acceptable, and anyone seen to be idling/not concentrating on the work under discussion will be marked down (this will be reflected in their end-of-year grade).

成績評価の方法

End-of-year grades will be based on the following criteria: (i) attendance record (ii) level of participation in classroom activities (iii) aggregate score in the fortnightly tests.

教科書

The teacher will provide photocopied materials every fortnight.

参考書等

Students should always bring a pocket dictionary to class (preferably one by Longman or Oxford University Press, with the meanings of words explained wholly in English).

その他

Any student who is absent more than three times without good reason (and proof of that reason) will automatically fail this class.
Two late arrivals=One absence. Be warned!

科目名	担当者名	配当学年	単位
Reading Comprehension	O'Dea, Jeff (オデー, J)	短英 2 必	2

講義のねらい

To develop reading comprehension by reading and discussing articles. Students should be prepared to participate actively and fully in class discussions, activities and presentations.

講義の内容・授業スケジュール

Students will be expected to...

- # Read and also do written work at home in preparation for class.
- # participate in class discussions and small group discussions
- # Ask questions to the teacher and to their classmates about the reading topics
- # Share their opinions and views about what they have read and studied with the teacher and other students in the class
- # Write about what they have read and discussed

成績評価の方法

Students will be evaluated by

- a) Short reading comprehension tests : (60% of final grade) :
Grade will be based on average of test scores.
Tests will be given at regular periods throughout the course.
- b) A readers journal : (40% of final grade)
Students will write about different topics they have studied.
Journals will be evaluated on content and structure.
Grade will be based on average of journal scores
- c) Students may be absent for 2 classes at no penalty. After this, each time the student is absent, their end of year score will be reduced by 2%. For example, if a student is absent from 6 lessons, they will lose 8%.
(Exceptions may be made in the case of serious illness or injury)

教科書

Not yet decided

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
Reading Comprehension	Griffiths, J. (グリフィス, J)	短 英 2 必	2

講義のねらい

The principal aim of this course will be to improve the ability of the students to read and understand a variety of materials in modern English.

講義の内容・
授業スケジュール

Each class will cover printed materials on different topics in the news, modern films and entertainment, or directly from the Internet. Copies of the reading materials will be distributed regularly throughout the year. During class, each student will be expected to read both silently and aloud, and also participate in class discussions. Periodic quizzes will be given to check on comprehension and retention. During the second semester, every student will be expected to complete an individual reading assignment and present a short report on a topic of their choice approved by the instructor.

履修上の留意点

Regular attendance, completion of all assignments, and enthusiastic participation in classroom activities will be required to complete the course.

成績評価の方法

Attendance and class participation will count for 50% of the final grade. The individual reading assignment, short report and quiz scores will count for the other 50%. Every three unexcused absences will automatically lower the final grade ten full points. Every two times a student is late for class, it will count as one absence.

教 科 書

To be determined.

そ の 他

Any questions or problems a student has concerning the class should be discussed directly with the instructor.

《選択科目》【一類・二類共通】

科目名	担当者名	配当学年	単位
情報処理 I	湯浅陽子	短英1選	2

講義のねらい

パソコンやワープロなどの情報機器が広く普及し、子どもたちからお年寄りまで身近なものとなっているが、これらの機器を使いこなすには、まず、基本として keyboard の正確で速い操作方法である“Touch Typing”（タッチタイピング技能＝ブラインドタッチ：手元を見ないで打つ技能）を身につける必要がある。

Keyboard はさまざまな情報機器に共通する入力装置なので、Alphabet による Touch Typing 技能を身につけると、Personal Computer や Word Processor, Typewriter などいろいろな機器を正確に速く操作することが可能になる。マルチメディア社会を迎え、これら情報機器を操作することが必要になればなるほど、Touch Typing 技能を身につけることは必須条件になってくる。

本講義では、Touch Typing 技能を習得することを第一目的とし、テキストにそって様々な機能を学びながら同時に最新のアプリケーションソフトを使用して多種類の基礎的なビジネス文書を作成することを通して、実社会ですぐに役立つ技能を身につけることを目的とする。

講義の内容・授業スケジュール

- 4～5月 キーボーディング（ブラインドタッチ習得練習）
 6～7月 OS 基本操作練習および英文ビジネス文書の作成（英文ビジネス文書検定試験対応）
 前期入力レベルテスト*
 9～11月 日本語ビジネス文書の作成（ビジネス文書技能検定試験対応）
 後期入力レベルテスト*
 11～12月 表計算ソフトを使った表およびグラフの作成

*前期と後期の授業時に日本商工会議所主催の「キーボード操作技能認定試験」（キータッチ2000テスト）を実施する。この認定試験は、試験時間の10分間に入力できた文字数を商工会議所が Touch Typing 技能として証明するもので、申請者には「タッチタイピング技能認定証」が交付される。商工会議所への認定証発行申請の手続きは試験日の一カ月前に一定のレベルに達した希望者のみ行う。（有料1,020円）

履修上の留意点

授業開始時刻から10分間にその日の作業の準備と実習上の注意事項を伝える。その後の個別の質問は受けるが、全体の説明は一度だけにとどめるので、むやみなおしゃべりや遅刻を厳禁する。

また、一番重要な点であるが、自分の前の週の欠席などによる遅れた分は、各自の責任において友人に聞くなどして取り戻しておいてもらいたい。教員はその事に関して責任を持たない。データを入力したフロッピーディスクを忘れた場合も同様である。事前に何とかすべき問題である。なお、2週連続の無断欠席は授業放棄したものとみなす。

ブラインドタッチ習得の早さは個人差があるが一種の運動神経の訓練であるから、ある程度の時間数を要する。できるだけ早く確実に習得するため、一定期間集中して練習に励まなければならない。毎日2時間の練習時間が確保できれば2週間で完全に習得できるものが、1週間に1度の練習では2～3ヶ月もかかってしまう位の差が出る。そのため、4号館の情報教育センター使用登録申請（有料1,000円）をした上で、自習室を利用して、毎日最低30分練習することをすすめる。一年間を通じて、授業中のやり残した課題作成やキータッチ2000テストの練習に利用したり、当科目だけでなく他の科目での提出物作成にも活用できて便利である。

成績評価の方法

実習科目であるから出席を重視する。また年に2回実施する入力レベルテスト「キーボード操作技能認定試験」結果も重要なポイントになる。この他、指示に従って作成した提出物の良否、授業の理解度、機器操作習熟度、授業への参加度・熱心さなどによって総合評価を行う。なお、課題をやってこなかったり、フロッピーディスク、テキスト等の必需品を忘れたまま授業に臨んだ場合は減点の対象となる。コピーをするなどして準備してほしい。

最終的にブラインドタッチが習得できていない人、または10分間の入力文字数が750字未満の人には単位を認めない。

教科書

- ①フロッピーディスク：ブラインドタッチ習得のためのフロッピーディスク Type Quick（2,625円）とキータッチ2000テストに使用するフロッピーディスク（1,530円）を購入してもらう。また、これとは別にアプリケーションソフトを使用するようになってから、データ保存に年間を通じ1～2枚のフロッピーディスク（2HD3.5インチ）を必要とする。
 ②テキスト：早稲田教育出版編集部『Windows95版パソコンソフト基本教本』－Microsoft Word 編、Excel 編、OS 編－各1050円

参考書等

使用するアプリケーションソフトに即した本を選ぶと良い：（英和ワープロソフト：Word97、表計算ソフト：Excel97）

その他

4号館の電子計算機室のDOS-V教場を使用して実習を進める。場合によっては人数制限を行うこともある。第1回目の授業時に履修を許可された者には、担当者印を押した受講許可証を発行する。本講義は同じものが6コマある。便宜上その時間に配当された学生番号の者を優先するが、希望する時間の抽選にのまれても、他のコマで履修できる可能性もある。いずれにしても各コマの第1回目の授業に出席しないと抽選の権利がなくなるので注意すること。必ず本人の出席とする。

科目名	担当者名	配当学年	単 位
Advanced English I A	Ashwell, Tim (アッシュウェル, ティム)	短英 1 選	2

講義のねらい

In this class students will be encouraged to speak as much as possible and to develop their ability to interact in English.

講義の内容・
授業スケジュール

Activities in class will include whole class and group discussions both student and teacher led, role – plays, mini – dramas, and oral presentations. Students will be helped to develop their ability to question quickly and effectively, to negotiate meaning, to play for time and to deal with uncertainty by using paraphrase, for example.

履修上の留意点

A high degree of responsibility for their own learning and a high level of motivation is anticipated from students taking this course.

成績評価の方法

Grades will be based on:
i) participation and effort in class;
ii) attendance;
iii) self – assessment.

教 科 書

No textbook will be used.

参 考 書 等

特になし

そ の 他

特になし

科目名	担当者名	配当学年	単 位
Advanced English I B	Ashwell, Tim (アッシュウェル, ティム)	短英 1 選	2

Please refer to the description for Advanced English I A.

科目名	担当者名	配当学年	単位
時事英語	おかもと 岡本 誠	短英1・2選	4

講義のねらい

「時事英語」なる英語があるわけではない。英語でいえば“Current English”ということになり、古典的文学作品でお目にかかるような構成や文体のものでは決していない。

小説やドラマには起承転結というか、順を追ってプロットが展開され、終わりに近くなってクライマックスに達する。時事英語で接する英語は、これとは逆に、最初に話の内容を全部さらけ出し、最も重要な点から説明していく。この最初の部分を lead といい、重要な「いつ・どこで・だれが・なにを」といった点が全部含まれることになる。

かくして、内容の構成や文体の点で新聞・雑誌・放送といった媒体で接する英語についてはそれなりの認識が必要となる。本講義ではそういった分野の英語にふれることをねらいとする。

講義の内容・授業スケジュール

その日の朝のアメリカからの短波放送のニュースを聞き、そのニュースキャスターの原稿を作ってみる。英字新聞も併用するが、TIME、NEWSWEEK なども折りにふれて利用する。受講する諸君はこの分野の語法である journalese に親しみ、新聞英語ぐらいは読み慣れるようにしてほしい。

履修上の留意点

世界の政治、経済の動きに注意をはらってほしい。(新聞はTV欄しか見ないというような人は来ないこと。)それが社会の事象に対して問題意識をもつことに通ずる。こういう態度は就職のときに重要である。

成績評価の方法

期末試験。受講中の発表。出席情況。
数回にわたる小テスト

教科書

特定の教科書等は利用しない。

参考書等

『時事英語講座』(研究社)

科目名	担当者名	配当学年	単位
戯曲研究	くまざき ひさこ 熊崎久子	短英1・2選	4

講義のねらい

シェイクスピアの「夏の夜の夢」を読みます。
 没後400年余を経てもなおシェイクスピアは世界中で最も愛されている作家と言っても過言ではありません。我が国においても内外の劇団によって、年間に上演されるシェイクスピアの作品は相当の数にのぼり、しかもいずれの場合にも満席の観客を動員している。原作を読みその魅力を味わいます。
 この作品はシェイクスピアの一連のロマンティック・コメディの中の傑作であり、人生の喜びや青春の輝きに満ちています。妖精の出没する森を背景に、妖精、アテネの貴族、職人たちが繰り広げる、真に「夏の夜の夢」そのままのファンタジイの世界を堪能し、また芝居の面白さを十分に楽しみたいと思います。

講義の内容・授業スケジュール

- 第一週 'Syllabus'に基づいて、科目に関し、内容、年間の予定、目標等々について説明をし、質疑を受けます。
 第二週 シェイクスピアについて
 第三週 シェイクスピアの作品全般について
 以降は ①テキストの講読
 ②研究発表と発表を巡ってのディスカッション
 ③発表に対する補足を行います
- ①年間を通し、James Kirkupの解説と批評（「真夏の夜の夢」朝日出版社）に基づいて作品へアプローチします。その中で言及され、指摘されている名句、名場面は原文（"A Midsummer Night's Dream" 研究社）によって味わいます。
 ②履修者が確定した段階で個人或はグループによる研究発表の要領を決め、逐次発表してもらうこととなります。研究のテーマ、発表の日時については追って発表します。
 ③発表に対し、質疑応答を行います。
 ④担当者が補足します。
 ⑤ビデオ・テープを用いてBBC放送収録の映画"A Midsummer Night's Dream"を観賞します。（前期-前半、後期-後半）

履修上の留意点

シェイクスピアの戯曲は韻文で書かれており、現代の散文で書かれたものに比べ難解な箇所も多々あります。テキストの注、或は訳本等を参照して、十分に予習をすることが不可欠となります。発表に備えてあらかじめ個別に指導します。予約をし研究室において打ち合わせを行います。必要な参考書についてはその都度紹介、指示します。参考書は非常に多く、皆さんの必要に応じたものを取り敢えず指示することになります。

成績評価の方法

1. 研究発表の評価（発表の態度、内容等） ……50%
2. 発表原稿の提出 ……20%
3. 平常の評価 ……30%

教科書

- ① "A Midsummer Night's Dream" (James Kirkup 著 朝日出版社)
- ② "A Midsummer Night's Dream" (研究社小英文叢書)

科目名	担当者名	配当学年	単位
英語演習Ⅰ [ディクテーション]	おかもと 岡本 誠	短英1・2選	4

講義のねらい

慣用句の働きは大きい。気の利いた話ができることになる。それこそ、「オッ、お主^{オシ}なかなかできるな」と相手に思われる。しかし、そう思ってくれる英語圏の人も、どうい^いきさつでそのような慣用句が成立したかまでは知っていない。

例えば、「近所の人と生活振りを張りあ^あう、あるいは世間に遅れをとらないようにする」ということを“to keep up with the Joneses”と言う。どうしてこういう句ができたのであろうか。また、もともとは人物の名前であったのだが“maverick”は現在「一匹狼」の意味で用いられている。どうしてだろう。以上二つの例ともにちゃんと辞書には出ている。

この講義では、このような慣用的な表現が言語生活に入ってきた背景をディクテーションの手法で理解しようとするものである。聴いて、それを正確に書き上げるという作業は、その人の英語の実力をずばりと表す。TOEFL500点以上を達成したいむきは来たれ。

講義の内容・授業スケジュール

前期はスピードの比較的にゆっくりしたもの、後期はやや速いものを聴くようにこころがける。

履修上の留意点

遅刻して物音をたてながら入ってくるは迷惑至極であることを理解してほしい。ケイタイの類を鳴らしたら退席。

成績評価の方法

発表情況。出席情況（遅刻情況も）。宿題。定期的に小テストを行う。

教科書

テープ使用につき、教科書の類はつかわない。

科目名	担当者名	配当学年	単位
英語演習Ⅱ [シャーロック・ホームズ]	たきせいじゅ 滝 静 寿	短英1・2選	4

講義のねらい

推理小説の古典『シャーロック・ホームズ』ものの中から前後期各々1篇を、受講者の希望を考慮して選び、輪読し、推理しながら当時のロンドンの風俗やイギリス人気質など研究する。

講義の内容・授業スケジュール

輪読しながら、ロンドンを中心に地図をもとにしながら、推理過程における町や鉄道の様子、生活状況を研究していく。2、3篇の作品をビデオ鑑賞する予定。

履修上の留意点

必ず予習し、時間中は積極的に意見や考えを述べることを義務づける。一年間のうちに他の全作品を日本語訳で必ず読んで貰う。

成績評価の方法

輪読を進めていく過程での平常点、出席率、学年末のペーパー・テスト等による総合評価。

科目名	担当者名	配当学年	単位
英語演習Ⅲ 〔口語英語の基礎訓練〕	うめ はら とし ひろ 梅 原 敏 弘	短英1・2選	4

講義のねらい

英語で自分の意志を表現するための基礎力の養成を目指す。具体的にはまず第一に基本的な英語表現をセンテンス単位で完全に覚え込み、それを使いこなせるようにする。第二にはテープを反復練習することによって英語の音声に慣れ、基礎的な英語聴解力を養うと同時に、英語の音声・特にリズムの基礎を修得する。

講義の内容・
授業スケジュール

受講者はあらかじめ家でテープに録音された英語のセンテンスを聴き、それをノートに書き写しておく。毎回15センテンス程度。そして教室でその結果をコンピューターに入力し、教師から正答を聞き、聞き取れなかった単語を補い、また誤って聞き取ってしまった単語を訂正する。その際各々の表現の語法上の注意点及び聞き取れなかった箇所の音声上の問題点につき説明をうける。次いで各々の表現を使った簡単な英問英答または口頭英作文の練習をおこなう。その後でテープを使って各々のセンテンスの反復練習をおこなうが、限られた授業時間では反復練習は十分におこなうことが出来ないため、家で十分に反復練習することが求められる。

毎回、授業は前回の授業で習った文を完全に覚え込んでいるかどうかを確認することから始まる。この際、テープの後についてよどみなく且つ正しい英語のリズムで英文を言うことが出来るかどうかには注意が払われる。その後で新しい課の練習に入る。

履修上の留意点

授業の性格上またコンピューターを使用する関係上、多人数の授業は無理なので、受講希望者が多数の場合は、小テストを実施して受講者を決定する。従って、受講希望者は必ず第1回目の授業に出席すること。

成績評価の方法

毎回授業の最初におこなうテープを使った再現練習の出来具合、前期・後期の終了時におこなう試験の結果及び出席を総合的に勘案して成績評価をする。

教科書

録音教材としてENGLISH 900 BOOK 3とBOOK 4を使う。テキストは使わない。

参考書等

東後勝明 『英会話のリズムとイントネーション』（金星堂）

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
英 語 演 習 IV 〔リスニング〕	おかもと まこと 岡 本 誠	短英1・2選	4

講義のねらい

英語が話せるようになりたいと願う人は多い。しかし、いきなり話せるようになることは絶対
にない。聴く力が備わることが前提になっている。つまり listening comprehension の力なく
して話せるようにはならない。これは真理である。この講義はリスニングの力をつけて、発話能
力をさらに高めようというねらいである。

講義の内容・
授業スケジュール

- 聴く対象になる話題はアメリカに関するおもしろそうなものを用意している。
- ・アメリカへの移民の歴史
 - ・入植者と先住民の対立
 - ・黒人の苦勞
 - ・アメリカ大統領選挙のしくみ
 - ・アメリカの大学への留学心得
 - ・Country music とは
 - ・Fast food の文化と健康の問題
 - ・Walt Disney とその事業
 - etc.

履修上の留意点

こういった話題のテープをダビングし、まず自分で下見ならぬ下聴きをし、授業に臨む。放
送のスピードはややゆっくりめではあるものの、聴いた内容についての英語での質問に英語で答
える。遅刻は物音をたてるので非常に困る。ケイタイを鳴らしたら退席。
内容についての質問は英語でなされ、答えも英語でなされるわけだからこの授業は英語で行な
うということである。

成績評価の方法

発表力。授業への participation。宿題。出欠席。小テスト。

教 科 書

特定の教科書は用いない。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
英 語 演 習 V 〔ボキャビュラリービルディング〕	うめ はら とし ひろ 梅 原 敏 弘	短 英 1・2 選	4

講義のねらい

英文読解の基礎は単語と文法と文脈を読む力にある。文法は高校までの文法がしっかりしていれば日常の読書には殆ど問題はない。文脈を読む力は単語力に左右される。要するに問題は単語である。辞書を引き引き1時間かけて1ページ読むというのでは、実用的な読書にはほど遠い。こうした読書をせざるをえないのは単語を知らないからである。実用的な読書をするためには、単語力の増強が不可欠である。とはいっても、英語の単語の数は膨大であるし、覚えなくてはいけない単語の数は気が遠くなるほど多い。特に読書の際に必要な長音節語は、会話の際頻出する基本語に比べて出現頻度も高くなく、読書をしながら覚えていくにしても、あまり効率よく覚えられない。そこでどうしたら効率よく単語を覚えるかが問題となる。本演習では、効果的単語力増強の一方法として語源を利用することとし、実際に語源を使って語彙を増やしなが、語源を使った単語力増強法を身につけてもらう。また、単語力の増強を図りながら、一言一句細かく英文を読みながら正確に英文を読み取ることを目標とする。

講義の内容・授業スケジュール

新聞や雑誌の記事、ちょっとしたストーリーや逸話など、異なった種類の英文を取り上げ、まずそれらを綿密に読む。その後で、その中で使われている単語の中から語源的に興味ある単語を抽出して、語根、接頭語、接尾語を中心とした語源的観点から当該単語の意味を解説する。次いで同じ語根、接頭語、接尾語を持つ関連語を教師が受講生に提示し、それらの意味・用法を説明する。時には受講生自ら辞書を使い、教師のヒントをもとに関連語を探し出し、簡単な語源的記述をして、教師の用意した例文を読んで、実際に文の中でどのように当該単語が使われるかを観察することもある。

一つの記事もしくはストーリーが終わるごとに小テストをして、扱った単語の記憶を図る。取り上げるストーリーもしくは記事の数は7から8の予定でいる。

履修上の留意点

単語力をつけるためには普段からの努力の積み重ねが必要である。そうした努力を厭わない受講者が望ましい。教材の準備及び演習という授業の性格上、またパソコン教室を使用する関係上受講者を限定せざるをえない。受講希望者多数の場合は小テストをして、受講者を決定する。従って、受講希望者は必ず第1回目の授業に出席すること。

成績評価の方法

授業時間中に頻繁に行う小テスト及び期末ごとの試験の合計点で成績判定をする。

教 科 書

使用しない。ハンドアウトを配る。

参 考 書 等

小川芳男編『ハンディ語源英和辞典』(有精堂)
渡部昇一著『英語の語源』(講談社現代新書)
梅田修著『英語の語源物語』(大修館書店)

科目名	担当者名	配当学年	単 位
英語演習 VI 〔英語表現〕	たかのひでお夫 高野秀夫	短英1・2選	4

講義のねらい

英作文の教科書と英字新聞で英語表現能力を高め、平易な英語で自由に自分の意思を伝えることができるようになることを目指す。

講義の内容・授業スケジュール

前 期

- ① 各授業時間一つのトピックを Natural Speed の英語で読み、書き、聞く練習を重ねる。
- ② 教科書に従って授業計画を立てているので、教科書参照。
- ③ A Short Speech は身近な話題を自分の英語で表現する。

後 期

後期も前期と同じ授業計画。

- ① ヒヤリング・テープの活用
- ② 教科書(英作文)
- ③ 短い英語のスピーチ

履修上の留意点

- ① 出来るだけ Natural Speed の生の英語に慣れ親しむこと。
- ② 一日30分間でよいかから自分の思ったことを英語で書き表してみる。

成績評価の方法

- ① レポート
- ② 前期・後期各1回テスト
 - (a) 英字新聞記事
 - (b) 教科書の英作文
 - (c) 自由英作文
- ③ 平常点

教 科 書

- ① *Unique English Composition* (Vol. I・II)

科目名	担当者名	配当学年	単 位
ジャーナリズム研究	はたとしのとお 旗野寿雄	短英1・2選	4

講義のねらい

ジャーナリズムとは何かについて学習した上で、ニュースや報道のあり方を事例に則して分析する。こうした過程を通して、世界規模の情報社会のなかで情報を正確に取材・報道する人材(マスメディア志望者)、あるいは、情報を自律的に解釈・判断できる人間(読者)を育成する。

講義の内容・授業スケジュール

前期は主としてマスコミ、マスメディア、ニュースなどの基礎知識を習得する。取材から紙面化までの情報の流れも追う。後期は報道と人権、報道倫理といった諸問題を、プライバシーや名誉棄損の裁判例なども参照しながら具体的に考える。第一線の記者、論説委員、アメリカ勤務などの体験を生かし、全期を通して、その都度主要ニュースの解説、分析をするほか、日米ジャーナリズムの比較なども試みる。放送局や新聞社の見学も行う。

履修上の留意点

実際に起こったニュースを中心にしたクラスなので、学生は常にニュースに関心と注意を払い、質問、意見表明などで授業に積極的に参加してほしい。そのためには、毎日、新聞を読むこと。

成績評価の方法

ニュース分析、小論文、簡単なルポ、見学記など年間数本のレポートを提出してもらい、それらを総合して評価する。

教 科 書

使用しない。

参 考 書 等

その都度指示する。

そ の 他

私語厳禁、公語(意見発表)歓迎。

科目名	担当者名	配当学年	単位
西洋古典文学	みず しま よう こ 水 島 陽 子	短英1・2選	4

講義のねらい

二千年をはるかに超える昔、ギリシャに花開いた文化は西洋文化の源流の一端となっており、今もなお多様な形でその消息をたどることができる。文学・哲学・歴史、その他人間のあらゆる文化的営みの原型がギリシャにあると言っても、過言ではないだろう。その、いわゆる「古典期ギリシャ」において人々を捉えてきたテーマは、「人間とは」ということであった。人間とはいかなるものか、また、いかに生くべきものか。

ここでは、多彩に発展した神話をもとに、詩人たちがそれぞれの世界観の中でどのように「人間」を捉えてきたかを追っていききたい。古くはホメロスの『イリアス』『オデュッセイア』から、紀元前5世紀の黄金時代に競演された数々のギリシャ悲劇までを、作品論的に、かつまた現実の時代背景との関連において考察する予定である。

講義の内容・授業スケジュール

前期……神話と詩人
ホメロス『イリアス』『オデュッセイア』
後期……ギリシア悲劇
ソポクレス『オイディプス王』など

履修上の留意点

テキストに必ず目を通しておくこと。叙事詩や劇の形式、また古めかしい表現などにとまどいがあるかもしれないが、決してむずかしすぎることはない。各授業の中で得た知識等について必ずフィードバックし、コメントを書いてもらう予定である。そのことが、次のステップへの学生側からの貢献となることを期待している。

成績評価の方法

筆記試験及びレポート

教科書

ホメロス『イリアス, 上・下』(岩波文庫)
ソポクレス『オイディプス王』(岩波文庫)

科目名	担当者名	配当学年	単位
イギリス文化事情	Macphee, N. P. (マクフィー, N. P)	短英1・2選	4

講義のねらい

This course aims to develop student awareness of Britain and Northern Ireland, and their culture.

講義の内容・授業スケジュール

Each week will focus on a different part of culture. Topics will be decided by everyone on the course.

履修上の留意点

Students are expected to share their reactions and experiences with their partners.

成績評価の方法

End of year grade: attendance and participation each 25%, end of year exam 50%.

教科書

A dictionary is required every class, and one text will be bought by each member of class.

参考書等

Materials will be provided by the instructor. A file will be needed.

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
ア メ リ カ 史	Moe, Richard A (モエ, リチャード A.)	短英1・2選	4

講義のねらい

To provide students with a basic history of the United States of America.

講義の内容・
授業スケジュール

The schedule of lectures will be provided at the beginning of the course.
[Note: Lesson content may vary from the scheduled lesson plan as a result of holidays, class cancellations, the need to spend more or less time on certain subjects, or other similar factors.]

履修上の留意点

Students will be expected to attend class regularly and promptly. Tests will not be announced. Students who are absent on the day of a test will receive a score of zero for that test. Tardy students without valid excuses will not be permitted to take tests and as such, they will also receive a score of zero. As a rule, there will be no make-up tests, however, if a student can prove that she was absent, or tardy, for a legitimate reason, then she may qualify to take a make-up test at the end of the year. Students are advised to take careful notes during the lectures. Outside practice and preparation are essential and often will make the difference between passing and failing. Talking in class will not be tolerated and students who fail to observe this rule will be expelled.

成績評価の方法

Evaluation will be based on attendance, participation, and ability. Final grades will be calculated by the following formula:

$$((100 - 10X - 5Y) + 2Z) / 3 + \alpha = \text{Final Grade}$$

X=number of absences, Y=number of times tardy, Z=average of all grades,

α = adjustment, if necessary, based on Teacher's evaluation.

教 科 書

No assigned textbook.

参 考 書 等

Students will need a notebook and may use dictionaries in class. Students must use pencils when taking tests, however, during class either pens, pencils, or other markers are acceptable.

そ の 他

Students are encouraged to consult with the teacher at any time regarding course content, their performance, or any other matters. Test results and current averages will be posted. Students with low grades are advised to consult with the teacher at an early date in order to discuss ways of improving their performance.

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
アメリカ演劇	くま ぎさ ひさ こ 熊 崎 久 子	短英1・2選	4

講義のねらい

シェイクスピアを頂点とする欧米の演劇は、近年、我が国においても、非常に活発な研究、上演が行われております。特に中小劇団による現代アメリカ劇の上演が目につきます。詩や小説より、やや遅れて開花したアメリカ演劇は、今日、アメリカの抱えるさまざまな社会事象をとらえ、多くの問題劇を提供しております。これを機に新しいアメリカ現代演劇の魅力を探ってみたいと思います。

最初に、アメリカ近代演劇の父と呼ばれ、アメリカ人文学者としてはシンクレア・ルイスに次いで二番目、劇作家としては唯一の、ノーベル賞受賞者となったユージン・オニールの作品を読みます。

次いで、T. ウイリアム、A. ミラー、などオニール後の劇作家の作品を読みます。

講義の内容・
授業スケジュール

- 第一週 'シラバス'に基づいて、科目に関し、内容、年間の予定、目標等々について説明をし、質疑を受けます。
- 第二週以降
 - ①作家・作品について講義
 - ②研究発表と発表を巡っての討論
 - ③発表に対する補足を行います。
- ① 紹介された各作家及びその問題作について、個人、あるいは任意のグループによる研究発表をしてもらうことになります。
- ② 発表に対し、質疑応答を行います。
- ③ 担当者が補足説明をします。
- ④ 機会があれば、作品の観劇もしたいと考えています。

履修上の留意点

戯曲は小説等とは作品形態が全く異なりますので、初めて接する場合は特に注意をして解説等を参照しながらアプローチを試みることを。取り上げた作品は必ず読んでおくこと。(訳本可) 入手し難たい作品もありますが、図書館などを十分に利用すること。参考書については、逐次、必要に応じて紹介します。

成績評価の方法

1. 研究発表の評価(発表の態度、内容など) ……50%
2. 発表原稿の提出 ……20%
3. 平常の評価 ……30%

教科書

取り上げた作品を逐次読んでいくことになります。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
20 世 紀 英 文 学	たかのひでお 高野秀夫	短英1・2選	4

講義のねらい

- ① Natural Speed で英語の聞く能力を高める。
- ② 教科書：現代イギリス小説について
19世紀には、偉大な女流作家が英文学史上に次々に登場した。男性優位のはなはだしい社会の陰で、女性弱者の立場から自らの文学をこつこつ築き上げ、英文学をより一層豊かなものにした。その伝統をしっかり受け継いで現代人の心を魅了している最近女流作家達について考える。さらに、いわゆる20世紀の“意識の流れ”の作家（James Joyce, D. H. Lawrence, Virginia Woolf等）との接点を探りながら、まだ文学的評価の定まっていない最新女流作家の短編を読み、現代英国文学についての理解を深める。

講義の内容・
授業スケジュール

- ① テープの英語
- ② 教科書を逐字訳しながら、内容、文構造の基本理解を図り、現代英国文学の知識を広げる。

履修上の留意点

毎回教科書の逐字訳をするので必ず予習は欠かさないこと。

成績評価の方法

後期 一回テスト、レポート、平常点

教 科 書

Contemporary British Women Writers.

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
同 時 通 訳 I	Moe, Richard A. (モエ, リチャード A.)	短 英 1・2 選	4

講義のねらい

To teach students the basic principles of simultaneous interpreting through basic exercises designed to familiarize them with technique.

講義の内容・
授業スケジュール

This course will be held in the L.L. Students will record tapes of vocabulary, phrases, and expressions to practice in class and at home. In addition to individual practice of tapes, there will also be application exercises that will call upon students to demonstrate their abilities individually and in pairs or small groups. Interpreting exercises will be both from English to Japanese and Japanese to English.

[Note: Lesson content may vary from the scheduled lesson plan as a result of holidays, class cancellations, the need to spend more or less time on certain subjects, or other similar factors.]

前 期

- 4月2週 Explanation of course. Selection of students. Seating assignments. Prepare brief self-introductions in both Japanese and English.
- 3週 Record Lessons Tape. Paired practice.
- 4週 Practice Lesson 1. Paired practice.
- 5月2週 Review Lesson 1. Practice Lesson 2. Paired practice.
- 3週 Review Lessons 1~2. Practice Lesson 3. Paired practice.
- 4週 Review Lessons 1~3. Practice Lesson 4. Paired practice.
- 6月1週 Review Lessons 2~4. Practice Lesson 5. Paired practice.
- 2週 Review Lessons 3~5. Practice Lesson 6. Paired practice.
- 3週 Review Lessons 4~6. Practice Lesson 7. Paired practice.
- 4週 Review Lessons 5~7. Practice Lesson 8. Paired practice.
- 7月1週 Review Lessons 6~8. Practice Lesson 9. Paired practice.
- 2週 Review Lessons 7~9. General review. Paired practice.
- 3週 Test over Lessons 1~9.

後 期

- 9月2週 Review Lessons 1~9. Paired practice.
- 3週 Review Lessons 7~9. Practice Lesson 10. Paired practice.
- 4週 Review Lessons 8~10. Practice Lesson 11. Paired practice.
- 10月1週 Review Lessons 9~11. Practice Lesson 12. Paired practice.
- 2週 Review Lessons 10~12. Practice Lesson 13. Paired practice.
- 3週 Review Lessons 11~13. Practice Lesson 14. Paired practice.
- 4週 Review Lessons 12~14. Practice Lesson 15. Paired practice.
- 11月1週 Review Lessons 13~15. Practice original passages. Paired practice.
- 2週 Review Lessons 14~15. Practice original passages. Paired practice.
- 3週 Review Lessons 15. Practice original passages. Paired practice.
- 4週 Practice original passages. Paired practice.
- 12月1週 Practice original passages. Paired practice.
- 2週 Test over Lessons 1~15.
- 3週 Test over original passages.
- 1月2週 Make-up tests for qualifying students.

履修上の留意点

Only students selected during the first class will be eligible to take this course. Any student who was not selected at the first class or who did not receive permission from the teacher to take the course, but who enrolled in the course anyway will not receive a passing grade. Only students who have been screened by the teacher will be eligible to take this course. Emphasis will be on learning and utilizing basic interpreting techniques. Students will be expected to spend much time outside of class practicing and preparing. Those who fail to prepare properly will find it difficult to do the work and as a result may inevitably fail to complete the course.

This course is not recommended for shy students nor those with marginal oral and aural skills. Students who are absent on the day of a test will receive a score of zero for that test. Tardy students will not be permitted to take tests and as such, they also will receive a score of zero. As a rule, there will be no make-up tests, however, if a student can prove that she was absent, or tardy, for a legitimate reason, then she may qualify to take a make-up test at a later time.

成績評価の方法

Evaluation will be based on attendance, participation, and ability. Final grades will be calculated by the following formula:

$$((100-10X-5Y)+2Z)/3+\alpha = \text{Final Grade}$$

X=number of absences

Y=number of times tardy

Z=average of all grades

α =adjustment, if necessary, based on Teacher's evaluation.

教科書

No assigned textbook.

参考書等

Students should always bring to class at least one blank 60-minute tape. Students may use dictionaries.

その他

Students are encouraged to consult with the teacher at any time regarding course content, their performance, or any other matters.

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
同 時 通 訳 II	Moe, Richard A. (モエ, リチャード A.)	短 英 2 選	4

講義のねらい

To build upon the foundation established in 同時通訳 I.

講義の内容・
授業スケジュール

This course will be held in the LL. The lessons will consist of recorded materials and also actual application of technique in paired practices. There is no established lesson schedule as this will depend upon student performance and be prepared each time accordingly.

履修上の留意点

This course is primarily open to students who successfully completed 同時通訳 I. Other students wishing to take this course will have to be interviewed and tested before they enroll in this course.

成績評価の方法

Evaluation will be based on attendance, participation, and ability. Final grades will be calculated by the following formula:

$$((100 - 10x - 5y) + 2z) / 3 + a = \text{Final Grade}$$

x = number of absences

y = number of times tardy

z = average of all grades

a = adjustment, if necessary, based on Teacher's evaluation.

教 科 書

No assigned textbook.

参 考 書 等

Students should always bring to class at least one blank 60-minute tape. Students may use dictionaries.

そ の 他

Students are encouraged to consult with the teacher at any time regarding course content, their performance, or any other matters.

科目名	担当者名	配当学年	単位
聖書研究	みづしま ようこ 水島陽子	短英1・2選	4

講義のねらい

言うまでもなく、聖書をめきにして西洋文明は語れず、また、日本を含む様々な非キリスト教文化圏においてもその影響による波紋は多大かつ複雑である。永遠のベストセラーと呼ばれるこの書物は、ありとあらゆる言語に翻訳され、人々の信仰を支えると同時に、キリスト教とキリスト教文化を知るための最も有効な手掛りのひとつとなっている。

ここでは日本語訳聖書を実際に読み進めながら、その意味、構造、歴史的背景などを理解し、さらに、英文学をはじめとする数々の文学、音楽、美術などに親しく触れながら、それらの中に聖書との関係を確認していきたい。

講義の内容・授業スケジュール

前期……主として旧約聖書について

(天地創造、アダムとイヴ、ノア、アブラハム、モーセ、ダビデ、ソロモン、詩篇、預言書など)

後期……主として新約聖書について

(福音書とたとえ話、イエスの生涯、パウロ書簡など)

履修上の留意点

いかにベストセラーといえども、聖書を「読む」のは骨が折れる。授業でも紹介するが、いわゆる「聖書物語」を読むことで予備知識をつけておくとうわりやすいであろう。何より望まれるのは授業への積極的な参加である。各授業の中で得た知識等について必ずフィードバックし、意見・感想を述べたりコメントを書いたりしてもらおう予定である。そのことが、次のステップへの学生側からの貢献となることを期待している。

成績評価の方法

筆記試験及びレポート

教科書

『新共同訳聖書』(日本聖書協会編)

科目名	担当者名	配当学年	単位
ビジネスイングリッシュ	まちい やすし 町井靖	短英1・2選	4

講義のねらい

「商品の輸出入に関する英文の手紙」を学習する。テキスト『ビジネス英語』に従って、取引先の発見からカタログの送付、オファ、見積り、交渉、注文、船積み、クレームなど、貿易取引の各段階でよく使用される表現を学ぶ。実際の輸出入業務では英文の手紙を書く必要があるため、英作文演習には力を入れたい。

講義の内容・授業スケジュール

テキストは貿易取引の各段階で良く使用される表現を英文解釈で学び、それらの重要表現を使用して英作文をするようになっている。英作文は授業中に1題やり、数題が宿題となるが英文解釈、[研究]、[注]を良く読返して英作文を考え、それらの表現をしっかりと修得していただきたい。

貿易の専門的用語の理解も必要なので、テキストの付録「貿易用語集」により、定型取引条件、為替相場、複合運送、信用状、手形買取り、海上保険などを講義する。

履修上の留意点

全員授業に参加していただくので予習(英文解釈)、復習(英作文)が必要である。英作文は間違いを恐れず挑戦していただきたい。個人的に添削指導する。

成績評価の方法

前期、後期の試験成績と出席による。

教科書

『ビジネス英語』町井靖著(創成社)1,600円(本体価格)

参考書等

教室で指示する。

科目名	担当者名	配当学年	単位
秘書概論 (前期)	湯浅陽子	短英1・2選	2

講義のねらい

わが国における秘書的業務は、西暦645年大化改新の頃に誕生し、明治のはじめに秘書という言葉が用いられるようになったという。この秘書に対する一般的な概念は、それ以後あまり変わってはいない。しかし、時代の変遷に伴って秘書業務の内容は変わり、それは各分野における経営組織体の中で重要な位置を占めるまでになってきている。すなわち、経営者の日常業務が、情報の横溢、スピードの要求等の渦中にある今、その円滑な流れを全うするためには、上司の本務業務補佐のための秘書の能力が期待され、また、大いに役立っているからである。

秘書の仕事は大から小まで様々な種類があり、それに携わる秘書の能力・経験も様々である。しかし、どんな小さな仕事を受け持つ場合でも、上司を理解し、上司に匹敵して役立つ秘書の能力発揮が求められ、秘書はそれに応えなければならない。上司およびその業務内容を理解するためには、秘書の本質・形態・課題等に関する秘書理論を学ぶことが必要なのである。

講義の内容・授業スケジュール

- | | | |
|------|-----------|------------------------|
| 授業回数 | 1. 4月第3週 | オリエンテーション (授業のねらいと進め方) |
| | 2. " 4週 | 秘書検定について |
| | 3. 5月第2週 | 企業組織と人間行動 |
| | 4. " 3週 | 経営者と秘書の機能 |
| | 5. " 4週 | 秘書の形態 |
| | 6. " 5週 | 秘書の業務とその特質 |
| | 7. 6月第1週 | 秘書と交流分析 |
| | 8. " 2週 | 予備日 |
| | 9. " 3週 | 秘書の人間関係 |
| | 10. " 4週 | 秘書と情報 |
| | 11. 7月第1週 | 秘書に求められるもの |
| | 12. " 2週 | 予備日 |
| | 13. " 3週 | 前期終了科目定期試験 |

履修上の留意点

1～2年後には社会人になろうという人が受講するのであるから、正当な理由の無い欠席・遅刻は許されない。事後承諾を受けるのではなく、事前に何らかの形で連絡しておく配慮が必要である。授業中は自分を大人の女性として意識し、学生同士の言葉遣いにも留意し、自分達で学ぶ環境作りを心がけてほしい。

成績評価の方法

出席およびレポート提出の有無を重視する。日常に課する小レポートも加味する。いかなるレポートも〆切日を過ぎたものは受け取らない。2年生は就職活動で欠席を余儀無くされることがあるが、「私の就職活動報告」と題して欠席したその日の活動を翌週に発表してもらい、欠席分を補う。これら日常点の他に定期試験の得点とを総合して評価する。

教科書

開講時に指示する。

その他

主に講義形式で授業を進める。取り扱う関連分野が多領域にわたるため、ビデオ教材を使うこともある。その際は前の週に予告するとともに、当日に教務課正面のビデオ教場使用欄(黒板)にて案内するので、前もって指示されているビデオ教場に入ってもらいたい。予約によって多少異なるが、1-301教場になることが多いであろう。

ただ講義を聞くというのではなく、これから直面する就職のこと、結婚、家庭と仕事との両立の問題、40代・50代をどんなふうにご覧したいのか等々、自分のライフサイクルの中の現時点と未来を、秘書という事務能力の優れた女性の職能を通して考える機会になればと思っている。自分のライフプランや職業に対する意識を再確認するために、出席票を兼ねて意見を書いてもらうことも多くなる。

科目名	担当者名	配当学年	単位
秘書実務 (後期)	もりもとまさえ 森本正恵	短英1・2選	2

講義のねらい

秘書業務の基本を修得する。
 企業で働く秘書として必要な資質・職務知識、一般知識、マナー、接遇、技能などの分野について学び、即戦力として実務知識が役立つような講義を目的とする。
 文部省認定秘書技能検定試験の受験にも対応できる。

講義の内容・
授業スケジュール

授業の進め方として、秘書や秘書の仕事について考え理解し、行動でき、表現できるように適宜レポートや実技(来客対応・電話対応など)を課題として与えながら実務能力がつくようにする。

履修上の留意点

毎回講義と演習を中心に進めますので、資料を参考にして課題をきちんとこなすこと。
 提出物については、締切日を守るように自己管理すること。

成績評価の方法

小テスト及び定期テストの成績。レポート等の提出物、実技、授業への参加意識などを含んだ総合評価とする。

教科書

『セクレタリアル・オフィスワーク・ノート』
 野坂裕子・能勢照代・森本敦司共著 燃焼社 1,800円

その他

1. オリエンテーション(授業のねらいと進め方)
 2. 秘書の役割と心がまえ(秘書のイメージ資格要件)
 3. 会話(話し方、聞き方、敬語)
 4. 接遇(来客対応、電話対応)
 5. 日程管理(行動予定、出張、旅行)
 6. 交際業務と環境整備(慶弔のマナー、仕事のしやすい環境)
 7. 文書作成(社内文書、社外文書、グラフ)
 8. 文書管理(ファイリング、郵便の扱い)
 9. 会議(会議の種類と準備、後始末)
 10. 美しい立ち居振舞い(おじぎ、イスの立ち方、座り方、物の扱い)
 11. 実技①(接遇——来客対応、受付、取次ぎ、案内、接待、見送り)
 12. 実技②(接遇——電話対応)
 13. 実技③(報告の仕方、状況対応)
 14. まとめ
- なお、適宜ビデオを使用し、秘書や秘書の仕事について、具体的な理解ができるようにするとともに、立ち居振舞いや話し方について自己を客観的に見られる資料とする。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
秘 書 英 語 (前 期)	もり 森 もと 本 まさ 正 え 恵	短 英 1・2 選	2

講義のねらい

日本の国際化に伴い、企業で働く秘書として実務に即した英会話の学習は必修であるといえる。来客応対や電話応対の英語、ビジネスレターの作成などを学び、秘書英語検定の対策としても対応できる力を養う。

講義の内容・
授業スケジュール

毎回1つのunitを学習する。Dialogについて内容をよく理解したうえで、hearing, speaking, roll playを通して体得していく。
復習を各自で十分に行ない、毎回の小テストに備えておくこと。

履修上の留意点

復習中心になりますので、テキストの順序どおりに講義しません。毎回出席しないと次回のテスト範囲がわかりませんので、必ず授業の進捗を把握しておくこと（止むをえず欠席の場合は、友人に尋ねておくこと）。

成績評価の方法

毎回実施する小テスト及びまとめのテストの成績。
出席を重視します。

教 科 書

『国際秘書のための実用英語』（南雲堂）1,400円 60分テープを2本用意すること。

そ の 他

- ① 受付、取次ぎ、案内などの来客応対における秘書としての会話を学ぶ。
- ② 電話会話、伝言メモの作成。
- ③ ビジネスレターの作成や履歴書の書き方。
- ④ まとめとして、来客応対のロールプレイを演習し、実際に活用できるか確認する。

科目名	担当者名	配当学年	単位
作品作家研究 〔ロマン派の詩〕	くま ざき ひさ こ 熊 崎 久 子	短英2選	4

講義のねらい

イギリス・ロマン派の詩を鑑賞します。
 エリザ朝にその最初の萌芽と開花を見た英国浪漫主義は、「理性と散文の時代」を経て、18世紀後半から19世紀初頭にかけて円熟と完成の時期を迎えます。この時期に活躍した詩人（その殆どは夭折してしまいましたが）とその作品を研究、鑑賞し、彼らがどのように自然と人間に対峙したかを学び、かつ、彼らがさまざまな詩型と詩句を駆使して語るイギリス湖水地方を初めとする美しい田園の姿を味わい得ることを期待します。

講義の内容・授業スケジュール

4月 ①英国浪漫主義について ②英詩の特徴、詩型、韻律等について
 5月 人と作品 ウィリアム・ワーズワース
 6月 S.T. コールリッジ
 7月 G.G. バイロン
 9月 P.B. シェリー
 10月 ジョン・キーツ
 11月 ウィリアム・ブレイク
 12月 ロバート・バーンズ
 1月 補足とまとめ

授業の進め方

概ね以下の手順で進めます。

1. 受講者は取り上げる詩人について、生涯、作品の特質、傾向等をあらかじめ調べて出席し、発表する。
2. 発表に対し、質疑応答を行う。
3. 担当者が補足する。
4. 取り上げた作品の英国併優等による朗読を聞く。
5. 受講者の朗読と作品解釈。
6. 詩型、詩句、韻律について担当者より補足。
7. 作品について意見交換。

履修上の留意点

- ① 英詩における韻律はその作品を理解する上で特に重要な役割を持っています。従って黙読するだけでは十分な把握は望めません。用いられている語句に正しい抑揚をつけて音読することが必要となります。各自が下調べの段階において繰り返し音読をしてきていただきたい。
- ② 地名、その他固有名詞についてはテキスト注を参照されたい。
- ③ 詩人の伝記等については、『英米文学辞典』（研究社）その他の「文学辞典」、「文学史」関係の書によって簡単に調べることが出来ます。必要に応じ教場において説明、紹介します。

成績評価の方法

1. 前期・後期に各一回提出のレポートによる評価……60%
2. 授業中の発表等に対する評価……40%

教科書

『イギリス・ロマン派名詩選』（英宝社）

科目名	担当者名	配当学年	単 位
作品作家研究 〔世紀末文学〕	たき 滝 せい 静 じゅ 寿	短英2選	4

講義のねらい

オスカー・ワイルドの作品を中心に、世紀末の文芸を考えてみる。童話や戯曲を中心に輪読し、ワイルドの文体をも研究する。

講義の内容・
授業スケジュール

輪読形式で行う。毎時間、議長と書記を選び、討論しながら進めていく。
 (前期) 世紀末文芸と概観。ワイルドについて、作品鑑賞(童話を中心に)。
 (後期前半) 戯曲『サロメ』の輪読。世紀末画家(ビアズレーを中心に)について。
 ビデオで、バーコフの『サロメ』鑑賞。
 (後期後半) 小説『ドリアン・グレイの画像』福田恒存訳を一部原文と比較しながら輪読しワイルドの芸術観への導入。

履修上の留意点

必ず予習し、積極的に意見や考えを述べることを義務づける。テーマを割り当て、研究発表を行う。

成績評価の方法

輪読を進めていく過程での平常点、出席率、前後期レポート等の総合評価。

教科書

O. Wilde "The Happy Prince and Other Tales" (北星堂)
 O. Wilde "Salome" (英光社)

科目名	担当者名	配当学年	単 位
作品作家研究 〔20世紀アメリカ小説〕	よし 吉 ざわ 沢 えい 栄 じろう 治郎	短英2選	4

講義のねらい

作品の流れをひとまずつかみ、輪郭をえがいてから、細部にわたって吟味していくことになる。要は、作品を味わうことに尽きるが、そのためには、正しく原文の言わんとするところをつかむことだから、教場で大要をつかんだならば、その細かな点は各自でもういちど辞典を片手に再確認しつつよんでいくことだろう。よみながら想像の翼を充分に広げて、状況を描いてみたいものだ。

講義の内容・
授業スケジュール

作品を訳し読み進めていくが、事前に3頁くらい予習して自分なりの理解を得ていることが肝要だ。いかにも英語らしい言い方だとおもえるものは指摘はするけれども、気をつけて読めば自分で分かることもあろう。前期は『蛇』を丁寧に読んでゆき、後期は『菊』を味読する。

履修上の留意点

英和辞典を充分に引いてほしい。

成績評価の方法

1月の定期試験で評価します。

教科書

第1回の授業時に指示します。

科目名	担当者名	配当学年	単位
作品作家研究 〔19世紀英文学〕	たかのひでお夫 高野秀夫	短英2選	4

講義のねらい

英国の大学に於て英文学の入門書となっている「サイラス・マーナー」の作品を読みながら著者ジョージ・エリオットがなぜ19世紀英文学のなかで特異な存在となったのかを考える。

講義の内容・
授業スケジュール

前期：『サイラス・マーナー』作品の逐字訳

『サイラス・マーナー』の作品理解に努める。

「神への信仰を失い、親友、恋人そして仲間にも裏切られた主人公、サイラス・マーナーは住み慣れた都会からラヴィロー村に移る。金を貯めることが人生の唯一の楽しみになる。そして彼はついに天涯孤独な守銭奴と化す。16年後、その金も盗まれ、再び絶望の淵をさまっている時、たまたま迷い子が家に転がり込んで来る。数々の辛くて悲しい経験を通り越してサイラスはその子を育てることで、過去に失った全ての間味溢れる生活を取り戻す。そしてまれに見る美しい髪の可愛い娘に成長したエピソードと幸せに暮らす。」この話を原書で読む。

後期：口頭発表

・後期は口頭発表の機会を作る。

発表は各自が課題を決めて一人20分程度でまとめる。

・この作品に登場する人物の様々な問題点（孤独、神、偶然など）を取り上げ、ジョージ・エリオットの文学に迫る。

同時に、19世紀英文学に於けるジョージ・エリオットの位置付けをも考える。

履修上の留意点

主要な19世紀英国作家の作品に触れ、絶えず文学とは何かを考える機会を多く持つこと。

成績評価の方法

- ① 口頭発表
- ② レポート
- ③ 7枚程度の論文

教科書

- ① George Eliot "Silas Marner"

科目名	担当者名	配当学年	単 位
情報処理Ⅱ	Brooks, D. (ブルックス, D.)	短英2選	2

講義のねらい

The aim of the Joho Shori II (Information Management II) course is to provide students with practical skills with computer applications in English, building on the skills acquired in the previous course. Students will become familiar with various types of computer uses for business and personal information management. They will acquire skills in creating and manipulating data using such computer tools as word-processing, spreadsheet, database, and presentation software programs.

講義の内容・
授業スケジュール

The focus of the course is on acquiring practical hands-on competence with the four computer applications used in most work environments: word processing, database management software, spreadsheets, and presentation software. Beginning with an introduction to typical computer hardware and the concept of computer networks, the students will improve their mastery of routine computer functions through familiarity with the operating system (Windows). Each computer application will be covered individually, followed by a practical project to integrate the information from several of the applications. NOTE: Owing to the students' background knowledge and skills, the actual unit content may be altered.

UNIT TEACHING CONTENT

- 1 Introduction to information management and computer hardware
- 2 Computer software and operating systems
- 3 Word processing skills
- 4 Desk-top publishing
- 5 Introduction to spreadsheet software
- 6 Using spreadsheet to make decisions
- 7 Introduction to database management
- 8 Using database software for organizing data records
- 9 Integrating software applications (form letters)
- 10 Introduction to Presentation software
- 11 Project: presentation using all the computer applications
- 12 Preparation for Final Evaluation
- 13 Final Exam

履修上の留意点

A. Students will be able to competently use computer applications:
1) to create letters, newsletters or brochures, 2) design a simple budget using spreadsheet software and show how financial decisions can be made through analysis of spreadsheet models, 3) design and manage a computer database of clients. 4) use the information from several computer software applications to create form letters, integrating several types of data and 5) make a computer presentation.
(slide show) which illustrates a concept and integrates data from the other computer applications.

B. Students will be able to understand computer application concepts and operations in English and will be able to communicate concerning fundamental computer procedures and functions in English.

C. Students will gain a broader understanding of the ways that personal computers are used in today's office environments and will be confident in seeking to further develop their own competencies with computer applications.

成績評価の方法

On-going evaluation through unit assignments and projects will be the major component of course evaluation. Students will be informed at the beginning of each unit of the skills they will be expected to be able to learn and how they will demonstrate their learning. A practical hands-on performance examination to demonstrate competence will be another possible part of the evaluation. Attendance and class participation are important parts of the course grading. The instructor may use brief multiple-choice quizzes during the class to check comprehension of the English language content and computer vocabulary. Course projects will likely count 50% of the final grade. Examinations, quizzes, assignments, attendance, and class participation will make up the other portion of the grade.

教科書

There is no text for course. Handouts will be provided as needed. Regular attendance and hands-on participation in class are the main ways of learning the required skills with the computer applications.

参考書等

Access to a computer outside of class is not required. Students will be using Microsoft Office software for Windows in the university computer lab.

その他

This is a hands-on practical skills course. There is a limited amount of lecture during each class period. However, the students will be actively listening and following the teacher's instructions in order to understand the features and the specific functions for the software programs. The students will be actively trying out computer commands and functions during the class. Additionally, time will be given in class for work on the various course assignments, culminating in the final computer applications project.

Because there are a limited number of computers, the number of students will be limited to 35 students. A Selection procedure will be conducted at the first class if there are more than 35 students wanting to enroll. Students must get the instructor's signature on the course registration form as approval for admission to the course.

科目名	担当者名	配当学年	単位
言語と文化	おかもと まこと 岡本 誠	短英2選	4

講義のねらい

日本は高 context 文化であると言われる。つまり特定の場面で発話する際、全部を言わずともあとは状況で察してほしいということである。電車をおりた人が駅から電話をかけてきて「今着いたんだけど」と言う。電話を受けた人は「だからなんなのさ？」などとは応じない。「じゃ今車で迎えに行きますから待っていて下さい」などと言う。これが我々の住んでいる文化である。英語圏で“I'm here at the station”と電話すればそれこそ“What do you mean?”と言われかねない。つまり我々は状況に頼っていてストレートにものを言わない。

この文化の特徴は直接的に言わずにほめかして、あとは相手にさとしてほしい、というわけであるから、必然的に目立つとうとしないことを多とする。目立つ人は出しゃばりになるのである。ところが欧米ではいい意味で目立つ人が評価されるわけで、unique であることは最高のほめこととなる。他の人と違うからである。日本人は外国で生活するとしたらユニークに目立つように、人が変わったように努力せねばならない。

こういう日本の文化にあっては目立つとうとしないわけであるから、先輩をさしおいてなどという行動はありえない。先輩はたてまつるのである。中学校のクラブ活動で既に「先輩」「後輩」の意識はすっかりできあがってしまっている。しかるに、こういう言い方が英語にはない。彼らはファーストネームで呼び合う You and I are equal の世界にいる。従って、英語には敬語がないとよく言われるが、「へりくだり」の言い方はもったない。「愚妻」や「豚児」などの語はないのである。それどころか、女房は人前ではめるものなのだ。

本講義は異文化間コミュニケーションとも相通じる意味をもつことになる。

講義の内容・授業スケジュール

この趣旨にそった話題を新聞や雑誌に求め、ディスカッションの場としたい。

履修上の留意点

受講者は事前に問題点を吟味してくることが肝要。

成績評価の方法

発表状況。ディスカッションへの参加。指定文献によるレポート提出。課題によるレポート提出。

教科書

材料はこちらから提供する。

参考書等

その都度指示する。

科目名	担当者名	配当学年	単位
英語表現研究	うめ はら とし ひろ 梅 原 敏 弘	短英2選	4

講義のねらい

日本語と英語を比較・対象させることによって、両語の特徴と差異を探る。

講義の内容・授業スケジュール

日本語の「腰」という言葉と英語の"hip"とは同じであろうか、何故hipsと複数でいうのであろうか、というような語彙レベルでの問題、英語圏の国に手紙を書くとき、どうして番地を先に書いて、町名、国名などを後に書くのか、また英語では主語の次に動詞がきてその後に目的語が来るのにたいして、日本語では動詞が目的語の後に来るのはどうしてなのか、というような語順の問題、日本語の敬語に相当するような表現が英語にあるのだろうか、という待遇表現の問題等、様々な「違い」が日英両語の間には存在する。それらを順次取り上げ、両語の特徴を探りながら、英語の表現上の特徴を明らかにしていく。授業は講義形式で行うが、完全な一方通行ではなく、日英両語の特徴と差異について、受講者自らに様々な具体的な例をあげてもらい、ディスカッションもしていく予定。

履修上の留意点

言葉に興味をもっている受講者が望ましい。履修希望者は必ず履修届を出す前に授業に出て受講許可を受けること。

成績評価の方法

レポートの出来映え、特にその独自性と授業への積極的参加と貢献度を勘案して決める。

教科書

使用せず。

参考書等

小島義郎 著『日本語の意味 英語の意味』（南雲堂）
 国広 編『日英語比較講座』全5巻（大修館）
 国広哲哉 著『日英語の比較』（現代英語教育－8）（研究社）
 榎垣実 著『日英比較表現論』（大修館）

科目名	担当者名	配当学年	単位
Advanced English II A	Moe, Richard A. (モエ, リチャード A.)	短英 2 選	2

講義のねらい

The goal of this course is to raise the oral and aural skills of the students to the highest level possible through an intensive application of reading, speaking, listening, and comprehension exercises. In short, the emphasis will be on encouraging students to further develop and build on their present abilities by making them use what they know to the fullest extent possible.

講義の内容・授業スケジュール

This course and Advanced English IIB are essentially the same course, and as such, should be considered the same. The only difference between the two is that they are held on different days of the week. Accordingly, the schedule for both classes are interconnected. Because the content of the course will depend on and be influenced by the ability and progress of the students, a detailed lesson plan is not available.

Based on the presupposition that language proficiency comes primarily from constant practice, students will be expected to do most of the talking. Speaking situations will include paired conversations, presentations and speeches, and group discussions. Above all, students will be expected to ask the teacher lots of questions and seek to converse in English with the teacher and each other at all times.

Although a detailed lesson plan for the course is not available, students will be told well in advance what will be expected of them so that they can adequately prepare for class.

履修上の留意点

All second-year students interested in taking this course will be selected during the first week through a series of interviews. Any student who was not selected at the first class or who did not receive permission from the teacher to take the course, but who enrolled in the course anyway will not be allowed to take it nor receive a passing grade. Only students who have been screened by the teacher will be eligible to take this course. This course will require tremendous preparation outside of class. Those who fail to prepare properly will find it difficult to do the work and as a result may be asked to withdraw from the course. This course is not recommended for shy students nor those with marginal oral and aural skills. Tardiness and absences will not be tolerated. This course will be conducted only in English. Students may not use Japanese. Active participation in discussions and class activities is mandatory.

成績評価の方法

Evaluation will be based on attendance, participation, and ability. Final grades will be calculated by the following formula:

$$((100-10X-5Y)+2Z)/3+\alpha = \text{Final Grade}$$

X=number of absences, Y=number of times tardy, Z=average of all grades, α =adjustment, if necessary, based on Teacher's evaluation.

教科書

No assigned textbook.

参考書等

Students will be expected to follow current events and read a lot in English. Movies, articles, and books will often be assigned for study outside of class.

その他

Students are encouraged to consult with the teacher at any time regarding course content, their performance, or any other matters.

科目名	担当者名	配当学年	単位
Advanced English II B	Moe, Richard A. (モエ, リチャード A.)	短英 2 選	2

講義のねらい

The goal of this course is to raise the oral and aural skills of the students to the highest level possible through an intensive application of reading, speaking, listening, and comprehension exercises. In short, the emphasis will be on encouraging students to further develop and build on their present abilities by making them use what they know to the fullest extent possible.

講義の内容・授業スケジュール

This course and Advanced English II A are essentially the same course, and as such, should be considered the same. The only difference between the two is that they are held on different days of the week. Accordingly, the schedule for both classes are interconnected. Because the content of the course will depend on and be influenced by the ability and progress of the students, a detailed lesson plan is not available.

Based on the presupposition that language proficiency comes primarily from constant practice, students will be expected to do most of the talking. Speaking situations will include paired conversations, presentations and speeches, and group discussions. Above all, students will be expected to ask the teacher lots of questions and seek to converse in English with the teacher and each other at all times.

Although a detailed lesson plan for the course is not available, students will be told well in advance what will be expected of them so that they can adequately prepare for class.

履修上の留意点

All second-year students interested in taking this course will be selected during the first week through a series of interviews. Any student who was not selected at the first class or who did not receive permission from the teacher to take the course, but who enrolled in the course anyway will not be allowed to take it nor receive a passing grade. Only students who have been screened by the teacher will be eligible to take this course. This course will require tremendous preparation outside of class. Those who fail to prepare properly will find it difficult to do the work and as a result may be asked to withdraw from the course. This course is not recommended for shy students nor those with marginal oral and aural skills. Tardiness and absences will not be tolerated. This course will be conducted only in English. Students may not use Japanese. Active participation in discussions and class activities is mandatory.

成績評価の方法

Evaluation will be based on attendance, participation, and ability. Final grades will be calculated by the following formula:

$$((100-10X-5Y) + 2Z) / 3 + \alpha = \text{Final Grade}$$

X=number of absences, Y=number of times tardy, Z=average of all grades, α = adjustment, if necessary, based on Teacher's evaluation.

教科書

No assigned textbook.

参考書等

Students will be expected to follow current events and read a lot in English. Movies, articles, and books will often be assigned for study outside of class.

その他

Students are encouraged to consult with the teacher at any time regarding course content, their performance, or any other matters.

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
英語とコンピュータ	Brooks, D. (ブルックス, D.)	短 英 2 選	2

講義のねらい

The aim of the English For Computers (Eigo to konpyuta) course is to teach students the English language skills needed to work with computers and information technology. Additionally, the students will become familiar with a wide variety of computer uses for both home and office. One of the main goals of the course is to bring students to thorough understanding of the Internet and multimedia. The course seeks to give them experiences to deal effectively with these in English.

講義の内容・
授業スケジュール

The focus of the course is on acquiring practical hands-on competence and English communication skills for using information technology, especially the Internet. Beginning with computer hardware and the concept of the computer network communications, the students will gain a basic understanding of the nature of information technology. Browsing the World Wide Web, search strategies, e-mail writing and etiquette, mailing list subscription, Telnet, FTP, newsgroups, webchatting are among the Internet topics to be explored. Students will learn how to make their own homepage with links to other websites. Additionally, graphics, text, audio and video will be combined to create a multimedia project.

NOTE:Owing to the students' background knowledge and skill and to the availability of software, the actual unit content may be altered.

UNIT TEACHING CONTENT

- 1 Computers and You:how computers affect our lives
 - 2 Introduction to information technology and the Net
 - 3 E-mail:using it and writing effective e-mail
 - 4 Expolring the Internet through e-mail:listserv, e-zines, newsgroups
 - 5 Browsing the World Wide Web
 - 6 Search Strategies:how to find the information you want
 - 7 Internet management tools:Telnet, FTP, Gopher, HTML
 - 8 Individual project:Wed-based research project
 - 9 Homepage:content, design, and creation
 - 10 Multimedia:integrating text, graphics, audio and video
 - 11 Introduction to Class project:multimedia database/guide
 - 12 Computing for entertainment and education
 - 13 The Future of computers and information networks
- Preparation for Final Evaluation Project
Final Exam

履修上の留意点

- A. Students will be able to competently use information technology software:1) to successfully locate information on the Internet, 2) read and write effective e-mail messages, 3) to access the full scope of the Internet resources, 4) to create and modify their own homepage on the Internet, 5) to produce a multimedia presentation.
- B. Students will be able to understand computer and information technology concepts in English and will be able to communicate concerning computer procedures and Internet functions in English.
- C. Students will improve their English language competence in the four main skills through communication in speaking, listening, reading, and writing about computers and through using the Internet and multimedia tools.

成績評価の方法

On-going evaluation through unit assignments and projects will be the major component of course evaluation. Students will be informed at the beginning of each unit of the skills they will be expected to be able to learn and how they will demonstrate their learning. A practical hands-on performance examination to demonstrate competence will be another possible part of the evaluation. Attendance and class participation are important parts of the course grading. The instructor may use brief multiple-choice quizzes during the class to check comprehension of the English language content and computer vocabulary. Course projects will likely count 50% of the final grade. Examinations, quizzes, assignments, attendance, and class participation will make up the other portion of the grade.

講義のねらい

There is no text for the course. Handouts will be provided as needed. Regular attendance and hands-on participation in class are the main ways of learning the required skills with the computer applications.

教科書

Access to a computer outside of class is not required. Students will be using Apple Macintosh in a university computer lab.

その他

This is a hand-on practical skills course. There is a limited amount of lecture during each class period. However, the students will be actively listening and following the teacher's instructions in order to understand the features and the specific functions for the software programs. Students will be expected to communicate ideas in English and to work toward computer project in English.

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
表 現 法	まさ せ おう じ 笹 瀬 王 子	短 英 1・2 選	4

講義のねらい

日本語の構造や特質の理解を通じ、文章表現力を養うのが本講義の主眼である。
表現とは、自己発現の手段であると共に、他者や社会とのコミュニケーションをはかる手段でもある。そのことを踏まえ、明晰で論理的な、そして何よりも正しい表現方法の習得を目指す。

講義の内容・
授業スケジュール

教科書を中心に現代日本語の表現について学ぶ。それと並行して、プリントなどの各種教材を参考に語彙力や書く力の向上をはかる。

履修上の留意点

随時に課す、課題を通して積極的な講義への参加をのぞむ。

成績評価の方法

授業中に実施する各種課題、レポート等を総合的に評価する。

教 科 書

影山尚之他編『日本語と表現の工夫』(双文社出版) ¥1,796

参 考 書 等

教場にて、適宜指示する。

專門(英文科)

1 專 門 教 育 科 目

(3) 放 射 線 科

專門(放射線科)

(3) 放射線科

放射線物理学(小山正希)	117
電気工学(佐藤昌憲)	117
放射線機器概論(榊徳市)	118
放射線写真学(田本祐作)	118
解剖学(古屋儀郎)	119
生理学(樋口雄三)	119
衛生学及び公衆衛生学(吉田稔)	120
画像検査技術学概論(西尾誠示)	120
放射線基礎数学〔平成7年度以前入学生：放射線基礎数学(後期)〕 (清水忠良)	121
近代物理学序論(清水忠良)	121
放射化学序論(田島隆)	122
実験ⅠA(榊徳市・古屋儀郎・西尾誠示)	123
実験ⅠB(清水忠良・佐藤昌憲・松林哲夫・百瀬旬)	123
実験ⅠC(山本裕右・榊尾英次・田本祐作)	124
実験ⅠD(田島隆・山本裕右・冨沢比呂之・村上雅彦)	125
医学概論(古屋儀郎)	126
臨床医学概論(古屋儀郎)	126
放射線生物学(山口彦之)	127
病理学(古屋儀郎)	127
生化学(田島隆)	128
応用数学(清水忠良)	129
原子核物理学(青木清)	129
放射化学(山本裕右)	130
電子工学(杉田徹)	130
放射線機器工学(中北倫男)	131
画像工学〔平成8年度以降入学生〕(田本祐作)	131
画像技術学(西尾誠示)	132
放射線計測学(小山正希)	133
関係法規(油井多丸)	133
実験ⅡA(榊徳市・西尾誠示・阿部敏・金谷信一)	134
実験ⅡB(小山正希・佐藤昌憲・中北倫男・中本淳)	135
実験ⅡC(杉田徹・青木清・川副護・木村登)	135
実験ⅡD(杉田徹・青木清・木村登・吉田正廣)	136
実験ⅡE(榊尾英次・山口彦之・中北倫男・藤利彦)	136
病院実習Ⅰ(榊徳市)	137
放射線医学概論(古屋儀郎)	137
自動制御工学(青木清)	138
医用機器工学〔平成7年度以前入学生：放射線機器工学Ⅲ〕(榊尾英次)	139
放射性同位元素応用機器工学〔平成7年度以前入学生：放射線機器工学Ⅳ〕 (小山正希)	140
画像情報学(西尾誠示)	141
放射性同位元素検査技術学(榊徳市)	142
放射線治療技術学(高山誠)	143
放射線管理学(油井多丸)	143
放射線学演習(榊徳市)	144

実 験	Ⅲ	A (小山 正希・佐藤 昌憲・羽生 毅)	144
実 験	Ⅲ	B (青木 清・杉田 徹・香川 浩)	145
実 験	Ⅲ	C (山本 裕右・田島 隆・山口 彦之・大田 忠親)	145
実 験	Ⅲ	D (榊 徳市・榎尾 英次・小林 久夫)	146
病 院 実 習	Ⅱ	(榊 徳市)	147
医 学 英 語		[平成7年度以前入学生：臨床放射線特論Ⅰ] (山 口 彦 之)	147
臨 床 医 学 特 論		(休 講)	
臨 床 放 射 線 特 論		[平成7年度以前入学生：臨床放射線特論Ⅱ] (休 講)	
統 計 学		(休 講)	
情 報 工 学		(休 講)	
画 像 処 理 論		[平成7年度以前入学生：画像工学Ⅱ] (榎 尾 英 次)	148
化 学 特 論		(山 本 裕 右)	148
応 用 計 測 学		(榎 尾 英 次)	149
放 射 線 学 特 論		(山 口 彦 之)	149
放 射 線 学 基 礎 演 習		[平成8年度以降入学生] (小 山 正 希)	150
放 射 線 学 基 礎 演 習		[平成8年度以降入学生] (榊 徳 市)	150
放 射 線 学 基 礎 演 習		[平成8年度以降入学生] (杉 田 徹)	151
放 射 線 学 基 礎 演 習		[平成8年度以降入学生] (田 島 隆)	152
放 射 線 学 基 礎 演 習		[平成8年度以降入学生] (中 北 倫 男)	153
放 射 線 学 特 別 演 習		(青 木 清)	153
放 射 線 学 特 別 演 習		(榎 尾 英 次)	154
放 射 線 学 特 別 演 習		(佐 藤 昌 憲)	154
放 射 線 学 特 別 演 習		(清 水 忠 良)	155
放 射 線 学 特 別 演 習		(西 尾 誠 示)	155
放 射 線 学 特 別 演 習		(山 本 裕 右)	156

科目名	担当者名	配当学年	単位
放射線物理学	小山正希	短放1必	2

講義のねらい

診療放射線学の基礎的概念である放射線（ここでは主としてX線）と物質との相互作用を中心に、最も多用されているX線の発生機構を含めて、放射線とその作用効果の基本を学ぶ。

講義の内容・授業スケジュール

主たる項目とその学習順序は凡そ次の通りである。

- | | |
|---|----------------|
| 1) 放射線・放射能の定義と概念。 | 2) 放射線の種類と分類。 |
| 3) 光子（X線・γ線）の粒子性。 | 4) 光電効果。 |
| 5) 原子の構造・粒子の波動性。 | 6) X線回折・ブラグ反射。 |
| 7) 軌道電子のエネルギー準位。 | 8) 輝線スペクトル。 |
| 9) 制動X線・特性X線の発生機構。 | 10) X線の線質。 |
| 11) 光子と物質との相互作用（光電効果・コンプトン効果・電子対生成効果・トムソン散乱など）。 | |
| 12) 吸収端現象とその応用。 | |
| 13) 電子と物質との相互作用（電離・励起・制動放射・チェレンコフ放射など）。 | |
| 14) 光子の減弱（吸収係数・再生係数・平均自由行程など）。 | |
| 15) 電子の飛程。 | 16) 放射線の単位。 |

X線による写真や電子機器を通して得られる人体に関する画像は総べてここで学習するX線と物質との相互作用に依っている。即ち放射線の利用も、また放射線による損傷効果も、その基本的過程は相互作用に有ると言える。従ってこの科目の内容は診療放射線全体の理解に要する最も基本的な概念知識となっている。放射線の単位は、その内容が本科目での知識なしには理解し得ないので、最後に学ぶ事になるが、学習の各段階で折にふれ概要を説明する。

教科書

教科書は使用しないが、参考となる書籍とその部分については適宜紹介する。

科目名	担当者名	配当学年	単位
電気工学	佐藤昌憲	短放1必	2

講義のねらい

電気工学全般にわたる広い基礎知識を得ることを目的としている。この科目は、診療放射線技師国家試験科目であるので、十分な演習と中間テストも合せ講義をする。

講義の内容・授業スケジュール

次の内容で授業を進める。

- | | |
|--------------------|--------------------|
| ①電気回路の電圧・電流 | ②消費電力と発生熱量 |
| ③電気抵抗 | ④磁界の強さと磁束密度 |
| ⑤磁気回路 | ⑥電磁力 |
| ⑦電磁誘導作用と電磁エネルギー | ⑧静電現象 |
| ⑧電界の強さと電束密度 | ⑩静電エネルギー |
| ⑨交流回路の基礎 | ⑫交流の平均値・実効値 |
| ⑬正弦波交流の基本回路 | ⑭交流の直列回路 |
| ⑮交流の並列回路 | ⑯交流の電力 |
| ⑰複素数とベクトル | ⑱交流回路の計算 |
| ⑲相互インダクタンスを含む回路の計算 | ⑳三相交流の基礎 |
| ⑳三相の結線方法と電圧・電流の関係 | ㉑三相交流の電力と力率 |
| ㉒平衡三相交流回路の計算 | ㉒電気計測（電圧・電流・電力の測定） |
| ㉓変圧器の基礎 | |

成績評価の方法

中間テストと定期テストの結果より評価する。また、授業の出席数や課題レポートも加味する。

教科書

- 『新電気基礎問題集』（綜文館） ¥800
『電気基礎上』（東京電機大学） ¥2,472
『電気基礎下』（東京電機大学） ¥2,369

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
放射線機器概論 (前期)	きかき 榊 とく 徳 いち 市	短放1必	1

講義のねらい

診療放射線業務に使用する医療用放射線機器・装置等がある。それらのうち診療用の各種X線機器・装置・用具の知識と構造、その動作原理、取扱い法および精度維持、安全管理について講述する。

講義の内容・
授業スケジュール

- ① 診断用X線機器：X線機器の概要、X線管の構造、用具・感光材料の基礎知識。
- ② 一般撮影機器：X線装置・X線発生装置、X線高電圧装置、X線制御装置。
- ③ X線源装置、X線用高電圧ケーブル、電源設備。
- ④ X線機械装置：透視撮影装置、保持装置撮影台、その他の特殊目的装置、映像装置。
- ⑤ 関連用品：散乱X線除去用グリッド、フィルムカセット、イメージング装置。
- ⑥ 診断用X線システム：外科系、呼吸器系、消化器系、乳幼児系、頭部系各種撮影装置。
- ⑦ 特殊X線検査システム：乳房用X線装置、泌尿器・産婦人科系X線装置。
- ⑧ X線断層撮影装置、X線間接撮影装置、X線拡大撮影法とX線立体撮影法の原理。
- ⑨ 循環器系X線検査装置：連続撮影装置と関連機器、X線映画撮影装置と関連機器。
- ⑩ X線CT関連：原理、画像再構成、前処理と補正、X線CTシステム・走査方式。
- ⑪ X線CT用検出器、寝台、X線CT用X線発生装置、高電圧発生装置、X線管。
- ⑫ スリッピング方式、コンピュータシステム：画像表示および画像記録装置。
- ⑬ X線CT画像の特徴：画像処理、計測、表示機能、性能評価、検査技術。

履修上の留意点

4月の第2週より7月の第3週まで、毎週土曜日の2時限、教科書を用いて講述する。

成績評価の方法

前期試験の結果による。

教 科 書

『診療放射線技術』上巻（南江堂）¥7,004

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
放射線写真学 (後期)	た 本 もと 祐 ゆう きく 作	短放1必 (H8以降入学生)	1

講義のねらい

放射線および光による医用画像について、その形成原理、形成手段、画像の解析法、および画質の評価法等を中心に実社会で真に有用な人材の育成をモットーに講義する。

- (1) 放射線写真と写真のシステム
- (2) 感光材料と増感紙
- (3) 感光および現像処理の理論と化学
- (4) センシトメトリー
- (5) 画像の写真特性

教 科 書

宮川俊夫・久江田昌著『新版 放射線写真学』（アドバンス出版）¥4,800

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
解 剖 学	ふる や よし ろう 古 屋 儀 郎	短 放 1 必	2

講義のねらい

診療放射線技師に必要な人体解剖学を学び画像との関係を習得する。

- ① 解剖学総論
- ② 骨 格 系
- ③ 筋 肉 系
- ④ 内 臓 系
- ⑤ 循 環 器 系
- ⑥ 神 経 系
- ⑦ 感 覚 器

教 科 書

吉川、星、林共著『解剖生理学』（金原出版）¥3,000

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
生 理 学 (後 期)	ひ ぐち ゆう せう 樋 口 雄 三	短 放 1 必	2

講義のねらい

生体の生命現象について、単にその調節機序を解説するのではなく、それらが互いに有機的に
 関連しあい恒常性が維持されていることをホリスティックな視点から理解を深めることをねらい
 とする。

講義の内容・
授業スケジュール

1. 生命と健康
2. 体 液
3. 循 環
4. 呼 吸
5. 消 化 吸 収
6. 栄 養 ・ 代 謝 ・ 体 温
7. 排 泄
8. 内 分 泌
9. 神 経 の 興 奮
10. 中 枢 神 経 系
11. 末 梢 神 経 系
12. 感 覚
13. 筋 収 縮 と 運 動
14. 生 体 の 防 御 機 構
15. 生 殖

履修上の留意点

講義内容は、教科書よりも高いレベルで重点的に話すのでノートを必ずとること。出席を重視する。

成績評価の方法

筆記試験。出席点を与える。

教 科 書

松村・越智・豊田著『臨床検査技術学Ⅵ生理学』（医学書院）3,914円

科目名	担当者名	配当学年	単位
衛生学及び公衆衛生学 (後期)	よしだみのる 吉田 稔	短放1必	2

講義のねらい

衛生・公衆衛生学は、人々を疾病から守り、健康を保持、増進および福祉の向上を目的とした学問である。しかも個人、家族、地域社会および全国民の健康を対象とし、疾病のみならずすべての健康からの偏りを予防、コントロールし、積極的な健康の達成を目指すものである。しかしながら、健康の保持には環境、病因、宿主の間のバランスが重要である。今日では地球温暖化、オゾン層破壊、酸性雨といった地球規模での環境破壊が健康保持に深刻な問題を投げかけている。ここでは公衆衛生が果たす役割のみならず環境問題についても学ぶ。

教科書

石川哲也他著『新編公衆衛生学(第2版)』(東京教学社)
竹村 望著『衛生学の基礎』(相川書房)

参考書等

『国民衛生の動向』(厚生指標 臨時増刊)厚生統計協会
厚生省編『厚生白書』(厚生省統計協会)
環境庁編『環境白書』(大蔵省印刷局)

科目名	担当者名	配当学年	単位
画像検査技術学概論 (後期)	にしおせいし 西尾 誠 示	短放1必	2

講義のねらい

画像検査技術概論および放射線画像の基礎知識について講義を行う。

講義の内容・授業スケジュール

- ①放射線技師と医療社会
診療放射線技師の役割とその評価、関連領域の構造とチーム医療など。
- ②放射線技術の現状と将来
科学技術の発達と放射線技術の関連、医療への貢献度などについて。
- ③X線の基礎
X線の発生から写真効果まで、診療X線領域について述べる。
- ④画像の成り立ち
点線源からのX線照射によって生じる画像の拡大、歪み、重畳効果などについて。
- ⑤画質に含まれる因子
画質を評価するときの対象因子となる濃度、コントラスト、鮮鋭度、粒状性について。
- ⑥画像を左右するもの
要因を出力側、入力側に分けて散乱線、撮影管電圧、感光材料などについて述べる。
- ⑦撮影条件の設定と考え方
最適な画像を得るための理論的な考え方、課題と改善策について。
- ⑧画像検査に必要な体の基準線と原則および名称
- ⑨画像検査の種類
単純撮影、造影法、特殊検査などについて原理と実際の手順について。
- ⑩画質・画像の評価法(物理評価、視覚評価)について

履修上の留意点

放射線技術学の基礎に関して毎回小テストを行う。

成績評価の方法

定期試験が基準であるが、小テストの結果と学習意欲を参考にする。

教科書

立入弘著『診療放射線技術』(南江堂) ¥6,800

参考書等

講義には教科書に記載のない内容も多く含まれるのでノートが重要になる。

科目名	担当者名	配当学年	単位
放射線基礎数学	し みず ただ よし 清 水 忠 良	H8以降入学生/短放1必	2
放射線基礎数学(後期)		H7以前入学生/短放1必	1

講義のねらい

この科目は前半で確率・統計学と行列・行列式を、後半で積分学を学ぶ。

講義の内容・授業スケジュール

1. 連立一次方程式
2. 行列の表現
3. 行列の演算
4. 行列の分類
5. 6. 行列式 I・II
7. クラームルの解
8. 固有値
9. 統計・実験データのいろいろ
10. 統計データの収集
11. 平均値、度数分布
12. 平均値からのズレの評価
13. 最小自乗法
14. 確率分布
15. ポアソン分布・ガウス分布
16. 計算機による計算実習
17. ～積分学

履修上の留意点

電卓、方眼紙は常に携帯して欲しい。

成績評価の方法

試験・レポート・出席で評価する。

教科書

矢野・石原著「科学技術者のための基礎数学」(裳華房)

科目名	担当者名	配当学年	単位
近代物理学序論	し みず ただ よし 清 水 忠 良	短放1必	2

講義のねらい

この科目は新入生に向けて開講されるもので物理学の技術を磨くことを意図している。最初に今まで学習した内容の復習をする。予備知識は特に必要とはしない。定性的な議論ではなく、物理学の定量的な議論を運動方程式(質点、電子、電磁波)を軸に据えて扱う。

講義の内容・授業スケジュール

1. 物理学小史
2. 運動の概念
3. 座標・時間・速度
4. 落下運動
5. 質量
6. 力
7. 運動方程式
8. 落下運動再論
9. 円・楕円運動
- 10~12. 摩擦のある運動 I・II・III
13. 電荷の運動
14. 電場、電位
15. 直線電荷のつくる電場
16. 平面電荷のつくる電場
17. 磁場および磁束密度
18. ベクトル積
19. ビオ・サバールの法則
20. 21 ローレンツ力 I・II
22. 23 ファラデーの法則 I・II
24. オームの法則
- 25~27. 電気回路 I・II・III
28. 電磁波
29. マックスウェル方程式

履修上の留意点

予習は特に必要とはしないが復習をすること。講義中に宿題や計算問題等の演習を行う。電卓、方眼紙は常に携帯して欲しい。

成績評価の方法

中間試験、定期試験の結果と併せ評価する。

教科書

木下ら著「物理学の基礎」(東京教学社) 2,310円

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
放射化学序論	た じ ま たかし 田 島 隆	短 放 1 必	2

講義のねらい

昨今の高校の理科では「理科I」で化学の初歩は学習しても「化学」を履修しない場合がある。また「化学」を履修した場合でも「化学」を暗記ものとして学んでいる場合が多い。「化学」は法則、定理を学んでも、確かに例外的多い学問分野ではある。無機化合物でも、まして有機化合物に至っては数え切れないので、それらを暗記など出来る筈もないし、必要もない。診療放射線技師となって扱う物質は、その中のほんの僅かである。だがその僅かな物質も元素およびその構成されたものでは原子、分子である。これらは一応物理学的性質、化学的性質の諸法則に従っているから、それらの諸法則の理解が充分ならば取り扱いも充分可能である。そのほんの僅かな物質の中のさらに僅かな物質だけが例外であり、暗記するとすれば、まことに僅かだ。

もう一つの問題点は「化学」は机上、抽象的な学問と考えている場合が多い。しかし「化学」はあくまでも物質を扱う学問である。例えば計算をして算出した数字は「化学」では数量であり、数値であると言う理解が必要である。具体的に言えば「有効数値」の概念である。

以上の諸点から、この時間では高校で履修した事項と重複することを承知の上で化学の基礎から講義を開始して、「放射化学」「放射線写真学」「生化学」の本論への橋渡しをするのを目的とする。

講義の内容・授業スケジュール

- a) 原子、分子、モル
 - 質量保存の法則、定比例の法則、倍数比例の法則、気体反応の法則、Avogadroの法則、原子、分子の概念、モル数の考え方。
- b) 原子の電子配置と周期表
 - Schrödingerの波動方程式、量子数、電子配置、Pauliの排他律、Hundの規則、周期表と周期律、イオン化エネルギー、電子親和力
- c) 化学結合
 - イオン結合、共有結合、分子軌道法、配位結合、錯化合物、水素結合、水合物、金属結合、電気陰性度、分子の極性と非極性、分子の形と性質
- d) 化学平衡
 - 可逆反応と不可逆反応、質量作用の法則、平衡定数、解離定数、化学平衡と温度、平衡移動 - Le Chatelierの法則
- e) 電解質溶液とpH
 - 電離、電離平衡と電離定数、溶解度積、水のイオン積、水素イオン濃度とpH、塩の加水分解、緩衝溶液、共通イオン効果、塩効果
- f) 光の吸収
 - 電磁波の分類（ここでは紫外部、可視部、赤外部）放射エネルギーと分子（ここでは回転エネルギー、振動エネルギー、電子エネルギー、蛍光、リン光）吸収スペクトル（赤外分光測光、紫外可視吸収スペクトル）可視光線と補色の関係、Lambert-Beerの法則、分光光度計の構造と測定法
- g) 酸化還元反応
 - 酸化数、イオン式と半反応式の作り方、酸化剤と還元剤、酸化還元反応式の作り方、酸化還元の規定度
- h) 電気化学
 - 酸化還元とイオン化列、半電池、標準単極電位、標準電極電位、濃淡電池、電位差と反応の進行、電位差と自由エネルギーの関係、電気伝導率、Kohlrauschの法則、電気分解とFaradayの法則
- i) 化学熱力学
 - 熱力学の法則、内部エネルギー、熱容量、断熱変化、エンタルピー、Hessの法則、Kirchhoffの法則、熱力学とエントロピー、自由エネルギー変化
- j) 反応速度論
 - 反応速度と濃度、反応速度定数、反応の次数、半減期、反応の機構、活性化エネルギーとArrheniusの式、觸媒の化学
- k) 核化学
 - 同位体、放射能、放射線、放射性核種、放射性核種の壊変と変位法則、人工放射線核種、核エネルギー、核分裂、質量欠損、核融合、放射性核種の利用

履修上の留意点

「化学」を履修していない学生にも出来る限り理解できるよう平明な講義をするが、それでも解らぬ場合は必ず「基礎化学」を履修して欲しい。その時間の講義内容は暗記せずその時間中に理解して欲しい。

成績評価の方法

(平常点+中間テスト+定期試験)×1/3 = 成績 平常点は前回講義した事項中重要な点につき出題する5分間テストの平均点とする。欠席の場合には0点とする。

教科書

磯直道著『化学通論』(東京教学社) ¥1,957

科目名	担当者名	配当学年	単位
実験 I A	さかき 榊 徳市・古屋 儀郎 にしお 西尾 誠示	短放 1 必	実験 I (IA~ID) 5

実験の目的

放射線機器概論での各種 X 線機器・装置の構造を理解すると共に、機器・装置を使用し基礎的な実験を行い、正しい使用方法を習得する。また X 線撮影施設での放射線管理と個人被曝管理の実状を理解する。

実験の内容・スケジュール

- ① X 線撮影条件。
X 線写真からの情報をより多く得るには、被写体に適合した X 線の線質・量が必要で、基礎的な実験で撮影条件の選定法を習得する。
- ② X 線撮影距離。
X 線撮影時の距離によって、X 線写真がどのように影響するか、実験を行って理解する。
- ③ X 線照射野
X 線撮影時の照射野の大きさによって、X 線写真が、どのように影響するか検討する。
- ④ 散乱 X 線
散乱 X 線の X 線写真への影響を、鉛ディスクを用いたフィルム法で実験し検討する。
- ⑤ 散乱 X 線除去用グリッドの特性。
グリッドの性能試験法を習得すると共に、グリッドの適正な使用法を理解する。
- ⑥ 増感紙の特性。
増感紙の相対写真感度および増感率、コントラスト、鮮鋭度について実験し検討する。
- ⑦ サブトラクション。
X 線写真のサブトラクション法の原理と、その方法を実験にて習得し、結果を検討する。
- ⑧ 手現像。
X 線フィルムの手現像処理法を習得する。
- ⑨ 暗室灯（セーフライト）の安全性。
セーフライトの安全性試験を行い検討する。

履修上の留意点

実験項目を担当する教員の指導で実験を行い、データを整理して実験報告書を提出する。

成績評価の方法

報告書の評価と定期試験の結果による。

教科書

放射線機器概論等で使用するもの。

科目名	担当者名	配当学年	単位
実験 I B	しみず 清水 忠良・佐藤 昌憲 まつばやし 松林 哲夫・百瀬 旬	短放 1 必	実験 I (IA~ID) 5

講義のねらい

多くの学生にとっては初めての実験であると思われるので、前半・後半と分けて、前半は器具・機器の扱い方の練習をする。後半はデーターを処理する方法を扱う実験を用意してある。現象を通じて理論を理解することも同時に身に付けてもらいたい。

講義の内容・授業スケジュール

内容は手引書を制作してあるのでこれを参照すること。少人数で実験をするために班分けをする。そのためにスケジュールは個人によって異なる。入学後のガイダンスの際に班分けによるスケジュールを発表する。

成績評価の方法

1. レポート 2. 実験 3. 質疑応答 4. 調査・検索について点数化して総得点で評価する。

教科書

放射線科でいくつかの実験のために用意した手引書を制作してある。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
実 験 I C	やまもと ゆうすけ がし お えいじ 山本 裕右・榎尾 英次 たもと ゆうさく 田本 祐作	短 放 1 必	実験I (IA~ID) 5

講義のねらい

1年次後期で並行して学ぶ「放射線写真学」および2年次で学ぶ「画像工学」の基礎となる事項について実験を行う。医療用フィルム画像をよりよく理解するためには、フィルムの現像、定着の化学から始まり、フィルム現像、エックス線フィルムの特性を測定するセンシトメトリーに至る実験を行う。

講義の内容・
授業スケジュール

以下の項目について実験を行う。

1. 基礎実験Ⅰ（ハロゲン化銀の性質、現像液の単薬調合）
2. 基礎実験Ⅱ（現像液組成薬品の化学的性質、定着液組成薬品の化学的性質）
3. フィルム現像
4. 引伸しプリント
5. センシトメトリー（感光計によるエックス線フィルムの特性曲線の作成）
6. 現像薬品と画像（異なる現像薬品組成をもつ現像液処理による画像の比較）
7. スライド作成（カラーホイルおよびポジフィルムによるスライド作成）
8. エックス線フィルム画像の複写
9. マイクロデンシトメータによる濃度測定
10. ブートストラップ法による特性曲線の作成

成績評価の方法

実験レポート、試問、平常点、試験により評価する。

教 科 書

実験プリント、宮川俊夫 他、『新版 放射線写真学』（アドバンス出版）¥4,800

参 考 書 等

高尾慶人 他、『新しい放射線写真学』（富士メディカルシステム（株））¥5,700

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
実 験 I D	たじま たくし やまもと ゆうすけ 田島 隆・山本 裕右 とみざわ ひるし むらかみ まさひこ 富沢比呂之・村上 雅彦	短 放 1 必	実験I (IA~ID) 5

講義のねらい

「放射化学実験I」として、その基礎になる化学実験の基本操作を習得することを第一の目的とする。第二に「放射化学序論」の講義における理論の裏付けとなるテーマを設定し、化学の理論の実証、理解することを目的としている。

昨今、高校で「化学」を履修している学生でも、実験を経験した者は非常に少ない。また「化学」を履修しなかった学生は実験器具を見た事も触れたことも、名称すら知らないのが現状である。

このような状況のもとで、「化学実験」には常に危険を伴い、実験には誤差が伴い、失敗もあることを理解させる。特に「放射化学実験」では安全と正確さが要求されるものであることを体得せしめるのを第三の目的とする。さらに、実験結果の可否については特に問うことはしないが、実験結果の処理の方法を重要視して、実験報告書を提出させる。これにより、一般の科学のレポートの書き方、考え方を学ぶため、形式を守らせ、科学技術者としての論文・レポートの書き方を体得させるのを第四の目的とする。

講義の内容・授業スケジュール

- ガイダンス
実験室内での一般的な注意事項、数値の扱い方、洗浄の理論、器具の扱い方、レポートの書き方等
- ガラス細工、器具の洗浄
ポリスマン、毛管ピペットの作成、ガラス器具の洗浄
- 容量、重量の測定、試薬の調製法
測容器、上皿天秤、分析用電子天秤の扱い方、シュウ酸標準液、水酸化ナトリウム溶液の調整法
- 容量分析 I
酸・アルカリ中和滴定による酸の定量
- 薄層クロマトグラフィー
薄層クロマトグラフィーによるアミノ酸の分離・同定
- 分子模型実習
簡単な分子、錯化合物、異性体の作成
- pHの測定
pH試験紙、ガラス電極pHメーターによる緩衝能の測定
- 滴定曲線の作成
pHメーターによる一塩基酸と二塩基酸の一酸塩基の滴定曲線の作成
- 無機化合物の合成
硫酸銅(Ⅱ)五水和物の合成
- 容量分析 II
i) で合成した硫酸銅(Ⅱ)五水和物中の銅(Ⅱ)のヨウ素滴定法による定量
- 比色分析
0-フェナントロリン法による鉄(Ⅱ)の定量
- イオン交換樹脂
陽イオン交換樹脂の交換容量の測定

履修上の留意点

- 欠席しないこと：実験室内で設備、器具を用い物質を扱うので、講義のように自習で補うことはできない。実験室、教員の条件等により欠席者についての補習は行えない。操作技術は段階的、体系的に学習するように設定しているので、欠席をすると次の実験操作は出来なくなる。数名の班編成により実験をするので、他者に迷惑をかける。
- 遅刻しないこと：時間の冒頭で当日の実験、注意事項を説明する。遅刻すると、これらの説明を聞かないことになり、実験が正しく行えず、危険を伴い、事故を起しかねないので、実験をさせられず欠席扱いとなる。
- 予習、下調べをして実験のフローチャートを作成してこようこと：該当する実験の詳細はプリントして2週間前に配布する。その実験の理論は講義してあるから、当日までにフローチャートを作成、使用する薬品、器具については下調べをしておくこと。
- 実験室内の規則を守ること：化学実験には危険(事故)、失敗、誤差が常につきまとうものである。これ等を出る限り排除するように努力すべきである。そのためにはガイダンスでの注意事項を厳守する必要がある。昨今自立つのは男女を問わず長髪の方が多く、頭部後方で縛ること。特に女子学生のハイヒール、口紅、長い爪、装飾品の着用は禁止する。これら禁止事項を守らない場合には、実験を禁止せざるを得ないことになる。
- レポートの提出：各テーマごとに実験終了一週間後にレポートを提出する。ガイダンスで説明する書き方を守ること。これが守られぬ場合、間違いのある場合指摘するので再提出すること。再々提出もあり得る。

成績評価の方法

$$\text{出席点} + \text{レポート点} + \text{定期試験点} = \text{成績}$$

$$35 + 35 + 30 = 100$$

教科書

プリント使用

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
医 学 概 論 (前 期)	ふる や よし ろう 古 屋 儀 郎	短 放 2 必	2

講義のねらい

医学とは何か。正しい医療とはどうあるべきか。病気と人間のかかわり。診断・治療・予防などについて学ぶ。

- ① 医学をどのようにとらえるか
- ② 医学の発達のがた —— 医学史
- ③ 健康・病気・医学の体系
- ④ 病気の原因
- ⑤ 病気による身体の変化
- ⑥ 病気の診断
- ⑦ 病気の治療とリハビリテーション
- ⑧ 病気の予防
- ⑨ 新しい医療システム
- ⑩ 健康教育と衛生統計
- ⑪ 医学の生命へのアプローチ

教 科 書

日野原重明著『医学概論』（医学書院）¥1,200

専門
(放射線科)

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
臨 床 医 学 概 論 (後 期)	ふる や よし ろう 古 屋 儀 郎	短 放 2 必	2

講義のねらい

診療放射線技師がわきまえておく必要のある診断と治療に関する知識の修得を目的とする。

- ① 疾患の分類
 - ② 疾病の症状と診断
 - ③ 疾患の治療
 - ④ 発展する医療
- ①については器質的疾患と機能的疾患、原因別にみた諸疾患、臓器別にみた諸疾患、種々の症候群、国際疾病分類等。

教 科 書

玉木正男・林文子共著『臨床医学概論』（名古屋大学出版会）¥3,500

科目名	担当者名	配当学年	単位
放射線生物学 (前期)	やま ぐち ひこ ゆき 山 口 彦 之	短放2必	1

講義のねらい

放射線の生物に及ぼす作用は、放射線のもつ物理的特性と放射線に対する生物の特性によって生ずる。なお該当する国家試験科目は「放射線生物学」である。

講義の内容・
授業スケジュール

- つぎのような内容で講義する。
- (i) 放射線生理学の位置づけ
 - (ii) 放射線生物学の歩み
 - (iii) 放射線物理化学の基礎的事項
 - (iv) 生体高分子の放射線化学反応
 - (v) 細胞下レベルでの作用
 - (vi) 遺伝的影響
 - (vii) 細胞に対する作用
 - (viii) 放射線感受性
 - (ix) 生体に対する作用
 - (x) 放射線の防護
 - (xi) 放射線による治療

履修上の留意点

履修にあたって放射線物理学を習得していること。教科書を使用するので、予習、復習をおこなうこと。

成績評価の方法

成績評価は出席状況および筆記試験によっておこなう。

教科書

山口彦之著『放射線生物学』(裳華房) ¥3,605

科目名	担当者名	配当学年	単位
病理学 (後期)	ふる や よし ろう 古 屋 儀 郎	短放2必	2

講義のねらい

診療放射線技師に必要な病理学を学ぶ。総論として先天異常、代謝障害、循環障害、炎症と免疫、腫瘍について。

各論として循環器系、血液・造血器系、呼吸器系、消化器系、腎・泌尿器・生殖器系、内分泌系、脳・神経・筋肉系、骨・関節系、耳・眼・皮膚、膠原病及び難病について。

教科書

中村・坂本編『系統看護学講座・病理学』(医学書院) ¥1,700

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
生 化 学 (前 期)	た じ ま た かし 田 島 隆	短 放 2 必	2

講義のねらい

パラメディカル・スタッフとしての診療放射線技師にとって、人間の生理に関する基礎知識は必須のものである。近年における放射線医療の分野の進展には目覚ましいものがあり、これは分子生物学分野との関連性なしには考えられない。この教科目は半期で時間的制約のあること、また本科のカリキュラムには有機化学が開講されていないことの2点を考え、出来得る限り化学式を避け、生体の基本的な仕組みを学習できるように講義を組み立てた。核医学領域の学習の基礎となり、橋渡しになることを目的としている。

講義の内容・授業スケジュール

- a) 細胞・その構成物質とその機能。
生物の基本単位としての細胞を構成する物質——核、ミトコンドリア、ミクロゾーム、細胞質、細胞膜等の成分物質と、これらの生理機能の関連性に重きを置いて説明する。また、多細胞生物における細胞の機能の分化について論ずる。
- b) 酵素の働きとそのメカニズム
生体内に起っている化学反応を触媒している酵素の本体がタンパク質であって、特異性を有する事を理解させる。活性化剤、阻害剤に対して、どのような反応を示すかをミカエリスの定数を用いて説明する。またビタミン類が補酵素としての働きを有することから酵素反応のメカニズムの解明の一端を示す。
- c) 代謝概論——異化作用と同化作用
生体外 (in vitro) 生体内 (in vivo) の区別を明確にし、生体内で起る化学反応のうち分解の過程により、生体維持、増殖、成長の成分の生成とエネルギー生産をする異化作用。生体維持、増殖、成長における生体物質の生合成とエネルギーの消費の過程である同化作用。この二つの流れの概論を行う。この章ではb) で述べた酵素の役割と、代謝における臓器特異性、代謝異常と病気の関係も述べる。
- d) 生体エネルギーの生産とATP
代謝概論では主として、物質の変化の流れとして主に論じ、ここでは代謝を生体エネルギーの生産過程として説明する。ここでは一年次で学習した熱力学、自由エネルギー、酸化還元電位の知識が必要となる。生体内のエネルギーの担体としてのATPの機能と役割を論ずるが、ここでは化学結合の知識が要求されることになる。
- e) 糖質、脂質、タンパク質の異化作用
ここではc) で概論として述べた異化作用について、物質論を出来るだけ避けて、代謝の流れを臓器特異性と関連させて説明をする。糖尿病、ケトン血症との関係も説明する。
- f) 糖質、脂質、アミノ酸の同化作用
ここでも物質論はなるべく避け、各物質を合成する流れを臓器、酵素、エネルギーとの関連において説明する。
- g) 核酸と遺伝子
DNA、RNAの構造を出来る限り有機化学的な説明を避けて説明するが、化学結合の基礎知識だけは必要である。細胞の核、染色体、核タンパクに触れ、遺伝子の複製のメカニズムを説明する。プリン代謝と痛風、染色体異常、放射線の影響にも言及する。
- h) 遺伝情報の伝達
遺伝情報はDNAの転写という方法により正確に伝達される。この場合に核酸の順列組み合わせの暗号(コドン)による。そのメカニズムを説明し、突然変異、修復がどのような仕組みで行われるかに言及する。
- i) タンパク質の生合成
DNAから3種のRNAが転写という方法で作られ、各RNAはそれぞれの役割を担当し、暗号が解読されて活性化したアミノ酸がその暗号に対応して順次配列され1次～3次構造時には4次構造を作って特有なタンパク質が合成される過程を説明する。
- j) 代謝調節
生体の維持にとって異化作用、同化作用のバランスが保たねばならない。そのバランスを保つ機構として細胞レベルで調節する方法——酵素活性の調節と個体レベルで行われる内分泌系、神経系による調節に大別される。そのメカニズムを解説する。

履修上の留意点

前述のように、生化学は生命、生体について分子レベルで解明しようとする分野である。ここでは種々の制約から、生体の仕組みを大きな流れとして理解できるように努める。しかし最少限1年次で学習した化学の基礎事項は理解しておいて欲しい。

成績評価の方法

毎時間の小テストの平均値 + 定期試験 = 成績
50 + 50 = 100

教科書

宿谷他著『生化学入門』東京化学社、¥1,751

参考書等

入野他著『パラメディカルの生化学』(三共出版) ¥2,500

科目名	担当者名	配当学年	単位
応用数学	しみずただよし 清水 忠 良	短放 2 必	2

講義のねらい

ここで言う「応用数学」とは広い意味での微分積分学の応用という領域のことである。とはいえ、これでは扱う範囲は相当広い。放射線を扱う上でよく出てくる数学に極力限定する。同じ問題でもいろいろな角度からのアプローチがあることを経験してもらいたい。抽象的な定理も実際に数値を使って表現すると理解しやすい場合が多いので実例を中心に据える。電卓、パソコンを使ったグラフ、表、図を多用したい。また、学生自身にも作ってもらおう。

講義の内容・授業スケジュール

1～3. 微分積分学の復習 I・II・III 4. 微分方程式の例 5～7. 簡単な微分方程式の解法 I・II・III 8～9. 数値微分方程式の解法 I・II 10～12. 数値積分法 I・II・III 13～15. フーリエ級数 I・II・III 16～19. フーリエ変換 I・II・III 20. ～ 画像処理のための数学

履修上の留意点

特になし

成績評価の方法

試験・レポート・出席で評価する

教科書

矢野・石原著『科学技術者のための基礎数学』(裳華房)

参考書等

P. ラックス 他『解析学概論』(現代数学社)

科目名	担当者名	配当学年	単位
原子核物理学	あおき きよし 青 木 清	短放 2 必	2

講義のねらい

放射線物理学で学習した内容を基礎とし、原子核と放射能に関する講義を行う。特に α ・ β 壊変と γ 線放射は、今後、放射性同位元素の応用を考える上での基礎となるものである。きちんと理解すると共に、他の科目との関連を意識しながら受講すること。

講義の内容・授業スケジュール

1. 原子核の性質(構成粒子、結合エネルギー、質量公式、核模型、磁気モーメント)
2. α 壊変(α 線のエネルギー、ガイガーヌッタルの法則、トンネル効果)
3. β 壊変(β^- 壊変、 β^+ 壊変、 β 線のエネルギー、中性微子、電子捕獲、カリープロット)
4. γ 線放射(γ 線の角運動量、核異性体、内部転換、メスバウアー効果)
5. 核反応(核反応の種類、Q値、しきい値、核反応断面積、複合核、光核反応)
6. 中性子(中性子の性質、中性子発生源、エネルギーによる分類)
7. 原子炉(核分裂と放出エネルギー、中性子の減速、原子炉の構造、中性子捕捉療法)

履修上の留意点

講義中は板書したこと以外でも、大切そうなことはノートするように心がけてほしい。講義の後には、短時間でも必ず復習を行うこと。

成績評価の方法

定期試験以外に中間試験を2回行い、その結果から成績を評価する。出席は重視する。

教科書

教科書は使用しない。

参考書等

田島英三著『原子核物理概論』(地人書館)
竹井力著『放射線物理学』(南山堂)

その他

授業の中では演習問題も出題する。電卓を用意しておくこと。

科目名	担当者名	配当学年	単 位
放射化学	やまもと ゆう すけ 山 本 裕 右	短放2必	2

講義のねらい

診療放射線技師として最低限必要な放射性同位元素の化学について学ぶ。
 本講義は、すでに1年次に学んだ「放射化学序論」および「放射線物理学」、さらに2年次で
 並行して学ぶ「原子核物理学」で得た化学的、物理的知識を基に、放射性同位元素の化学について
 学ぶ。またここで学ぶ事柄は、3年次の「実験ⅢC（放射化学実験）」を履修するための必要
 不可欠な学問的基礎となるものであると同時に、「放射性同位元素検査技術学」、「管理学」に必
 要な放射化学的知識の基礎となるものである。
 なお、診療放射線技師国家試験科目として「放射化学」がある。

講義の内容・
授業スケジュール

- 上記の観点から以下の内容について講義する。
1. 天然に存在する放射性同位元素
 2. 放射能、放射壊変および壊変則
 3. 放射平衡
 4. 放射性同位元素の製造
 5. 放射性同位元素の分離、精製
 6. 放射能を利用する分析法
 7. 放射性標識化合物の合成法

成績評価の方法

2回の中間試験および学年末試験により評価する。

教科書

教科書は使用しない。

参考書等

データブックとして日本アイソトープ協会編『アイソトープ手帳』（日本アイソトープ協会）
 ¥1,470を使用する。講義には必ず持参すること。

科目名	担当者名	配当学年	単 位
電子工学	すぎ た とおる 杉 田 徹	短放2必	2

講義のねらい

電子工学の主役は「電子」である。電子工学はまず電子の挙動を制御する素子の理解に始まり、
 その展開上に回路技術を習得する。現在、電子工学は医療分野に於ける基礎技術として考えな
 ければならない。そのような観点から、次に掲げる項目に従い講義を進める。

講義の内容・
授業スケジュール

1. 電子の性質
2. 場との相互作用
3. 素子への展開と周辺技術
4. 基礎的な回路技術
5. 電子応用機器の概論

履修上の留意点

時間的制約があり概論的な講義になるが、基本的な知識の習得を心掛けて欲しい。

成績評価の方法

中間試験、定期試験、出席状況により成績評価を行う。

教科書

宇佐美晶、曾根福保共著『テキストブック・電子工学概論』（日本理工出版会）¥2,500

そ の 他

国家試験該当科目である。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
放射線機器工学	なか 中 きた 北 つね 倫 お 男	短 放 2 必	2

講義のねらい

診断用 X 線発生装置の構成、構成要素の機能、動作原理および動作特性などについて学び、装置を取り扱うための基礎知識を身につける。

講義の内容・
授業スケジュール

X 線発生装置は、X 線管部と高電圧発生部ならびに制御部などから構成されている。高電圧の発生形式により、変圧器式、コンデンサ式およびインバータ式などの機種に大別される。前期は、すべての機種に共通の X 線管装置について講義し、後期は、それぞれの高電圧発生装置ならびに制御装置について講義する。その順序は次の通りとする。
前期 1. 総論、2. 診断用 X 線管、
後期 3. 単相全波整流式 X 線発生装置、4. 三相全波整流式 X 線発生装置、5. コンデンサ式 X 線発生装置、6. 自己整流式 X 線発生装置、7. インバータ式 X 線発生装置

履修上の留意点

X 線発生装置は、高電圧応用機器の一種である。この教科をよく理解するためには、電気・電子工学、物理学（放射線物理学を含む）、画像工学などを併せ履修することが望ましい。

成績評価の方法

年度内に行う試験（中間試験、期末試験ほか）の結果による。

教 科 書

青柳泰司著『放射線機器工学（1）』（コロナ社）

専門
(放射線科)

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
画 像 工 学 (前 期)	た も ゆ ま く 田 本 祐 作	短 放 2 必 (H8以降入学生)	1

講義のねらい

各種の画像を2次元または1次元の情報信号と見做し画像形成の各システムを線形システムに再構成し情報信号及びこれらを乱す雑音信号について客観的、定量的な取扱いを行なう。これによって各部分システムの特徴と差異が明確化され全体システムとの関連性が明らかとなり問題点が浮彫にされる。次いで得られた画像価値の評価法と評価尺度について現在提案されている種々の方法を再考察しその過程と結果について言及する。ここで定量的、客観的と言う立場または枠組の修正等の問題も浮上して来る。また画像作成及び評価の現場における多様で厄介な問題等も広く論議の対象に組入れ要約、整理しておく事が重要でありその一部について考察する。

講義の内容・
授業スケジュール

- (1) 線形システム論の基礎
- (2) 線形システム論の画像への応用
- (3) 画像の解析と画質の評価法
- (4) 信号検知論の手法と応用
- (5) 情報理論の基礎と応用
- (6) フーリエ解析の基礎

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
画 像 技 術 学	にし お せい じ 西 尾 誠 示	短 放 2 必	2

講義のねらい

画像技術学はX線解剖学や画像工学を元にした幅広い学問によって構成される。解剖を裏付けとした整位・撮影条件論、及び得られた画像の評価まで含めて講義を行う。

講義の内容・
授業スケジュール

- ① 胸部撮影の理論
- ② 腹部の撮影技術と画像評価
- ③ 乳房・軟X線撮影の理論
- ④ 頭部の撮影技術と画像評価
- ⑤ 耳鼻科領域の撮影技術と評価
- ⑥ 椎骨の撮影技術とチェックポイント
- ⑦ 四肢の撮影技術とチェックポイント
- ⑧ 消化管検査の手順と画像評価
- ⑨ 実質臓器の画像検査の手順
- ⑩ 心・血管造影検査について
- ⑪ 脳神経系の画像検査について

履修上の留意点

定期試験の他に検査部位領域毎に小テストを行う。
OHPにて実際の臨床画像を呈示するので、極力画像に慣れてほしい。

成績評価の方法

定期試験が基準であるが、小テストの結果と学習意欲を参考にする。

教 科 書

立入弘著『診療放射線技術』（南江堂）¥6,800

参 考 書 等

日本放射線技術学会編『放射線検査学（X線）』

そ の 他

講義には教科書に記載のない内容も多く含まれるのでノートが重要になる。

科目名	担当者名	配当学年	単位
放射線計測学	こやま まさき 小山 正 希	短放 2 必	2

講義のねらい

万能である放射線計測系は存在していない。即ち、測定対象と必要なデータとを接続する計測系は測定対象によっても、また必要とされるデータによっても様々に異なってくる。診療放射線学における放射線計測学とは一般に、状況に応じて変えなければならない計測系を如何に選択し、かつ使用するかを主としている。ここで必要とされる素養はこのことを念頭に置いて、現存する多種類の検出系、計測系の放射線応答を出来る限り詳細に知ることであろう。これらの系の選択に当っては絶対的なものが無い以上、あくまでも相互比較によってより適切な物を決定する必要がある。従って単に事項の項的理解では計測学を学んだことにならない。本科目ではこれらの点に留意して学習する。

講義の内容・
授業スケジュール

主として取り上げる事項は次の通りである。

- 1) 放射線検出器分類上の着眼点。
- 2) 放射線検出器の全体像とそれぞれの検出器の位置づけ。
- 3) 電離箱型検出器の基本動作原理。
- 4) 電子及びイオンの運動。
- 5) 電離箱型検出器の基本特性。
- 6) 電離箱型検出器の種類とその概要。
- 7) 電離箱型検出器の出力回路と動作モード。
- 8) 各種電離箱(自由空気型、指頭型、空洞型、外挿型、シャロー型、均質型など)の基本原理とその実際。
- 9) 線量計測とその実際。
- 10) 各種計数管(GM・比例・シンチレーション計数管など)の動作原理と特性。
- 11) パルス計測の基本とその応用。
- 12) 計測データの統計処理。
- 13) 半導体検出器の原理と応用。

検出器や計測系について、既成のコンポーネントの組合せでは目的が達せられない場合、必要なコンポーネント自身を研究開発し、実用に供するのが次の段階の計測学の内容となる。このレベルを念頭に置き学習したい。

科目名	担当者名	配当学年	単位
関係法規 (後期)	あぶら い た まる 油 井 多 丸	短放 2 必	1

講義のねらい

諸君の大多数は本学を卒業すると「診療放射線技師」として医療関係の分野で活躍されることになる。この診療放射線技師という職種は病院等における厚生省管轄の法令を正しくわきまえ医師の指導のもとに医療に従事することである。またよく考えると診療放射線技師は危険なものとして挙げられる放射線、放射性同位元素を取り扱い患者に放射線を照射することが業務の一つでもある。放射線といっても胸部・骨などを写すX線フィルムのX線発生装置から悪性腫瘍を治療する加速器、高エネルギー放射線照射機器・器具からの放射線がある。これらの装置に関係する法令体系は科学技術庁の管轄下の法令であり、技師は十分熟知しておかなければならない。一方、技師という立場は労働省の管轄下から見れば労働者であり、快適で安全な作業環境のもとで働けるように法令は定めている。この点についても十分な知識を要求されている。

講義の内容・
授業スケジュール

医療法、診療放射線技師法、労働安全法に基づく電離則、放射線障害防止法等、順次、関連性をもって教授する。

履修上の留意点

国家試験該当科目「放射線管理学」に該当する。法令はとかく無味乾燥になりがちであり、おぼえる項目は多く、条文の羅列を十分に解釈する必要がある。他の刑法、商法などと異なり技術法であり、基準値を超える、超えないなどの数値が多い。その数値の意味するところを掴むことが大切である。

成績評価の方法

出席率・授業態度、演習、期末試験による

教科書

日本アイソトープ協会編『アイソトープ法令集1及び2』(丸善発行) ¥2,300

参考書等

同協会編『法令集3』、『アイソトープ手帳』(丸善発行)

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
実 験 II A	さかさ 榊 徳市・西尾 誠示 あべ 阿部 さとし 敏・金谷 しんいち 信一	短 放 2 必	実験Ⅱ(ⅡA~ⅡE) 7

講義のねらい

画像技術学の実験である。診断用X線装置・X線TV装置・X線CT装置を使用、人体ファントムを用いた実験を行う。X線撮影法では身体各部位の撮影手技、X線TV検査法では胃部造影法、X線CT検査法では検査手技を習得する。実験では使用感材系の選択法と、被曝軽減の方法についても指導する。

講義の内容・授業スケジュール

- ① 胸部X線撮影法。
胸部X線撮影用ファントムを用いて、正しい撮影手技を習得する。
- ② 頭部X線撮影法。
頭蓋骨は人体骨格で最も複雑な構造を有している。頭部X線撮影用ファントムを用いて撮影手技を習得する。
- ③ 耳鼻科領域X線撮影法。
頭部X線撮影用ファントムを用いて、耳鼻科系(副鼻腔)の撮影手技を習得する。
- ④ 骨部X線撮影法。
腰椎部・手骨部・膝関節部・足関節各骨部ファントムを用いて撮影手技を習得する。
- ⑤ 胃部造影検査法
X線TV装置を使用し、胃部ファントムと造影剤(硫酸バリウム)を用いて、装置の操作法と、透視撮影法を習得する。
- ⑥ 立体撮影法
X線撮影用人体ファントムを用いて、立体撮影法を理解し撮影手技を習得する。
- ⑦ X線CT検査法
X線CT装置の操作法と、X線CT用ファントムを用いた検査手技、画像再構成、画像表示手技を習得する。

履修上の留意点

担当教員の指導により実験を行い、画像評価とデータを検討し報告書を提出する。

成績評価の方法

報告書の評価と定期試験の結果による。

教 科 書

『診療放射線技術』上巻(南江堂) ¥7,004

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
実 験 II B	こやま 正希・佐藤 昌憲 なかきた つねお 倫男・中本 淳	短 放 2 必	実験Ⅱ(ⅡA～ⅡE) 7

講義のねらい

実際に放射線を測定することで、検出器を含む計測系の放射線応答から放射線についての知識の確認をすることを主眼とする。その題材として、ここでは診断用X線発生装置からの制動X線の実効エネルギー、吸収線量測定のための空洞原理を応用する外挿電離型、診療に用いられる放射線場測定の主たる検出器である電離箱の基本特性、計数管型検出器のパルス計数処理の基本である統計処理の基礎的手順などを取り上げて実験し、考察する。

講義の内容・授業スケジュール

実験項目は次の通りである。

- 1) 制動X線の実効エネルギーの測定。
連続エネルギー分布である制動X線を実効的に代表する単一なエネルギー値に置き換える。
- 2) 外挿電離箱による吸収線量の測定。
放射線によって与えられる物質の吸収線量はブラッグ・グレイの空洞原理によって求めるのが一般的である。これを実際に行う方法として外挿電離箱による測定法がある。X線が与える樹脂内の吸収線量を外挿法を用いて求める手順を学ぶ。
- 3) X線による物質の2次電子平衡厚の測定。
2次電子平衡の概念を理解する為に、⁶⁰Co線源によって電離箱壁厚を変化させた時の出力応答を測定する方法により求める。同時に電離電流出力の飽和特性などの電離箱型放射線検出器の基本特性を求める。2次電子平衡の概念は、吸収線量率や照射線量率の概念形成にきわめて重要な係わりがあることを確認する。
- 4) GM計数管の基本特性と計数の統計。
最も普遍的な計数管であるGM計数管の基本的応答特性と得られる計数率の統計処理の基礎を学ぶ。GM計数管の分解時間と電子回路系の弁別レベルとの関係、ダブルパルス分解能、プレート特性の意味、印加電圧レベルの与える効果、実測された計数率から確からしい値を得る方法などの計数率の統計を学ぶ。

専門(放射線科)

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
実 験 II C	すぎた 徹・青木 清 かわあき 護・木村 登	短 放 2 必	実験Ⅱ(ⅡA～ⅡE) 7

講義のねらい

電子工学分野の実際を経験する。数人のグループ構成で行うものと各自が行うものがある。

講義の内容・授業スケジュール

下記の項目について実験を行う。

1. 真空管(三極真空管の静特性)
2. 半導体素子(ダイオード、トランジスタ、サイリスタの代表的特性)
3. 集積回路(オペアンプとデジタル素子)
4. パルス波形の観測(シンクロスコープによる観測)
5. 波形変形回路(微、積分回路、ダイオードクリッパー)
6. 波形整形回路(シュミット・トリガー回路の特性)
7. パーソナルコンピュータ(図形処理Ⅰ)
8. パーソナルコンピュータ(図形処理Ⅱ)

履修上の留意点

出来る限り遅刻、欠席はしないこと。
レポートは期限内に提出すること。

成績評価の方法

レポートの結果と定期試験、出席状況を加味して評価する。

教科書

『実験書(ⅠB・ⅡB・ⅡC・ⅡD・ⅢA・ⅢB)〔第四版〕』

その他

パーソナルコンピュータの実験は情報教育センターで行う。
前期、後期の初めにガイダンスを行う。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
実 験 II D	杉田 徹・青木 清 木村 登・吉田 正廣	短 放 2 必	実験Ⅱ(ⅡA~ⅡE) 7

講義のねらい 電気工学分野の実際を経験する。数人のグループ構成で行う。下記の項目について実験を行う。

- 講義の内容・授業スケジュール**
1. コンデンサーの充放電特性
 2. 直、並列共振（共振現象の基礎知識を得る）
 3. 交流ブリッジ（インダクタンス、キャパシタンス）
 4. R-C回路（インピーダンスとベクトル）
 5. 整流回路（整流と平滑、定電圧回路）
 6. 変圧器（電磁誘導、巻数比と電圧比）
 7. 三相12ピーク整流回路（多相整流）
 8. 高電圧発生回路（倍電圧、コッククロフト回路）

履修上の留意点 出来る限り遅刻、欠席はしないこと。
レポートは期限内に提出すること。

成績評価の方法 レポートの結果と定期試験、出席状況を加味して評価する。

教 科 書 『実験書（ⅠB・ⅡB・ⅡC・ⅡD・ⅢA・ⅢB）〔第四版〕』

そ の 他 前期、後期の初めにガイダンスを行う。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
実 験 II E	榎尾 英次・山口 彦之 中北 倫男・路 利彦	短 放 2 必	実験Ⅱ(ⅡA~ⅡE) 7

講義のねらい 放射線機器工学で学修する理論を実験を通じて理解させることに主眼を置き、併せて各種装置・機器の取扱法を習熟させることを目的としている。

- 講義の内容・授業スケジュール**
- 実験を遂行する上で必要な説明を加えながら、以下のテーマについて実験を行う。
1. X線管焦点寸法の測定
 2. X線管電圧、X線管電流の測定
 3. 照射時間の測定
 4. 三相全波整流装置の特性

履修上の留意点 実験は結果の取得のみを目的として行うものではなく、あくまでも関連する理論の学修を助け、より確実な知識修得を図る目的で設置された科目であるため、実験中はすでに学修済みの内容の確認とか、理論との間に生じる問題点などの把握に心掛けて欲しい。
報告書（レポート）の作成に当たっては、所定の書き方によるのは当然であるが、書かれている内容を理解することが最も重要であることを認識して欲しい。報告書提出時の試問は記載内容の理解度を確認、評価するために行っているもので、理解度が極めて低い場合には再提出を求めることもある。

成績評価の方法 実験態度、報告書及び試問、中間テスト、定期試験などの結果によって総合評価する。

教 科 書 配布プリント

参 考 書 等 『JISハンドブック 放射線（能）』（日本規格協会）最新版（隔年発行）

そ の 他 実験科目の単位修得には所定のテーマすべてを終了することが必要で、やむを得ない理由により欠席した場合は、追実験を受けなくてはならない（実験Ⅱの単位認定はⅡA~ⅡEすべての合格が条件である）。

科目名	担当者名	配当学年	単位
病院実習 I (後期)	さかき 榊 とく 徳 市	H8以降入学生/短放2必	3
		H7以前入学生/短放2必	4

講義のねらい

病院実習は指定規則により、診療放射線技師国家試験受験資格取得のための必須科目です。2学年期までの履修科目や実験で修得した基礎知識が、臨床実習病院では、どのように応用されているのかを知ると共に、臨床実習指導者等による実践の場での教育と指導により研修し、将来の診療放射線技師としての資質を養う機会でもあります。特に学内では経験できない患者接遇のあり方など意義深いものである。臨床病院実習に先だて、実習ガイダンスを担当教員と、実習病院の実習指導者によって学内で実施する。

講義の内容・授業スケジュール

- ① 病院実習の目的、実習手続上必要な書類の説明と記入方法。
- ② 各実習病院の施設説明。実習生の実習病院希望調査。実習要項の説明。
- ③ 実習病院の決定。実習報告書についての説明。
- ④ 病院実習のための知識。病院の組織と業務、病院の機能について。
- ⑤ 患者接遇と患者心理。
- ⑥ 病院実習における実習生の心得。
- ⑦ 実習病院の臨床実習指導者による実習項目別のガイダンス。
 - a. 一般撮影系。
 - b. 透視撮影系。
 - c. 血管造影検査系。
 - d. X線CT検査系。
 - e. 救急検査系。
 - f. 超音波検査系。

成績評価の方法

実習病院の実習指導責任者からの実習成績報告書と、実習生の提出する実習報告書の評価を参考として決定する。

教科書

病院実習要項と、2学年期までに使用した専門教育科目教科書、参考書を使用する。

科目名	担当者名	配当学年	単位
放射線医学概論 (後期)	ふる や よし ろう 古 屋 儀 郎	短放3必	2

講義のねらい

基礎医学のうち診療放射線技師にとくに必要な解剖学の復習と、臨床医学との関連について学習する。

教科書

加藤征治著『解剖学の要点』（金芳堂）¥3,800

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
自動制御工学 (前期)	あおき 青木 清	H8以降入学生/短放3必	2
		H7以前入学生/短放3必	1

講義のねらい

近年の医用装置は自動化が進んでおり、これを使いこなすには自動制御の考え方を理解しておくことが大切である。ここでは自動制御の基礎的な理論を解説する。

講義の内容・
授業スケジュール

1. 自動制御の概要 (自動制御の意味と種類、目標値、制御対象、制御量)
2. フィードバック制御
 - ①ラプラス変換とラプラス逆変換
 - ②制御系の構成 (基本的構成と種類、サーボ機構、ブロック線図、伝達関数)
 - ③動作特性 (過渡特性、インディシャル応答、定常特性、定常偏差)
 - ④周波数特性 (周波数伝達関数、ベクトル軌跡、ボード線図)
 - ⑤安定判別 (ナイキストの安定判別法、ゲイン余有、位相余有)
3. シーケンス制御
 - ①基本素子 (命令スイッチ、検出スイッチ、電磁リレー)
 - ②リレー回路 (自己保持回路、AND回路、OR回路、NAND回路、NOR回路、論理図)
 - ③基本回路 (優先回路、禁止回路)

履修上の留意点

講義の後は、短時間でも必ず復習を行うこと。

成績評価の方法

定期試験により成績評価を行う。出席は重視する。

教 科 書

教科書は使用しない。

参 考 書 等

柳瀬著『自動制御の入門』(東京電機大出版局)、深海・藤巻監『制御工学』(東京電機大出版局)

そ の 他

自動制御に関する実験を実験ⅢBにて行う。実験の内容も良く理解しておくこと。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
医用機器工学 (後期)	かし 櫃 お 尾 えい じ 次	H 8以降入学生/短放3必	2
放射線機器工学Ⅲ (後期)		H 7以前入学生/短放2必	1

講義のねらい

この科目は医用画像診断装置の中で、X線CT装置とMRIを重点に講義する。また、放射線治療などに用いられる加速器についてはその概要を講義する。

講義の内容・
授業スケジュール

1. X線CT装置
 - 1) X線CTの原理および種々の方式
 - 2) 検出器およびデータ収集系
 - 3) システムおよび画像再構成
2. MRI装置
 - 1) 核磁気共鳴の物理的原理
 - 2) MRIシステムの概要
 - 3) 画像形成の原理〈1〉
 - 4) 画像形成の原理〈2〉
3. 加速器
 - 1) 加速器の概要、コッククロフト形とバンデグラーフ形加速器
 - 2) 線形加速器
 - 3) サイクロトロン、シンクロトロン
 - 4) ベータトロン、マイクロトロン

履修上の留意点

あらかじめ放射線計測学および放射線機器工学を習得していること。X線CT、MRI、および加速器の各講義の後演習を行う。過去の放射線機器工学の国家試験問題を事前に勉強しておくこと。

成績評価の方法

定期試験および出席状況により評価する。

教 科 書

教材としてプリントを使用する。

科目名	担当者名	配当学年	単位
放射性同位元素応用機器工学(前期)	こやままさき 小 山 正 希	H8以降入学生/短放3必	2
放射線機器工学IV(前期)		H7以前入学生/短放3必	1

講義のねらい

2年次における放射線計測学を基礎として、更に中性子計測・電子線計測・個人被曝線量計測について検出系の検出原理、応答特性、実測上の問題点などについてそれらの基本を学ぶ。

講義の内容・
授業スケジュール

- 1) 中性子計測の全体像
中性子の計測は、それが間接電離粒子であるという理由と荷電粒子への変換過程が光子ほどの普遍性がないことなどによって、他の放射線の計測に比較して未発達であると言える。従って計測系は種々の方法に分散している状況にある。ここでは現状での考え方を整理し中性子計測理解の一助とする。
- 2) 中性子検出の原理
中性子の検出には荷電粒子変換物質を選択利用するのが一般的である。ここでは変換物質の種類とその目的に応じた選択・利用法について学ぶ。
- 3) 電離箱によるもの
変換された荷電粒子を電離箱で測定する方法について見る。
- 4) 計数管によるもの
計数管を用いて変換荷電粒子を測定する際の得失を見る。
- 5) 半導体検出器によるもの
半導体検出器を利用する意味を把握する。
- 6) 核反応を利用した箔物質による測定法
- 7) 中性子線量測定
- 8) 電子線の測定と検出器
- 9) 個人被曝管理用検出器の原理と実際
電離箱式・TLD・ガラス線量計・エキソ電子線量計・エレクトレット線量計など。
計測学は計測器による計測値を如何に評価するかの問題を常に含んでいる。アンフォールディング処理などもその一環であるが最も基本となるのは計測値の確度であり、従ってトレーサビリティを常に念頭に置く必要がある。ここではこれらの点についても考える。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
画 像 情 報 学 (前 期)	にし お せい じ 西 尾 誠 示	短 放 3 必	2

講義のねらい

画像情報について伝達・検出及び臨床画像の両面から講義を行う。
 学生は実際の臨床写真を観察し、その伝達理論と画像評価を習得すること、最低限正常画像の解説ができることが望ましい。

講義の内容・
授業スケジュール

- ①画像情報概論
- ②画像形成に影響を与える因子と画質の評価尺度
- ③胸部の画像情報
画像の最適化と条件に依存する情報量の変化について
- ④腹部領域の画像情報
診断目的に応じた画像技術と情報量の変化について
- ⑤乳房の画像情報
軟線と画質、CR 画像、正診率、被曝線量、集団検診の現状など
- ⑥CR の基礎（概論）
CR の思想、原理・構成、被曝などについて
- ⑦CR・画像処理
画像処理を交えてCR の解像力やコントラスト分解能などについて
- ⑧DSA の基礎と臨床画像
- ⑨CT 検査と画像情報

履修上の留意点

毎回行うテストはOHP によって呈示される内容から出題される。

成績評価の方法

定期試験が基準であるが、小テストと学習意欲の比重は大きい。

教 科 書

教科書は使用せず、OHP で行う。

そ の 他

毎回臨床写真を呈示するので、その画像の形成要因と結果を検討し、解剖学的な評価のみならず、病理・形態学的にも理解してほしい。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
放射性同位元素検査技術学	さかき 榊 とく 徳 いち 市	短 放 3 必	2

講義のねらい

放射線医学の核医学部門における検査技術学である。核医学は医学・理工学・薬学の諸分野と緊密に結びつき、それぞれの進歩と共に発展しつつある医学の専門である。疾病の診断に放射性同位元素（R I）を応用する診断法で、病態生理、生化学的な代謝と機能状態を検査し、その情報を診断に供する。

検査法は測定の対象によって、生体の測定（患者検査）および医学試料の測定（血液・尿・尿・その他の検体）に大別され、おのにおに R I の生体内投与を要するもの（インビボ法）と、要しないもの（インビトロ法）がある。これらの検査法に關係する放射性医薬品、試薬キット類、検査機器、検査手技、データ処理法などについて講述する。

講義の内容・授業スケジュール

- ① 4月第3週
核医学検査概論、検査装置・機器、放射性医薬品概論、放射性医薬品の体内集積機序。
- ② 4月第4週
医療用ジェネレータ、薬剤品質管理、検査法概論、シンチグラフィ概論。
- ③ 5月第2週
検査法前処置、放射性医薬品投与方法、画像処置の基本概念と処理法、R I 動態検査法。
- ④ 5月第3週
R I 動態検査データ解析法、臓器摂取・代謝機能測定法、R I 動態機能検査装置。
- ⑤ 5月第4週
R I 試料測定装置、骨塩定量装置、ポジトロン断層装置、ヒューマンカウンタ。
- ⑥ 6月第1週
インビボ検査各論、脳神経系：脳・脳血流シンチグラフィ、脳脊髄腔シンチグラフィ。
- ⑦ 6月第2週
脳循環動態計測、甲状腺・内分泌系：甲状腺摂取率測定、甲状腺シンチグラフィ。
- ⑧ 6月第3週
甲状腺癌シンチグラフィ、副甲状腺シンチグラフィ、副腎皮質・髓質シンチグラフィ。
- ⑨ 6月第4週
肺血流・肺換気・肺吸入シンチグラフィ。心筋シンチグラフィ、心筋データ解析法。
- ⑩ 7月第1週
心プールのシンチグラフィ、心機能データ解析法、末梢循環・血栓・脾シンチグラフィ。
- ⑪ 7月第2週
消化器系：肝・肝胆道シンチグラフィ。骨髄シンチグラフィ、骨・関節シンチグラフィ。
- ⑫ 7月第3週
骨塩量測定法、腫瘍シンチグラフィ、炎症シンチグラフィ、リンパ節シンチグラフィ。
- ⑬ 9月第5週
ヘパトグラム、肝血流測定法、メッケル憩室、消化管出血、唾液腺シンチグラフィ。
- ⑭ 10月第1週
V B12 吸収試験、蛋白漏出試験、泌尿器系、腎・腎動態シンチグラフィ、レノグラム。
- ⑮ 10月第2週
嚙丸シンチグラフィ。循環血液量・血漿量・血球量測定、鉄代謝測定、赤血球寿命測定。
- ⑯ 10月第3週
血小板寿命測定、カルシウム代謝測定。ポジトロン断層検査法。インビトロ検査総論。
- ⑰ 10月第4週
インビトロ放射性医薬品、インビトロ検査法の原理、B/F 分離法、インビトロ測定法。
- ⑱ 11月第2週
測定試薬、基準値、精度管理、インビトロ検査の臨床的意義、インビトロ検査各論。
- ⑲ 11月第3週
AFP、CEA、CA19-9、エラスターゼ、PA、CA-125、CA15-3、CA72-4、CA-130、NSE、その他の腫瘍マーカー。
- ⑳ 11月第4週
ACTH、GH、その他の下垂体ホルモン、T₃、T₄、その他の甲状腺ホルモン。PTH、カルチトニン。
- ㉑ 12月第1週
コルチゾール、アルドステロン、レニン他腎ホルモン。各種性腺ホルモン。
- ㉒ 12月第2週
IRI、CG、その他の消化器系ホルモン、VB₁₂、葉酸、その他の造血器系ホルモン。
- ㉓ 12月第3週
HBウイルス関連抗原・抗体・その他。
免疫アレルギー関連抗原・抗体・その他。
- ㉔ 1月第2週
薬剤。サイトカイン他。ミオグロビン他。遺伝子プローブ法による検査。

成績評価の方法

定期試験の結果による。

教科書

核医学検査技術：インビボ・インビトロ編
（通商産業研究社）各編 ¥4,500 尚参考書として核医学ノート：（金原出版）¥3,800

その他

教科書、講義プリントと共にスライドによる臨床データを使用して講義したい。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
放射線治療技術学	たか やま まこと 高 山 誠	短 放 3 必	2

講義の内容・
授業スケジュール

前半では癌治療における放射線治療の役割や意義を中心とした放射線治療概論について講ずる。放射線の人体に対する影響などの放射線生物学や実際の臨床に用いられる放射線治療機器について解説を行い、放射線治療の計画と実技、線量分布や照射方法（外部照射、密封小線源治療等）の総論的項目について考える。
また後半では各疾患別の放射線治療について各論的項目を検討していく。

教 科 書

村上晃一 著 『放射線治療技術』
立入 弘 監修『診療放射線技術』下巻 改訂第5版

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
放射線管理学 (前期)	あぶら い た まる 油 井 多 丸	短 放 3 必	2

講義のねらい

放射線管理学は放射線・放射性同位元素の安全取扱いに関する学問である。管理基準は法令に依るが、核物理・核化学、生物学及び工学など科学的分野と法令や対人関係を包括する社会科学分野の総合的知識・実務経験を要求される。これらを総括した講義を述べたい。

講義の内容・
授業スケジュール

世界各国では放射線防護に関する法令を定める際によりどころにしているのが国際放射線防護委員会(ICRP)の勧告である。このICRP勧告の理念からはじめ、放射線防護の原則、病院内の放射線取扱い施設に於ける環境管理とそこで医療に従事する人々の管理(個人管理)、防護の基準、公共への影響、放射性廃棄物の処理、放射線事故への対策、放射線管理の組織などに言及する。

履修上の留意点

国家試験該当科目「放射線管理学」に該当する。

成績評価の方法

出席率・授業態度、期末試験による。

教 科 書

草間朋子著『放射線防護 Q&A』(医療科学社発行) ¥2,000
日本アイソトープ協会『法令の話』(丸善発行) ¥1,050

参 考 書 等

日本アイソトープ協会編『アイソトープ手帳』(丸善発行)
同協会編『法令集 1、2 及び 3』

科目名	担当者名	配当学年	単位
放射線学演習 (後期)	さかき たく 徳 いち 市 榊 徳 市	短放3必	2

講義のねらい

この授業は当放射線科の課程で学ぶ全科目の総括的評価を行うことを目的としている。具体的には診療放射線技師の国家試験合格のために必要な知識の修得を確認することである。

講義の内容・授業スケジュール

授業の進め方は、教員支援のもとに、学生が主体となって学習体制をつくり、ゼミ、試験等を行って行くものである。

履修上の留意点

各自学習計画をたてて積極的に授業に臨んでもらいたい。

成績評価の方法

中間試験、定期試験の成績によって評価する。

その他

『診療放射線技師国家試験対策全科(第5版)』(金芳堂) ¥8,500

科目名	担当者名	配当学年	単位
実験ⅢA	こやま まさき さとう まさのり はぶ たけし 昌憲 羽生 毅	短放3必	実験Ⅲ(ⅢA~ⅢD) 5

講義のねらい

放射能の測定手順・放射能測定用計測系の機能・放射線治療を念頭に置いた吸収線量測定のご概念と実測技術の基礎を把握する。

講義の内容・授業スケジュール

主として行なわれる実験題目とその概要は次の通りである。

1) 吸収線量の測定。

高エネルギー放射線による治療では人体組織に対する吸収線量の附与レベル決定がきわめて重要な因子である。ここでは⁶⁰Co線源を用いて、指頭型電離箱と樹脂ファントムの組合せによる吸収線量測定の基礎的手順を学ぶ。⁶⁰Co線源に対する照射線量率定数・指頭型電離箱の特性と使用法・線源——ファントム——電離箱の幾何学的位置関係の効果・吸収線量率値とファントム厚さとの関係などに注意する必要がある。

2) フィルムによる放射線場の測定。

計測器としてのフィルムは実時間(リアルタイム)応答の計測器では容易に得ることのできない特性を持っている。ここでは⁶⁰Co線源を使用して、照射線量分布・肺近以不均等物質での深部線量百分率補正などの実測手順を学ぶ。

3) 半導体検出器によるα線の測定。

表面障壁型半導体検出器を使用してα線による波高分布を測定する。逆方向電圧による電荷集積率・エネルギー分解能などへ与える効果、空乏層との関係を中心として学ぶ。

4) G-M計数管による線源のβ壊変率測定。

G-M計数管を検出器とする比較的簡単な測定装置を用いて線源の壊変率を求める手順と、その補正の考え方を学ぶ。

5) シングルチャンネル波高分析器によるエネルギー分布測定。

パルス波高測定の基礎的概念を把握する。

実験で取上げる項目は少ないものであるが、各々の知識が実際にはどの様に係わり、結果に影響してくるかを実感して欲しい。

参考書等

『吸収線量の標準測定法』放射線学会編

科目名	担当者名	配当学年	単位
実験ⅢB	青木 清・杉田 徹 香川 浩	短放3必	実験Ⅲ(ⅢA~ⅢD) 5

講義のねらい

自動制御に関する基礎的実験を行うことにより、放射線機器で使用されている自動制御機構についての理解を深める。

講義の内容・授業スケジュール

下記の項目について実験する。

1. フィードバック制御Ⅰ（二次遅れ要素および基本的な自動制御回路について、過度特性、定常特性、安定性、周波数特性を測定し、理論との比較を行う。）
2. フィードバック制御Ⅱ（自動電圧調整器について実験し、電圧調整特性、定常偏差、整定時間、インディシャル応等と増幅部特性との関係について調べる。）
3. シーケンス制御Ⅰ（エックス線撮影用ホトタイマの模擬装置を使用し、装置構成要素である積分器、比較器、NOR回路、ソリッドステートリレー等の特性を測定する。）
4. シーケンス制御Ⅱ（各構成要素をつなぐことによりホトタイマを組み上げ、その制御特性を種々の条件で測定する。）
5. コンピュータ制御Ⅰ（パソコンにAD変換器をつなぎ、その制御プログラムを作成する。）
6. コンピュータ制御Ⅱ（AD変換器とデジタル入出力ボードにより温度の制御を行う。）

履修上の留意点

実験の前に実験内容を予習し、必要となるグラフ用紙や電卓などを用意しておくこと。自動制御の理論については「自動制御工学」で講義する。実験の前に講義の復習もしておくこと。

成績評価の方法

実験の実施状況、実験レポート、定期試験により成績評価を行う。

教科書

『実験書（ⅠB・ⅡB・ⅡC・ⅡD・ⅢA・ⅢB）第四版』

その他

一つのテーマについての実験を3～4人のグループで実施する。

科目名	担当者名	配当学年	単位
実験ⅢC	山本 裕右・田島 隆 やまもと ひこゆき おおた ただちか 山口 彦之・大田 忠親	短放3必	実験Ⅲ(ⅢA~ⅢD) 5

講義のねらい

主として放射化学領域における実験を行う。

本実験では、2年次に学んだ「放射化学」、「放射線計測学」での知識を基に、放射性核種の製造、放射平衡、放射化学的分離法、マルチチャンネル波高分析器によるγ線スペクトル測定を行う。また、3年次で並行して学ぶ「管理学」の実践の場でもある。

講義の内容・授業スケジュール

以下の項目について実験を行う。

1. ^{99m}Tc のミルクング
 - a) コールドラン
 - b) ホットラン： ^{99}Mo の製造、溶媒抽出による ^{99m}Tc のミルクング、γ線スペクトルの測定、半減期の測定
ホットランは学外実習として立教大学原子力研究所で行う。
2. マイクロピペットの検定（重量法、吸光光度法）

履修上の留意点

非密封放射性同位元素は医学、化学、生物などの研究においてきわめて有用な情報を我々に与えてくれるものであると同時に、放射能汚染や被曝の問題など、危険な側面ももっている。従って、実験に対する準備を十分おこない、事前に実験操作、手順を理解しておくと同時に取り扱う放射性同位元素の性質を熟知しておくことが必要である。

成績評価の方法

実験レポート、試問、平常点、試験により評価する。

教科書

実験プリント。

参考書等

日本アイソトープ協会編『アイソトープ手帳』（日本アイソトープ協会）¥1,470

科目名	担当者名	配当学年	単位
実験ⅢD	<small>さかき</small> 榊 <small>とくいち</small> 徳市・ <small>かしお</small> 榎尾 <small>えいじ</small> 英次 <small>こばやし</small> 小林 <small>ひさお</small> 久夫	短放3必	実験Ⅲ(ⅢA～ⅢD) 5

講義のねらい

放射性同位元素検査技術学、放射線機器工学、医用機器工学、放射線計測学に関連の深い実験で、学科内設置の機器・装置を用いて基礎的な実験を行う。実験に先だて各実験テーマを担当する教員による、履修上に必要な実験ガイダンスを実施する。

講義の内容・授業スケジュール

- ① シンチレーションカメラの性能評価法。
固有性能を、NEMA法、放射線技術学会法等の規格に基づいた試験方法にて実験を行い、定量評価し検討する。
- ② ポジトロン核種使用による同時計測法。
PET測定法の基礎的な実験として、ポジトロン核種を用いた同時計測法の実験を行い、計測法の習得とその結果について検討する。
- ③ 超音波の各種特性の測定。
超音波診断装置を使用し、超音波が水中を伝播中に生じる反射・散乱・減衰などの特性を理解し、また装置の主要な性能を測定する。
- ④ マルチチャンネル計測法。
マルチチャンネル計測装置を使用して、未知の核種を測定し、そのデータより核種を同定すると共に、計測装置の使用法を習得する。
- ⑤ X線CT装置による画像処理。
X線CT装置を使用し、水ファントム・校正用ファントムを測定する。このデータの画像処理を行い、プロフィール・ヒストグラム表示および任意のROIのCT値を出力させる。
- ⑥ 甲状腺ヨード摂取率と甲状腺治療計画法。
mock iodine を用いての甲状腺摂取率法の実験と、コリメータの特性、¹³¹I 内用投与方法での治療計画と、投与量の算出方法と検討。

履修上の留意点

担当教員の指導により実験を行い、データを評価、検討して実験報告書を提出する。

成績評価の方法

報告書の評価と、定期試験の結果による。

教科書

各実験項目ごとにプリントを配布する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
病 院 実 習 II (前 期)	さかき 榊 とく 徳 いち 市	H 8以降入学生/短放3必	3
		H 7以前入学生/短放3必	2

講義のねらい

3学年期の病院実習も2学年期と同じ、指定規則による必須科目となっている。実習科目は、放射性同位元素検査技術学（核医学検査技術学）と、放射線治療技術学および放射線管理技術学の臨床実習である。臨床実習病院では、診療業務を実施しながら実習を指導してくれている。実習生は限られた期間内で確実な結果を得るよう積極的、意欲的に知識と技術を習得し、医療技術者としての修練と、自覚を高め、目的意識を明確に把握して、貴重な体験を将来に活かして欲しい。

講義の内容・
授業スケジュール

- ① 病院実習の内容、実習に必要な手続上の書類の説明と記入方法。
- ② 病院実習施設の説明と実習先希望調査。
- ③ 病院実習先の決定と学割定期の申請。
- ④ 実習要項（核医学系）の説明。
- ⑤ 実習要項（放射線治療系）の説明。
- ⑥ 実習のための予備知識。
非密封線源の取り扱い上の注意。
- ⑦ 非密封線源管理。実習報告書の説明。
- ⑧ 患者接遇（3学年実習関係）について。
- ⑨ 臨床実習における実習生の心得。
- ⑩ 実習病院の臨床実習指導者による実習項目と内容の説明。
 - a. 核医学インビボ検査法。
 - b. 核医学インビトロ検査法。
 - c. 放射線（深部）治療。
 - d. 放射線（表在・小密封線源）治療。
 - e. 病院における核医学診療・放射線治療での放射線管理。

成績評価の方法

病院実習先の実習指導責任者からの成績報告書を中心に、学生の提出する実習報告書の評価を参考として決定する。

教 科 書

病院実習要項と、3学年期で使用している教科書・参考書等を使用する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
医 学 英 語 (後期)	やま ぐち ひこ ゆき 山 口 彦 之	H 8以降入学生/短放2選	1
臨床放射線特論 I (後期)		H 7以前入学生/短放2選	2

講義のねらい

診療放射線技師として、医療の現場で相互のコミュニケーションに欠かせない医学用語の初歩的知識の修得を目的とする。

講義の内容・
授業スケジュール

- 上記の観点から、以下の内容について講義する。
- (i) 医学英語の成立
 - (ii) 医学英語の構成
 - (iii) 単数形と複数形
 - (iv) 同意語と反意語

履修上の留意点

英和辞典を持参のこと。

成績評価の方法

成績評価は出席状況および筆記試験によっておこなう。

教 科 書

教科書は使用しない。

科目名	担当者名	配当学年	単 位
画像処理論（後期）	かし 櫃 お 尾 えい 英 じ 次	H8以降入学生/短放3選	1
画像工学Ⅱ（後期）		H7以前入学生/短放3選	2

講義のねらい

コンピュータのハードウェアの小型化は並列処理を可能とし、大容量で高速な画像処理が可能となりつつある。それに伴いコンピュータを用いた画像処理が、今後ますます盛んになるものと思われる。

コンピュータ画像処理は、処理の柔軟性からさまざまな応用が考えられ、その重要性が高まるであろう。最近の医用画像診断機器は、ほとんどがコンピュータを内蔵し、画像処理した結果を出力している。講義では画像処理の基礎を習得することを目標とする。

講義の内容・授業スケジュール

講義の内容は次のとおり。

- 1) 画像情報処理の基礎
- 2) 画像の空間フィルタリング
- 3) 画像の直交変換とフィルタリング
- 4) 画像の表示
- 5) ファクシミリ信号処理
- 6) 画像の可逆符号化法
- 7) 画像の解析
- 8) 階調画像の解析処理
- 9) 動画画像処理
- 10) 生物の動画画像処理
- 11) 画像のパターン認識法
- 12) 画像パターン認識の実際

履修上の留意点

講義の内容は、基礎から応用まで広範囲にわたるため、基本を理解するよう努力されたい。

教科書

安居院 猛、中嶋正之共著、『画像情報処理』、森北出版（株）、定価 2,987円

科目名	担当者名	配当学年	単 位
化学特論 （後期）	やま 山 もと 本 ゆう 裕 すけ 右	H8以降入学生/短放3選	1
		H7以前入学生/短放3選	2

講義のねらい

核医学で用いられる放射性同位元素および標識化合物についての各論を学ぶ。現在、放射性医薬品として使われている放射性核種は^{99m}Tc-テクネチウムを中心として、¹³³Xe-キセノン、⁶⁷Ga-ガリウム、¹²³I、¹²⁵I、¹³¹I-ヨウ素など多種にわたる。これらの核種を利用する核医学検査技術的な面については、3年次の「放射性同位元素検査技術学」で学ぶが、本講義においては *in vivo* 放射性医薬品の体内での挙動を理解するうえで基礎となる事項を中心に解説する。

講義の内容・授業スケジュール

上記の観点から、*in vivo* 放射性医薬品として使用されている放射性同位元素を同属元素別にまとめ、以下の内容について講義する。

1. テクネチウム（発見の歴史、核的性質、化学的性質、製造法、ジェネレータ、標識化合物の性質と標識法）
2. キセノン、クリプトン（希ガス発見の歴史とその存在、化学的性質、核的性質、製造法、⁸¹Rb-^{81m}Krジェネレータ）
3. ガリウム、インジウム、タリウム（発見の歴史、化学的性質、核的性質、製造法、標識化合物の性質と標識法）
4. ヨウ素（発見の歴史、化学的性質、核的性質、製造法、標識化合物の性質と標識法）

成績評価の方法

講義中間におけるレポートと学年末試験により評価する。

教科書

教科書は使用しない。

参考書等

データブックとして日本アイソトープ協会編『アイソトープ手帳』（日本アイソトープ協会）¥1,470を使用する。講義には必ず持参すること。その他、参考書として厚生省業務局審査課編『放射性医薬品基準ハンドブック』（日本アイソトープ協会）¥2,310をもつとよい。

科目名	担当者名	配当学年	単位
応用計測学 (前期)	かし 榎 お 尾 えい 英 じ 次	H8以降入学生/短放3選	1
		H7以前入学生/短放3選	2

講義のねらい

放射線機器工学を2年次に学習し、医用機器工学を3年次に学習するが、これらの講義で含まれなかった重要な機器について行う。
医用画像診断装置を主体とするが、生体電気計測および生体磁気計測についてもそれらの基本を学ぶ。

講義の内容・
授業スケジュール

- 1) 核医学診断装置
 - 放射性核種および放射線計測の基礎
 - ガンマカメラ
 - SPECT
 - PET
 - 核医学データ処理装置およびソフトウェア
- 2) X線診断装置
 - CR (Computed Radiography)
 - DSA (Digital Subtraction Angiography)
- 3) 超音波診断装置
- 4) PACS (画像管理システム)
- 5) 生体電気計測
- 6) 生体磁気計測

履修上の留意点

あらかじめ放射線計測学および放射線機器工学を習得していること。国家試験で核医学機器関連に対応できるよう講義するので全員受講することが望ましい。他学科にあっては高校で物理を習得していることが望ましい。

成績評価の方法

定期試験および出席状況により評価する。

教科書

教材としてプリントを使用する。

科目名	担当者名	配当学年	単位
放射線学特論 (後期)	やま 山 くち 口 ひこ 彦 ゆき 之	H8以降入学生/短放3選	1
		H7以前入学生/短放3選	2

講義のねらい

医療の現場における放射線防護を実践する上で必要とされる知識を整理する。

講義の内容・
授業スケジュール

- つぎのような内容で講義する。
- (i) 放射線防護の概念
 - (ii) 放射線防護に必要な物理的基礎
 - (iii) 放射線防護に必要な生物学的基礎
 - (iv) 超音波および電磁場の影響
 - (v) 医療における患者の被曝
 - (vi) 患者防護の方法
 - (vii) 医療従事者の職業被曝と防護

履修上の留意点

概論的な講義となるが、基本的な知識の習得に努めること。

成績評価の方法

出席状況、筆記試験により、評価する。

参考書等

ICRP publication 73『医学における放射線の防護と安全』（日本アイソトープ協会）¥2,520

科目名	担当者名	配当学年	単位
放射線学基礎演習 (前期)	こやま まさき 小山 正 希	短放1選 (H8以降入学生)	1

講義のねらい

この科目の目的は、専門的な科目を学ぶ初学者に必要なとされる学習の姿勢・考え方を培い、自分なりに学習の方法論を獲得しようとする場合に役立てる所にある。

講義の内容・授業スケジュール

比較的基礎的な放射線・放射能の応用機器・放射線の種々の物質に対する効果などに関する文献・書籍の内容を題材として、それらについての最新の動向・展望を含めて、何が、どのような視点で、どのように取扱われているかを検討し、議論を加えてゆく。取上げる題材の例を掲げれば(概要)

- X線を用いた元素分析
- 放射線定量の概念
- 医療用放射線機器
- 放射線と発光効果
- 放射線と天文学

などである。これらの題材はその内容・知識を獲得することが目的ではなく、テキストを通じて、放射線の世界のどこかに好奇心の対象を見出し、それへの関心を核として学習にはずみをつけること、種々の事項を関連づけて考える姿勢を身につけることなどを目標としているのである。専門科目を受講するときに陥り易い、単なる項目的理解を超えて、概念の流れを理解し、項目それぞれの位置づけが可能な学習姿勢培養の一助としたい。

教科書

授業に使用するテキストはプリントなどの形式で配布し、参考書などは個々の問題について、その都度紹介してゆく。

その他

授業の方法はゼミ形式で行い、テキストの消化量より、討論を主として考えたい。

科目名	担当者名	配当学年	単位
放射線学基礎演習 (前期)	さかき とく いち 榊 徳 市	短放1選 (H8以降入学生)	1

講義のねらい

将来診療放射線技師として医療に従事する諸君は、これから放射線関連の多くの専門科目を履修しなければならない。そこで放射線や放射能について初歩的な知識を私達の生活、社会、歴史、文学での放射線・放射能に関連する文献より選び、具体的な事例をもとに講述する。授業は小グループによるゼミ形式で行う。

講義の内容・授業スケジュール

- ① 生活環境と放射線。
- ② 奥の細道と放射線。
- ③ 植物と放射線。
- ④ 食品中の放射性物質。
- ⑤ 核実験と放射能。
- ⑥ 食生活と人工放射能。
- ⑦ 実効線量当量とは。
- ⑧ 線量限度の考え方。
- ⑨ 海洋の放射能。
- ⑩ 病院での放射線。
- ⑪ 放射能時計。
- ⑫ 美食家のための放射線。

以上のテーマにつき前期の毎月曜日の5時限に授業する。

教科書

授業に用いる資料は、毎回プリントして配布する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
放射線学基礎演習 (前期)	すぎ杉 たくおる 杉 田 徹	短放1選 (H8以降入学生)	1

講義のねらい

新入生の諸君に一つの場を提供し、いかに学ぶべきかを教員と共に考えることを目的としている。具体的にはゼミ形式をとり授業を進めたい。

講義の内容・
授業スケジュール

専門分野のテーマにこだわらず広く問題意識が発現出来る授業としたい。

履修上の留意点

やる気のある学生の受講を望む。

教 科 書

資料は毎回配布。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
放射線学基礎演習 (前期)	た じ ま たかし 田 島 隆	短 放 1 選 (H8以降入学生)	1

講義のねらい

本科の場合、3年制であって、1年次から各専門教科目の講義、実験を学習する。これらの専門教科目では科学技術の思考方法が要求される。しかし高校ではこうした専門的な思考方法——考え方は当然身につけていない。診療放射線技師となるためには専門教科における個々の知識を学習するが、それは同時に科学技術者として科学的思考方法——ものの考え方を学習することである。その思考方法が身につけていないで知識だけを学ぶことは将来的にない知識になってしまう。そこで、この演習では科学的思考方法を身につけて貰うための時間とする。

米国の大学で使われている「一般化学」の教科書の中の「核化学」の章をテキストとして用いる。(A) その英文を逐語的に日本語に訳すことによって、日本語の教科書を読む場合に、日本語であることにより読みとばしてしまう弊害を無くし、文章の意味を正確に読みとる訓練をする。(B) 放射線、放射化学に関する専門用語を知識として持つ。(C) その文章を正確に読みとることによって科学的思考方法を学習する。在学中に多くの科学論文を読むことになるし、技師として仕事をするになれば外国語の文献を否応なく読まなければならない。また研究論文を作成、発表することにもなるであろう。平易な教科書の文章であっても、この一章を読みこなすことで、この演習は基礎として充分に役立ち、目的を達成したことになる筈である。

講義の内容・ 授業スケジュール

Nuclear Chemistry

The nucleus
Nuclear binding energy
Radio activity
Isotopes
Neutron-proton ratio
Half life
Cosmic abundance and nuclear stability
Writing equation for nuclear reactions
 γ -Decay
 α -Decay
 β -Decay
Radiation and matter
Natural radioactive series
Bombardment
Nuclear fission
Nuclear fusion
Light water reactors
Breeder reactors
Fusion reactors

全体の頁数約30頁、各小節は1～2頁である。履修する学生全員の輪読によるものとし、1回で約3頁消化する。

履修上の留意点

a) とりえず日本語にしてみよう。

平易に書かれた文章であるから、逐語訳でよいから日本語に翻訳をしてみる。そして日本語として通用する文章にする。

b) 専門用語は英語のままでもよい。

専門用語はその分野で特有な使い方をしていく場合が多いので、一般の辞書では判らぬ時がある。その場合、物理、化学の辞典を用いるが、この場合も日本語の専門用語が示されているだけで、意味が判らぬ場合があるであろう。大体はテキストの中で解説をしてあるので、そこを読めば理解できるようになっている。1年次の学力では理解できない場合もあるので、それはそのままとして文章にする。講読の時に解説をする。

c) 文章の意味を理解しよう。

とりえず日本語にしたものの、何を言っているのか判らないようでは困る。その文章の意味していることを大略でよいから把握して、説明できるようにする。

以上の3点に留意して読み進むことが必要である。この演習では英文和訳の上達することや、核化学の知識を増やすことを主目的とはしていない。科学の文章を正確に読む訓練をし、それを幾度か繰り返す事で、科学の文章に慣れる——科学的なものの考え方、思考方法が身につくようになる。

従って、つまづいても、ころんでも飽きずに、この一章を読みこなす努力をして欲しい。それによって、英文、和文にかかわらず科学の文章を正確に読み、科学的思考方法が身につくであろう。

成績評価の方法

平常点=毎時間の努力=成績

教 科 書

プリント配布
G.R.Choppin&L.R.Summerlin 著 "Chemistry" のThe Nucleus の章

参 考 書 等

英和辞典、物理学辞典、化学辞典等については第1回目のガイダンスで紹介する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
放射線学基礎演習 (前期)	なか きた つね お 男 中 北 倫 男	短 放 1 選 (H8以降入学生)	1

講義のねらい

卒業後の進路である診療放射線技師の位置付けを認識し、大学での学習に展望を持つ。

講義の内容・
授業スケジュール

先々のキャリア形成のために役立つと思われるテーマを取り上げ、共に考えて見る。

履修上の留意点

この演習を緒として、各自自習と自己啓発を発展させることを期待する。意欲ある学生の受講を望む。

教 科 書

資料は、必要に応じて随時配布する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
放射線学特別演習	おお き きよし 青 木 清	短 放 3 選	2

講義のねらい

診断用エックス線およびその散乱線の線量と線質に関する実験を行い、研究発表ができるようにする。

講義の内容・
授業スケジュール

エックス線の測定は線量計や半導体検出器を用いて行う。測定結果はパソコンにより処理し、線量当量や実効エネルギーを求める。テーマによってはパソコンによるシミュレーションも行う。これらの結果から、診断時の患者・術者の被曝線量を求めると共に、被曝低減の可能性を考える。

活動は下記のような順序で行う。実験は2～3人で一つのテーマを決めて行う。

1. 論文や報告書の講読
2. 実験テーマの設定
3. 実験の実施
4. 報告書の作成
5. 研究発表

履修上の留意点

通常の学生実験と異なり、テーマや方法が最初から決まっているものではない。それらは学生同士がお互いの議論の中から決めていくものであり、自主的な取り組みが最も大切である。

成績評価の方法

普段の活動状況、報告書、研究発表の内容から成績を評価する。試験は行わない。

教 科 書

教科書は使用しない。

参 考 書 等

テーマに即した内容の論文や報告書を使用する。

そ の 他

ゼミ形式で論文講読や討論を行うと共に、グループ単位で実験を行う。

科目名	担当者名	配当学年	単 位
放射線学特別演習	かし 櫃 尾 英 次	短放 3 選	2

講義のねらい

パソコンを利用したデータ処理に関する分野からテーマを選び、データ処理の実験を行い、研究レポートとしてまとめる。

講義の内容・授業スケジュール

ニューラルネットワークや遺伝的アルゴリズムについての基礎を学習し、これの基本的なプログラムについてパソコンを利用して実習する。

- 1) テキストおよび論文の講読
- 2) 実験テーマの選定
- 3) 実験
- 4) 研究レポートの作成
- 5) 研究発表

履修上の留意点

あらかじめ本演習についての大綱を示すので、実験テーマおよび実験計画について、全員で討議して決める。

成績評価の方法

ゼミの活動状況、研究レポートおよび研究発表を総合して評価する。

教 科 書

ゼミのテキストとして適したものを採用する予定である。

そ の 他

ゼミ形式で講読を行い、メンバー全員が参加して実験を進める。メンバーの自主的な活動を期待する。

科目名	担当者名	配当学年	単 位
放射線学特別演習	さ 佐 とう 藤 まさ 昌 のり 憲	短放 3 選	2

講義のねらい

この特別演習では、放射線線量計測に関したテーマを選び、実験を行い、論文としてまとめ、発表出来るようにする。

講義の内容・授業スケジュール

- テーマ
- 自由空気外挿電離箱の開発
 - 電離箱によるX線線量の評価
 - 電離箱によるγ線線量の評価
 - パソコンによるシミュレーション

成績評価の方法

研究論文にて評価する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
放射線学特別演習	し みず ただ よし 清 水 忠 良	短 放 3 選	2

講義のねらい

この科目はテーマを絞って、少し深く現在の話題（課題）に挑戦しようと設けられたものである。細部の技術にこだわると意外に面白い世界が開かれるのではなかろうかと思っている。担当者（清水）の得意なテーマに強く限定しないように配慮をしようと思っている。例えば最近、ウェブレット解析が話題を呼んでいる。希望者があれば挑戦しようと思っている。
 モットー：1. 「自分で考えてまず実行してみる」 2. 「議論して、次のステップに進む」
 3. 「GO TO1」

講義の内容・
授業スケジュール

1. 学生のテーマ（希望）の提案
 2. 担当者（清水）による具体的テーマの提案
 3. テーマ決定
- スケジュールの最終は12月末の発表会まで。

成績評価の方法

日頃の質疑応答、発表会での質疑応答による。

そ の 他

討論、ゼミ形式。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
放射線学特別演習	にし お せい し 西 尾 誠 示	短 放 3 選	2

講義のねらい

高品質な画像の維持・向上には、画像工学及び画像評価の知識が必要不可欠である。その基礎としてX線画像の形成過程での事象について深い知識を持つこと、及び得られた画像について、理論的な分析・評価法を習得することが望ましい。

講義の内容・
授業スケジュール

- ① 画質を左右する要因について実験
- ② 画質の物理的・視覚的評価法
- ③ 臨床写真の評価

履修上の留意点

学生個人でテーマに沿って実験を行い、発表会で結果を報告できるようにする。

成績評価の方法

研究に対する意欲、報告書の内容について評価する。

そ の 他

週1回、輪番制で臨床画像の評価検討会を行う。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
放射線学特別演習	やまもと ゆうすけ 山 本 裕 右	短 放 3 選	2

講義のねらい

放射線技術学の分野では、放射線検出のために熱ルミネセンス、輝尽発光、ラジオルミネセンス（シンチレーション）など種々の発光現象が利用されている。本演習においては、これらの発光を示す発光体材料を実際に取り扱い、新しい発光体の開発、あるいは既存の発光体について種々の特性を測定することにより、発光現象をより深く理解すると共に、得られたデータを解析、考察し、一つのレポートとしてまとめる作業を行う。

講義の内容・
授業スケジュール

学年当初に履修者と相談のうえ各自の1年間のテーマを決定する。それぞれの学生は各自のテーマについて実験を行い、学年末までにレポートをまとめる。また、得られた成果についての発表会を行う。さらに、各自のテーマとは別に、発光体関係の基礎的な文献または専門書を選び輪講を行う。

履修上の留意点

本演習を履修するにあたっては、学生各自の独自の工夫や創造性が要求される。すなわち、指示されたことを受け身で行うのではなく、各自が積極的に自分のテーマに取り組み、文献調査を行い、独自の観点からまとめる必要がある。

成績評価の方法

平常点。

2 他学部履修科目

他学部履修科目

禅学概论	(佐藤秀考)	他1
中国禅宗史	(田中良昭)	他1
日本禅宗史	(原田弘道)	他2
禅籍讲读 I	(佐藤秀孝)	他3
禅籍讲读 III	(峰岸孝哉)	他4
仏教概论	(平井俊榮)	他5
インド仏教文化史	(奈良康明)	他6
中国仏教文化史	(永井政之)	他7
日本仏教文化史	(袴谷憲昭)	他7
中国古典語初級	(石井公成)	他8
中国哲学史	(前川亨)	他8
上代文学研究 I	(小野寛)	他9
中古文学研究 I	(高橋文二)	他9
中世文学研究 I	(村上光徳)	他10
近世文学研究 I	(富士昭雄)	他10
近代文学研究 I	(畑實)	他11
演劇概论	(井上理恵)	他11
西洋思想史	(麻生建)	他12
児童文学	(山口節子)	他12
比較文学	(満谷マーガレット)	他13
編集実務	(長谷川孝)	他13
イギリス文学特講 I	(石原孝哉)	他14
イギリス文学特講 II	(高野正夫)	他14
イギリス文学特講 III	(岡崎寿一郎)	他15
イギリス文学特講 IV	(中岡洋)	他15
イギリス文学特講 V	(高松雄一)	他16
イギリス文学特講 VI	(丸小哲雄)	他17
演劇特講(イギリス・アメリカ)	(荒井良雄)	他18
アメリカ文学特講 I	(新倉俊一)	他19
アメリカ文学特講 III	(足田和人)	他19
時事英語	(サンダース, L. P.)	他20
現代地理学特論	(長谷川均)	他20
地形学	(小池一之)	他21
人口地理学	(中川聡史)	他21
応用地理学	(高木正博)	他22
文化地理学	(竹内啓一)	他23
地理思想史	(竹内啓一)	他24
日本仏教史 II	(休講)	
日本史特講 VII	[近代](佐藤元英)	他25
東洋史特講 X	[近・現代](趙軍)	他26
西洋文化史 I	(休講)	
考古学特講 III	(矢野和之)	他27
歴史哲学	(麻生建)	他28
哲学史	(山口祐弘)	他28
日本民俗学	(谷口貢)	他29

マス・コミュニケーション論	(川本勝)	他30
産業・職業社会学	(安藤喜久雄)	他30
社会福祉発達史	(林千代)	他31
ロシア・東欧経済論	(山縣弘志)	他32
社会政策	(光岡博美)	他33
国民所得論	(吉野紀)	他34
中国経済論	(小杉修二)	他35
アジア経済論	(郭洋春)	他36
日本経済史	(古庄正)	他37
中小企業論	(和田耕治)	他38
教育経済論	(谷敷正光)	他39
アメリカ経済論	(瀬戸岡紘)	他40
日本経済論	(森武麿)	他42
財務會計論	(遠藤孝)	他43
管理會計論	(中原章吉)	他44
銀行監査論	(齊藤正)	他45
商業政策論	(飯岡透)	他46
貿易論	(岩下弘)	他47
マーケティング	(古沢紘造)	他48
マザーケティン	(曾我信孝)	他49
原価計算論	(加藤利安)	他50
労務管理論	(石井脩二)	他51
行営管理法	(百田義治)	他52
親族統制法	(齊藤寿)	他53
比較憲法	(竹中智香)	他54
西洋法制史	(竹中智香)	他54
英米憲法	(岡田外司博)	他55
比較憲法	(休講)	
地方自治法	(休講)	
ヨーロッパ政治史	(石井三記)	他56
国際政治学	(金原恭子)	他57
議会比较政治学	(休講)	
国際経営論	(梅木崇)	他57
経営統制論	(浦田早苗)	他58
保険経営論	(小堀訓男)	他58
財務會計論	(前田英昭)	他59
稅務會計論	(三竹直哉)	他60
商業情報論	(茂垣広志)	他61
経営情報論	(張国強)	他62
経営分析論	(石名坂邦昭)	他63
上代文学講読	(渡邊惠一郎)	他64
中代文学講読	(高木克己)	他65
	(山田勝)	他66
	(高井徹雄)	他67
	(西村和夫)	他68
	(休講)	
	(片桐伸夫)	他69
	(佐原美)	他70
	(鈴木裕子)	他70

中世文学	講読	(藺部幹生)	他 71
近世文学	講読	(菅野一雄)	他 71
近代文学	講読	(井上優)	他 72
現代文学	講読	(小林治)	他 73
時事英語	語	(岡本誠)	他 74
英語演習 I		(岡本誠)	他 75
〔ディクテーション〕				
応用計測学		(櫃尾英次)	他 76

科目名	担当者名	配当学科	単 位
禅学概論	佐藤秀孝	国文・英米文・地理・歴史 社会・福祉・心理・経済 商・経営・短国・短英	4

講義のねらい

禅学とは禅に関する学である。禅（禅那）という修行法はインドに発生し、仏教に取り入れられ、中国や朝鮮さらに日本など広範に展開したものである。一概には規定できないが、この講義では禅と禅宗に関する基本的な知識を歴史面と思想面から概説し、あわせてそれら禅学研究のあり方について触れるものである。禅宗は仏教の中でもっとも実践的な宗派であり、中国・日本の歴史と文化に大きな足跡を記し、今日においては国際的関心も高い。この禅を学問的に考察せんとするのが禅学であり、本講義はその概論・概説にほかならない。はじめにインド仏教における禅（禪定）について触れ、さらに禅の歴史的考察として、菩提達磨に始まる中国禅（禅宗）の基本的な歴史（禅宗史）を禅思想の展開を踏まえつつ概観し、また日本の禅宗にも及びたい。さらに思想面としては、禅の立場、禅の人間観・修行観、禅の生活さらに禅と文化、禅の今日的課題（本覚思想・見性の問題）など、およそ禅に関する諸方面からの概説的考察をなしたい。そして、これらに並行して禅学に関するそれぞれの分野における研究方法や基本的な資料などについても解説するつもりである。

教科書

教科書はとくに指定しないで、その都度、諸資料をコピーなどで配布する。

参考書等

参考書としては駒澤大学仏教学研究室編『宗教学Ⅱ』（更生社）や田中良昭編『禅学研究入門』（大東出版）が有効であろう。

その他

授業方法としては原則として講義方式で行なう。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
中国禅宗史	田中良昭	国文・英米文・地理・歴史 社会・福祉・心理・経済 商・経営・短国・短英	4

講義のねらい

本講座は、中国の禅宗の歴史を考察するものである。仏教の実践道とされた禅が中国に伝来し、菩提達磨を初祖とする系統がやがて中国禅宗を形成し、更にそれが独自の展開を果たし、後にチベット、韓国、日本へと伝承された。この中国禅の歴史的展開を、近年出現した敦煌資料を活用しながら検討する。

講義の内容・授業スケジュール

菩提達磨の渡来以前の仏教における禅の状況を序説的に第Ⅰ部とし、達磨の渡来による独特の禅法の開示から、馬祖の洪州宗、石頭の石頭宗によって禅宗が一宗として確立された中国禅宗の成立を第Ⅱ部とし、禅宗が五家七宗として各々その特性を発揮する唐末・五代から、日本の禅宗の元となった宋朝の禅、更に元代以後の禅という中国禅宗の展開を第Ⅲ部として全体を体系化する。

履修上の留意点

中国・日本の禅学や曹洞宗学を学ぼうとする学生諸君には、その基礎的な知識として歴史的な禅の流れを確かなものにしておくことが、その後の学習にとって最善の方法であると確信している。

成績評価の方法

成績評価の方法としては、学年末試験を中心とするが、平常の授業への出席を重視し、その結果を加味して評価する。

教科書

教科書としては、現在適当なものが存在しないので、ノートを使用する。

参考書等

参考書としては、比較的理解しやすいものに、〈講座禅〉第3巻『禅の歴史——中国——』中の柳田聖山稿『中国禅宗史』があるが、入手困難のため図書館を利用されたい。専門書としては、関口真大『禅宗思想史』、柳田聖山『初期禅宗史書の研究』、田中良昭『敦煌禅宗文献の研究』、篠原壽雄・田中良昭編『敦煌仏典と禅』、鈴木哲雄『唐五代禅宗史』、石井修道『宋代禅宗史の研究』等が代表的なものである。

その他

授業の方法は講義であり、ノートを使用し、必要に応じて資料を配布し、内容についての説明を可能な限り詳細に加えていきたい。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
日 本 禪 宗 史	はら だ ひろ みち 原 田 弘 道	国文・英文文・地理・歴史 社会・福祉・心理・経済 商・経営・短国・短英	4

講義のねらい

- 我国に伝来した禅はその主流となって、類型を異にするものが五つあったと考えられる。
- I. 米西・聖一・法燈等の流派であり、教禅兼修の家風である兼修禅 —— 教乘禅的性格をもったもの。
 - II. 蘭溪・祖元等の来朝した中国僧によって伝えられた鎌倉禅であり、これは禅林の清規によって祖師禅を挙揚した。
 - III. わが国の南浦紹明（大応国師）が入宋求法して松源一派の禅を伝え、純一無雜に祖師禅を挙揚し、大応・大燈・関山の三代に亘って基盤を築いた応燈関の一流である。
 - IV. これらの臨濟禅とは別に道元によって伝来され、瑩山に至って、宗団として形成され、その門流によって展開された曹洞禅である。
 - V. 江戸時代に隠元によって伝えられた明朝禅 —— 念仏禅 —— である。
- 講義ではこれらを中心にして日本禅宗の歴史を考察する。内容は伝来・受容、発展の実態とその思想的意義も明らかにしておく。

講義の内容・授業スケジュール

1. 禅宗の伝来（奈良・平安時代）
2. 兼修禅の勃興とその系譜
3. 曹洞禅の伝来と原始僧団
4. 臨濟禅の伝来と形成
5. 五山の成立と五山文学
6. 臨濟禅（応・燈・関）の展開
7. 曹洞禅の地方展開
8. 近世の禅宗
9. 近代の禅宗

履修上の留意点

禅の教理、思想の理解、日本史の一般的知識の習得をしておくこと。

成績評価の方法

平常点（出席）と試験による総合評価。

参 考 書 等

『禅の歴史 — 日本 —』（講座禅第四巻）、鈴木泰山『禅宗の地方発展』
荻須純道『中世日本禅宗史』

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
禅 籍 講 読 I	さ とう しゅう こう 佐 藤 秀 孝	国文・英米文・地理・歴史 社会・福祉・心理・経済 商・経営・短国・短英	4

講義のねらい

この講義は中国禅宗でも初期の禅籍（禅宗文献）を講読するものである。中国禅宗は南北朝期（梁・北魏）の渡来僧菩提達磨（達摩とも）に始まり、唐・宋代に開花・隆盛しているが、ここで初期の禅籍というのはとくに唐末五代以前に成立したものをその対象としている。はじめに初期禅宗から南北二宗の対峙、洪州宗から五家（沩仰・臨済・曹洞・雲門・法眼の五宗）の成立頃までの中国禅の思想的展開を主要な禅籍を通して概観する。とりわけ、20世紀初頭に中国西部の敦煌から出土した敦煌写本の禅籍や、同じく朝鮮半島の海印寺から発見された『祖堂集』などは、初期の禅宗の歴史と思想の実態を知る上で絶大な影響を及ぼしていることから、そうした近年の研究成果を踏まえて禅籍の成立・流伝の歴史的な背景を考察したい。その後に当該の禅籍のいくつかを講読し、祖師たちの示した教えが如何なるものであったのかを明らかにしていく。対象となる禅籍としては、『二入四行論』『無心論』『絶観論』『六祖壇経』『証道歌』『参同契』『宝鏡三昧』などであり、さらに『祖堂集』などから特徴的な祖師の事跡を学んでみたい。初期の禅籍は禅の思想のもっとも基本となるものの考え方が確立されていく時期に著されたものであり、その後展開した禅思想もすべてこれを踏まえているといっていよい。その面では初期の禅籍を読解することこそ、禅を理解する上での鍵となるものであろう。

教 科 書

教科書はとくに指定しないで、その都度、資料をコピーにて配布するものとする。

参 考 書 等

参考書としては、『禅の語録』（筑摩書房）のシリーズ、『禅語録』（中央公論社・世界の名著）や『禅家語録』I・II（筑摩書房）などがある。

そ の 他

授業の方法としては、前半の初期禅籍の紹介・研究は講義形式で行うのを原則とするが、後半の禅籍の講読では学生諸氏にも具体的に初期禅宗の禅籍を逐一読んで頂くので、そのつもりで臨んでもらいたい。禅籍に対する読解力が深まるよう指導したい。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
禅 籍 講 読 III	みね かし こう さい 峰 岸 孝 哉	国文・英米文・地理・歴史 社会・福祉・心理・経済 商・経営・短国・短英	4

講義のねらい

『道元禅師語録』を読む

本書は宗門では『永平元禅師語録』、または単に『永平略録』と呼ばれてきたものである。これを上記のように『道元禅師語録』と改称して刊行したのは、大久保道舟博士が最初とされる。

本書は『永平元禅師語録』として延文3年(1358年)、永平寺六世曇希によって開版されたが、江戸時代にいたるまで幾度か版を重ねていることが確認されるから、宗門でも広く読まれてきたとみることができよう。

本書の原典となったのは、永平道元(1200年～53年)が開堂した興聖寺・大仏寺・永平寺における上堂語を中心をなす『永平広録』十巻が考えられるが、本書の成立についてはまだ不明な点も多いとしなければならない。なぜならば曇希が刊行したのは、天童如浄の会下において、永平道元と同門であった無外義遠の手によって抄録された『永平広録』と考えられるからである。

このように本書の成立、その歴史的 성격、および宗門教学に対する影響等々、今後吟味されるべき課題は多く残されているが、こうした課題に対して、本文の精読を通じて考えたいというのが本講の目的である。

講義の内容・授業スケジュール

講義のねらいの記述にみられるように本書の成立は、無外義遠の独自の編成と考えられるから、その背景となった当時の南宋禅の歴史的 성격と、道元禅についての説明を数回にわたって試みる。次に上堂語を順次読み進める。

履修上の留意点

テキストの本文は漢文で独自の禅語録、つまり上堂語であるので予習・復習はぜひ必要である。

成績評価の方法

後期の定期試験で成績は評価する。

教 科 書

大久保道舟訳註『道元禅師語録』岩波文庫 岩波書店 ¥520

参 考 書 等

鏡島元隆著『道元禅師語録』講談社学術文庫 ¥700
酒井得元『道元禅師全集』第5巻、『永平元禅師語録』春秋社 ¥4,120

そ の 他

講義の内容・授業スケジュールについては担当者が行い、他は輪読形式としたい。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
仏 教 概 論	ひら い しゅん せい 平 井 俊 榮	英米文・地理・歴史 社会・福祉・心理・経済 商・経営・短国・短英	4

講義のねらい

仏教について基本的な教理を中心に概説する。

講義の内容・
授業スケジュール

次の大綱にしたがって授業をすすめる。

- 序 章 仏教とは何か
- 第1章 仏陀の生涯
- 第2章 仏の本質
- 第3章 法——仏教の真理観——
- 第4章 一切法——法の分類——
- 第5章 輪廻と業の煩惱
- 第6章 悟りへの道
- 第7章 心——実践の主体
- 第8章 修行者の理想像
- 第9章 戒律と教団の組織
- 第10章 仏教の歴史

履修上の留意点

出欠は毎時限採る

成績評価の方法

期末筆記試験の成績により評価

教 科 書

高崎直道著『仏教入門』東京大学出版会 1,600円（変更あるやも知れず）

参 考 書 等

平川彰著『三国仏教通史』春秋社 2,575円

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
インド仏教文化史	な ら やす あき 奈 良 康 明	国文・英文・地理・歴史 社会・福祉・心理・経済 商・経営・短国・短英	4

講義のねらい

インド仏教を「教理」としてではなく、「文化」としてとらえて、検討したい。ここに「文化」とは生活様式、行動様式としての文化であり、「仏教徒」という社会を構成する人々（出家修行者および在家信者を含む）が、事実として、何を考え、どのように生活していたかをさぐる。したがって、悟りのレヴェルにある修行や教理、悟りに基づく倫理的生き方などは、無論、仏教である。同時に、功德を積んで良き後生を願う観念や行動、六道輪廻の理解、通過儀礼、祖先崇拝、呪術、祈願儀礼、占星等も仏教徒の生活「文化」である。両者は宗教的レヴェルと機能を異にするが故に、相互補完の形で共存し、その共存のあり方が興味ある研究対象である。又、インド仏教（徒）はそれを生み、育てたヒンドゥー世界とどうかかわり、如何に位置づけられるか、も興味ある研究テーマである。資料は梵語、パーリ（そして漢訳）語の経・律典と碑文、考古学的遺品等が中心となる。文献学的操作を経て得られた結果は、当時の仏教徒の現実の生活文化と、教学が主張するところとは大きなギャップのあることを示しているし、この構造は中国、韓国、日本ないし東南アジアのテラヴァーダの仏教文化でも同様である。そして、このギャップこそが仏教（宗教）教団の社会への定着・発展のダイナミズムとしてとらえられるべきものである。以上の問題意識のもとに平成10年度は、おおよそ次のテーマにしたがって講義したい。

講義の内容・授業スケジュール

1. 仏教を「文化」としてとらえるとはどういうことか。
「仏教」をどうとらえるか
「文化」とは何か；
仏教（宗教）の二つのレヴェル；「世間」（自我充足）と出世間（自己凝視）
仏教文化の「表層」と「基層」
仏教文化研究の方法論；M. Spiro, M. Ames, 他
2. 古代インドにおける仏教文化とヒンドゥー文化。
民族宗教としてのヒンドゥー教（世界）
ヒンドゥー教の特徴：神観念・宗派・特定の教義のないこと・ダルマ
カースト・ヴァルナ制度と仏教
古代インドの仏教徒とヒンドゥー教徒の関係（特にカーストをめぐって）
3. 仏教文化における業・輪廻思想の意味。
古代インドにおける業・輪廻思想の成立
業思想の構造と機能（含む 死後世界の構造と機能）
一般的業論の「自覚的業論」への昇華
懺悔の思想と実践
業と果報の関係
業の止滅と改変
4. 功德観念の文化史的発展。
善業と功德（punya）・悪業と悪徳（papa）
「作功德→生天」の図式の倫理的・宗教的意味
功德観念の「出世間レヴェル」への関係付けない昇華
功德の廻向（adesana）と廻向（parinamana）
死者儀礼・祖先崇拝儀礼における功德観念
「生天」観念の発展と解脱の関係
5. 「餓鬼」（preta）研究。
ヒンドゥー教におけるプレータと祖霊祭
古代インド仏典にみる「餓鬼世界」の住人としての餓鬼
古代インド仏典にみる死者儀礼と関わる餓鬼
『ベータヴァットゥ』『ヴィマーナヴァットゥ』における餓鬼供養の構造と意味
テラヴァーダ仏教における餓鬼観念の変遷と儀礼
中国、日本における餓鬼供養の構造と変遷

科目名	担当者名	配当学科	単位
中国仏教文化史	なが い まさ し 永 井 政 之	国文・英文文・地理・歴史 社会・福祉・心理・経済 商・経営・短国・短英	4

講義のねらい

今年度は中国人であるなら誰でも知っている年中行事の——を中心に、中国の仏教者、特に禅僧が、それらの風俗をどのように捉えていったかを考える。

言うまでもなく、「風俗」の大半は仏教が創出したものではない。むしろ「出家者」は、民間の行事とは無縁な存在であるべきであった。しかし叢林運営・教育という現実、必ずしも理念通りにあるわけではない。教育者たる禅僧・住持は、理想と現実のハザ間で、彼我をいかに弁別するかに苦心のあとを見せる。中国の歳時記を見つつ、行事の内容を具体的に考え、またそれに対する禅僧の発言を『如浄録』『虚堂録』を中心に紹介していく。

講義の内容・授業スケジュール

年初から年末まで、中国の主たる年中行事を追いながら、仏教者がどのように対応したかを考える。

参考書等

中村喬『中国の年中行事』平凡社選書
同氏『続中国の年中行事』同上
同氏『中国歳時史の研究』朋友書店

科目名	担当者名	配当学科	単位
日本仏教文化史	はかま や のり あき 袴 谷 憲 昭	国文・英文文・地理・歴史 社会・福祉・心理・経済 商・経営・短国・短英	4

講義のねらい

この授業は、「日本仏教文化史 (Cultural History of Buddhism in Japan)」であるが、私は、「仏教思想」を知らずしては、「仏教文化」を正確に理解することはできないとの立場を取っている。原則的なことをいえば、「仏教思想」に関心をもっている方にむしろ参加して頂きたい。しかも、できれば、講義形式を取りたくないと考えているので、少人数の方がよい。

講義の内容・授業スケジュール

この授業の中心は、昭和12年に文部省より刊行された『国体の本義』を読むことに置く。「思想」的にいえば、本書ほど非仏教的なものそれほど多くはないと思うが、本書を慎重に読むことによって、我々現在の日本人も、本書に説かれているような考えを、知らず識らずのうちにいかに我が国の「仏教文化」の中核のごとく考えているかを思い知るであろう。しかも、このような考え方が、例えば、吉本隆明・梅原猛・中沢新一『日本人は思想したか』(新潮社1995年)のごとく、一人前に日本人の「思想」を語ろうとしている出版物にすら歴然とした痕跡を残しているのである。『国体の本義』は、「我が国の文化は、驛国以来の大精神の顕現である。これを豊富にし発展せしめるために外来文化を摂取醇化して来た。」(114頁)という「文化史」観に立つが、土俗信仰温存の立場からいえばかかる史観も成り立ちうるかもしれないが、仏教の「思想」から見ればそうはならないことを丁寧に指摘していきたいと思っている。この授業は、一昨年度よりの統講であるが、本年度は、『国体の本義』第二「国史に於ける国体の顕現」より講読する。なお、本年度は、下記の家永三郎博士の著作も教科書として採用するので用意されたい。

履修上の留意点

演習形式を取る。自分で調べて発表する意欲のないものは決して参加してはならない。

成績評価の方法

できればレポートによって評価したいと願っている。

教科書

『国体の本義』は図書館に多数所蔵されているので借り出すかコピーするがして授業には必ず持参してもらいたい。

家永三郎『日本文化史』第二版(岩波新書) ¥660

参考書等

参考書は適宜指示する。

その他

授業方法は、上述したごとく、演習形式で行う。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
中国古典語初級	いし 石 井 公 成	国文・英米文・地理・歴史 社会・福祉・心理・経済 商・経営・短国・短英	4

- 講義のねらい** 漢文読解の基本的な力と、中国思想の基本的な知識を身につけることを目的とする。
- 講義の内容・授業スケジュール** 基本的な文法から始め、中国仏教に大きな影響を及ぼした『老子』『莊子』『易経』およびそれらの注釈を読む。
- 履修上の留意点** 口頭での訓読、現代語訳、訓読からの漢文の復原など、学生諸君に作業を課しながら講読してゆくため、予習が必要である。
- 成績評価の方法** 試験を行うが、授業中に上記の作業をよく担当している者については、平常点を加算する。
- 教科書** 教科書は使用せず、コピーを配布する。
- 参考書等** 辞書・参考書などについては教場で指示する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
中国哲学史	まえ 前 川 とおる 亨	国文・英米文・地理・歴史 社会・福祉・心理・経済 商・経営・短国・短英	4

- 講義のねらい** 中国の思想史の特色を明らかにし、その展開の過程を跡付けることを目的とする。中国思想の全体像を概観した後、古代から現代に至るまでの思想を具体的にとりあげていく。中心になるのは儒教・仏教・道教のいわゆる三教であり、これに近代以降の西洋思想などもかかわることになる。この講義では狭義の「哲学」史ではなく、より広く中国人の思考様式を探る「思想」史を目指したいと思う。その際、東アジア世界における中国思想という視野を失わないように心掛けたい。思想史を学ぶ場合には、対象に対する「評価」は一応括弧に入れて、対象を「理解」しようとする謙虚な姿勢が必要である。この講義は、個々人が中国の思想・宗教・文化などについて考えるための手掛かりを提供するものである。現実生活と縁遠いものに思われがちな「思想」の世界がいかに現実の人間と強く関連しているかを、ともに学んでいきたい。
- 履修上の留意点** 講義では漢文資料を多く用いるので、古典中国語や現代中国語に初歩的な知識をもっていること（もしくは、持とうという意欲を持っていること）が望ましいが、内容自体はそうした知識なしでも理解可能であろう。むしろ、中国の思想・宗教・文化・社会など様々な分野に関心をもっている諸君の積極的な参加を期待したい。
- 成績評価の方法** 前期・後期それぞれのレポートを予定している。
- 教科書** 特に必要としない。
- 参考書等** 授業中に適宜紹介する。
- その他** できるだけ多方面の情報を提供するため、授業は講義の形式をとるが、その欠陥を補う何らかの方法も考慮したい。

科目名	担当者名	配当学科	単位
上代文学研究 I	おの野 寛 <small>ひろし</small>	禅・仏教・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短大	4

講義のねらい

今年度は万葉集巻三から、上代文学の特質を考える。

講義の内容・
授業スケジュール

万葉集巻二の挽歌の部から、名作・問題作を選び、その作品について原文の検討、その訓みの確定、語句の研究、ことばの原義・語法、歴史的・社会的・地理的背景を詳細に調べる。授業は全面的講義方式による。毎時出欠をとる。

履修上の留意点

講義はその都度、新しく調査研究してまとめてゆくものだから、必ず出席して、ひたすらノートをとること。講義でわからないことはそのままにせず、チェックし、メモして、自分で調べてみる。質問も歓迎。

成績評価の方法

学年末の筆記試験（持込一切なし）によって評価する。

教科書

小野寛著『新選万葉集抄』（笠間書院刊）¥1,600

科目名	担当者名	配当学科	単位
中古文学研究 I	たか高 橋 文 二 <small>ぶんじ</small>	禅・仏教・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短大・短英	4

講義のねらい

平安朝の女流文学作品の中に表れた人間観、宗教観、自然観の意味するところを問い尋ね、その文学世界の特質を考える。

履修上の留意点

講義の該当箇所を予習し、そこに出てきている作品の原文を確認しておくことが望ましい。

成績評価の方法

出席の状況、夏休みの課題レポートの提出、期末テストの成績で評価する。

教科書

『王朝まどろみ論』（笠間書院）¥2,000

参考書等

講義時間内に紹介する。

科目名	担当者名	配当学科	単位
中世文学研究 I	むら 村上 かつ 光 徳	禅・仏教・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短大	4

講義のねらい

長明の『無名抄』を読み、長明の和歌に対する考え方や、当時の和歌について考察すること。
また『幽玄』について検討する。

講義の内容・
授業スケジュール

『無名抄』を諸本の本文の違いなど注意しながらいねいに講読する。

成績評価の方法

出席点と定期試験で評価

教科書

『方丈記・無名抄』双文社出版

科目名	担当者名	配当学科	単位
近世文学研究 I	ふ じ あき お 富 士 昭 雄	禅・仏教・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短大	4

講義のねらい

蕉風俳諧の代表的俳論書『去来抄』の講読を通して、蕉風俳諧の特質を考察する。

講義の内容・
授業スケジュール

『去来抄』は「先師評」「同門評」「故実」「修行」の四部から成る。「先師評」は発句や連句を詠む心得を説く、今は亡き芭蕉の評言を収め、「同門評」は去来を始め其角・許六ら同門人の評言を収載する。「故実」は俳諧の故実・法式に関する去来と卯七・魯町ら身内の者との問答を収め、「修行」は不易流行の説や、蕉風俳諧の理念「さび」などに関する芭蕉らの見解を収録する。これらの精読を通して蕉風俳諧の特質について理解を深める。

成績評価の方法

学年末の定期試験で評価するが、出席状況も考慮に入れる。

教科書

山下一海編『去来抄』おうふう（桜楓社）

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
近代文学研究 I	はた 焔 みのる 實	禅・仏教・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短大	4

講義のねらい

明治三十年代の文学
明治三十年代はいろいろな傾向の小説や評論が出た。そのうち前年度は政治や社会問題に関心を向けた社会小説や政治小説を扱ったが、今年度は西欧の自然主義の影響を受けた写実主義文学の動向を考察し、その特色、意義、限界などをあきらかにしていくことを目的とする。

講義の内容・授業スケジュール

前後期とも講義を中心とするが、必要に応じて小説や評論の全部ないしは一部を読むことを考えている。

成績評価の方法

学年末に試験を行い出席状況等を考慮しながら総合的に評価する。

教 科 書

プリントを配布する。

参 考 書 等

授業時に随時指示する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
演 劇 概 論	い の 井 上 理 恵	禅・仏教・英米文・地理 社会・福祉・心理 経済・商・経営・短英	4

講義のねらい

演劇とは何か、演劇学とは何か、について西洋及び日本のこれまでの演劇論を検討しながら考えていく。特に戯曲と演出、俳優、演技の関係、文学と演劇の間に横たわる深く広い大河をいかように収斂すればいいのかについて考察する。

講義の内容・授業スケジュール

演劇史、ドラマトウロジー論、演劇理論史など、ギリシャからフランス、イギリス、ドイツ、そして日本の状況等について比較検討しながら触れることになる。ソポクレス「オイデプス」近代戯曲の父といわれるイブセン「人形の家」「幽霊」等も検討したいと考えている。

履修上の留意点

個別な日本の戯曲を検討する時間はないので個別研究を学びたい者は国文学特講Xを同時に受講されることが望ましい。また、実際の舞台を見にいて討論をする予定であるから本講座を受講する者は劇場に足を運ぶことを条件としたい。(観劇料3,500~4,500円)

成績評価の方法

成績評価はレポート(二回、観劇批評含む)とテスト、出席率による。

教 科 書

毛利三一彌編『東西演劇の比較』放送大学教育振興会

参 考 書 等

参考書は特に指定しないが、出来るかぎり戯曲を読み、舞台を見ることである。

そ の 他

講義形式ではあるが、ビデオ視聴や観劇後に討論をする予定である。

科目名	担当者名	配当学科	単位
西洋思想史	あ 麻 生 けん 建	禅・仏教・英米文・地理 社会・福祉・心理・経済 商・経営・短国・短英	4

講義のねらい

ヨーロッパ人の基本的なものの考え方、さらに思想史という形で何が形成され、求められてきたかを、できるだけ日本との比較の視点から明らかにする。

講義の内容・授業スケジュール

特に言語の問題に焦点を当て、教科書に基づきながら説き明かし、その背景をも考察する。

履修上の留意点

教科書は毎回持参すること。問題を自分なりに整理し直すため、ノートをとることを勧める。講義は連続しているので、可能なかぎり続けて出席するよう努力すること。

成績評価の方法

学年末の試験による。教科書に記述されていることのみが講義の内容ではないから、その都度の講義に留意すること。

教科書

麻生建著『ドイツ言語哲学の諸相』東京大学出版会 ￥3,502

参考書等

特になし。必要な場合は授業中に指示する。

その他

講義。

科目名	担当者名	配当学科	単位
児童文学	やま ぐち さつ こ 山 口 節 子	禅・仏教・英米文・地理 社会・福祉・心理 経済・商・経営・短英	4

講義のねらい

子どもの発見に始まる日本児童文学の流れの中で、リアリズム作品、ファンタジー作品がそれぞれどう描かれてきたかを、具体的作品を通して理解する。特に宮沢賢治の日本的ファンタジー作品については、作品の底を流れる賢治童話のフィロソフィーを共に考え合う。また、ファンタジー作品が今日的状況をのり超える力をもつことを、M.エンデの『モモ』やルグインの『ゲド戦記』などの海外児童文学も含めて読み解く。

講義の内容・授業スケジュール

日本児童文学の成立と展開を年代を追ってリアリズム、ファンタジー作品ごとにとりあげる。今日の現代児童文学の状況と新しい潮流について、作家・作品を具体的にとりあげながら児童文学の流れとこれからの展望を考察する。賢治作品については、人間とは何か、真実とは何か、生きるとは何かといった人間の本質を、作品を通して共に考え合い、生きる力を得る授業としたい。海外児童文学では、テーマ、モチーフ、全体の構成を理解し、ファンタジーのもつ力とは何かに迫る。

履修上の留意点

授業でとりあげる作品は事前に予告するので、必ず読んで授業に臨んでいただきたい。

成績評価の方法

成績評価は、前・後期2回のレポートによる。出席状況や授業態度も考慮に入れる。

教科書

授業の際に、事前に紹介する。

参考書等

授業の進行に併せて関連図書を紹介する。

その他

講義を中心に、ビデオなども用いる。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
比 較 文 学	みつたに 満谷マーガレット	禅・仏教・英米文・地理 社会・福祉・心理・経済 商・経営・短国・短英	4

講義のねらい

この授業で、日本と欧米の相互イメージを探ってみたい。

講義の内容・授業スケジュール

前期では、〈ゲイシャ〉と〈サムライ〉を基本にした欧米における日本のイメージがどのようにして形成されたかを探る。一つの出発点として、日露戦争の頃にできたブッチャーのオペラ『マダム・バタフライ』を詳しく検討するが、ピエール・ロチの『お菊さん』（明治20年）やラフカディオ・ハーンの著作も参考になる。『マダム・バタフライ』のイメージが微妙に変容しながら現在に至るまでに、欧米の小説や大衆文化にどのように生き続けてきたかをまずみてみる。後期では逆に、日本における欧米人、あるいはアジア人のイメージを日本文学を通して探ってみたい。

成績評価の方法

前期後期一回づつレポートを提出してもらう。学生に発表してもらうこともある。

教 科 書

前期は、決まった教科書はない。

後期では、次の作品を読む：谷崎潤一郎『痴人の愛』新潮文庫
遠藤周作『アデンまで』（『白い人、黄色い人』講談社文芸文庫）
小島信夫『アメリカン・スクール』新潮文庫
大江健三郎『飼育』新潮文庫
村上龍『ニューヨーク・シティー・マラソン』（集英社文庫）
山田詠美『ベッドタイムアイズ』新潮文庫

参 考 書 等

参考になる本：エドワード・サイード『オリエンタリズム』平凡社
佐々木英昭編『異文化への視線』名古屋大学出版会

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
編 集 実 務	はせがわ 長谷川 孝	禅・仏教・英米文・地理 社会・福祉・心理 経済・商・経営・短英	4

講義のねらい

編集とは、「だれかに——何かを——伝える」という過程に携わる仕事です。つまり「何か」に気づき、その中の意味をとりたて、表現の形を与えて、受け手に引き渡していく、一連の過程が編集という仕事です。そこでは、ものごとの何に目をつけ、何を読みとるのかという「視点（目のつけどころ）」が問われます。この授業では、書籍・新聞・雑誌など印刷媒体の編集を中心に、企画・取材・原稿の整理やレイアウト、原稿づくりなどの、「どう」伝えるのかに必要な知識・技能とともに、「何を・なぜ」伝えるのかを主要なテーマとして考えながら、「自分の視点」を育てることを目指したいと思っています。

「だれかに——何かを——伝える」という過程は本来、日常生活や仕事の中でだれもが行っていることでもありますから、編集について考えることは実は、一人ひとりが何をどのように読みとり、どのように伝えて生きているかを考えることだ、とも言えます。現在の情報社会は、多様な情報を主体的に選択し活用できる「よき受信人」であるだけでなく、一人ひとりが情報の発信人になるよう求められていると言われます。こうした観点からも、編集を考えてみることであれば、と思います。個人紙（誌）づくりの課題には、こうしたねらいもあります。

成績評価の方法

B4判2つ折り4ページの個人紙（誌）を課題作品として提出してもらいます。

教 科 書

教科書は使いません。（随時、プリントを使用）

参 考 書 等

『新聞をつくらう』（長谷川孝編著 さ・え・ら書房 ¥1,236）を随時、参考にします。

科目名	担当者名	配当学科	単位
イギリス文学特講 I	いし 原 孝 哉 石 原 孝 哉	禅・仏教・国文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短大	4

講義のねらい

シェイクスピアを中心にルネッサンス期のイギリス文学を、広くヨーロッパ文学の流れの中で講じる。ノースロップ・フライの批評理論を軸に、他の方法も必要に応じて取り入れながら幅広く論じる。

講義の内容・授業スケジュール

主としてとりあげる内容は：①神話と文学 ②文学の源流 ③詩・民話・劇 ④ルネッサンスと新学問 ⑤トマス・モアと新しい流れ ⑥エドモンド・スペンサーと『妖精の女王』 ⑦クリストファー・マロウとヒューマニズム ⑧ウィリアム・シェイクスピアの世界 ⑨獄中作家ジョン・パニャン ⑩ミルトンの世界 ⑪文学とイギリスの文化

履修上の留意点

完全な講義形式で行なうので予習は必要ないが、トマス・モア、エドモンド・スペンサー、クリストファー・マロウ、ウィリアム・シェイクスピア、ジョン・パニャン、ジョン・ミルトンなどの主要作品を、読んでいることが前提となる。このため3・4年生の受講を希望する。

成績評価の方法

成績はレポート、期末試験で評価する。

教科書

『ノースロップ・フライのシェイクスピア講義』 三修社 ¥3,800

参考書等

『同一性の寓話』 法政大学出版局、『シェイクスピア喜劇とロマンスの発展』 三修社、その他教場にて指示。

科目名	担当者名	配当学科	単位
イギリス文学特講 II	たか の まさ お 高 野 正 夫	禅・仏教・国文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短大	4

講義のねらい

18世紀後半までの英詩の世界では、秩序のある洗練された詩が好まれ、自然に対してはそれほど強い関心が持たれなかった。「理性の時代」と呼ばれた18世紀であったからこそ、詩人は秩序を尊び、粗野で洗練されていないものを拒絶したのであろう。その結果として、ある意味では快適で居心地のよい都会が、人の近づき難い荒々しい自然よりも好まれたのである。

もちろん、DrydenやPopeなどに代表される古典主義的な詩の特徴である洗練された秩序に逆らった詩人もいた。James Thomsonのように、人間を研究することなく、自然そのものの素朴な美しさを描いた詩人もいれば、また、Edward YoungやRobert BlairそしてThomas Grayなどのように、主に「死」を主題として陰うつな詩を書いた墓地派の詩人たちもいた。しかしながら、彼らのほとんどは18世紀の詩の特徴である、不自然で形式的な言葉遣いや技巧から抜け出すことはできなかった。

そして、1798年にWilliam WordsworthとSamuel Taylor Coleridgeによって出版された*Lyrical Ballads*という、1冊の詩集によってこのような古典主義的で因襲的な詩の流れが大きく変わってしまったのである。いわゆるロマン主義の時代の到来を告げるこの詩集に表現された素朴な言葉や主題は、保守的な批評家たちにとってはまったく受け入れ難い、あまりにも革新的なものであったが、この小さな流れは、その後19世紀の前半まで英詩の主流となっていった。

イギリスの北西部に位置する湖水地方を愛し、そこに住んだこの2人の詩人の中でも、特に自然を愛したのがワーズワスであった。ワーズワスの詩に描かれた美しい、しかし時には厳しい姿を露にする自然をうたった詩や、彼が得意とした、普通の人々の様々な人生の絵模様をうたった物語詩などを中心に読みながら、ワーズワスの詩の世界を見ていくことにする。

履修上の留意点

授業ではよくノートをとること。

教科書

教場にて指示します。

科目名	担当者名	配当学科	単位
イギリス文学特講Ⅲ	おか ざき とし いちろう 岡 崎 寿 一 郎	禅・仏教・国文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短大	4

講義のねらい

おそらく、過去のいかなる瞬間もまた現在であったことの認識をもつことなく「現代」modernity という言葉の感覚を理解することは、むづかしいとおもいます。この認識の方法によって、19・20世紀の英詩について、その現代的な意味を確認します。

講義の内容・授業スケジュール

講義の進行については、前期では、ワーズワス、コールリッジ、バイロン、シェリー、そしてキーツのロマン派詩人たちの詩について、フランス革命・イギリスの産業革命という時代的背景を捨象することなく論究してみたい。後期では、ヴィクトリア朝の時代と詩人たちについて、テニスン、ブラウニング、スウィンバーン、そしてマシュー・アーノルドの詩を検証した後、イギリスの近代文学を拓いたオスカー・ワイルドの詩と批評を出発として、近代詩人イエーツ、エズラ・パウンド、T.S.エリオットの現代詩（モダニズム）、さらにD.H.ロレンスの詩の論究を経て、現代イギリスの詩人たちの詩にと到達したいとおもいます。

成績評価の方法

成績評価については、平常評価としての出席（50%）、前期試験に代わる夏季レポート（25%）、後期試験（25%）による総合評価とします。

教科書

講義では、とくに教科書は指定せず、毎回、対象とした詩人と詩について必要なプリントを配布します。

参考書等

参考書・文献については講義中に適宜言及します。

科目名	担当者名	配当学科	単位
イギリス文学特講Ⅳ	なか おか ひろし 中 岡 洋	禅・仏教・国文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短大	4

講義のねらい

イギリス小説のなかで特異な地位を占めつつ、もはや伝統の外部とはいいがたくなっているブロンテ文学について講義する。わが国では比較的よく親しまれていると思われるが、正しく理解するためにあらゆる方面から考察を加えてみようと思う。

講義の内容・授業スケジュール

具体的には Charlotte Brontë (1816-55) の *Jane Eyre* (1847) をはじめとして、すべての小説にふれ、初期作品から詩歌、エッセイの類まで扱う。また映画化された作品もあり、それらを上映、鑑賞する機会ももちたい。全体をほぼ把握した段階で、その周辺の作家たちとの関連に言及し、広くイギリス文学の特質を理解するように努める。

履修上の留意点

出席に励むこと。各自が自覚をもって勉強に励むことを期待している。

成績評価の方法

出席回数と試験の結果によって評価する。

教科書

『ブロンテ姉妹の時空』 北星堂書店

参考書等

教場で適宜指示する。

その他

真面目に受講することを期待し、不真面目な受講態度の学生は退席してもらう。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
イギリス文学特講Ⅴ	たかまつ ゆういち 高松 雄 一	禅・仏教・国文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短大	4

講義のねらい

本講義ではイギリスにおけるモダニズム文学の種々相を考察する。モダニズムとは20世紀の初め、1910年前後に、英米およびアイルランドに出現した若い文学者たち、たとえば小説のジェイムズ・ジョイス、ヴァージア・ウルフ、批評のT.E.ヒューム、詩のエズラ・パウンド、詩と批評のT.S.エリオット、それに年長の詩人イェイツなどが、それぞれの分野で新しい実験的な表現法による作品を生みだし、従来の伝統的な手法を革新した1つの文学運動というべきものである。

彼らはこの運動の存在理由を自らの批評活動によって論理づけ主張することを怠たらず、1920年代から40年代の初めまでイギリス文学の主流を占めるに至ったが、今日のいわゆるポストモダニズムの時代にも、有形無形の影響を残していると言っている。

講義の内容・
授業スケジュール

この運動は、しかしながら、唐突に生じたのではない。当時の社会的な変動や、19世紀から20世紀にいたる一連の文学的な展開と密接に結びついている。本講義では19世紀初めのロマン主義文学運動、および世紀末の唯美主義批評との関連にも触れながら、モダニズムの特質を明らかにしてゆきたい。ただし主義主張を羅列するのではなく、上記の詩人や作家の作品から適宜抜粋して具体的に読み、分析しながら考察を進める。

教 科 書

講義内容に応じてプリントアウトした作品や批評を読む。

参 考 書 等

高松雄一編『イギリス文学』（放送大学教育振興会）。イギリス文学の流れをつかむのに役立つであろう。

高松雄一編『想像力の変容』（研究社出版）。主としてモダニズム関係の論考を集めたもの。内容は専門的。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
イギリス文学特講Ⅵ	まるこてつお 丸 小 哲 雄	禅・仏教・国文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短大	4

講義のねらい

批評行為は人間の本能であります。文学テキストの読みについての論議が必要なのは、やみくもに文学テキストを読んでもそれほど大きな効用がなく、テキストの読み・解釈・批評の交通整理が必要であるからです。その交通整理が批評です。テキスト間の相違に折り合いをつける枠組は、いわば作者の「方法」を読みとるためであり、読み手自身のテキストを作ることでもあります。その「方法」は一般化、普遍化できるものですが、人間の不合理や不条理を取り扱う文学論はテキストの神秘的な解釈から脱神秘的な解釈へいたる回路を、いかに創り出してゆくかが問題となります。

ですから、初発の読書体験を大切に、主体としての〈持続する〉テキストをどう形成してゆくかを説明し、そこから文学批評方法を修得し確立して、テキストの印象や感想に価値を見出せるようにしてゆきます。とりわけ批評行為は、テキストの読み・解釈・批評の過程において、テキストの構造の織り目をゆるめて、テキストの持つ価値や姿勢に対立し、そのイデオロギーと対決する最後の機会であり、テキストに対してどのようにして責任をとるかを発見することです。文学批評は個人の嗜好ではなく、集団的な判断の問題になってきますので、本講義は文学批評のさまざまな方法に親しみつつ、テキストの印象や感想に価値を見出せるように講義してゆきます。そのために文学テキスト内部からテキスト外部へどう出てゆくのかの手順を批評的ディスカールとして説明してゆきます。

講義の内容・
授業スケジュール

テキストの読み方と研究の仕方を覚えるためにさまざまな文学テキストを利用してレポートを作成してゆきます。従ってテキスト理論とテキスト実践を平行的に作業することになります。

1. 文学テキストの虚構的世界とその必要性について
2. 文学的言語とは何か；日常言語と虚構言語の差異
3. 文学テキストの機能と力
4. 英文学研究の成立過程；文学研究制度の問題
5. 伝統的方法とテキスト演習
6. ロシア・フォルマリズム
7. ニュー・クリティシズムとテキスト演習
8. 受容理論（読者論の立場）
9. 「精神分析批評と原型批評」とテキスト演習
10. 構造主義
11. 記号論
12. 「構造主義と記号論」とテキスト演習
13. ポスト構造主義
14. ニュー・ヒストリシズム
15. 要約：批評精神の偏在性と批評的態度について

成績評価の方法

試験等による成績評価については、平常点50%、前期・後期のターム・ペーパー（レポート作成）50%。クラスでの発表者には別途評価。

教 科 書

『〈持続する〉テキストへの意匠』 英宝社

参 考 書 等

開講時に読書リストのプリントを配布します。また、読書のための参考書は必要に応じて指示します。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
演 劇 特 講 (イギリス・アメリカ)	あら い よし お 荒 井 良 雄	禪・仏教・国文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短大	4

講義のねらい

イギリス演劇史とアメリカ演劇史を、欧米演劇の原点であるギリシア・ローマ演劇の伝統をはじめ、最近のロンドンやブロードウェイにおける上演や、映画化作品、さらには日本における受容をも視界に入れて講義する。とくに近代劇と現代劇を中心に、ミュージカルも取り上げて、世界中で上演されている英米演劇の特色と魅力を明らかにしたい。

講義の内容・
授業スケジュール

前期はアメリカ演劇を、ユージン・オニールの作品を中心に講義する。後期はバーナード・ショーとノエル・カワードの演劇が中心である。

1. Tragedy and Comedy
2. Eugene O'Neill
3. Lillian Hellman
4. Arthur Miller
5. Tennessee Williams
6. Edward Albee and Sam Shepard
7. Mediaeval Religious Drama
8. Elizabethan Drama
9. William Shakespeare
10. Comedy of Manners
11. Oscar Wilde
12. Maugham, Coward and Rattigan
13. Peter Shaffer
14. Musicals
15. Theatre and Film

履修上の留意点

戯曲を読んだり、舞台を見たり、映画化作品を映画館やビデオで見たりして、英米演劇を積極的に鑑賞したり研究したりするのが好きな学生の受講を期待する。

成績評価の方法

レポートと学年末試験の成績で評価する。

教 科 書

特定の教科書は使用しない。戯曲や参考書は講義の主題毎に紹介する。

参 考 書 等

荒井良雄著『英米文学映画化作品論』新樹社 ¥2,500
 太平和登・荒井良雄共著『ブロードウェイ！ブロードウェイ！』朝日新聞社 ¥1,200

そ の 他

舞台や映画のビデオや演劇の朗読テープを随時使用する。

科目名	担当者名	配当学科	単位
アメリカ文学特講Ⅰ	にい くら とし かず 新 倉 俊 一	禅・仏教・国文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短大	4

講義のねらい

アメリカにおける近代詩の成立の歴史的状況をふまえて、いかにイギリスとは異なるユニークなアメリカ詩が発展したかを、具体的な作品に即して説明していく。それと併せて、新体詩以来の日本の詩にアメリカ詩が及ぼした影響を取り上げたい。

講義の内容・授業スケジュール

前期は主として19世紀までのアメリカの詩人たちを紹介し、ポー、ホイットマン、エマソン、ディキンソンからロビンスン、フロストまでの作品を対象とする。後期は第一次大戦前後からアメリカ詩に大胆な革新をもたらしたパウンド、エリオット、ウィリアムズ、スティーヴンス、ムア、カミングズ、ハート・クレインから、第二次大戦後に詩と人間の関係を問い直したロバート・ローエル、ベリマン、スナイダー、ギンズバーグ、プライなどの現代詩人の作品を取り上げる。なお、適宜に、エマソンと北村透谷、ポーと萩原朔太郎、ホイットマンと有島武郎、エリオットと西脇順三郎、それに「荒地」の詩人たちやギンズバーグらのいわゆる「ビート詩人」たちの影響などをふれていきたい。

履修上の留意点

講義を中心とし、適宜、ビデオで詩人の紹介を行う予定。

成績評価の方法

前期はレポート提出。後期は詩の解釈および訳についてテストを行う。

教科書

新倉『アメリカ詩の世界』大修館書店 ￥1,900

科目名	担当者名	配当学科	単位
アメリカ文学特講Ⅲ	あし た かず ひと 足 田 和 人	禅・仏教・国文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短大	4

講義のねらい

Mark Twain の作品の魅力は、そのユーモラスな語り口にある。彼のユーモアは多くの読者を引きつけた。しかし、彼の作品におけるユーモアは習作期の作品と晩年の作品では、その趣を異にする。19世紀から、20世紀に移ってゆく時代思潮を考慮にいれながら、彼の作品と思想の変化にせまる。

講義の内容・授業スケジュール

前期は習作期、後期に晩年の作品を読む。

履修上の留意点

毎回の予習を前提として、授業を進める。

成績評価の方法

ディスカッション形式で授業を行うので、積極的な授業態度が必要である。出席及び発表、及び、不定期に課される授業内レポートを平常点とする。前、後期レポートを加えて評価する。

教科書

『アダムとイヴの日記・他』北星堂書店

参考書等

必要に応じて紹介する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
時事英語	Sanders, Leonard P. (サンダース, L. P.)	禅・仏教・国文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短国・短放	4

講義のねらい

このクラスでは、様々なマスメディア（ドキュメンタリーフィルム、TVニュース、雑誌、タブロイドなど）で使われている英語を通じて、表現や文化を学んでいく。
Intertextual Analysis のメソッドで行う。

講義の内容・
授業スケジュール

テキストを読み内容を把握し、ビデオを見てエクササイズを行う。後半はディスカッションを行う。

成績評価の方法

年に2回テストを行う。

教科書

プリントを配布する。

その他

ビデオを使用する。授業は英語で行う。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
現代地理学持論	はせがわ 長谷川 ひとし 均	禅・仏教・国文・英米文 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短放	4

講義のねらい

新聞やテレビで“沖縄”の二文字を目にすることが多い。海上ヘリポートや空港建設など、大規模な土木工事が計画され、それに伴う自然界へのダメージも懸念されている。本土復帰以降、巨額な資金が積み込まれた沖縄では島々の自然がいたるところで痛めつけられている。この講義では、これらの現状とその背景にある沖縄の自然を解説し、地理学の分野で試みられている環境保全の取り組みや新しい調査方法を紹介したい。

講義の内容・
授業スケジュール

前期のテーマは「沖縄の自然」「沖縄における土地改変と自然環境の悪化」である。これらは、私が最近興味をもって取り組んでいるテーマでもある。地元紙の記事やインターネットで流れている情報なども紹介する予定である。後期は、前期の内容を受け「デジタル化した空中写真」や「リモートセンシングデータ」を使って、地球や環境の変化を抽出する方法、地理学への応用例を沖縄での事例を中心に解説する。詳しいスケジュールについては、講義開始時に年間計画表（シラバス）を配布し説明する。

履修上の留意点

講義中の私語、いねむり、教室からの退出は認めない。

成績評価の方法

2回の定期試験結果により評価する。出席し講義をまじめに受けていれば単位取得は容易なはずである。

教科書

使用しない。毎回プリントを配布する。

参考書等

シラバスの付録として参考書のリストを示す予定である。

その他

VTR、スライド、沖縄民謡、PCによるプレゼンテーションもおこなうが、基本的には講義形式の授業である。

科目名	担当者名	配当学科	単位
地形学	こいけ かずゆき 小池 一之	禅・仏教・国文・英米文 歴史・社会・福祉 心理・経済・商・短大	4

講義のねらい

地形学は、地表の形態とその形成過程を研究する学問で、山がちで変化に富む日本列島には種々の地形が分布している。このため、日本列島は地形研究の上では、世界的にみても好都合な場所である。世界の最先端の研究が多く輩出している。まず、地形学の基礎的な概念から説明し、時に最先端の研究成果や地形変化事象（各種の災害など）にも言及する。

講義の内容・授業スケジュール

年間の授業スケジュールの概要は次の通りである。
1. 地形学の成り立ち、2. 地表を変化させる種々の営力と地形の分類、3. 地表水の動きと地表の変化（マズウェスティング、種々の河成地形、組織地形）、4. 海水の動きと地形、5. 地球内部の力によって形成される地形（火山地形など）、6. 地形発達

履修上の留意点

地理学の中ではかなり理学的（地球科学の1分野でもある）な色彩の強い学問分野である。高校時代に地学を履修していることが望ましい。

成績評価の方法

基本的には、学年末試験の成績で評価する。出席など平常点はあまり加味しない。

教科書

小池一之・坂上寛一ほか著『新版地学教育講座⑨「地表環境の地学—地形と土壌」』東海大学出版会 ¥2,575

参考書等

貝塚爽平・小池一之ほか編『写真と図でみる地形学』東京大学出版会 ¥4,532
小池一之ほか訳『一般地質学Ⅱ』東京大学出版会 ¥3,708

その他

授業は講義形式で、最新の情報を知らせるプリント類を多く配布するとともに、スライド、ビデオなどを使用する。

科目名	担当者名	配当学科	単位
人口地理学	なか がわ さとし 中川 聡史	禅・仏教・国文・英米文 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短大	4

講義のねらい

近年、人口問題はさまざまな方面から注目を集めています。世界の人口増加の大半を占める開発途上国については、人口増加と開発の関係、急速な都市化、そして人口増加と地球環境の関係などが議論されています。一方、日本などの先進国では晩婚化、少子化が問題となり、人口高齢化への対応が真剣に考えられるようになってきました。そして、こうした問題は観察する地域スケールによって、見え方が大きく変わります。すなわち、世界全体でみれば人口増加が大きな問題ですが、日本を含むいくつかの先進国では近い将来の人口減少を憂慮していますし、一国内でも、人口の過疎化と高齢化に悩む地域もあれば、過剰な人口集中が問題となる大都市もあります。「人口地理学」では、地域スケールに注意を払いつつ、近年の世界および日本の人口問題を理解し、考えるための人口学の基礎的知識について講義します。

講義の内容・授業スケジュール

おおよそ以下のような内容の講義をおこなう予定です。近年の人口動向、人口分布と人口構造、人口の変動、出生、晩婚化と少子化、死亡、人口の高齢化、人口政策と家族計画、人口都市化、国内人口移動、国際人口移動、人口と環境・食料。

成績評価の方法

成績評価は年度末の試験でおこないます。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
応 用 地 理 学	たか き まさ ひろ 高 木 正 博	禅・仏教・国文・英米文 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短放	4

講義のねらい

この科目は、地理学と他の研究分野を視野に入れた学際的なテーマが求められるであろう。講義では河川をテーマとする。これの専門分野である河川工学や農業水利学などの成果をふまえて、河川を河道だけでなく流域として捉えることを基本とし、流域（地域）の自然とその土地の人々とのかかわりあいについて利水・災害・自然環境などの視点から明らかにする。また、水と人とのかかわりあいを論じる場合、水の基本的な特性である循環を意識し、それぞれの地域に固有な水循環システムと行政施策のかかわりあいを考える。さらに、ヨーロッパにおける河川管理についていくつかの事例を紹介する。

講義の内容・授業スケジュール

まず、河川の基本特性について水文学的に講ずる。つぎに、具体的な河川の事例について、それぞれの河川に固有な特性を利水・災害・自然環境などの視点から考える。さらに、川をめぐる現実的な課題を明らかにし、その本質を探る。

履修上の留意点

講義が中心になるが、受講者にも意識を持ってもらうため、夏休み中に現地調査を伴う課題を提示する。

成績評価の方法

学年末試験と夏休みのレポートの他、授業中の課題など平常点も加味して行う。

教 科 書

授業時間に配布するプリントを使用。

参 考 書 等

高橋裕著『河川工学』 東京大学出版会。その他随時紹介する。

そ の 他

講義中心。事例紹介のためのスライドやOHP、ビデオも使用する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
文 化 地 理 学	たけ うち けい いち 竹 内 啓 一	禅・仏教・国文・英米文 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短放	4

講義のねらい

文化地理学なるものの内容については、国ごとに、また地理学者ごとに極めて多様な理解がなされている。この講義では、私なりに文化地理学を、提示する。下記の書物を教科書として使用するが、順をおって教科書の内容を説明するのではなく、毎回、ひとつのトピックについて話をし、教科書の関連する部分を指示する。

講義の内容・
授業スケジュール

内容としては、文化地理学の生成と発展、文化景観（風景）論、文化生態論、生活空間論、構造化理論、カルチュラル・スタディーズに関するいくつかのテーマを予定している。

履修上の留意点

出欠のチェックは行わないが、予告無しに行う小テストおよび学年末の筆記試験は、講義に出席し、参考文献をよく読み理解していないと解答できないであろう。予告無しの小テストを何回か、授業の最後に行う。

成績評価の方法

上記小テスト（40%）および学年末の持ち込み一切自由の筆記試験（60%）による。

教 科 書

教科書は、高橋・田林・小野寺・中川『文化地理学入門』東洋書林 2,500

参 考 書 等

さしあたり、以下の参考文献をあげておく。その他の文献は授業時間の中で示す。

千葉徳爾『文化地理入門』大明堂 1990年
 大島・浮田・佐々木編著『文化地理学』古今書院 1989年
 浮田典良編『地域文化を生きる』大明堂 1997年
 クラヴァル『現代地理学の論理』大明堂 1995年
 坂本・浜谷『最近の地理学』大明堂 1985年
 高橋伸夫『日本の生活空間』古今書院 1990年
 荒井・川口・岡本・神谷（編訳）『生活の空間 都市の時間』古今書院 1989年
 荒井・川口・岡本・神谷（共著）『都市の空間と時間：生活活動の時間地理学』古今書院 1996年
 寺坂昭信監訳『空間と行動論』地人書房 1986年
 吉原直樹『都市空間の社会理論』東京大学出版会 1994年
 竹内啓一『とぼろうぐ』古今書院 1993年
 トゥアン（阿部訳）『トポフィリアー—人間と環境—』せりか書房 1992年
 レルフ（高野他訳）『場所の現象学—没場所性を越えて—』筑摩書房 1991年
 ギデンス（友枝・今田・森重訳）『社会理論の最前線』ハーベスト社 1989年
 『10+1』1997年11月号 特集『新しい地理学』

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
地 理 思 想 史	たけうち けいいち 竹内啓一	禅・仏教・国文 英米文・歴史・経済 商・短国・短英	4

講義のねらい

地理学史ではなく、地理思想史の講義であり、本年度は、日本人の土地、場所、環境さらに世界・コスモスに関する考え方、そして日本において、自分たちの国土、および外部世界に関する知識がどのように形成され、発展してきたかを検討する。古代、中世、16、17世紀の宣教師との接触、幕府による国際交流の独占（鎖国）時代、漂流者の記録についてもふれるが、講義の大部分は開国後の話になる。

講義の内容・授業スケジュール

今（1995年11月）のところ以下の内容を考えているが、若干の変更があるかもしれない。

- 1 日本の伝統的コスモロジー、geomancy
- 2 地理と風土記
- 3 16世紀以降における新しい世界認識
- 4 洋学における地理と地理的知識（地図制作に焦点をあてて）
- 5 幕末・明治初期における外国紹介（いくつかのミッションの記録、とくに福沢諭吉、久米邦武による岩倉使節団の『米欧回覧実記』に焦点をあてて）
- 6 札幌農学校出身者の農学を基礎とした地理思想（新戸部稲造、内村鑑三、志賀重昂に焦点をあてて）
- 7 「皇国地誌」編纂事業挫折の意味（地理的情報の近代化に焦点をあてて）
- 8 公教育における地理学の制度化（文部省中等教員検定試験制度、師範学校、高師、文理大の役割、帝国大学における地理学の制度化まで。牧口常三郎はこのコンテキストのなかで考察される）
- 9 軍隊における地理学の役割、とくに国土図の作製。
- 10 nation building、そのための national identity 形成にとっての地理教育の役割（地理教科書記述の内容およびイデオロギーの変遷）
- 11 南進論、北進論との関連における地理的知識の形成（密偵、商人・芸人・唐ゆきさん、仏僧、冒険家など）
- 12 帝国主義段階における組織的地理的知識の形成（満鉄調査部、東亜同文書院に焦点をあてて）
- 13 アカデミシヤンの貢献と限界（大谷探検隊の事績、鳥居龍蔵の業績そして矢内原忠雄の著作に焦点をあてて）
- 14 アカデミー地理学の成立（山崎直方、小川琢治、小田内通敏など）
- 15 アカデミー地理学の第二次世界大戦までの発展（石橋五郎、辻村太郎、石田龍次郎、飯本信之、佐藤弘、田中啓爾など）
- 16 土着的地理思想と近代科学としての「地理」との接続と断絶（柳田などの日本民俗学派との接触、交流、そして地理学派の限界について）
- 17 日本における政治地理学の展望
- 18 第二次世界大戦後の日本のアカデミー地理学50年史。
- 19 第二次世界大戦後の地理教育と問題点
- 20 地理のプラクショナーの系譜

履修上の留意点

授業は講述の形式をとるが、受講者が、テキストを読み、吟味し、自分なりの理解をすることをめざす。入手しがたい文献についてはコピーして配布するが、文庫本になっているもの（例えば、福沢諭吉『世界国尽』、久米邦武『欧米回覧実記』、志賀重昂『日本風景論』、河口慧海『チベット旅行記』など）は、できるだけ購入するようにしてもらいたい。これらのテキストに関するレポートを何回か提出してもらおう。レポートの課題は授業の中で提示する。提出期限に遅れたレポートは一切受理しない。

成績評価の方法

上記のレポートおよび学年末の持ち込み自由の筆記試験による。

教科書

特定の教科書は用いない。

参考書等

文献・参考書等は講義中に提示する。

その他

来年度、私がこの講義を担当する場合には、内容をまったく変えて、西洋の地理思想史を取り上げる。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
日本史特講Ⅶ 〔近代〕	さ とう もと えい 佐 藤 元 英	禅・仏教・国文・英米文 地理・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短大	4

講義のねらい

1920年代論を講ずる。一面大陸侵略、一面英米従属という東アジアにおける「二重構造」的な国際関係、さらに中国をとりまく列国間の利権獲得競争という対立関係から発生した、いわゆる一面英米協調、一面英米対立という矛盾した「二面性」の対外志向の中で、昭和初期の日本外交はどのように位置づけられるものかを論ずる。

講義の内容・
授業スケジュール

中国における在留邦人の保護政策という観点より次の課題を設定する。①第一次山東出兵の決定過程を分析し、「幣原外交」と「田中外交」の比較検討を行う。②東方会議の全貌を明らかにするとともに、従来の研究が伝記・回顧録等の二次的史料に依拠しがちであった点に批評を加え、東方会議を再検討する。③「満州問題」解決の具体的政策決定について検証する。④吉田茂在奉天総領事の思想と行動を通して、「二重外交」「四頭政治」の弊害について論ずる。⑤第二次山東出兵と済南事件について論ずる。⑥張作霖爆殺事件に関する政府の対応と軍部の行動について分析する。⑦田中内閣の崩壊と天皇の叱責問題を論ずる。⑧「田中外交」の政策決定の特質、外交チャンネルの混乱、国際協調認識、「満州特殊権益論」と中国ナショナリズムの対立等について論ずる。以上の課題より1920年代後半期における列国の対中国政策と日本の対応、ワシントン体制の崩壊要因について考察し、まとめとする。

成績評価の方法

定期試験及び出席状況による。

教 科 書

追って指定する。

参 考 書 等

細谷千博・斉藤真編『ワシントン体制下の日米関係』
入江昭『極東新秩序の模索』

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
東洋史特講 X 〔近・現代〕	ちょう 趙 ぐん 軍	禪・仏教・国文・英米文 地理・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短大	4

講義のねらい

太平洋の東に浮かぶ島国日本の経済生活は、他国との貿易に大きく依存している。特に中国を初めとするアジア各国とは、歴史的にも文化的にも極めて深い関係におかれてきた。本講義は外交・貿易・文化往来などの方面を通して、二千年以上にわたる日本と中国の間の友好と不友好の歴史を概要的に解説し、日本とアジア各国との関係を正しく理解できる知識や教養を深める。

講義の内容・
授業スケジュール

近代以前の日中関係史を概要的に紹介し、「西力東漸」以後、とりわけ第1次世界大戦以後の日中関係を具体的に解説する。
主な項目は次の通りである。

1. 近代以前の日中交通史
2. 「日清提携論」と「征亜論」の創生
3. 「アジア連帯」と国権主義の台頭
4. 宮崎滔天と中国
5. 頭山滿と中国
6. 辛亥革命・孫文と日本
7. 内田良平と中国
8. 中国の国民革命と日本の対応
9. 「満洲事変」から日中戦争へ
10. 日本の敗戦と台湾との「国交」
11. 政経分離と政経不可分
12. 国交正常化と日中平和友好条約
13. フィーバーと摩擦と
14. 「成熟の時代」
15. 改革開放と「新アジア主義」
16. 日本の対中国政策決定一組織と過程一
17. 真のアジア共生をめざして

履修上の留意点

特になし。

成績評価の方法

学期末にレポートの提出やペーパー試験を行う。試験成績と出席率による総合評価を行いたい。

教 科 書

- ①趙軍『大アジア主義と中国』亜紀書房 1996年
- ②田中明彦『日中関係 1945-1990』東京大学出版会 1991年

参 考 書 等

開講時に指示する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
考古学特講Ⅲ	や の かず ゆき 矢 野 和 之	禅・仏教・国文・英米文 地理・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短大	4

講義のねらい

近年、遺跡の保存と活用の必要性が叫ばれている。考古学、歴史学専攻の学生は、将来地方自治体の教育委員会に籍をおき、文化財保護行政に携わるケースが多いと思われる。

このため、単に遺跡の発掘調査のみならず遺跡整備や遺跡博物館の計画を担当するものと考えられるので、文化財の保存計画の基本となる理念、計画プロセス、保存技術等を理解しておく必要がある。

講義の内容・
授業スケジュール

- ・文化財の保存と活用の理念
 - ・日本建築史（古代）概要
 - ・遺構とその上部構造体の復元
 - ・保存計画概論
 - ・保存科学、保存工学概論
 - ・まちづくりと文化財
 - ・計画策定の実務
 - ・国内の事例
 - ・海外の事例、文化財保存の国際機関
- 以上を一部演習を混じえながら講義する。

履修上の留意点

特にないが、人文系の知識だけでなく、理科系の知識も必要となる。

成績評価の方法

試験、演習提出物

教 科 書

なし

参 考 書 等

適宜指示

そ の 他

講義は、スライド、OHP、ビデオ（保存工事の記録等）を使用する。

科目名	担当者名	配当学科	単位
歴史哲学	あ 麻 生 けん 建	禅・仏教・国文・英米文 地理・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短大	4

講義のねらい

「歴史とは何か」、「歴史認識はいかにして可能か」という問題は、単なる歴史学の問題ではなく、広く人文科学一般の問題である。講義は、この二つのテーマを中心に行われる。

講義の内容・
授業スケジュール

前半はいわゆる「歴史哲学」の変遷をギリシア時代から19世紀に至るまで概括し、そこで展開された諸問題を検討する。後半は主として歴史認識の問題を解釈学を中心に講義する。教科書として下記のものを使う。

履修上の留意点

前半は純粋な講義の形をとるので、きちんとノートを取り、自分なりに問題を整理する努力をすること。後半は教科書に基づいて行なう。

成績評価の方法

学年末の試験による。

教科書

麻生建著『解釈学』 世界書院 ¥2,500

科目名	担当者名	配当学科	単位
哲学史	やま ぐち まさ ひろ 山口 祐 弘	国文・英米文・地理 社会・福祉・心理 経済・商・経営・短大	4

講義のねらい

カントを源とするドイツ観念論の諸思想は現代に様々な照明を与えてくれる。今日確実な思索を行おうとするならば、繰り返しそこに立ち返ることが求められ、またその意義は尽きない。だが、その発展を一望のもとに収めることはたやすいことではない。その根本にあった問題は何か、それを駆動してものは何か、が問われねばならない。そうした問題論的展開として捉えた時に、ドイツ観念論は一つの歴史となるのである。本講は、この意味でドイツ観念論に歴史を発見しようとする試みである。カントが提起しかつ後世に残した課題を明らかにし、それが如何なる方向に解決を求めていったかをフィヒテ、シェリング、ヘーゲルを軸として考察する。

参考書等

山口祐弘『カントにおける人間観の探求』『ドイツ観念論における反省理論』勁草書房

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
日 本 民 俗 学	たに ぐち みつき 谷 口 貢	禅・仏教・英米文 地理・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短大	4

講義のねらい

日本民俗学は世代をこえて伝承されてきた習俗・慣習の考察を通して、日本社会に展開する生活文化を究明する学問である。民俗はよく「民族」と混同されるので注意を要する。本講義は、民俗学をはじめて学ぶ人のための入門編として、基礎的知識をしっかりと把握できるようにしたい。また近年、国際的視野をもった人材の育成が叫ばれているが、真の国際理解の前提には、自国の伝統文化に対する一定の素養をもつことが益々大切になってきている。講義では、こうした点にも配慮していく予定である。

講義の内容・
授業スケジュール

本年度は「日本人の一生」をめぐる民俗文化に焦点をあてながら、生活文化において何が変化したし、何が持続しているのかを検証し、われわれの現在の生活のありようを再考していくことにしたい。年間の講義予定は以下に掲げるとおりで、各々2回程に分けて行う。

- 第1講 家族と社会
- 第2講 産育儀礼－出産と子育て－
- 第3講 子どもと遊び
- 第4講 若者の民俗文化
- 第5講 成人儀礼
- 第6講 婚姻儀礼
- 第7講 女性の民俗文化
- 第8講 交際と贈答
- 第9講 老人の民俗文化
- 第10講 日本人の靈魂観
- 第11講 葬送儀礼
- 第12講 墓と先祖祭祀

成績評価の方法

夏休みの課題としてレポートの提出を求める。したがって受講者の成績評価は、夏期レポートと学年末の筆記試験の合計をもって行うものとする。

教 科 書

本講義では教科書は使用しない。

参 考 書 等

谷口貢・他編『現代民俗学入門』 吉川弘文館

科目名	担当者名	配当学科	単位
マス・コミュニケーション論	かわもと まさる 川 本 勝	禅・仏教・国文 英米文・地理・歴史 経済・商・経営・短大	4

講義のねらい

社会的コミュニケーションの特質を整理し、マス・コミュニケーションの社会的機能を考察する。

講義の内容・授業スケジュール

前期は、社会生活とコミュニケーションの関連を考える。私たちの社会生活は、コミュニケーション活動による他者との相互作用によって成り立っている。現代社会におけるメディア状況を整理し、メディア環境の変容とそれらを利用してどのようなコミュニケーション活動が営まれているかを考察する。パーソナル・コミュニケーション、マス・コミュニケーションなど社会的コミュニケーションの特質を講義する。

後期は、マス・コミュニケーション活動が社会や人びとに対してどのようなインパクトや社会的機能を果たしているか、問題点は何かについて論じる。特に、マス・コミュニケーションの受容過程研究を扱いながらその効果、影響について考える。

履修上の留意点

他学部・学科履修ができる科目であるが、他学部・学科の学生は、社会学の科目をすでに履修しているなど社会学の基礎知識を修得しておくことが望ましい。

成績評価の方法

講義中に課する小レポート、出席を配慮し、試験によって行う。

教科書

用いない。

参考書等

適宜紹介する。

科目名	担当者名	配当学科	単位
産業・職業社会学	あん どう きくお 安 藤 喜久雄	禅・仏教・国文・英米文 地理・歴史・経済・商 法律・政治・経営・短大	4

講義のねらい

産業・職業社会学の対象の中、本講義では、経営と従業員との関係としての従業員関係を規定している雇用システム、経営と労働組合の関係としての労使関係、産業社会や職業社会の構造などについて概観する。日本社会を中心に考えるが、その特質を明らかにする上からも諸外国との比較を交えて講義を進める予定である。

講義の内容・授業スケジュール

最初に、日本的雇用慣行について述べる。終身雇用制や年功制を柱とするいわゆる日本的雇用システムの特徴と動揺について述べる。次いで、日本の労働組合の組織活動や労使関係の特徴とともに課題について述べる。以上のことは産業社会の構造変動によって生じることから、日本の産業社会や職業社会の構造的変化を中心に述べる。すなわち、経済のサービス化、情報化、雇用の流動化、ホワイトカラー化、専門職化、高齢化、女子の職場進出などの進展により、どのような変貌をとげつつあるかを明らかにし、その課題と展望を述べる予定である。

成績評価の方法

出席点と試験の両者によって評価する。

教科書

安藤喜久雄他『産業社会学』学文社 2,500円

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
社会福祉発達史	はやし 林 千 代	禅・仏教・国文・英米文 地理・歴史・経済・商 法律・政治・経営・短大	4

講義のねらい

社会事業は、近代社会がスタートすると同時に生成した。もちろん、それ以前の社会においても人々の生活は不安にさらされていた。

生活の不安は、自然の変化と社会の変動によって生み出されてきたといえる。社会の変動期には常に多くの社会問題が生じ、人々は生活困難におちいった。その影響が大きくなるにつれて、慈善（恵）や救済から社会事業としての方向が確立したといえる。そして、社会福祉という方法に到達し福祉国家の実現となった。最近では、福祉社会といわれる考え方に至っている。

この長いプロセスの理解と、社会福祉は一定の歴史的産物であるという認識こそ社会福祉の学習に不可欠である。

対象、問題解決の方法、方法の意図、施策の背景をなす思想を講義する。

授業は講義形式で行なう。しかし常に質問を受け、あるいは話のやりとりをしながら進めたい。社会福祉の理解には、知識の集積や論理の把握にとどまらず身近な生活の中での実感が必要不可欠だからである。講義もどの時点であれ、現在の問題や具体例と結びつけてすすめていく。

講義の内容・
授業スケジュール

資本主義の発達と社会福祉の生成は、英国が典型である。日本については当然ではあるが時間のある限り米国や北欧諸国などにもふれたい。

[英 国]

- ① 前史
- ② 中世封建社会と慈善
- ③ 絶対王制下の救貧制度
- ④ 旧救貧法と近代的慈善事業の生成
- ⑤ 産業革命と新救貧法のスタート
- ⑥ 社会事業近代化への動向
- ⑦ 社会保障制度の成立と諸技術の発展
- ⑧ 今日の状況と諸問題

[日 本]

- ① 前史
- ② 日本における救貧法の系譜と公的救済
- ③ 封建社会と慈善・慈恵
- ④ 資本主義の生成と救済事業
- ⑤ 社会事業の生成と組織化
- ⑥ 昭和期の社会事業と厚生事業
- ⑦ 戦後の社会福祉（事業）
- ⑧ 現在の状況——福祉社会について

他学部履修科目

成績評価の方法

単位認定は、年一回のレポートによる。

教科書

教科書は決めないが、参考書は開講初日に提示の予定。

その他

知識や考察を内在化させ、学生個々の自己認識を深めていくことをめざしたい。

科目名	担当者名	配当学科	単位
ロシア・東欧経済論	やま 山 かつ 縣 ひろ 弘 し 志	禅・仏教・国文・英文・地理 歴史・社会・福祉・心理 法律・政治・経営・短放	4

講義のねらい

外国経済研究の課題を、その経済事情に通じることという形で、狭く設定する必要はないので、各自の問題意識に引きつけてとらえてもらえばよいが、とりわけ、独特のソ連経済からロシア的・資本主義的・市場経済への転換を、資本主義世界経済のあり方、日本経済のあり方を念頭に置きつつ講義する予定である。その際、ソ連経済史の評価のためには社会主義論の捉え直しが不可欠であり、他方で政策も含めた経済現象の総体を文化的基盤と切り離して論じることができないから、常に総合的視点と批判精神を伴った受けとめを期待する。

講義の内容・授業スケジュール

ソ連邦が解体し、東欧諸国も再編成されて、一つの歴史的移行過程にあるが、「どこからどこへ？」の問題は必ずしも決着済みではない。この地域が従来の歴史的経緯を背負って今後も多少とも独自の経済圏を形成していくことは確かであろう。

ロシア・東欧圏は、ヨーロッパとアジアにまたがりオリентと接するユーラシア地域として、独自の、また内部的には多様な文化を醸成してきた。この地域は、帝国主義の時代に入って、第1段階としてロシア革命、第2段階として第2次大戦を契機に社会主義をめざすことになった。そしてその歴史は通例まぎれもない社会主義の歴史として通俗的に理解されてきたが、本来は社会主義の模索として開始されたものであり、社会主義に到達しえたか否か自体が吟味の対象である。これは同時代史の問いかけに答えるために必要な認識であろう。

社会主義論の歴史的な捉え直しの上に立って、1930年代にソ連邦で形成され40年代に東欧に移植された独特の体制の認識が深まれば、「どこからどこへ？」の問題の第1段階に答える可能性が生まれるであろうし、その第2段階を検討することは、我々の時代の当面している課題を明らかにすることに通じるであろう。

1. 社会主義とロシア革命
 - (1) 社会主義論とマルクス
 - (2) ロシア革命のめざしたもの —— レーニン時代 ——
2. ソ連経済体制の成立とスターリン時代
 - (1) 1920年代から30年代への転換
 - (2) ソ連型「社会主義」の特質と行きづまり
3. 「計画経済」と经济管理システム
 - (1) 「計画経済」の成立と実態
 - (2) ソ連型经济管理システム
4. ソ連経済の生産力水準
 - (1) 経済構造の特質と軍事生産
 - (2) 工業生産力と工業技術
 - (3) 農業問題
5. 停滞からベレストロイカへ
 - (1) 経済改革の時代
 - (2) ブレジネフと停滞の時代
 - (3) ベレストロイカとその挫折
6. ロシア・東欧経済の現状と課題
 - (1) ロシア・東欧の文化と社会
 - (2) 資本主義化の諸問題
 - (3) ロシアと日本 —— 比較経済史 ——

履修上の留意点

トピックスにコメントすることが多いと思われるので、必ずしも授業計画通り、またその全てを網羅して進むとは限らないが、部分から全体を照射するように心がけたい。敢えて挑発的な講義にしたいので、学生諸君にはステレオタイプから脱して自分自身の頭で考えることを期待する。

成績評価の方法

成績評価はレポート（9月提出、40点配点）と定期試験（自筆ノート持込み可、60点配点）によって行う。模範答案等の丸写しは認めない。オリジナリティを評価する。

教科書

教科書はない。参考書は適宜指示する。歴史の見直しが必要とされ、変化の激しい時代に、万全の教科書はありえない。

その他

教科書はないので、授業中にノートを取るのとは当然のことになるだろう。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
社 会 政 策	みつ おか はく み 光 岡 博 美	禅・仏教・国文 英米文・地理・歴史 経営・短国・短放	4

講義のねらい

社会政策とは、資本主義社会で発生する社会問題や労働問題を体制内において解決する思想や政府の政策を意味している。この社会政策という学問は19世紀の中葉に、その当時のヨーロッパでは後進国であったドイツで発生したが、やがて近代化をめざす日本に紹介された。この意味で、戦前から社会政策学は日本の経済学のなかでも重要な位置を占めてきたが、それは戦前日本の経済学がドイツ経済学から大きな影響を受けてきたからであった。

戦後の時代になると、社会問題や労働問題の処理は、政府の政策によってだけでなく、国民の権利を前提にして、その解決が意図されるようになってきた。殊に、労働問題は政府の介入を避け、労使の自主的な団体交渉によって事態に対処していくという方向に向かった。労働基準法、労働組合法、労働関係調整法といった労働法体系は、このような体制を作り出すために制定された法律だったのである。

このような現実世界の変化は、社会・労働問題へのアプローチの方法として、労使関係論の学問的発達を促すこととなった。戦後の日本においても欧米社会で開拓された労使関係論を吸収し、労使関係をその実態に即して理解しようという研究が大きな影響を及ぼしている。

なお、全体の講義を通じて、その時々社会政策や労働運動・社会運動によってどのような問題が解決され、どのような問題が未解決のまま残されその解決が迫られているのかを考えてみることにする。

講義の内容・ 授業スケジュール

そこで、上に述べたような社会政策論や労使関係論の動向を視野に置いたうえで、本年度は、次のような講義内容で授業を行うこととした。

- (1) 社会政策の思想と理論
- (2) 労使関係論の思想と理論
- (3) 日本における社会政策・労働問題（戦前）
- (4) 日本における社会政策・労働問題（戦後）
- (5) 戦後日本における労使関係の展開
- (6) 現代福祉国家の生成と展開
- (7) 日本の労使関係の現実と未来

上にのべた(1)～(7)のテーマについて、各々約3回程度の講義を予定している。しかし、時には、社会政策や労働問題を勉強するための専門書の解説、最近注目されている外国人労働者問題やフェミニズム論、また私が専門的に研究してきた問題なども解説したいと考えている。

履修上の留意点

特にないが、これまでは毎年かなりの数の履修者がいるために教場も比較的大きな教場であった。そのためか、時として後部座席での私語が目立った。教場での私語は慎むこと。また私の講義では黒板をフルに利用するので、受講者はなるべく黒板の近くで聞いてほしい。

成績評価の方法

本年度は前期末に試験を行うか、あるいはレポートの提出を求める。どちらにするかは適当な時期に講義のなかで指示する。年度末試験については2～3週間前の授業で詳しく解説する。成績評価は前期末の試験かレポートと年度末試験の成績による。

教 科 書

特にないが、講義の内容と関連して参考書を適時指示する予定である。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
国民所得論	よしの吉野 おさむ紀	禅・仏教・国文・英文・地理 歴史・社会・福祉・心理 法律・政治・経営・短放	4

講義のねらい

わが国は法人企業だけで277万（平成3年）あり、就業者6,400万人のうちの約68%にあたる4,380万人がここで働いている。この生産活動からさまざまな財（商品）やサービスが産出されてくるが、その種類や数量たるや膨大なものとなる。この大きさを1年という単位期間内で集計し、金額表示にしたものが大雑把に言ってGDP（国内総生産）にあたる。生産された財・サービスは、誰かが貨幣を支払って支出・購入してくれるからこそ、また次の年の生産活動を実現可能にしてくれる。その誰かは、一つは4,070万に昇る家計世帯であり、二つには他の企業であり、その他に政府もあり、日本からの輸出を引き受けてくれる海外の購入者であったりもする。ここには、財・サービスの売渡しの見返りにあたる円や外貨で支払われる貨幣の流れがみられる。これを称して経済循環とよぶが、わが国の1年間の規模は平成5暦年のGDPによって466兆円に達すると評価されている。

一つの国民経済を眺めようとすれば、このように大きな集計量と接することが不可欠となる。このことは、数限りない取引が日々結ばれていることを考えればむしろ当然と言えよう。こうした取引関係は複雑に入り込んでおり、その1つ1つを追跡すると、国民経済全体という大きな森の中に迷い込むことにもなりかねない。そこで、森の上に舞い上がって、これらの取引を上空から眺める工夫が生まれてくる。このような視点に立つ経済の分析手法が、巨視的（マクロ）分析とよばれ、経済全体の活動の成果を集計量でとらえようと編み出された国民経済計算の整備とともに発展してきたのである。ここでは、無数の複雑に絡みあった諸取引を、いくつかの類似した性質を共有するグループ（経済主体）毎に分け、それぞれの取引額を記録し、そして経済主体のさまざまな取引相互間の依存関係を説明しようとするところに狙いがさだめられている。

講義の内容・授業スケジュール

1. 「国民経済計算の話」…………… 5回

GDP、GNPなどの経済指標や消費、投資、輸出入などの国民経済全体をとらえる単位を理解することと、さまざまな諸取引間の相互関係を日本経済の循環図を通してとらえることが主題である。

《参考》経済企画庁「平成6年日本経済の循環図」（配布資料）

2. 「総需要・均衡産出量・均衡所得」…………… 4回

いわゆる単純なケインズ派の所得決定理論が、モデル分析に則って説明され、次の第3講で活躍するIS曲線の基礎理解を得ることが目標となる。このテーマの終了後、練習問題を解くレポートが課せられる。解答は配布され、解説は授業の中で行なわれる。

《参考》中谷巖『入門マクロ経済学』（日本評論社）第3章

3. 「貨幣・利子および同時均衡」…………… 8回

この段階で貨幣の果たす役割が明示的に導入され、前講までの主題との接合がはかられて、IS曲線とLM曲線を主な武器とする分析が進められてゆく。モデルを用いた説明が中心となるが、日本経済の現況との関連が説明の中に登場する機会も増えてゆくであろう。また、利子率に触れるとき、預貯金の利率に加えて有価証券の利回りにも馴染んでもらうことになるであろう。その他、国家公務員、地方公務員、国税専門官などの専門科目試験の例題を示す事もある。本テーマの終了時にも、簡単な練習問題がレポートの課題として課せられる。正解と解説は授業中で示す。

《参考》伊達邦春（編）『マクロ経済学』（八千代出版）第9章

4. 「金融政策、財政政策」…………… 4回

前講までの内容が理解されれば、金融政策と財政政策の発動によって、望ましい所得水準を達成するプロセスは比較的容易に理解できるものと思われる。その上で、国内のおよび国際的クラウディング・アウト効果を取り扱われる。アメリカのベトナム戦争時に生じた国内的クラウディング・アウト効果に関するケース・スタディは興味をよぶのであるまいか。

《参考》ドーンブッシュ・フィッシャー『マクロ経済学（上）』（CAP出版）第4章

5. 「労働市場を組み込んだ総需要・総供給分析」…………… 5回

ここまで扱われてきたのは、財・サービスの市場と貨幣市場であったが、これに労働市場が明示的に組み合わされる。さらに物価の変動が重要なテーマとして加わる。

成績評価の方法

基本的には期末試験による。2回の練習問題に対するレポートは一定の評価対象となりうる。

教 科 書

R. J. ゴードン『現代マクロエコノミックス（上）』（第6版）多賀出版

科目名	担当者名	配当学科	単位
中国経済論	小 すぎ 杉 しょう じ 修 二	禅・仏教・国文・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 法律・政治・経営・短放	4

講義のねらい

この講義は中国の長期的動態をとらえる。
現在の中国は対外開放、経済成長と生活の向上の結合、経済改革の試み等、新たな活気が増えるようになった。また、企業自主権の拡大、株式会社、個人営業の公認、失業・倒産の制度化、「1国2制度」「6.4天安門事件」等々話題に事欠かない状況である。
本講義ではこのような目前的変化をとらえると同時に、より長い視野と射程で問題を論じることとする。即ち、本講義のキー・ワードは、超大国志向、社会主義、発展途上国である。この3点で中国の長期的動態を論ずる。

講義の内容・授業スケジュール

この講義は3つのキー・ワードで歴史的説明をはかる。
前期授業のはじめに、キーワードを3週間分けて説明する。ここでは、地域研究が本来もっている特徴である、問題のさまざまな面をとらえる、ということと、そのうち比重の大きい側面は何であるかをつかむ、といった点に留意する。特に、私独自の見方である中国の超大国志向について詳しく説明する。

これについて、中国経済の解明に取り組むが、それは一言でいえば歴史的方法をとる。すなわち、中華人民共和国の成立（1949年）から今日までを、3つの特徴的な時期に分けて、(1)ソ連モデル（1949～57年）、(2)毛沢東モデル（1958～78年）、(3)鄧小平モデル（1978～）として、それぞれの時期の特質とその変化の動因を説明する。

このような方法をとるのは、今現在の目の先の出来事も何かの方向へ向かって動いている訳だが、その方向というものは、あまり近くで見ているとわかりにくいものだからである。つまり、現在および将来というのは、過去の何らかの延長であると考えからである。それが単純な延長である場合もあろうし、新しい条件に見合った微修正の延長である場合もあろうし、また全く過去の否定的総括に立った転換である場合もあろう。その場合も、過去の何が否定的に総括されたのかを知らねば、将来への延長線は引かれまいであろう。そこで歴史的方法をとるわけである。

上記の3つのモデルを超大国志向、社会主義、発展途上国の3つのキー・ワードを軸にして説明していくが、そこでの中国は著しく軍事大国志向、経済成長志向である。世界の他の国々がそのような志向性をもっている中で、また中国が途上国であることからして、やむを得ない面もあるが、世界が環境問題で行き詰まりつつある中で、このような志向性のもつ問題点をも相対化し得る見方をもてるように留意したいと思う。

履修上の留意点

授業の進め方は、教科書に沿った講義とビデオ上映による説明の二本立てで行っている。
教科書は専門家向けに書かれており、自明のことや初歩的なことは書かれていない。したがって、中国経済に全くの初心者であると思われる学部学生に対しては、自明とされていることや、初歩的な知識の説明を補いながら講義を行う。
また、何分にも外国のことなのでイメージがわきにくいといった問題があるので、年に数回、中国関係のビデオを見る。例えば、新日鉄宝山製鉄所、天津の用水路、長春第1自動車工場、江南億元郷、天安門激動の40年等。

成績評価の方法

受験勉強の本質は正解当てクイズである。しかし、このような方法は実社会では通用しない場合が多いし、正解も変わっていく。諸君が物事（中国経済）を自前の頭で理解し判断できるための勉強が高等教育の場である。そのために、無数にいる専門家の意見の比較、優劣判定、取捨選択、時間による検証、といった作業が必要になる。その前提になるのが、各専門家の学説の正確な理解である（学説の受入れとは異なる）。テストは基準となる一つの学説（とりあえず、私の説）の正確な理解ができたかどうかを見るものである。

教科書

小杉修二著『増補 現代中国の国家目的と経済建設 —— 超大国志向・低開発経済・社会主義』（龍溪書舎）¥4,000

その他

学習が正解当てクイズに終わるかどうかは諸君の学習意欲にも係わっている。教科書の脚注引用文献や同第5章「諸学説の検討」あるいは授業中にその都度指摘する文献を積極的に読むことを希望する。

科目名	担当者名	配当学科	単位
アジア経済論	かく 郭 やん 洋 ちん 春	禅・仏教・国文・英文・地理 歴史・社会・福祉・心理 法律・政治・経営・短放	4

講義のねらい

「世界経済の成長のセンター」「開発途上国の優等生」、これらは1980年代に入り急速に成長してきたアジア諸国（特に東・東南アジア）を指して使われた言葉である。

植民地支配解放後、長く低開発に喘いでいた開発途上国の中から登場したこれらアジア諸国は、今や先進国の仲間入り寸前のところまで来ている。

一方で、インドネシアの「東チモール問題」、ミャンマーの「民主化問題」、中国の「三峡ダム問題」「南沙諸島、尖閣列島問題」など民族紛争、人権問題、環境破壊、領土問題など冷戦後特に、負の遺産が噴出しているのもアジア地域なのである。

従って、本講義では急成長を遂げたアジア諸国の経済メカニズムの解明と、その陰に隠れて見落とされがちな負の要因の分析の両面から、アジア経済の実態を明らかにしていく。

講義の内容・
授業スケジュール

講義内容は以下の通りであるが、状況に応じて多少の変更はあり得る。

I アジアの台頭

①NICsの登場、②NIEsへの転換、③ASEANとは何か、④変貌するASEAN

II ダイナミック・アジア

①アジアの経済政策、②経済開発に果たした国家の役割、③外資導入とアジアの工業化、

④日本のODAとアジアの工業化、⑤経済開発の推進母体としての財閥、ビッグ・ビジネス

III 迷走するアジア

①アジアの環境破壊、②飢餓と飽食のアジア、③軍事大国化するアジア、④アジアの開発独裁

IV 21世紀のアジア

①地域経済圏とアジア、②継続するか「成長のセンター」、③アジアは先進国の仲間入りをするのか

履修上の留意点

教員による一方通行的な授業ではなく、応答的授業形態を模索するので、積極的・主体的姿勢で参加すること。授業中は私語・携帯電話類は厳禁。

成績評価の方法

授業中に行う小テストと学年末試験を合わせた総合評価（場合によっては長期休暇中にレポートを課すこともある）

教科書

特になし。

参考書等

横山正樹・涌井秀行編著『ポスト冷戦とアジア』中央経済社
他は授業中に随時紹介する。

その他

授業方法は講義中心であるが、学生との討論も考えている。また、ビデオを多用し視覚からも授業を理解してもらおうつもりである。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
日本経済史	こしょう 古庄 正	神・仏教・国文・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 法律・政治・短国・短放	4

講義のねらい

日本経済史の対象は原始古代以来の経済発展の全過程であるが、今年度は明治の産業革命期に焦点を絞り、資本主義経済システムが日本ではどのように定着し、発展したかを概観したい。

講義の内容・
授業スケジュール

- 序. 経済史とはどういう学問か。(1回)
1. 江戸時代の経済発展 (2回)
2. 開港とその影響 (1回)
3. 明治維新の諸変革 (1回)
4. 明治政府の工業化政策 (1回)
5. 政商・天皇家・華族の資本蓄積 (1回)
6. 松方財政と企業勃興 (1回)
7. 軽工業の発展 (1回)
8. 重工業の発展 (1回)
9. 炭鉱と鉱山 (1回)
10. 在来産業の近代化 (1回)
11. 産業革命と公害 (1回)
12. 鉄道と海運 (1回)
13. 産業革命と農業・農村 (1回)
14. 外国貿易の発展と商社 (1回)
15. 財政と金融 (1回)
16. 資本家と労働者 (1回)
17. 財閥の多角化 (1回)
18. 産業革命と教育 (1回)
19. 産業革命と植民地 (2回)
20. 大正期の日本経済 (2回)

履修上の留意点

日本経済論の履修を薦める。

成績評価の方法

期末テストの成績とレポートによる。配点は前者70点、後者30点。

教科書

プリントを毎時間配付し、それにもとづいて講義する。教科書は使わない。

参考書等

参考文献は必要に応じて授業時間中に指示する。

その他

授業の方法は講義形式。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
中 小 企 業 論	わ だ こう じ 和 田 耕 治	禅・仏教・国文・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 法律・政治・経営・短放	4

講義のねらい

中小企業は異質多元の存在であるといわれている。それら特質は、大企業でないということを除けば、千差万別である。とはいえ、わが国においては、中小企業研究の歴史は、古く、その蓄積には、膨大なものがある。本講義では、今までの中小企業研究の蓄積を踏まえつつ、今日における中小企業の現状とその課題を考察する。

講義の内容・
授業スケジュール

年間二十数回程度の講義のなかで以下の点に触れながら授業を進める。

- ① 中小企業とは
- ② わが国における中小企業研究
- ③ 中小企業問題と中小企業政策
- ④ 下請分業構造の変化と中小製造業
- ⑤ 大規模小売店舗法の規制緩和と中小商業
- ⑥ 創業支援とベンチャービジネス
- ⑦ 中小企業従業者の労働と福祉
- ⑧ 地域経済と中小企業

成績評価の方法

夏休みのレポートと学年末試験で成績の評価を行なう。

そ の 他

授業では、必要に応じて、OHPやビデオを使用する。
教科書は、とくに使用しないが、5～6月に発行される中小企業庁『中小企業白書』は各自で購入すること。

科目名	担当者名	配当学科	単位
教育経済論	やしきただみつ 谷 敷 正 光	禅・仏教・国文・英米文 歴史・社会・福祉・心理 法律・政治・経営・短放	4

講義のねらい

この講義は経済発展に産業教育が果たした意義とその役割について明らかにするのがねらいである。
 日本は近年、「経済大国」として世界的に認められるようになったが、この発展を築いた基礎に日本の高い教育水準と人材養成があるといわれている。そして欧米各国では経済面での国際競争力の低下が教育水準の低下と密接に関連しているとの観点から日本の産業教育政策を解明するとともに、2000年に向けて一斉に教育改革に着手している。アメリカの「危機に立つ国家」「全米教育サミット」「2000年アメリカ」、イギリスの「教育改革法」「二十一世紀に向けての教育・訓練」、フランスの「ジョスパン法」など各国の改革の中心は厳しい経済競争に勝ち残るための教育水準の向上、教育に市場原理の導入、高等教育の質的充実、教育投資の拡大など教育を「国の最優先課題」と位置づけている。
 そこで本年度は、こうした欧米先進国の経済再建と教育改革の動向、日本の現状をまず明らかにする。
 次に、外国からは高く評価されている日本の高い教育水準、人材養成教育を戦前は産業資本確立期を中心に、戦後は朝鮮戦争を契機に復興した経済復興期から平成景気までを中心にそれぞれの経済発展段階の特徴とそれに応じた産業界の人材教育要求と国の教育政策、産業教育政策を明らかにしたい。

講義の内容・授業スケジュール

1. 先進国の経済発展と教育
 - (1) 日本の産業化と教育
 - (2) 日本の経済成長と教育
 - (3) 日本の産業高度化と教育
 - (4) 日本の「新高度成長」と教育
 - (5) 日本の人的開発政策
 - (6) レーガン大統領の経済政策と教育（一部ビデオ）
 - (7) ブッシュ大統領の経済政策と教育1（一部ビデオ）
 - (8) ブッシュ大統領の経済政策と教育2（一部ビデオ）
 - (9) クリントン大統領の経済政策と教育1（一部ビデオ）
 - (10) クリントン大統領の経済政策と教育2（一部ビデオ）
 - (11) サッチャー首相の経済政策と教育（一部ビデオ）
 - (12) メージャー首相の経済政策と教育（一部ビデオ）
 - (13) ブレア首相の経済政策と教育（一部ビデオ）
2. 戦前日本の経済発展と実業教育政策
 - (14) 学制時代における実業教育政策1 富国強兵・殖産興業（映画）
 - (15) 学制時代における実業教育政策2 学制公布と実業教育
 - (16) 教育令時代における実業教育政策1 工場拡大
 - (17) 教育令時代における実業教育政策2 教育令公布と実業教育
 - (18) 学校令時代における実業教育政策1 産業革命
 - (19) 学校令時代における実業教育政策2 学校令公布と実業教育
 - (20) 実業学校令時代における実業教育政策 実業学校令、専門学校令公布と実務教育
3. 戦後日本の経済発展と産業教育政策
 - (21) 復興期の経済発展と教育1（一部ビデオ）
 - (22) 復興期の経済発展と教育2 産業教育振興法公布（一部ビデオ）
 - (23) 高度成長第1期の経済発展と教育（一部ビデオ）
 - (24) 高度成長第2期の経済発展と教育（一部ビデオ）
 - (25) 高度成長第3期の経済発展と教育（一部ビデオ）
 - (26) 高度成長終焉後の産業教育

他学部履修科目

履修上の留意点

- ① 年間5回小テストを実施し、平常点とする。
- ② 現実的理解のため視聴覚教室でビデオ・映画を使用するので指定された教室か視聴覚教室に注意すること。
- ③ 毎時間、講義用のプリントを配布する。一度配布したプリントは、後の時間では配布しないので、必ずその授業中に受け取ること。
- ④ 毎時間かなり板書するので、黒板が見えにくい人はできるだけ前に着席のこと。

成績評価の方法

授業中の小テストと期末試験の成績によって評価する。

教科書

毎時間、講義の教材として年間30～40枚のプリントを配布するので、教科書は特に使用しない。

参考書等

豊田俊雄編『わが国産業化と実業教育』（東大出版）
 ギ・ソルマン（秋山康男訳）『レーガンのアメリカ』（新潮社）
 原田和男『ブッシュの米国経済』（日本経済新聞社）
 宮崎正弘『クリントンの日米経済』（銀河出版）
 森嶋通夫『サッチャー時代のイギリス』（岩波新書）
 文部省『産業教育百年史』（ぎょうせい）
 その他、講義の中で適宜紹介するので、興味のある人は読んで講義の参考にして下さい。

科目名	担当者名	配当学科	単位
アメリカ経済論	瀬戸岡 せとおか ひろし 紘	禅・仏教・国文・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 法律・政治・経営・短教	4

講義のねらい

現代のアメリカ経済事情を幅ひろくわかりやすく解説します

最新のアメリカ情報と、過去の私のアメリカ生活および研究活動でのエピソードを多数まじえながら、今日のアメリカ経済事情について、幅ひろく、トータルな解説をするのがこの講義です。それとともに、アメリカのできごとと関係のふかい世界の情勢を、ひろく検討します。

特別な経済学の予備知識がなくても理解できる授業です

この講義を受講するために特別な経済学の予備知識は必要としません。経済学部以外の学生でも十分に理解できるように、理路整然と、わかりやすく話をすすめます。しかし同時に、アメリカ経済につよい関心をもつ学生諸君には、さらに深めた研究をしていく動機をつかめるような学問的挑発を試みようかとも考えています。他方、講義でとりあげるニュースとキーワードは、就職などでの試験を受けようとする者にも役にたつものとなるでしょう。全体として、この講義は、いわゆる専門的な特定領域の探究をこころみるものではなく、奥ふかく興味のつきないアメリカ経済の世界に諸君を道案内するものなのです。

アメリカ経済について自力で学習していく力をつけることが目標です

受講者のみなさんが、アメリカ経済について自分の力で学習研究していくための動機をつかみ、その基礎的能力をつけることが、この講義のねらいです。ビデオの多用とか、資料の過剰な配布などはしませんが、それもむしろ受講者諸君が自力でビデオを活用し資料を収集する力量がつくように指導したいと考えるからです。この講義は、新入生から卒業年度生まで、いずれの学年でも受講できますが、以上にのべたこの講義の性格からして、3年生までに受講することをすすめます。

講義の内容・授業スケジュール

年間をとおして聴くと現代のアメリカ経済の全体の輪郭がわかるように講義を組んでいます。とりあげるテーマには、おおむねつぎのようなものを予定しています。

《導入の話題》

◇大統領の今年の経済政策とアメリカ経済の近況

《総論》

◇アメリカの建国の理念と現代の経済
◇アメリカ経済の歴史的過程

《アメリカ経済各論》

◇アメリカの農業
◇アメリカの工業
◇アメリカの企業家とベンチャービジネス
◇アメリカの雇用と労働者
◇アメリカの商業とサービス
◇アメリカの交通・通信・情報
◇アメリカの金融
◇アメリカの教育と経済
◇アメリカの科学技術
◇アメリカの先端産業
◇アメリカ経済と環境問題
◇アメリカ社会とヴォランティア
◇女性・マイノリティーとアメリカ経済

《世界とアメリカ》

◇国際通貨ドルの地位とIMF
◇アメリカと貿易(GATTとWTO)
◇アメリカ軍の世界的ネットワークとその経済的意義
◇アメリカの海外援助
◇アメリカの多国籍企業
◇多国籍企業とアメリカ経済

《アメリカと世界の諸地域》

- ◇アメリカとEC
- ◇アメリカと日本
- ◇アメリカとアジア・太平洋
- ◇アメリカとカナダ・メキシコ

《むすびの話題》

- ◇アメリカの経済学（あたらしい学派の見解）

1回の講義でひとつのテーマをとりあげます

原則として1回ごとに独立したひとつのテーマをとりあげ、完結させるように話します。毎回の講義では、まずテーマに即した最新のニュースを話題にするところから話をはじめ、ついでそれぞれのテーマを理解するための基礎的な事実とキーワードを具体的な資料やデータにもとづいて解説します。各講義のしめくくりには、受講者諸君との対話を大切にしながらテーマの本質について考えてみます。

あたらしい情報やトピックスを、解説つきで、つねに受講者に紹介します

年間予定とは別に、あたらしいニュースや情報は、随時、解説をつけて、お話しします。ただし、ただあたらしいことを追うばかりにおちいらしないで、ことの真相や本質的なことがらを、ちょっととちどまって考えることができるような、多少とも理論的な視角をもちこみます。

アメリカの諸大学にみられる長所をとりいれた授業です

講義は、極力、受講者諸君の希望をいかして、たのしくすすめるつもりです。とくに、この講義には、アメリカの大学に見られる望ましい習慣をとりいれるようにこころがけています。たとえば、ながい時間の講義に諸君がつかれて集中力をおとさないように、講義の途中で小休止をおくようにしています。講義のなかでの受講者諸君の発言や質問は大歓迎です。講義にたいする受講者の側からの評価や採点、改善提案などは、もちろん今年も実施します。

成績評価の方法

熱心な受講者には楽勝の、単位だけがほしい学生には恐怖の科目です

この講義については、いわば単位をかすめとることなど考えないほうが無難でしょう。すすんで受講しようとする者には、退屈させない楽しい講義をするつもりですし、また、そういう受講者がよい成績をおさめられるように評価のしかたを工夫しています。すなわち、この講義では、一発の年度末試験よりも、平常点や時間をかけて書きあげたレポートを重視する予定なのです。たとえば、授業で学んだことがらや感想を簡単に記した文章を何回か提出してもらうことを考えていますし、受講者の希望により、この講義のなかでいただくようになった問題意識をもとにアメリカ経済にかんする自由論題で小論文を年度末に提出してもらい試験に替えることも考えています。今年度も受講者との合意が成立すれば、平常点を考慮にいれつつ小論文を中心に成績評価をすることにしたいと考えています。

教科書

最新の情報をもとに講義をすすめます。だから特定のテキストは使用しません

この講義では、特定の図書を教科書として使用しません。アメリカ経済をあつかった文献はあまりにたくさんあって、しかもどの一冊も、これさえ読めばアメリカ経済が把握できるというほどアメリカ経済は単純ではないからです。講義では、その都度よい文献などを紹介していきます。日々のニュースと諸君の周囲にあるさまざまなアメリカものの本の全体が、この講義の教科書ですが、今、どうしてもといわれれば、グリーンバーグ著『資本主義とアメリカの政治理念』（瀬戸岡訳、青木書店、1994年）をおすすめします。

科目名	担当者名	配当学科	単位
日本経済論	もり 森 たけ 武 まる 磨	禅・仏教・国文・英米文 地理・歴史・法律 政治・短国・短英	4

講義のねらい

1980年代の後半には、日本のGNPは世界の14%を占めるまでになった。1950年が1%であることと比べるとこの間いかにすさまじい経済成長であったかがわかる。また、1950年代には世界のGNPの40%を占めていたアメリカはこの間に25%までに低下し、貿易赤字と財政赤字に苦しみ1985年には初めて債務国に転落した。しかし、日本経済も1980年代の好景気、バブル経済を謳歌したが、1990年代には一転して本格的な不況局面に突入し、出口ははまだ見えない状態である。驚くべき経済成長とゆたかさの背景に、日本社会は公害・環境破壊、企業内の長時間労働、高地価による貧困な住宅条件、少ない休暇など社会的な矛盾もまた累積していった。

このような社会変動をもたらした日本経済の成長はどのようにして生まれたのであろうか。その成長の軌跡と矛盾を、日本株式会社論や1940年体制論などの現代経済システムの源流論や、企業主義・会社主義、日本型企业社会など最近の日本的経営論や日本の労使関係論を視野に入れながら論じてみたい。

講義の内容・授業スケジュール

1930年代の世界大恐慌から第2次世界大戦をへて1945年の敗戦による日本経済の崩壊から、戦後改革と高度経済成長をへて「経済大国」化した1980年代までの日本経済の段階的変化と構造的特質を把握することをねらいとする。

講義の進め方は、1930年代から1990年代にいたる日本経済の軌跡を5期に区分してそれぞれの時期を資本構造、労使関係、農業問題、対外関係の4つの視点から明らかにしていく。年間の講義スケジュールは以下の通りである。

- 1 財閥資本と金融資本
- 2 昭和恐慌と高橋財政
- 3 恐慌下の労資関係
- 4 戦時統制経済
- 5 戦時下の農業問題
- 6 大東亜共栄圏
- 7 財閥解体と再編成
- 8 戦後資本主義の再建
- 9 労働改革
- 10 農地改革
- 11 高度経済成長とは何か
- 12 企業集団と法人資本主義
- 13 日本の労使関係
- 14 高度成長下の農業問題
- 15 石油危機と高度成長の終焉
- 16 経済大国化への道
- 17 日本型企业社会の確立
- 18 現代経済と労使関係
- 19 現代の農業問題
- 20 世界の中の日本

履修上の留意点

履修に関していえば、日本経済に関する最新の新聞情報を毎回トピックとして解説し、講義内容もだれでも理解できるように説明する。そのつどプリント（図表）を配布し、また補助教材としてビデオを多く利用するので低学年にも十分理解しうる。ただし出席、授業内小テストなど採点は厳しいのでとくに4年生は心して履修されたい。

成績評価の方法

成績評価は期末試験（論述式）を中心に採点する。中間テストとして夏休みにレポートを課す。出席状況も評価に加える。期末テスト、夏休みレポート、出席状況の三者は、60点、20点、20点の割合で評価する。

参考書等

森武磨ほか『現代日本経済史』 有斐閣 ￥1,700

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
財 務 会 計 論	えん どう たかし 遠 藤 孝	禅・仏教・国文・英米文 地理・歴史・社会・福祉 心理・法律・政治・短大	4

講義のねらい

会計学、とくに企業の活動内容を外部に伝達開示することを目的とする財務会計 (FINANCIAL ACCOUNTING) について、その伝達、開示の手段である貸借対照表 (BALANCE SHEET)、損益計算書 (INCOME STATEMENT) を中心に、その性格、内容、役割について講義する。

講義の内容・授業スケジュール

前 期

- (1) 4月第1週
企業会計、財務会計とは何か。会計学、財務会計論とは何か。その企業会計、財務会計の何を学ぶのか。
- (2) 4月第2週
先週に引続き、企業会計、財務会計とは何か。企業会計、財務会計がわれわれの生活とどのように関係しているのかを中心に講義。
- (3) 5月第1週
財務会計の制度性について。
財務会計制度とは何か。日本の企業会計制度、各国企業会計制度のタイプ。
- (4) 5月第2週
貸借対照表論。貸借対照表とは何か、実際に企業が作成した貸借対照表で説明。貸借対照表の役割、貸借対照表学説。
- (5) 5月第3週
資産評価について。流動資産－棚卸資産の評価、有価証券の評価、現行評価制度の問題点。
- (6) 6月第1週
資産評価について。固定資産の評価、土地評価、減価償却について。
- (7) 6月第2週
繰越資産について。繰延資産の特殊性、繰延資産項目とその償却。
- (8) 6月第3週
引当金について。引当金とは何か。引当金の設定基準－商法、「企業会計原則」の引当金、引当金会計の問題点。
- (9) 6月第4週
同上。
- (10) 7月第1週
資本金について。

後 期

- (11) 9月第1週
損益計算書とは何か。費用収益の認識。
 - (12) 9月第2週
連結財務諸表とは何か。
 - (13) 9月第3週
同上。
 - (14) 10月第1週
セグメント会計について。
リース会計について。
年金会計、退職給与引当金と年金会計
 - (15) 10月第2週
企業内容、会計内容の開示について。
注記 財務諸表附属明細表 (書)。
 - (16) 10月第3週
同上。
 - (17) 10月第4週
財務諸表の監査、商法上の監査。
 - (18) 11月第1週
財務諸表の監査、証券取引法上の監査。
「企業会計原則」について。
 - (19) 11月第2週
会計の国際化、会計基準の国際的調整。
 - (20) 11月第3週
同上。
 - (21) 11月第4週
日本、世界企業会計の最新動向。
 - (22) 12月第1週
同上。
 - (23) 12月第2週
会計学を学ぶについて考えるべきこと。パソコン時代の企業会計。総括。
 - (24) 最終週
予備。
- 以上のスケジュールは、学会出張、大学祭など大学の行事によって変更することがある。

履修上の留意点

講義には必ず出席すること。

成績評価の方法

試験による。(前期、後期2回実施の予定)

教 科 書

遠藤孝他著『会計学』森山書店 1998年

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
管 理 会 計 論	なか はら しょう きち 中 原 章 吉	禅・仏教・国文・英米文 地理・歴史・社会・福祉 心理・法律・政治・短放	4

講義のねらい

「管理会計」という分野は、多くの人にとって、大学に入って初めてお目にかかるものです。どの分野でも、ある段階に達するまでには、何段もの段階を一段一段昇ってゆかねばなりません。この「管理会計論」は、その二段目にあたる科目です。一段目の科目は「会計学総論」です。

「管理会計論」は、企業の「ことば」である会計、その知識体系である会計学の学習に必須な会計学の主要な2領域である「財務会計」と「管理会計」のうちの一つであるということができると思います。「財務会計」が企業の外への「ことば」であるのに対して、「管理会計」は企業の内での「ことば」です。

講義の内容・授業スケジュール

前期は、管理会計の本質、体系その中での「意思決定会計」と「業績管理会計」をキーとして管理会計の基礎的概念を説明すると共に予算管理や原価管理との関連についても講義していきたいと思います。

後期は、管理会計の豊富な各論のなかから、「財務諸表分析」と「付加価値管理会計」をキーとして管理会計の問題点を検討します。「財務諸表分析」については、その企業の健康診断としての役割を、方法とその留意点、収益性の分析、生産性の分析、安全性の分析、総括的方法を内容として説明します。「付加価値管理会計」については、経営計画とくに要員計画と付加価値会計、経営管理のための付加価値生産性を内容として説明します。

履修上の留意点

1年生で「会計学総論」を選択しなかった経済学科の学生は会計学の入門書を読んでおく講義が理解しやすいと思います。例えば、『企業会計の基礎知識』（創成社）

教科書

講義の際、指示します。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
銀 行 論	さいとう 藤 正	神・仏教・国文・英米文 地理・社会・福祉・心理 法律・政治・短国・短英	4

講義のねらい

近年、経済の様々な分野で「規制緩和」、すなわち自由化が喧伝され、金融業においても橋本内閣の「6大改革」の重要な柱として金融ビッグバン構想が展開されている。官僚的規制には様々な問題が指摘できるが、モラルを欠いた「自由化」がそのまま認められることにはならない。とりわけ銀行は、「預金通貨の供給」を通じて経済社会の決済システムを担っており、その安定性（信用秩序の維持）なしには経済社会の安定も達成されないという意味で、他の産業と異なる独自の「社会的責任」が存在する。相次ぐ経営破綻の増加、数々の金融スキャンダル、巨額の不良債権など信用秩序の動揺は、「野放しの自由化」が銀行を収益至上主義に陥らせ、その結果経済社会に対して多大な否定的な影響を及ぼすことの例証である。また、「堅実で、比較的高賃金」というイメージで、就職先としての人気も高いとされる銀行の職場は現在、自由化の下での競争激化に伴う「経営合理化」によって、サービス残業、苛酷なノルマなど、「長時間・過密労働」がさらに強められるとともに、出向・転籍が常態化し、健康と将来への不安を抱く行員が増えている。

このように銀行を取り巻く状況は内外ともに問題が多いと言わざるをえないが、しかし、銀行は依然として「貨幣の供給」及び決済システムを担う唯一の主体であり、社会的に不可欠の役割を果たしているがゆえに、今こそ銀行の健全なあり方が強く望まれるのである。

本講義では銀行の基礎理論を踏まえたうえで、戦後の日本経済の展開に果たした銀行の役割を具体的に検証し、今後のあるべき姿を考えてみたい。

講義の内容・授業スケジュール

- 1) 前期は銀行の基礎理論を中心に講義する。
 - ① ここでは古代からすでに存在した「金貸し業者」や「高利貸」と「銀行」との違いがどこにあるのかを検討しながら、「銀行」の基本的機能及び経済社会（メーカー、商社、消費者、さらに国家など）との関連を明らかにする。
 - ② 銀行が、一方で預金を受け入れ、他方で貸出を行っていることは広く知られている。だが、銀行は受け入れた預金をそのまま現金で貸し出すわけではなく、受け入れた預金を基礎として、貸し出す際に「信用貨幣」（預金通貨）を創造する。現代社会では、エレクトロニクス技術の進展に伴い、ファームバンキングやホームバンキング、さらには電子マネーといった「キャッシュレス社会」現象がみられるが、それは銀行を頂点とした信用（債権債務）関係の高度な発展であると同時に、返済の確実性を前提に成り立っていることを忘れてはならない。
- 2) 後期は戦後日本の経済に果たした銀行の役割を、時期毎に検証し、将来の銀行制度の望ましいあり方について検討する。
 - ① まず、専門的金融機関制度あるいは分業主義といわれる戦後日本の金融制度の特殊性とそれぞれの専門機関（普通銀行、中小企業金融専門機関、証券会社、保険会社など）の果たした役割の理解を目指す。
 - ② 時期区分は、おおまかに高度成長期、スタグフレーション期、自由化以後、とし、欧米の動向も参照しながら、それぞれの時期にどのような「銀行理論」が展開されたのかを併せて紹介する。
 - ③ とりわけ、現代の銀行制度が抱えている主要な問題を浮かび上がらせる契機となったのが、80年代後半の「バブル経済」と90年代以後の「バブル崩壊」である。戦後銀行制度の構造的転換という視角からこの時期の諸問題を検証する。
 - ④ 以上を通じて現在日本の銀行が抱える問題を理論的にも制度的にも的確にとらえ、金融ビッグバン構想について検討を加えながら望ましい銀行制度のあり方についての理解を深めたい。

成績評価の方法

成績は、基本的には前期試験（レポートに変更の場合もありうる）と後期試験によって理解度を評価するが、出席状況、授業態度における積極性も十分加味する。また、履修にあたっては、「独自の銀行観」の習得を目指すことを望む。

教科書

教科書は特に指定しないが、最初の講義で紹介する。また、毎回レジメを配布し、それに沿って講義する。

参考書等

- 谷田・野田・久留間編『現代金融の制度と理論』、熊野・龍編『現代日本の金融』いずれも大月書店 1992年
- 日本銀行『新版 わが国の金融制度』

科目名	担当者名	配当学科	単位
会計監査論	飯岡透	禅・仏教・国文・英米文 地理・歴史・社会・福祉 心理・法律・政治・短放	4

講義のねらい

会計監査の目的は、企業の作成した財務諸表がその企業の財政状態や経営成績を適正に表示しているかどうかについて、監査人が意見を表明することであり、企業規模の拡大、利害関係者の多様化、企業活動の複雑化、一部企業における不正問題の発生などに伴い、近年、その役割はますます重要になってきている。そこで、この講義では、こうした会計監査の発展過程、制度、社会的役割などを中心に会計監査について受講者の理解を深めることを目的としている。

講義の内容・授業スケジュール

この講義での授業内容とそのスケジュールは次のとおりである。

[前期]

4月 会計監査の目的と種類

- (1) 会計監査の目的
- (2) 会計監査の種類
- (3) 監査基準の必要性和その構造

5月 わが国監査制度の展開

- (1) 第2次世界大戦前におけるわが国監査制度の展開
- (2) 第2次世界大戦後におけるわが国監査制度の展開

監査人の要件と責任

- (1) 監査人の要件
- (2) 監査人の選任と解任
- (3) 監査人の職務権限と責任

6月 監査要点と監査手続の選択適用

- (1) 監査要点の意義と種類
- (2) 通常実施すべき監査手続とその内容

7月 監査証拠の種類と内容

- (1) 監査証拠の意義と分類
- (2) 十分な監査証拠と合理的な基礎

[後期]

9月 内部統制と監査リスク

- (1) 内部統制の構成要素
- (2) 内部統制の評価
- (3) 監査リスクと重要性

10月 監査計画と組織的監査

- (1) 監査契約と予備調査
- (2) 監査計画の目的とその設定
- (3) 組織的監査の重要性と審査機能の整備
- (4) 他の監査人の監査結果の利用

11月 監査調書の目的と種類

- (1) 監査調書の目的と作成要件
 - (2) 監査調書の種類と保存
- 経営者確認書の意義と記載内容
- (1) 経営者確認書の意義と目的
 - (2) 経営者確認書の記載内容

12月 監査報告書と監査概要書

- (1) 監査報告書の意義と機能
- (2) 監査報告書の種類
- (3) 短形式監査報告書の記載内容
- (4) 特記事項の記載内容
- (5) 監査概要書の目的と記載内容

1月 この講義の総括と年度末試験の説明

なお、以上のスケジュールは、学会出張や大学祭などにより変更することがある。

履修上の留意点

会計監査は、財務諸表の適正性についての意見表明を目的とするものであるから、会計学総論簿記論及び財務会計論の講義を履修し、財務諸表について十分に理解していることが望まれる。

成績評価の方法

成績は、レポート（30%）及び年度末のテスト（70%）の結果によって評価する。

教科書

飯岡・市村・島崎共著『会計監査概論』中央経済社 ￥3,500

参考書等

飯岡透著『中間財務情報制度論』中央経済社 ￥3,800

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
商 業 政 策	いわした ひろし 岩 下 弘	禅・仏教・国文・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 法律・政治・経営・短放	4

講義の内容・
授業スケジュール

- 一 わが国の小売商業構造と蓄積構造
 - 1 80年代の小売商業構造
 - 2 80年代の大手小売業の資本蓄積構造
 - 3 90年代の大手小売業の資本蓄積構造
- 二 わが国の流通政策論
 - 1 中小小売商保護政策論
 - 2 流通近代化政策論
 - 3 流通システム化計画論
 - 4 流通革命論
- 三 流通ビジョンと流通政策
 - 1 70年代の流通
 - 2 80年代流通産業ビジョン
 - 3 90年代流通ビジョン
- 四 わが国の小売商業調整政策の展開過程
 - 1 百貨店法
 - 1) 第一次百貨店法 2) 第二次百貨店法
 - 2 中小小売商業振興法
 - 3 小売商業調整特別措置法
 - 4 大店法
 - 1) 1973年法 2) 1979年改正法
 - 3) 1991年改正法
 - 5 凍結宣言、要綱及び条例
 - 6 通産省による行政指導＝抑制措置
 - 7 規制緩和
 - 1) 規制緩和の流れ－前川レポート、行革審報告
 - 2) 日米構造問題協議 3) 適正化措置
 - 8 特定商業集積法
 - 9 街づくりと都市計画
- 五 海外の流通政策
 - 1 イギリス
 - 1) 出店調整政策－都市・農村計画法
 - 2) 日曜営業問題－商店法
 - 2 フランス－ロワイエ法
 - 3 ドイツ－土地利用計画
 - 4 アメリカ－ゾーニング規制
- 六 流通問題と消費者保護政策
 - 1 消費者問題論
 - 2 消費者保護基本法
 - 3 消費者行政
 - 4 生協
- 七 流通問題と独禁政策
 - 1 独占禁止法
 - 2 不公正取引
 - 3 取引慣行

成績評価の方法

試験、レポート、出席により評価。

教 科 書

岩下弘編『流通国際化と海外の小売業』白桃書房 ￥2,800

参 考 書 等

保田芳昭編『日本と欧米の流通政策』大月書店 ￥2,600

科目名	担当者名	配当学科	単位
貿易論	ふる古 かわ沢 こう紘 ぞう造	禅・仏教・国文・英文・地理 歴史・社会・福祉・心理 法律・政治・経営・短放	4

講義のねらい

オゾン層破壊、熱帯林破壊、温暖化、酸性雨、放射能汚染など地球を取り巻く環境はますます深刻になっています。一方、私たち生命体は水・大気・土壌の汚染により生存を脅かされるところまできています。本講義では、こうした危機的状況を踏まえ、生命系の経済学の立場に立って、貿易問題、さらには国際分業のあり方について深く考えてみたいと思います。その中で、経済学、生態学、倫理学からなる総合的視角の重要性を認識しつつ、私たちの生活のありようを問うことにも力を注ぎたい。

生命系の経済学とは、人格をもった人間としてのニーズ、環境、資源、地球のすべての生命との共存、などを基準とした主体的な指標の確立と、それを実現し保証する政策と運動を具体的に提出する経済学です。詳しくはポール・エキンズ編著『生命系の経済学』（御茶の水書房）を読まれるとよいでしょう。

講義の内容・授業スケジュール

- I. 生産・消費と貿易
 1. 農産物と貿易
 2. 水産物と貿易
 3. 林産物と貿易
 4. 鉱物資源と貿易
 5. 工業製品と貿易
 - II. 政治・経済・社会と貿易
 1. 開発援助と貿易
 2. 環境と貿易
 3. 公正と貿易
 4. 地域統合と貿易
 5. 総括：貿易と暮らしを問う
- 具体的な内容については、最初の講義のときに話したい。

成績評価の方法

ペーパーテスト、レポート、討論、報告発表など、できれば多面的な評価を試みたい。答案やレポートを書くとき、論点を明確にし、自分の考えをしっかりと出すように努力してもらいたい。思考の跡がうかがえないものは、評価の対象とはならないでしょう。

教科書

とくにこれといった教科書は使いません。専門用語などむずかしいことは、そのつど説明しますので、授業に出てもらえれば内容は充分理解できると思います。

参考書等

講義の中で特に興味をもち、もう少し掘り下げてみたいことがありましたら、遠慮なく相談にきてください。参考になる本など教えます（研究室：第2研究館、4階34号室）。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
マーケティング	そ ぐ のぶ たか 曾 我 信 孝	禅・仏教・国文・英米文 地理・歴史・社会・福祉 心理・法律・政治・短国・短放	4

講義の内容・
授業スケジュール

- 前期はマーケティングの基本的な政策である4つの政策を現状をふまえながら講義する。その概要は次のとおりである。
 - 製品政策……マーケティングで展開される製品にかかわる政策の内容を説明し、それらが需要創造にどのように作用しているかも同時に説明していく。その内容は、①製品の差別化、②市場の細分化と製品の細分化、③製品のライフサイクルの短縮化と陳腐化政策の関係などである。
 - 価格政策……現代の価格は需要と供給で決定されているとはいえない。また、小売価格は生産原価と必ずしも因果関係があるとはいえなくなっている。一般的には購買環境を前提にして価格は設定されているといっても過言ではない。そのような価格設定がマーケティングの政策のひとつである。そこで、①価格設定の方法、②差別価格と消費者との関係、③価格による消費者支配などを説明する。
 - チャネル政策……自己製品の流通経路の政策について説明する。企業にとって、自己の製品の特性にあわせて、もっとも合理的な流通経路を選択しようとしている。それにはたんに流通コストの問題だけではなく、販売チャンスや需要創造の問題にもかかわるからである。そこで①商業の排除と系列化、②流通支配の形態、③新業態への対応などを説明する。
 - 促進政策……上記の3つの政策も販売促進政策の効果があるが、それらに含まれない販売促進政策について説明する。その内容は①販売員管理、②広告の方法と実態についてである。
- 後期はマーケティング理論の応用と国際マーケティングについて説明する。とりわけ、日本企業が国際マーケティングを展開するようになった背景を説明し、日本企業の多国籍化の過程について説明する。その内容は次のとおりである。
 - 国際経済環境の変化と日本企業の対応……NAFTA、EUなどブロック経済化に日本企業が現地法人で対応してきた過程を説明する。その内容は①アメリカでの現地化の過程、②EUへの現地化の方法と過程、③日本企業の現地化と総合商社の役割などである。
 - 国内市場の変化と国際化……とりわけ価格志向品の現地生産とその製品の輸入について説明する。その内容は、①日本の規制緩和と製品輸入、②途上国・共産国での現地生産と輸入、③中小企業の現地化と総合商社との関係などである。
 - 日本企業の多国籍化と財務……日本の多くの企業が多国籍化を展開したのは、外的要因によるところが大きい。しかもそれは急速に展開しなければならない状態であった。それを実現できた日本の企業は、膨大な資金調達が可能であったからである。その内容を①資金調達の多様化、②エクイティ・ファイナンスと金利などの面から説明する。
 - 総合商社と国際マーケティング……日本の多国籍企業の典型である総合商社のマーケティングの展開について説明する。これまで総合商社は素材を中心とした貿易業務を主体としてきたが、日本企業を取り巻く環境の変化によっていっそう排除の傾向が強くなってきた。それに対応する政策として、自ら生産や小売部門に進出しマーケティングを展開している。そこで、①総合商社の子会社戦略、②総合商社のマーケティングの特性などについて説明する。

成績評価の方法

定期試験（場合によって小テスト、出席等）によって評価する。定期試験に大きなウェイトをおいていることはいうまでもないが、そこでは講義内容の理解はもちろん、問題に対する自分なりの解決の力と応用力を期待している。

教 科 書

曾我信孝『総合商社とマーケティング』白桃書房 ￥4,000

参 考 書 等

必要に応じて紹介する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
原 価 計 算 論	かとうとしやす 加藤利安	禪・仏教・国文・英米文 地理・歴史・社会・福祉 心理・法律・政治・短放	4

講義のねらい

19世紀中葉において確立した原価計算は、目的手段体系として、その成立の当初から現在に至るまでさまざまな実践の場から提起され、時代とともに変容する各種の目的に応えることが期待されてきた。わが国の「原価計算基準」は原価計算の果たす目的を5つ列挙している。換言すると、財務諸表作成目的（財務会計目的）と経営管理目的という包括的な2つの目的を達成すべきものとして設定されている。しかしながら、基本的には財務会計的側面に強く傾斜しており、全部原価計算による製品原価の計算に主眼が置かれている。しかし他方において、戦後における原価計算の研究は、その経営管理的利用面において大いに開発されてきている。標準原価計算、直接原価計算そして貢献利益計算等が提唱され、さらに最近に至ってはプロジェクト・プランニングや戦略的な経営管理の計数的技法として関連原価計算や活動基準原価計算が論議されている。このように、一定の時代的、環境的状况の認識の下で、ある特定の社会的役割を果たすべく設定されてきた原価計算制度・「原価計算基準」も、その変容した今日的な経済的、社会的な環境下で、現実的な課題への適合性が問題とされるに至り、原価計算システムの再構築や管理会計基準設定等の提言が数多くみられるようになってきている。それは、「異なる目的には異なる原価計算システム」の開発可能性という様相を表わしている。一定の環境状況の下で、企業経営の現実的課題と関連して計算目的が設定され、目的達成の手段であるとすれば、原価計算の目的手段体系の因果的理解ができるのでないか。このような趣旨で本年度の授業内容は、わが国の原価計算基準を所論展開の中心としながらも、その後展開された各種委員会の研究成果を踏まえつつ、それらを一過性の会計現象として捉え、それをできるだけ系統的に分析し、原価計算の展開過程を論理的に説明することをこころがける。

講義の内容・授業スケジュール

前期では、原価計算の基礎的考察を行う。原価の諸概念の検討や「原価計算基準」設定の意義、そしてその構成上の特質について検討を加える。

後期では、近年における原価計算の展開過程の特徴を「原価計算基準」、と関連させながら説明する。そこでは主として、意思決定指向的な原価計算としての関連原価計算、活動基準原価計算について検討を加える。

成績評価の方法

原則として、学年末の定期試験の成績に基づいて評価するが、夏期休暇前の最終授業時において簡単な試験も行う。

教 科 書

最初の授業時に指示する。

参 考 書 等

授業時に適宜挙げる。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
労 務 管 理 論	いし い しょう じ 石 井 脩 二	禅・仏教・国文・英米文 地理・歴史・社会・福祉 心理・法律・政治・短放	4

講義のねらい

日本企業を取り巻く経営環境は、急激に変化しつつある。国際的にはいわゆる冷戦体制の崩壊の中で、欧州・アメリカ・アジアを中心とする世界三局経済体制への動きを背景に、国際市場で激しく展開される企業間競争は今やメガコンペティションといわれる様相を現出させている。他方、国内に目を向ければ急速に進行する情報技術革命を背景とした産業構造の転換、豊かさを背景とした市場の不透明度の高まり、企業戦略の変化など従来までの経営理念や経営姿勢ではもはや環境変化に対応できない状況が生まれている。さらに近年の日本企業を特徴づける政官財癒着にみられる企業倫理観のない企業犯罪の多発、中高年層のみならず若年層をも巻き込んだ容赦のない人員整理などは、改めて企業とはいかなる存在意義を持つのかという疑問を抱かせるに十分である。このような企業環境の変化や企業の社会的存在意義への疑問は、日本企業がこれからのような方向へ進んでいくのかという「将来展望」を曖昧にしているばかりでなく、その予測をきわめて困難なものにしている。社会の進む方向も企業の将来も極めて透明な時代に必要とされることは、現実が生じている様々な動きや事例についての多くの情報を集め、これらの事実情報に基づいて次なる時代の方向性を自分なりに見定めることである。この講義では、日本企業を取り巻く経営環境の変化や日本企業の現実に関する最新の情報に基づきながらこれからの日本企業の動向やそこの勤労生活の変化などを経営側からの様々な従業員対策の展開に即して検討しようとするものである。

講義の内容・授業スケジュール

企業は、一般にヒト・モノ・カネ、さらには情報といった有形無形の経営資源を組み合わせて利用することによってその目的とするものを実現する。かつて日本企業が世界市場で強い競争力を発揮し日本経済の豊かさを実現したのは、これら経営資源の中でもヒト資源の活用が巧みであったことによるといわれてきた。このヒト資源の活用に関わる一連の経営活動がこれまで人事労務管理といわれてきたものである。日本企業における人事労務管理こそは、日本的経営の別名でもあり、日本企業の競争力の源泉であったということである。しかし、今日、日本企業の競争力にかげりが見え始めているといわれる。これは、従来まで日本の経営が競争力を発揮する事のできた経営環境が急速に変化していることを反映している。経営環境の変化は、この講義のキーワードの一つである工業化社会から情報化社会への転換ということに他ならない。この講義では、日本企業が工業化社会というモノ作り中心の産業社会で築き上げてきたヒト資源の活用システムすなわち「人事労務管理」が情報化社会という知識創造や情報創造が中心となる産業社会で妥当性を持たなくなり「人材資源管理」という名称に変化していることに注目し、情報化社会でのヒト資源の活用に関わる最近の企業の動きを中心に検討を加える。同時に、ヒト資源に対する新しい活用への企業側の取り組みが従業員側からみたとときにどのような結果を生み出すことになるのかも併せて検討する。このような検討を通して、最終的には日本企業の将来を考えるとということにこの講義の焦点がある。以下のような順序に従って進めていく。

- | | |
|--------------------------|---------------|
| 序 章 人事労務管理から人材資源管理へ | 第 5 章 報酬管理 |
| 第 1 章 企業内従業員秩序の編成原理とその変化 | 第 6 章 労働時間管理 |
| 第 2 章 採用管理 | 第 7 章 福利厚生管理 |
| 第 3 章 教育訓練と能力開発 | 第 8 章 女性労働の管理 |
| 第 4 章 昇進管理 | 第 9 章 国際人事 |

成績評価の方法

定期試験のみにて評価。評価の基準は解答内容の論理性と説得性。

教科書

現在作成中のため、当面は授業時間中に配布するプリントを中心に行う。

参考書等

津田真激編著『人事労務管理論』ミネルヴァ書房

科目名	担当者名	配当学科	単位
経営管理論	ひく た よし はる 百 田 義 治	禅・仏教・国文・英米文 地理・社会 福祉・心理・短国	4

講義のねらい

現代企業の経営管理（組織と管理）について、大学生に必要な基礎知識を提供することと、その現代的諸課題の現状と問題点を明らかにすることが一年間の講義を通しての課題です。

講義の内容・授業スケジュール

多数の人々の協働体である組織が、さまざまに変化する環境の中で、目的・目標の設定から達成までのプロセスを効率的に運営する活動が経営管理です。したがって、経営管理は、学校や病院や政府諸機関など非営利組織（NPO）、あるいはボランティア活動の組織（NGO）にも必要不可欠な活動です。しかし、現代社会において組織という場合に、企業を除いて組織を語ることはできません。一年間の講義の中では、NPOやNGOの組織の特性や管理の課題についても up-to-date な話題にふれて言及しますが、講義の中心は現代企業の経営管理問題です。

一年間の授業スケジュールは以下の通りです。

前期（4月～7月）は経営管理論の流れを「個人と組織」の問題を中心にフォローし、その現代的意義について考えます。前期の授業の内容は次のような問題です。

- ①経営管理論（授業）ガイダンス（経営管理論では何を学ぶのか？）
- ②現代の組織と経営管理（企業の経営管理とNPO・NGOの経営管理は異なるか？）
- ③経営管理論の源流1：科学的管理法（唯一最善的管理法は存在するか？）
- ④経営管理論の源流2：管理過程と管理原則（経営管理は学校教育で学べるか？）
- ⑤組織の人間関係（人間の非論理的・非合理的行動とは何か？）
- ⑥現代組織論1：個人と組織の統合理論（個人の欲求充足と組織目標の達成は両立するか？）
- ⑦現代組織論2：意思決定論（経営者の意思決定は科学の対象になるか？）
- ⑧モチベーション論（自己実現とは？勤労意欲は何から生みだされるか？）
- ⑨人的資源管理論（行動科学とは？「労働力」と「人的資源」では何が異なるか？）
（夏休みの課題）前期の授業についてレポートの提出を求めます。

後期（9月～1月）は現代企業の経営管理の実際（当面する諸問題）を具体的に検討します。

- ⑩ 企業戦略論（現代企業のもっとも重要な経営管理問題とは何か？）
- ⑪ 日本企業の国際競争力（トヨタ・システムはフォード・システムを超えたか？）
- ⑫ グローバリゼーションとジャパナイゼーション（日本的経営は国際的に通用するか？）
- ⑬ 日本企業の国際化（グローバル化とローカル化の両立は可能か？）
- ⑭ 経営管理と情報化1（企業内・企業間ネットワーク化は経営管理を根本的に変革するか？）
- ⑮ 経営管理と情報化2（情報化は中間管理職を無用化するか？）
- ⑯ 地球環境問題と経営管理（共生の時代の経営管理に求められるものは何か？）
- ⑰ コーポレート・ガバナンスと企業倫理（企業の統治者の社会的責任とは何か？）
- ⑱ 人間の未来と経営管理の課題（一年間のまとめ）
（学年末試験）

履修上の留意点

新聞・雑誌・ニュースなどを通して現代の企業と経営に関心を持つことが大事です。「なぜ」という疑問がなければ勉強意欲は持続しません。現実の経営管理問題にマークシート方式の解答はありません。すべてが応用問題です。洞察力と問題解決能力も90%は経験と学習です。

成績評価の方法

出席（10%）、小レポート（10%）、夏季レポート（20%）、学年末試験（60%）で総合的に評価します。

教科書

笹川・山下・仲田・渡辺編著『現代の企業経営を学ぶ』ミネルヴァ書房 1996年

参考書等

片岡・篠崎・高橋編著『新しい時代と経営学』ミネルヴァ書房 1998年
その他、授業や夏季レポートに関連して随時紹介する。

その他

授業に関する質問などがあれば研究室（第2研究館4階2436；電話03-3418-9345）を気楽に訪ねるか、E-mail（授業で説明）で問い合わせして下さい。また、授業（予習・復習、参考書など）に関する情報はホームページ（授業で説明）でも獲得することができますのでアクセスして下さい。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
行 政 法 各 論	さいとう ひさし 齊 藤 寿	禅・仏教・国文・英米文 地理・歴史・社会・福祉 心理・経済・商・経営・短放	4

講義のねらい

「各種行政法原理の究明」

1年間・全体を通して、極めて楽しい雰囲気の中で、各種行政法の法理究明を、興味深く行います。特にこの講義は、生きた行政法を重視しながら行います。

講義の内容・
授業スケジュール

- 第1回 「行政組織法」の概要について。
- 第2回 国家行政組織法について。
- 第3回 内閣法について。
- 第4回 行政官庁について。
- 第5回 府・省・委員会・庁・地方支分部局について。
- 第6回 人事院と会計検査院について。
- 第7回 地方自治法について。
- 第8回 地方公共団体の種類と性質と区域と名称について。
- 第9回 大都市の特例と特別地方公共団体について。
- 第10回 公共組合と営造物法人について。
- 第11回 地方公共団体の議決機関と執行機関について。
- 第12回 地方公共団体の住民の諸権利と事務と権能について。
- 第13回 国と地方公共団体の関係について。
- 第14回 公務員法の概要について。
- 第15回 国家公務員法について。
- 第16回 地方公務員法について。
- 第17回 公物法について。
- 第18回 営造物法について。
- 第19回 「行政作用法」の概要について。
- 第20回 警察法・消防法・防衛法について。
- 第21回 警察行政における五大原則と規制手段について。
- 第22回 統制法について。
- 第23回 公企業法について。
- 第24回 公用負担法について。
- 第25回 公用収用について。
- 第26回 財政法について。
- 第27回 会計法について。
- 第28回 租税法について。
- 第29回 試験

履修上の留意点

※学生への要望

この講義は、楽しくかつ役に立つ講義です。私といっしょになって、「行政法各論」を楽しく研究してみませんか。

—— 私が、みなさんを、「水飲み場」へ、ご案内します。

目には火を、顔には光をいだいて、ついてきて下さい。

Rouse up, O, Young Men of the New Age! (目覚めよ、新時代の若者たちよ!) ——
との、イギリスの詩人、ウィリアム・ブレイクの叫びを、この際、みなさんに送らしましょう。

成績評価の方法

試験の成績とレポートの成績を合わせて、学年の成績とします。

教 科 書

拙著の中から、講義の際、選択・指示します。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
親 族 法	たけなかちか 竹 中 智 香	禅・仏教・国文・英米文 地理・歴史・経済・商 政治・経営・短大	4

講義のねらい

民法典第四編にあたる「親族法」の講義を行う。親族法は最も身近な家族生活を規制する部分であることから、民法の他の部分に比べて、初めて法律を勉強する者にとっても取り組みやすいと思われる。本講義では、家族という身近な問題の検討を通して民法になじみ、法的な視点・考え方を身につけることを目指す。

講義の内容・授業スケジュール

親族法の講義ではあるが、民法の初学者にとってわかりやすい私法入門であることも目指したい。民法の中でも親族法は、家族生活を規制する法律であるために、財産法の領域と異なる特徴を有している。この相違と親族法の特徴、さらに欧米家族法と比較したときのわが国の親族法の特徴を示しつつ、親族・婚姻・離婚・親子・親権・後見・扶養について順次論説していく。また、親族法に関する今日的な問題にも、できる限り触れたい。

履修上の留意点

教科書を読んだうえで講義に出席することが望ましい。

成績評価の方法

おもに定期試験によって成績を評価するが、出席状況などの平常点も加味する。

教 科 書

遠藤浩ほか編『民法(8)親族〔第4版〕』 有斐閣双書 ¥1,648

参 考 書 等

久貴忠彦・米倉明編『家族法判例百選〔第5版〕』 有斐閣 ¥2,200

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
相 続 法	たけなかちか 竹 中 智 香	禅・仏教・国文・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・政治・経営・短大	4

講義のねらい

民法典第五編にあたる「相続法」の講義を行う。わが国の相続法は、戦前の家督相続から戦後の均分共同相続へと変遷し、さらに今日においては遺言制度の利用も増加するなど、大きく変化している。本講義では、こうした動向とその背景の理解とともに、財産法の応用問題といわれるほど難解な相続法の理解を図りたい。

講義の内容・授業スケジュール

わが国の相続法の変遷とその背景を検討したうえで、相続人・相続の効力・相続の承認および放棄・財産の分離・相続人の不存在・遺言・遺留分について、順次論説していく。

履修上の留意点

教科書を読んだうえで講義に出席することが望ましい。

成績評価の方法

おもに定期試験によって成績を評価するが、出席状況などの平常点も加味する。

教 科 書

遠藤浩ほか編『民法(9)相続〔第4版〕』 有斐閣双書 ¥1,648

参 考 書 等

久貴忠彦・米倉明編『家族法判例百選〔第5版〕』 有斐閣 ¥2,200

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
経 済 法	おか だ と し ひろ 岡 田 外 司 博	禅・仏教・国文・英米文 地理・歴史・社会 福祉・心理・経営・短放	4

講義のねらい

独占禁止法は、企業の経済活動に関する世界共通のルールとしてますます重要になりつつあるのみならず、実は私達の生活にも深く関わっている。ところが、独占禁止法の条文を見ると、一般になじみのうすい抽象的な用語が並んでいて難解であり、その理解は決して容易ではない。そこで、本講義では、最初数回は理論的問題にも触れるが、その後は独禁法の規制の内容とその実際の解釈運用について、具体的事例を多くふまえてできるだけわかりやすく解説することを目標にしたいと考えている。

講義の内容・
授業スケジュール

講義は2回に1枚プリントを配布し、そのプリントに書かれた設問にこちらの方で答えて行くという方法をとる。そして、1年間で独占禁止法的全領域をカバーするものとなっている。

履修上の留意点

プリントを受け取らずに講義を聴いても意味がないので、出席は取らないが、講義に出席して少なくともプリントを受け取ることを勧める。また、教科書は薄いものなので、できれば、4～5月中にざっと一通り読んでおいて頂きたい。

成績評価の方法

試験（後期1回のみ）によって判定する。

教 科 書

厚谷襄児『独占禁止法入門』 日本経済新聞社

参 考 書 等

教科書として指定しないが、多くの具体的事例を含むものとして、講義でしばしば引用することがあるので、「独禁法審決・判例百選（第五版）」（有斐閣）の購入が望ましい（ただし、必ずしも購入する必要はない）。その他の参考書については、初回の講義の時に簡単に紹介する。

科目名	担当者名	配当学科	単位
西洋法制史	いし 井 三 記	神・仏教・国文・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短国・短英	4

講義のねらい

近年のヨーロッパの変動には目を見はるべきものがある。この大きな変化の底流には「近代的なるもの」がさまざまな領域で再検討されだしたということがあるだろう。たとえば、絶対的な主権の概念も今日のヨーロッパ統合の流れのなかで揺れているが、この問題も主権観念の成立する近世ヨーロッパの時代状況にまでさかのぼって考えてみる必要がある。西洋法制史は一見、現代的な問題とまったくかけ離れているかのように思われるかもしれないが、究極のところでは今日的な問題関心をもつてのぞむことが重要だし、逆に今度は近代法制度のよって立つところを知ることによって興行きのある理解が可能となり、国際社会に通用する知的視野の広がりを獲得することができるだろう。

授業では、序論として歴史学の有力な潮流となったアナル学派の社会史の方法と有効性について概説したあと、魔女裁判と近代主権国家の誕生という従来とは違った視点からの魔女裁判の問題を考察し、つぎに啓蒙期と呼ばれる18世紀ヨーロッパの刑法改革運動について思想家たちだけでなく当時の具体的な事件や刑法学者の見解などもまじえて検討し、さらにフランス革命期の法と社会と題して法学教育や法曹や法文化の問題を講義する予定である。

講義の内容・授業スケジュール

第1章 歴史学のパラダイム転換

フランスの歴史研究の新しい境地を切り開いたアナル学派を、その学問的・思想的インパクトまで含めて考えてみる。

第2章 魔女裁判の問題

魔女裁判というと従来はヨーロッパ中世暗黒時代の産物ととらえられていたかもしれないが、しかしそのピークは近代のあけぼのであるルネッサンスの時期にあたっている。そのことの意味を社会史的な脈やデモノロジー等の観点から論じることにする。

第3章 啓蒙期の刑法改革の思想と運動

18世紀のヨーロッパは啓蒙の世紀ともいわれ、少なからぬ思想家たちが理性を武器にして既存の制度や社会と闘った。刑法改革はその具体例の一つである。ここではヴォルテールが尽力したことで有名な冤罪事件や彼の刑法改革思想を中心に講義する。

第4章 18世紀フランスの国制

革命以前のフランス社会はアンシャン・レジーム(旧制度)とよばれ、絶対王政の時代とされている。その内実を国王儀礼などの側面から検証する。

第5章 フランス革命期の法と社会

フランス革命は近代の法制度の礎を築き上げた。ここでは革命前後の刑事法制の変化や法学教育制度、司法制度、法律家たちの変遷について講義する。

履修上の留意点

講義中に重要とされた論点やすこしでも興味をもった問題を図書館その他を利用して自分なりに深めることを期待している。

成績評価の方法

原則として、定期試験で行なう。

参考書等

上山安敏・牟田和男編『魔女狩りと悪魔学』人文書院(指定図書)
阪上孝編『統治技法の近代』同文館(指定図書)
河野健二編『資料フランス革命』岩波書店、樋口謹一編『空間の世紀』筑摩書房
上山安敏編『近代ヨーロッパ法社会史』ミネルヴァ書房

その他

この授業では、文字史料だけでなく絵画や図表などのプリントその他を用いて、なるべく生き生きとした過去のイメージをとらえてもらいたいと考えている。

科目名	担当者名	配当学科	単位
英米法	きんばら きょうこ 金原 恭子	禅・仏教・国文・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短国・短英	4

講義のねらい

大陸法とは異なる英米法という法伝統が、どのような歴史と内容をもつものなのかを概観する。

講義の内容・
授業スケジュール

英米法の中でも特にアメリカ法に重点を置きつつ、①英米法の歴史、②アメリカ法の多元性、③法の支配とアメリカの違憲立法審査制、④英米両国の司法制度、⑤判例法主義、の各テーマを取り上げて論ずる。

成績評価の方法

学年末の筆記試験で成績評価を行う。

教科書

田中英夫著『英米法総論上・下』東京大学出版会 各¥3,200くらい。

参考書等

田中英夫編集代表『BASIC 英米法辞典』東京大学出版会 約¥2,900。

その他

授業は基本的には講義形式で行う。

科目名	担当者名	配当学科	単位
地方自治法	うめ き たかし 梅 木 崇	禅・仏教・国文・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短国・短英	4

講義のねらい

地方自治法は、相当におおきな法律であり、その内容も多岐にわたっている。そして行政法を解説する具体例を豊富に提供している。また、われわれの日常生活に関係する部分がおおい。その意味で親しみやすい法律であるということが出来る。

講義では、行政法の具体的説明というかたちをとる。行政法総論では必ずしも理解がいきといたとはいえない点について、地方自治法を素材としながら解説するということである。同時に、法律の性格上、改正がきわめて多い点を考慮し、その沿革的な側面、地方行政そのものの内容についても言及しなければならないと思う。

地方自治法の内容が、とくに地方公務員試験で問われることが多い。とくに択一式の問題で、相当に細かい点まで素材にしている。この点を考慮して、これまで出題された問題や講義者の作成した問題を検討したいと思っている。

教科書

南博方・原田尚彦・田村悦一編『行政法(3)〔第3版〕地方自治法』(有斐閣双書)を用いる。教科書の内容をまとめる意味でレジメを用意することも予定している。いわば講義を能率的に行なうためである。

科目名	担当者名	配当学科	単位
ヨーロッパ政治史	うら た さ なえ 浦 田 早 苗	福・仏教・国文・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・法律・経営・短放	4

講義のねらい

現代西ヨーロッパの政治は、そこから多くのことを学んできた我々の先達が描いたほど理想的な状態で機能しているわけではなく、数々の矛盾にみちている。自由、平等の精神なり、『華やかなりし議会政治』の概念は、激動の現代政治のなかにあっては時として空虚な響きを投げかけてくることは否定できない。しかし、国家や政党、国民や民族といった西洋で生まれた近代政治の概念に再検討が迫られている今ほど、そうした概念の本質を成立した歴史過程のなかで考察することの重要性が問われたときはなかった。本講義では、近代ヨーロッパの歴史全般を概説しながら、ヨーロッパが抱える問題の本質を明らかにすること及び、現代政治を誤りなく把握する上で必要な基礎概念を検討することに視点がおかれている。

講義の内容・授業スケジュール

- ・近代の始点ルネサンス期と18世紀 ・英国革命とIRA ・ジャコバイトと英国王室
- ・議院内閣制の成立変遷過程 ・英国における政治腐敗防止過程 ・フランス革命と国家の概念
- ・フランス政治におけるジャコバン主義 ・「後発国型近代化」の問題点 — ドイツの場合 —
- ・統合ヨーロッパの源流

成績評価の方法

前期レポート — 7～8×400字 — は任意ではあるが、年5～6回とる出席点とともに学年末試験に加算する。試験はあらかじめ指示した5問から2題出題する。(ノートの持ち込みは不可)

教科書

特に教科書は指定しないが、さらに詳細な研究を望む学生には適宜参考書を推薦する。

科目名	担当者名	配当学科	単位
国際政治学	こ ぼり のり お 小 堀 訓 男	福・仏教・国文・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理・経済 商・法律・経営・短国・短英	4

講義のねらい

国際社会に展開する政治現象を、政治学的アプローチで論及し、国際政治の本質を理解することが、本講義のねらいである。

前期の講義は、国際政治とは、いかなるものか、分かり易く概説する。具体的には、国家、権力、民族、階級、国際政治における権力と道義、国内政治と国際政治等をテーマに“国際政治の本質”について考察する。つぎに、より理解を深めるために、“国際政治の基調”と題して、国際政治が展開し、現在に至るまでの、各時代の国際政治の基調を、歴史的に概観する。

後期では、“国際政治の問題”と題して、冷戦後の国際政治、ナショナリズム、地域的安全保障、エネルギーと環境問題、国連の使命と限界、地域統合と国家の役割の変化等の、国際政治学が取り組むべき課題を、理論的かつ実証的に解明しながら、受講生と共に考えたい。

履修上の留意点

講義のテーマ、内容については予告する。受講生は、必ず予習をして、講義に出ること。基本的な知識については、共通の理解を徹底したいので、全員で討論しながら授業をすすめたい。よって、積極的な参加を求める。

成績評価の方法

1年間に数回程度、授業中に30分のショートテストを実施する。これは講義の理解の程度を知るためであるが、このテストの評価を30%とし、定期試験を70%の評価とする。

教科書

必要に応じて講義のなかで紹介する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
議 会 関 係 法	まえ だ ひて あき 前 田 英 昭	禪・仏教・国文・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理・経済 商・法律・経営・短国・短英	4

講義のねらい

今年度は選挙法を中心に取り上げる。

選挙は、民主政治の基盤をなすものであり、民主政治の健全な発達を期するためには選挙が公明かつ適正に行われなければならない。選挙を公明かつ適正に行うためには、その根幹をなす公職選挙法や政治資金規正法や政党助成法などの規定を国民すべてが十分理解することが最も重要なことである。

衆議院選挙制度に関しては、賛否の議論の末、小選挙区比例代表並立制が導入され、一昨年初、改正法に基づく初めての総選挙が実施されたところである。このような情勢を踏まえて、制度改正に民間政治臨調の委員として参画した経験をまじえながら、全学開講科目として、多くの学生にわかりやすく選挙法の趣旨を講義することとし、今年度から新たに「議会関係法」をスタートさせる。

講義の内容・授業スケジュール

1 選挙制度改正の理由、2 選挙権と被選挙権、3 小選挙区比例代表並立制の内容、4 政党・政策本位の選挙、5 供託金、6 当選人の決定、7 選挙運動期間、8 戸別訪問、9 連呼行為などの選挙運動、10新聞・放送による選挙運動、11選挙運動費用、12選挙運動・政治活動・選挙広告、13選挙違反と連座制、14選挙犯罪、15公務員の地位利用、16政治資金、17団体・個人の寄付制限、18政党交付金とその用途など。

履修上の留意点

できるだけ出席受講すること。

成績評価の方法

期末テスト、レポート、平常点の総合評価。

参 考 書 等

前田英昭監修『明解選挙法・政治資金法の手引』 新日本法規出版
前田英昭『政治腐敗防止法を考える』 信山社
その他各種の選挙法に関する解説書。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
比較政治学	み たけ なお や 三 竹 直 哉	神・仏教・国文・英文文・地理 歴史・社会・福祉・心理・経済 商・法律・経営・短国・短英	4

講義のねらい

比較政治学という科目で扱える事柄は、多岐にわたります。それらを網羅的に全て扱うのもひとつの方法ですが、みなさんは別に専門家になるわけではありませんので、学生の方でも関心を持ってそうなテーマを集中的に扱う形をとっています。今年度は昨年度に引き続き、国民国家の変容に関わる諸問題、世界各地の民族紛争などを扱います。

講義の内容・授業スケジュール

授業内容は毎年変わりますし、現在進行形の問題を扱いますので、この原稿執筆時点では確定的なことは言えません。4月までには詳しい授業案内(シラバス)を用意しますので、オフィスアワー時に研究室に見に来て下さい。現在のところ、旧ユーゴスラビア、ウクライナ、ドイツ、北アイルランド、クルディスタン、カナダ・ケベックを扱った、ジャーナリスト、イグナチエフのドキュメンタリー番組と邦訳著書を使うことを予定しています。また、他にも、ルワンダ、ベルギー、時間があれば南アフリカの事例なども扱いたいと考えています。授業内容についての最新情報は、<http://www.komazawa.com/~mitake>でも御覧頂けます。

履修上の留意点

政治学、世界史、地理などの基本的知識は前提とせざるを得ません。そうした知識に欠けるとする人は、自ら勉強していただくほかありません。適当な参考書等の相談にはのります。また、新聞にある程度目を通すことも前提とします。なお、年表や地図を参照することを習慣づけて下さい。

成績評価の方法

得点の方法には以下の5つがあります。5つのうちのひとつのみによってでも、またこれら5つのうちのいくつかを組み合わせても、とにかく獲得した得点の合計が評点となります(以下については、98年度は変更の可能性もあるので、必ず開講時に確認して下さい。また詳細を開講時に説明します。)

- 参加点: 授業中の発言(特に自発的発言)によって、1~3点を獲得できます。いわゆる「出席点」ではありません。
 - 小テスト: 小テストを行うことがあります。小テストは5~10点満点です。事前に予告する場合も、しない場合もありますが、いずれにしても受けることは義務ではありません。
 - グループ作業: 共同で調べものをして発表をしたり、あるテーマについて討論をしたりする、グループごとの作業には、原則として、グループの構成員に同じ得点が与えられます。獲得可能点は、その都度お知らせします。
 - 任意課題: やりたい人だけがとりくめばよい任意課題を用意します。任意課題には、与えられたテーマや自分で設定したテーマに応じたレポートの提出、授業内容に関連した本や論文、ドキュメンタリーや映画を見てその評価を書いたものの提出などがあります。任意課題の得点は、10点から60点です。
 - テスト(中間テストは行いません): いわゆる期末試験は、大学の試験期間中に行うものに加えて、12月の授業中に行うものもあります。12月のテストは、受験は任意で、例年12月最後から2回目の授業で行い、12月最後の授業で講評をし答案を返却しています。このテストについては、講評時にも質問・反論を受け付けます。詳細は開講時に説明します。
- ・なお、過去のテスト問題、および昨年度の成績分布は研究室で公開しています。

教 科 書

マイケル・イグナチエフ著 幸田敦子訳『民族はなぜ殺し合うのか』1996年 河出書房新社
この他にも授業で適宜指示します。

参 考 書 等

授業で適宜指示します。

科目名	担当者名	配当学科	単位
国際経営論	茂垣広志	禅・仏教・国文・英米文 地理・歴史・社会・福祉・心理 経済・商・法律・政治・短放	4

講義のねらい

国際経営論とは、「国境を越えて事業展開しているその各拠点の諸活動をどのようにマネジメントするのか？」という課題に取り組んでいる経営学の一領域である。したがって、既存のドメスティックな経営理論を基礎として、各事業拠点を高度に海外に分散化した多国籍企業（MNC）特有の問題を扱っている。本講義のねらいとしては、経営戦略論、マネジメント論、組織論等をベースとして、比較経営論ないし異文化経営論の視点を加味して、多国籍企業の戦略行動とマネジメントを考える際の基本的フレームワークについて、種々の理論（アプローチ）、データ、ケースを採用し考察していきたい。つまり、企業の国際化、多国籍化にまつわる諸現象を企業経営の観点から多面的に捉え、検討することを通じて、国際経営に関する理解を深めることを目的としている。

講義の内容・授業スケジュール

周知のように1985年のプラザ合意以降と急速な円高の進行と貿易摩擦による相手先国からの政治的プレッシャーにより、それまでの輸出中心の国際競争戦略から現地生産、第3国生産を加味した戦略へと移行し、さらに近年では東南アジアへの部品メーカー、組立てメーカーの進出が加速化し、日・米・欧・亜の4極的体制が構築されはじめている。これらのことは企業の戦略と分散化した諸活動の調整をますます複雑なものとしており、そのマネジメントのあり方が、国際経営上の大きな課題となっている。

海外に拠点を高度に分散化している MNC にとっての大きな課題は、それら拠点の現地化（適応性）の要請とグローバルな統合化（効率性）の要請のバランスないしその同時達成である。日本企業の場合、急速な海外展開と日本のマネジメントの特徴から、アメリカ系および欧州系 MNC と異なる様相を示している。授業では、その日系 MNC の戦略及びマネジメント上の特徴を理論、欧米系 MNC との比較、ケースを通じて理解し、課題ないし問題点を理解することに主眼を置くことにする。より具体的には、以下のような内容を予定している。

- I. 国際経営のフレームワーク（隣接領域との異同と関連性）
- II. 企業の多国籍化を説明する諸理論の検討（IPLC 仮説、寡占反応仮説、差別化優位仮説、内部化優位仮説、経営資源優位仮説、折衷仮説等）
- III. 国際経営／企業多国籍化の発展段階モデル（ロビンソン・モデル、小林モデル、マッキンゼー・モデル、ルートの海外市場参入段階モデル、EPRG モデル等）
- IV. 国際競争戦略（国際戦略の基本パターンないしタイプ）
 1. 国際競争優位性（規模の経済・範囲の経済・連結の経済、比較優位・国家特殊優位性）
 2. 国際競争戦略の類型（ホーター・モデル、ドズ＝ブラハラード・モデル、パートレット＝ゴチャール・モデル等）
 3. 国際マーケティング戦略（マルチナショナル・パラダイムとグローバル・パラダイム、グローバル・マーケティング・ミクス、製品ポジショニングとグローバル市場細分化戦略）
- V. 国際戦略と組織構造
 1. マクロ構造（国際事業部制、世界的地域別構造、世界的製品別構造、世界的マトリックス構造）
 2. ミクロ構造及び内部ネットワーク（トランスナショナル・モデル、ヘテラルキー・モデル）
- VI. 日本企業の国際化と人的資源管理
 1. 欧州系 MNC とアメリカ系 MNC の戦略及びマネジメント上の特徴（経営伝統と現状）
 2. 日系多国籍企業の海外子会社マネジメントの特徴（その必要性和問題点、進出地域別特徴）
 3. 海外派遣社員の選抜、教育、給与問題
 4. 異文化マネジメント
- VII. 在日外資系企業の経営上及び人事管理上の特徴

以上が講義内容の要目であるが、講義では単なる理論の紹介のみならず、各種調査データや具体的な企業のケースを通じて理解を深めていきたい。なお、毎時間レジュメおよび資料を配布し、それに基づいて授業を進めていく。

履修上の留意点

経営学、経営戦略論の知識があった方が理解しやすいので、そのような関連科目を既に履修しているか、現在している方が望ましい。ただ、授業中にも簡単には説明します。

成績評価の方法

成績は、出席状況および期末試験の結果により判断します。

教科書

未定（授業開始時に指定）
参考書：根本孝・諸上茂登『国際経営の進化』学文社 ￥2,800

科目名	担当者名	配当学科	単位
経営統計	ちょう 張 こっ 国 きょう 強	禅・仏教・国文・英文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・法律・政治・短放	4

講義のねらい

統計と企業経営の関わりについてを展開する経営統計とは、分析目的に対応して主に経営情報としてのデータを収集・処理・分析し、複雑な現象を理解すると共に、データを生成した集団や構造についてを予測し、いろいろな意志決定をサポートすることである。経営的意志決定において最も重要なことは、将来の経営状況をどう見るかであり、その予測に対して経営統計は十分な役割を果たされるはずである。

この講義では、企業経営における統計データの具体例を数多く取り入れることによって、経営統計の手法をわかりやすく説明していく。また、数学苦手の学生を配慮し、講義の内容説明は微積分などの計算をいっさい用いず、数式の使用も必要最小限に止める。

講義の内容・授業スケジュール

予定している講義内容は以下の通りである。

経営統計について：	経営統計の役割、基礎概念	1回
統計特性値：	平均、分散、正規分布	2回
市場調査と統計整理：	調査の諸段階、標本設計、データ整理	6回
統計推測：	標本分布、区間推定、仮説検定	2回
前期復習と中間試験：	(七月中旬)	2回
経営時系列：	季節指数、時系列予測	4回
経営指数：	物価指数、数量指数	2回
分散・回帰分析：	一元配置法、相関係数、最小2乗法	3回
統計的意志決定理論：	意思決定基準、期待効用理論	2回
後期復習と定期試験：	(翌年一月中旬)	2回

履修上の留意点

年間6回程度の演習問題を適時に配布し、それを独自かつ理解的に解ければ、中間試験や定期試験に心配する必要はない。

成績評価の方法

講義への出席状況と中間・定期試験の結果により統合的に判断する。

教科書

特に使用しないが、プリントは適時に配布する。

参考書等

西田俊夫・田畑吉雄共著『経済・経営の統計学』 培風館 1992
守口栄一・竹田仁共著『経営数学：経営統計とその応用』 日本理工出版社 1992

その他

統計学、あるいは統計原論を先にまたは同時に履修することが望ましい。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
保 險 経 営 論	いしなざかにあき 石名坂 邦 昭	禅・仏教・国文・英米文 地理・歴史・社会・福祉 心理・法律・政治・短放	4

講義のねらい

本講義においては、保険学のアプローチとして近年一般化しつつあるリスク・マネジメントの基本的事柄につき理解した後に、保険理論の基本的知識を正確にし、わが国の保険事業並びに一般企業がかかえているリスクに関する諸問題にどのように対処したらよいかの応用能力が持てるようになることを目標とする。

講義の内容・
授業スケジュール

保険学の研究は、保険法学的アプローチ、保険経済学的アプローチ、保険経営学的アプローチとそれぞれの時代を背景に論じられてきた。今日、保険学研究については保険経営学的研究をより発展させた「危機管理論」(リスク・マネジメント)研究が主流となっている。本講義においては、最初にリスク・マネジメントの基本的体系について論じ、リスク・マネジメントの理論、歴史的発展について見た後に、リスク・マネジメントの中心となる保険の機能、保険本質、保険技術について詳しく見ていきたい。

前期はリスク・マネジメントを中心とした講義を行い、後期に保険論を中心とした講義を行う。講義は理解しやすいように工夫をこらしていく。教科書は使用するが、それは本講義を理解するための基本的共通知識として使用し、講義は教科書に書かれている事柄が理解されていることを前提として進めていく。

履修上の留意点

保険およびリスク・マネジメントを理解するためには使用される専門用語を理解されていなければならない、学ぶことも広範囲にわたるため、講義を受ける前に必ず教科書を読み講義後の復習も忘れないようにしてほしい。学生諸君の積極的な授業への参加を望む。

成績評価の方法

講義への出席状況及び授業時の態度と定期試験の結果を総合して成績評価を行う。

教 科 書

石名坂著『リスク・マネジメントの理論』白桃書房 3,500円

参 考 書 等

石名坂著『ファミリーリスク・マネジメント』白桃書房
石名坂著『リスク・マネジメントの基礎』白桃書房

科目名	担当者名	配当学科	単 位
財務会計論	わた なべ えいちろう 渡 邊 恵 一 郎	禅・仏教・国文・英米文 地理・歴史・社会・福祉 心理・法律・政治・短放	4

講義のねらい

財務会計論は会計学の一分野であり、企業の経営成績と財政状態を明らかにするという基本的職能を取り扱っている。財務会計の目的は、企業経営に責任を負う経営者が、投資者、債権者、その他企業に利害関係を持つ外部の人々に対して、適切な企業情報を提供することにある。この主たる提供手段が、損益計算書、貸借対照表などの財務諸表である。

講義では、財務諸表を作成するための会計処理と表示方法を中心の課題とし、またこれに関するわが国の商法、税法などの会計法規も取り上げ、さらに国際会計基準との関連にも触れる。

講義の内容・授業スケジュール

講義の内容は、おおむね下記の教科書により、この授業スケジュールは次のとおりである。

- ① 4～5月 財務会計の概念（財務会計の定義、課題、制度など）、財務会計の計算構造（損益計算書と貸借対照表との関係）及び会計公準と会計原則（財務会計の前提、債的特徴及び一般原則など）。
- ② 6～7月、9～10月 財務会計の測定論（収益、費用、資産、負債及び資本の各構成要素に関する会計処理の具体的展開）。
- ③ 11～1月 財務会計の伝達論（個別・中間・連結の各財務諸表の作成と開示、外貨換算、財務分析、財務諸表の国際比較など）。

履修上の留意点

毎時間の出席率と宿題提出（年2回）を重視する。

成績評価の方法

成績評価は、出席率、宿題提出及び期末試験点数の総合による。

教科書

染谷恭次郎著『現代財務会計（改訂増補4版）』中央経済社

参考書等

嵐井剛雄編『体系会計諸則集（最新版）』白桃書房
日本公認会計士協会編『監査小六法』中央経済社

その他

授業の方法は、講義による。

科目名	担当者名	配当学科	単位
税務会計論	たかき かつみ 高木 克己	禅・仏教・国文・英米文 地理・歴史・社会・福祉 心理・法律・政治・短放	4

講義のねらい

今日、租税は我々個人にとっては、所得税、相続税等の問題として、また、企業にとっては、法人税の問題が大きな関心事として存在している。ここ数年、法人税改革が議論されており、大幅な改正が予想されている。本講義では、普通法人（株式会社等）を前提とした法人税の算定過程を中心に講義を進めていく。

税務会計とは、一般に企業における課税所得の算定過程を研究する分野をいう。この課税所得は、商法あるいは企業会計原則等によって算出された利益にもとづいて算定される。ここでは、法人税法固有の規定（いわゆる別段の定め）が適用され、負担の公平、簡便性、あるいは政策的配慮等さまざまな考え方が反映されている。講義では、こうした税法固有の考え方の根拠、背景等を出るだけやさしく説明しながら、今日、法人税法の抱えている問題点を明らかにしていきたいと考える。

講義の内容・
授業スケジュール

講義内容の概要は次のとおりである。

1. 法人の種類及び課税所得の範囲等
2. 同族会社と青色申告
3. 課税所得の計算構造
 - (1) 企業利益と課税所得の関係
 - (2) 益金の額及び損金の額
 - (3) 公正処理基準及び資本等取引
4. 収益の計上基準についての原則的な考え方
 - (1) 引渡基準
 - (2) 特殊販売収益の計上基準
 - (3) 役務、請負、譲渡収益等の計上基準
5. 受取配当金益金不算入
6. リース取引
7. 給与（報酬、給料、賞与）の税務処理基準
8. 交際費及び寄付金
9. 有価証券、棚卸資産、固定資産、繰延資産等の税務処理
10. 圧縮記帳
11. 引当金と準備金
12. 企業を巡る国際課税の問題
 - (1) 移転価格税制
 - (2) タックス・ヘイブン対策税制
 - (3) 外国税額控除制度
13. 法人税額の計算

履修上の留意点

「簿記学」「会計学」等の基礎的な会計科目を修得した上で履修した方がより理解が深まると思われる。

成績評価の方法

原則として学年末の試験によって評価する。レポートは年1回程度提出を求める。

教科書

講義で使用する教科書、参考書等については開講時に指示する。

その他

毎回出欠をとるかどうかは、初回の講義の中で受講生諸君と相談して決めたい。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
商 業 史	やま だ まさる 山 田 勝	禪・仏教・国文・英米文 地理・歴史・社会・福祉 心理・法律・政治・短国・短放	4

講義のねらい

商業経営の歴史的発展の過程を、文化との関係に留意しながら講義する。

講義の内容・
授業スケジュール

講義内容の主なテーマは次のとおりである。

- | | |
|-----------------|---------------|
| (1) 商業史の視点 | (6) 継 続 性 |
| (2) 歴史研究とパラダイム論 | (7) 流 通 量 |
| (3) 利 潤 | (8) 大衆消費社会の特質 |
| (4) 商 品 | (9) 価 格 革 命 |
| (5) 市 場 | (10) 情報社会と商業 |

履修上の留意点

講義を聴くことのみが学習の方法ではないが、講義は各自の学習の導きとしては有益であると思う。出席はとらないが、聴講に努めて欲しい。質問は歓迎する。
教場での私語は他人の迷惑となるので厳禁とする。必要があれば教場から出て話すこと。

成績評価の方法

成績評価は定期試験による。

教 科 書

山田勝著『現代商業史』 創成社 ¥2,800

科目名	担当者名	配当学科	単位
経営情報論	たか い てつ お 高 井 徹 雄	禅・仏教・国文・英米文 地理・歴史・社会・福祉・心理 経済・商・法律・政治・短国	4

講義のねらい

経営スタッフの役割は、意思決定を支援すること、すなわち、意思決定者が適切な意思決定を行えるよう、決定の指針となる情報を提供することに外ならない。

本講義では、将来、企業や官庁における経営スタッフを目指す諸君のために、経営情報に関するシステムの観点と、情報利用技術の基礎について解説する。

講義の内容・授業スケジュール

I. 経営情報とシステムの観点（前期）

(1) 科学とシステムの観点（4月～5月：4週）

情報学のバックグラウンドにある考え方や知識について整理する。科学の方法とシステム的なものの見方、それに基づく問題へのアプローチとはどのようなものかについて理解を深める。

(2) 情報学の基礎と周辺領域（5月～6月：5週）

情報処理技術に関わる基礎的な勉強をする。主としてコンピュータベースのシステムによる情報の取り扱いに関し、知っておくべき基礎的事項について整理する。

(3) 情報環境の発展と経営における利用（6月～7月：5週）

経営の場における意思決定と情報利用技術の関わりについて学ぶ。企業における情報利用の形態の変遷を概観する。また、インターネットと同様な環境をベースとした、イントラネット・エクストラネットに触れ、現在から近未来における戦略的な情報の利用とはどうあるべきかについて考察する。

II. 情報の利用技術（後期）

(1) 多変量データ解析（9月～10月：7週）

調査収集された生のデータは、そのままでは情報としての価値はない。データを加工・分析し、それが表す意味を解釈することで初めて意思決定のための情報が得られる。ここでは、定量的データを分析するための、重回帰分析、主成分分析、判別分析法を、またアンケート調査などで得られる定性的データを分析するための数量化Ⅰ、Ⅲ、Ⅱ類法について、その原理と適用方法を学ぶ。

(2) シミュレーション（11月～12月：4週）

複雑な対象の動的な特徴を分析するための有力な方法としてシミュレーション技法がある。ここでは、モンテカルロ法など乱数を用いる基礎的方法に触れた後、離散系シミュレーションモデルの構築方法を学ぶ。

(3) DSSとES（12月～1月：3週）

人工知能の原理と、その経営の場での応用として期待されるDSS（意思決定支援システム）、ES（専門家システム）の概要について学ぶ。

※なお、適宜（前期3、後期5回程度）、情報教育センターのコンピュータルームを利用して実習形式で授業を行う。

成績評価の方法

前期、後期末に実施する筆記試験に基づき評価する。
その他、出席状況と実習授業時の課題も評価に反映する。

教科書

高原康彦・高津信三編、高井徹雄他著『経営情報システム』日刊工業新聞社 ¥3,200
上記教科書の他に、適宜プリントで補足する。

その他

情報処理基礎、統計原論を先にまたは同時に履修しておくことが望ましい。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
情 報 理 論	にしむらかずお夫 西村和夫	神・仏教・国文・英米文 地理・歴史・社会・福祉・心理 経済・商・法律・政治・短国	4

講義のねらい

近年では日常的に使われる言葉となっている“情報”の本質を探ります。主に、情報の量（情報量）を定義したシャノン（C.E.Shannon）流の情報理論について講義します。

この授業を受講すれば、ある通報や記号のもっている情報量を、具体的な数値として（ビットという単位で）計算できるようになります。これによって、たとえば DNA の情報をフロッピーディスクに記録するために十分な枚数が、たちどころに計算できるようになります。

また、情報量の期待値（平均値）であるエントロピーという概念も理解できます。これは、経営情報論、符号理論、通信理論、暗号理論などで利用される重要な概念です。

講義の内容・授業スケジュール

月	回数	内 容
4	3	授業内容概説、情報とは、情報量への要求
5	3	対数の原理と性質、計算練習
6	4	情報量の定義、練習、情報量の利用
7	3	暗号系と用語、古典的な暗号
9	2	現代的な暗号、暗号技術を使ってできること
10	2	符号化（JIS コード、万国共通文字符号）、対数・情報量の間接試験
10	2	確率過程およびマルコフ過程
11	2	遷移確率と同時確率
11	1	エントロピーの定義
12	2	冗長度、言語のエントロピー
12	1	価格以外の情報がない場合の市場占有率予測
1	1	チェック桁、情報の圧縮と乱数、デジタルとアナログ

履修上の留意点

4年生が履修するのは困難です。2～3年生のうちに履修しておくように強く奨めます。また、毎回出席して計算練習に参加していないと、試験問題を解くことは無理でしょう。

内容の性質上、確率と対数に関する多少の数学的知識が必要になりますが、これらについて全く知らなくても理解できるように配慮しています（上表5月参照）。

成績評価の方法

10月の中間試験（30％）と定期試験（70％）との合計点によります。

教 科 書

クイズと計算練習を適宜とりいれます。また、OHPとプリントを使います。適当な教科書はありません。各種の参考書をそのつど紹介します。

そ の 他

〔関連科目〕→ 経営情報論

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
経 営 分 析 論	かた ぎり のぶ お 夫 片 桐 伸 夫	神・仏教・国文・英文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・法律・政治・短放	4

講義のねらい

経営分析とは、文字どおり「企業の経営を分析すること」であり、かなり多方面にわたる内容をもっています。

皆さんが将来を託そうとする会社は、

- 1 財政的に安定しているだろうか（安定性分析）、
- 2 「儲け」はどうだろうか（収益性分析）、
- 3 経営活動の成果はきちんと配分されているだろうか（生産性分析）、
- 4 長期的な会社の「伸び」はどうだろうか（成長性分析）、また、
- 5 社会に対してどのように貢献しているだろうか（社会性分析）、

といった内容です。

講義の内容・授業スケジュール

前期は、企業の毎期の経営活動を報告する「貸借対照表」や「損益計算書」などの「財務諸表」の読み方をまず説明し、安定性・収益性分析を学習します。

後期は生産性・成長性・社会性分析や、さらに、損益分岐点・利益増減その他の分析をとりあげます。

「各自が企業の経営を分析できるようになる」ため、教科書で必要最小限の理論を学び、ただちに、新聞などの最新のトピックによって企業の現実にあふれます。

履修上の留意点

この授業の目的は、「財務諸表分析」を中心に、各人が就職を希望する、あるいは興味を持っている会社の「分析」をしていただくことにあります。つたなくても、ささやかでも、その成果は皆さんの貴重な「財産」です。

成績評価の方法

そのため、成績評価はレポートと授業時間中のテストなどの平常点と学年末試験で行います。

* レポート・テーマ：前期「各自が関心を持っている企業の収益性・安定性分析」

：後期「各自が関心を持っている企業の成長性その他の分析（続）」

* テ ス ト 範 囲：財務諸表数値を用いた経営比率の算出問題。

☆質問は授業以外にも研究室2307号室で随時受け付けますので、遠慮なくおいで下さい。

教 科 書

開講のとき、指示します。

参 考 書 等

開講のとき、指示します。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
上代文学講読	さ 佐 原 さく み 美	禅・仏教・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短英・短放	4

講義のねらい

授業では『万葉集』を対象にその講読を行う。『万葉集』は承知のごとく、舒明朝（629-641）の頃から奈良朝の天平宝字3年（759）までの約120年間の和歌約4,500首が収められている、わが国最大の和歌集である。そこで授業では、『万葉集』の中から代表的な歌人で個性豊かな、山上憶良の和歌を中心に講読していきたい。

講義の内容・
授業スケジュール

『万葉集』を理解するには、作品を読解し作者を知るほかに、当時の歴史や社会的文化的な背景を視野に入れながら読んでいくことが大切である。そうした点を考慮に入れ踏まえながら、作品を読んでいきたい。

成績評価の方法

成績評価は、レポートや出席状況をもって判断する。

教 科 書

土橋 寛編『作者別 万葉集』おうふう（桜楓社） ¥1,800

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
中古文学講読	すず き ひろ こ 鈴 木 裕 子	禅・仏教・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短英・短放	4

講義のねらい

『源氏物語』は、それが書かれた平安の昔からたくさんの人々に読み継がれて来た日本文学の傑作です。『源氏物語』のどこにそのような価値があるのでしょうか。受講者一人一人に答を見付けてもらいたいと思います。そのためには、とにかく原文を自分の力で読まなくてはなりません。作品を正確に読み、理解し、感じ、考え、といったことを授業を通して繰り返し、最後には、他者の評価を鵜呑みにするのではない、自分自身の『源氏物語』評価がもてるようになるとよいと考えています。

講義の内容・
授業スケジュール

今年は、朝顔の巻から読みます。いよいよ栄華の階を上って行く光源氏ですが、一方では人知れず憂愁の影を抱いていきます。単純な古代の英雄ではない光源氏像をとらえつつ、物語の構造や方法についても理解を深めていきましょう。

履修上の留意点

授業は、テキストを用いての講義を中心に行ないます。が、教師の一方通行にならないように、受講生の積極的な質問や感想・意見など建設的な発言は歓迎します。

成績評価の方法

期末に試験を行ないます。（前期一回、後期一回）その他、授業中に適宜小テストを実施し、出席状態などの平常点を加味して評価します。

教 科 書

『源氏物語 三』新潮日本古典集成 新潮社を基本テキストとするが、既に角川文庫『源氏物語 四』など持っている人はそれでも構わない。

参 考 書 等

参考書などは、授業で指示します。

科目名	担当者名	配当学科	単位
中世文学講読	その 蘭 部 幹 お 生	禅・仏教・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短英・短放	4

講義のねらい

住吉物語は、はやく平安時代に成立して落窪物語や源氏物語にも影響を与えたが、改作が重ねられた。現存するもの鎌倉時代に擬古物語として作られた作品である。異本を含めた諸本もたいへんに多く、中には御伽草子の域にまで達した本もある。何度も改変が繰り返された作品だけに、住吉物語はたいへんにおもしろい。そのおもしろさを味わうことも講座のねらいではあるが、加えて、流動し変質する作品を講読することを通して、中世文学のあり方や享受の問題について考えてみたい。

講義の内容・授業スケジュール

前後期を通して、住吉物語全編を通読する。その過程で、可能な限り、古本系と異本系の住吉物語にも触れながら、文学史的な展開の問題や、作品の質的变化の問題についても触れる予定でいる。

履修上の留意点

本文の内容を理解するだけでなく、作品の変質の意味や文学のあり方などについて、問題意識を持って授業に取り組むことを求めたい。なお、毎時間、その日の講義内容に対する意見書の提出を求めるので、必ず原稿用紙を持参すること。

成績評価の方法

毎時間に提出する意見文によって50点分を評価し、12月末の時間内に50点満点の筆記試験を行う。(暗記科目ではないので、試験はノート・参考書等何でも持ち込み参照可)。また、必要に応じて、レポート提出を求めることもある。なお、追再試験はレポート提出とするが、これについては1月の授業時間内に指示する。

教科書

プリントを配布する。

参考書等

岩波新日本古典文学体系『落窪物語住吉物語』

科目名	担当者名	配当学科	単位
近世文学講読	かん の かず お 菅 野 一 雄	禅・仏教・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短英・短放	4

講義のねらい

現在の劇場で上演される「文楽」は、「浄瑠璃」演奏による人形芝居で、世界の人形劇の中でも独特なものである。この「浄瑠璃」とは、中世後期に発生し、近世に発展・盛行した芸能である。浄瑠璃詞章の作者として代表的なのが近松門左衛門である。近松はたくさん名作を残したが、その晩年に『女殺油地獄』という作を書いた。この作品は、罪もない油屋の主婦を金のためにむごたらしく殺してしまう若者の物語である。

この講義において、浄瑠璃とはどういうものか、近松はどういう作品を作ったか、『女殺油地獄』の主人公やその周囲の人々に近松がどういう眼を向けていたか、何を観客に訴えようとしていたか、などを学習して考えてもらう。

講義の内容・授業スケジュール

浄瑠璃の歴史、近松門左衛門の略歴などを説明し、『女殺油地獄』をくわしく読む。言葉の意味、引用されている先行作品、表現技巧などをこまかく吟味し、現在の「文楽」で上演する形態も適宜考察しながら読んで行く。

履修上の留意点

だいたい講義式で進める。時々全員での斉読を行う。毎時出欠をとる。学生の私語や無礼には厳しく対応する。

成績評価の方法

随時小テスト(テキスト・ノート携行)を行い、その結果と出欠状況などを総合して評価する。

教科書

諏訪春雄・中村光生著『校註冥途の飛脚・女殺油地獄』笠間書院 ¥800

参考書等

講義の進展につれ、随時参考資料や観劇資料を紹介する。

科目名	担当者名	配当学年	単 位
近代文学講読	井 上 優	禅・仏教・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短英・短放	4

講義のねらい

「森鷗外の文学と同時代の言説」というテーマで、一年を通して、彼の明治期の文学テキストを、その他の作者の文学テキストのみならず、それ以外のさまざまな領域の資料とアクセスさせることによって、考察して行く。ここでの一年という長丁場を一人の作者に費やすということは、しかし、鷗外という作家、あるいはそのテキストを中心化し、特権化することではないし、それらについての物知りの文学愛好者となることを目指すことでもない。そのような自閉性とは全く逆の行為、すなわち鷗外の文学テキストを文学の中で完結させるのではなく、外へ開いたとき、そこに何が立ち上がってくるのかを見極める作業になる。文学テキストはある特定の歴史的状況の中で生成される(=テキストの歴史性)、あらゆる歴史もまた叙述によることでテキストの生成という範疇に現象する(=歴史のテキスト性)がゆえに、文学テキストとそれが生み出された同時代の資料とは、文学と歴史、テキストとコンテキストといった序列的な二項対立からいったん解除されざるを得ない。文学テキストを他の言説から特権的な位置につけるのではなく、政治経済、哲学思想、宗教、他の芸術などと並べ合わせてみることで、文学が周囲の言説と連動しながら現実を作り出し、人々を巻き込んで行く装置として機能する様を探求することを試みたい。ここではテキストは単に社会現象を映す歴史的資料ではなく、社会の編成の装置としての面貌が明るみに出されてくるはずだ。鷗外の文学テキストを扱うのは、そのようなインター・テクスチュアリティの中でどのような力がいかに循環しており、そしてその力が人々の行動にいかん作用するかを考えて行くための、ケース・スタディとして受け止めてもらいたい。そうした検討をくり返しつつ、今日わたしたちが知らず知らずのうちに縛られている近代的な発想を対峙化し、自らの〈常識の殻〉に少しでもヒビを入れることを勇敢に実践し、それがやまらぬ快樂となることを志そう。

講義の内容・授業スケジュール

取り扱う具体的なテキストと内容は、『舞姫』と法制度の問題、『文づかひ』における〈唇〉というトポスの力学(松浦寿輝『口唇論』はいうまでもなく、音楽好きの学生は97年のGLAYのヒット曲『口唇』などを自由に関わらせて考えてみてもよいだろう)、『半日』と精神病学、『キタ・セクスアリス』と近代セクシュアリティ、『大発見』と衛生学(アジア諸国へ向けられた大陸衛生を含めて)、ならびに仮名遣調査との関連などである。また、鷗外の住居であった観潮楼の跡が現在、千駄木の文京区立鷗外記念本郷図書館となっていて、鷗外原稿や遺品などが展示されている(無料で見ることができ)ので、できればその見学なども行ないたい。

履修上の留意点

文学の授業に関してこれは言うまでもないことだが、テキストを読まずに出席した場合や、用意するよう指示されたものを持参せずに入室した学生については、その時間は出席とは見なさないの注意すること。文学講読の授業にテキストを読まずに参加することにはいかなる意義があるのだろうか。時間割の都合や、試験だけ受けて単位さえ取ればよいというような安易な受講は、結果としてそれとは反する事態に陥ることになる。読むことや書くこと、討論に意欲ある学生の受講を歓迎する。

成績評価の方法

学年末に教場での筆記試験を行おうと思うが、普段の授業の折にも何らかの小課題を課し提出してもらうことも考えている。出席状況や授業中の姿勢をも考慮して、多面的に評価したい。一年かけて連続的かつ発展的に話が進んで行くので、うかつな遅刻や欠席を繰り返すと授業内容の見通しが立たなくなり、たまに講義を聴いていても理解しがたくなるので、そうしたことは極力さげられたい。おせっかいとは思いますが念のため。

教科書

『森鷗外全集』(ちくま文庫、各980円)の第一巻と二巻を用意されたい。少し大きめの書店に行けば必ず手に入る。細かく注がついており便利。なお、授業はこの文庫のページに沿って行う。

参考書等

授業の中で指示する。また、資料としてプリントを配布するが、それらは試験が終るまでなくさないよう、ファイルするなどして大切に保存しておくこと。

その他

講義を中心に進めるが、時々には機会をみて受講学生が調査報告する場も設けたい(鷗外テキストや日本文学のみならず、発表者が目下興味をもっていることでもよい)。教師が教壇上から一方的にレクチャーする授業にならず、真剣な中にも親密な対話が可能な空間を目指したい。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
現代文学講読	こばやし 小林 治	福・仏教・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短英・短放	4

講義のねらい

戦後日本において、その新たな可能性が追究されたアヴァンギャルド文学運動の渦中から登場した安部公房が遺した作品のほとんどは、現実を写そうとする旧来のリアリズムと対極にある。皮相なリアリズムによっては切り捨てられ、あるいは隠蔽されて、闇に葬られてきた生活者の身体感を露出させているという意味において、これほど現実を映している作品は稀有といってよいだろう。そのような安部公房の作品を、一年間読み進めたい。

講義の内容・
授業スケジュール

昭和20年代の初期短編作品から、昭和40年前後までの長編諸作品まで順次取り上げていく。

履修上の留意点

文庫本、全作品集、全集などを用意して、あらかじめ安部作品を読んでおいて授業に出席のこと。

成績評価の方法

定期試験の結果、レポートの内容等を総合し、さらに出欠状況を加味して評価する。

教 科 書

安部公房
『水中市・デンドロカカリヤ』
『R62号の発明・鉛の卵』
『けものたちは故郷をめざす』
『第四間氷期』
『石の眼』
『砂の女』
(すべて新潮文庫)

参 考 書 等

授業で、その都度指示する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
時 事 英 語	おかもと まこと 岡 本 誠	禅・仏教・地理・歴史 社会・福祉・心理・経済 商・経営・短国・短放	4

講義のねらい

「時事英語」なる英語があるわけではない。英語でいって言えば“Current English”ということになり、古典的文学作品でお目にかかるような構成や文体のものでは決してない。

小説やドラマには起承転結というか、順を追ってプロットが展開され、終わりに近くなってクライマックスに達する。時事英語で接する英語は、これとは逆に、最初に話の内容を全部さらけ出し、最も重要な点から説明していく。この最初の部分を lead といい、重要な「いつ・どこで・だれが・なにを」といった点が全部含まれることになる。

かくして、内容の構成や文体の点で新聞・雑誌・放送といった媒体で接する英語についてはそれなりの認識が必要となる。本講義ではそういった分野の英語にふれることをねらいとする。

講義の内容・授業スケジュール

その日の朝のアメリカからの短波放送のニュースを聞き、そのニュースキャスターの原稿を作ってみる。英字新聞も併用するが、TIME、NEWSWEEK なども折りにふれて利用する。受講する諸君はこの分野の語法である journalese に親しみ、新聞英語ぐらいは読み慣れるようにしてほしい。

履修上の留意点

世界の政治、経済の動きに注意をはらってほしい。(新聞はTV欄しか見ないというような人は来ないこと。)それが社会の事象に対して問題意識をもつことに通ずる。こういう態度は就職のときに重要である。

成績評価の方法

期末試験。受講中の発表。出席情況。
数回にわたる小テスト

教 科 書

特定の教科書等は利用しない。

参 考 書 等

『時事英語講座』 研究社

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
英 語 演 習 I 〔ディクテーション〕	おか もと まこと 岡 本 誠	禅・仏教・国文・英米文 地理・歴史・社会 福祉・心理・短国・短放	4

講義のねらい

慣用句の働きは大きい。気の利いた話ができることになる。それこそ、「オッ、お主^{メシ}なかなかできるな」と相手に思われる。しかし、そう思ってくれる英語圏の人も、どういういきさつでそのような慣用句が成立したかまでは知らない。

例えば、「近所の人と生活振りを張りあう、あるいは世間に遅れをとらないようにする」ということを“to keep up with the Joneses”と言う。どうしてこういう句ができたのであろうか。

また、もともとは人物の名前であったのだが“maverick”は現在「一匹狼」の意味で用いられている。どうしてだろう。以上二つの例ともにちゃんと辞書には出ている。

この講義では、このような慣用的な表現が言語生活に入ってきた背景をディクテーションの手法で理解しようとするものである。聴いて、それを正確に書き上げるという作業は、その人の英語の実力をずばりと表す。TOEFL500点以上を達成したいむきは来たれ。

講義の内容・ 授業スケジュール

前期はスピードの比較的にゆっくりしたもの、後期はやや速いものを聴くようにところがける。

履修上の留意点

遅刻して物音をたてながら入ってくるは迷惑至極であることを理解してほしい。ケイタイの類を鳴らしたら退席。

成績評価の方法

発表情況。出席情況（遅刻情況も）。宿題。定期的に小テストを行う。

教 科 書

テープ使用につき、教科書の類はつかわない。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
応 用 計 測 学 (前 期)	かし お えい じ 櫃 尾 英 次	禪・仏教・英米文・地理 歴史・社会・福祉 心理・経済・商・経営	1

講義のねらい

放射線機器工学を2年次に学習し、医用機器工学を3年次に学習するが、これらの講義で含まれなかった重要な機器について行う。

医用画像診断装置を主体とするが、生体電気計測および生体磁気計測についてもそれらの基本を学ぶ。

講義の内容・
授業スケジュール

- 1) 核医学診断装置
 - 放射性核種および放射線計測の基礎
 - ガンマカメラ
 - SPECT
 - PET
 - 核医学データ処理装置およびソフトウェア
- 2) X線診断装置
 - CR (Computed Radiography)
 - DSA (Digital Subtraction Angiography)
- 3) 超音波診断装置
- 4) PACS (画像管理システム)
- 5) 生体電気計測
- 6) 生体磁気計測

履修上の留意点

あらかじめ放射線計測学および放射線機器工学を習得していること。国家試験で核医学機器関連に対応できるよう講義するので全員受講することが望ましい。他学科にあっては高校で物理を習得していることが望ましい。

成績評価の方法

定期試験および出席状況により評価する。

教 科 書

教材としてプリントを使用する。

3 日本語・日本事情科目

日本語・日本事情科目

(対象：外国人留学生・海外帰国子女)

《日本語科目》

日本語 I	(佐野典子)	日 1
日本語 I	(多田羅哲子)	日 1
日本語 II	(佐野典子)	日 2
日本語 II	(多田羅哲子)	日 2
日本語 III	(多田羅哲子)	日 3
日本語 III	(湯村礼子)	日 3
日本語 IV	(石川 守)	日 4
日本語 IV	(湯村礼子)	日 4
日本語 V	(石川 守)	日 5
日本語 V	(多田羅哲子)	日 5
日本語 VI	(石川 守)	日 6
日本語 VI	(多田羅哲子)	日 6

《日本事情科目》

日本事情 I	(地理) (後期) (小池一之)	日 7
日本事情 II	(自然) (前期) (清水善和)	日 7
日本事情 III	(歴史) (後期) (宮本由紀子)	日 8
日本事情 IV	(思想) (前期) (赤羽由規子)	日 8
日本事情 V	(社会) (後期) (坪井 健)	日 9
日本事情 VI	(政治・法律) (前期) (関口雅夫)	日 9
日本事情 VII	(文学) (前期) (小野 寛)	日 10
日本事情 VIII	(文化・芸術) (後期) (赤羽由規子)	日 10
日本事情 IX	(経済) (前期) (瀬戸岡 紘)	日 11
日本事情 X	(経営) (前期) (明石博行)	日 12

科目名	担当者名	配当学科	単位
日本語 I	佐野の典子	全学科・短大 (短放随意)	2

講義のねらい

読解を中心に、日本語及び日本文化への総合的理解を深める。

講義の内容・授業スケジュール

小論文、雑誌記事、文学作品などの読解を、ゼミ形式で行う。

成績評価の方法

小試験、提出物、討論への参加度、出席率などにより、総合的に評価する。

教科書

教材は、担当者が用意する。

科目名	担当者名	配当学科	単位
日本語 I	たたらあまこ 多田羅哲子	全学科・短大 (短放随意)	2

講義のねらい

常用漢字の読み方を中心に日本語の知識を強化する。
漢字の正確な読み書き、語彙の様々な意味・使い方、文法、表現等の練習を通して日本での生活および専門教科の学習に役立つ日本語の知識を身につける。

講義の内容・授業スケジュール

- 常用漢字を正確に読めるようにする。そのためには読み方のルールも知る。
- 語句の基本的意味・用法とともに学生生活に必要なと思われる派生的意味や使い方も練習する。
- 助詞・機能語・慣用表現・文法事項等の復習もする。

履修上の留意点

小テストを行う。

成績評価の方法

平常点と期末試験の成績で評価する。

教科書

プリント教材(常用漢字を基本とした語彙集、および文系教科の概論、入門書、小説、新聞等から抜粋した例文集)を配布する。

科目名	担当者名	配当学科	単位
日本語Ⅱ	佐野典子	全学科・短大 (短放随意)	2

講義のねらい

聴解を中心に、日本語能力を養う。

講義の内容・
授業スケジュール

時事問題のビデオ、テープの内容を把握する。その内容を要約し、適宜自分の意見を述べる。
また関連のテーマについて調べ、発表する。

成績評価の方法

小試験、提出物、研究発表、出席率などにより、総合的に評価する。

教科書

教材は、担当者が用意する。

科目名	担当者名	配当学科	単位
日本語Ⅱ	多田羅哲子	全学科・短大 (短放随意)	2

講義のねらい

- 話すことを中心に日本語の運用能力を養う。
- 事実の説明や、スピーチ、質疑応答、討論等を通して、正しく適切な表現を用いて日本語が自由に話せるようになることを目指す。
 - 発音、アクセント、イントネーション等、自分の日本語を自分で見直し矯正する習慣をつける。
 - あわせて書く練習もする。

講義の内容・
授業スケジュール

- 読んだこと、聞いた内容を自分の言葉で説明したり、それに対する自分の考えを述べる練習をする。
- スピーチをし、その内容について質疑応答、意見交換、討論等を行う。
- ディベートを通して適切な表現で自己主張したり、相手を説得する練習をする。
- 話したことを文章にまとめる。
- テープを聞き自分の日本語を意識し矯正する。

履修上の留意点

積極的に授業活動に参加し、提出物は必ず提出すること。

成績評価の方法

平常点を重視する。

教科書

必要に応じてコピーを配布する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
日 本 語 Ⅲ	た た ら あ き こ 多 田 羅 哲 子	全学科・短大 (短放随意)	2

講義のねらい

- 聴きとることを中心に日本語の総合的能力を養う。
- 話題になっていることについて生の日本語を通じて深く理解し、また的確に表現できるようになることを目指す。
 - 一つのテーマについて聴きとる（見る）・読む・話す・書く活動を通じてバランスのとれた日本語の力を身につける。

講義の内容・授業スケジュール

- 今話題になっているテーマについてビデオを見たり、本・新聞・雑誌などの文章を読んで内容を把握する。
- その内容を説明したり、それについて自分の考えを述べたり討論したりする。
- また、それらを文章に表現する練習もする。

履修上の留意点

必ず出席し、授業に積極的に参加すること。

成績評価の方法

平常点、つまり授業中の発言や提出物を重視する。

教科書

ビデオを使用。プリントを配布する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
日 本 語 Ⅲ	ゆ む ら れ い こ 湯 村 礼 子	全学科・短大 (短放随意)	2

講義のねらい

これまで修得してきた日本語能力をさらに強化し、文献を自分で調べながら読み、理解できるようにする。さらに、文献を通して、考え、自分の意見を持ち、発表・説明ができるようになること目指す。

講義の内容・授業スケジュール

新聞・雑誌・文学作品・専門書などから教材を選び、読み進める。読んだ後に、意見を出し合ったり、討論を行ったりし、さらに認識を深め、最後に小レポートを提出してもらう。後期には、各自分担を決めて調べたり、資料を収集したりしての発表も行なう。

履修上の留意点

授業活動を重視するので、当然、毎時間の出席を原則とする。

成績評価の方法

試験（漢字・語彙テストetc）、内容把握小レポート、授業での発表、その他の授業活動（発言、他の人の意見を良く聴くこと・授業態度etc）を総合的に評価する。

教科書

授業中にプリントを配布する。

科目名	担当者名	配当学科	単位
日本語 IV	いし かわ 石 川 まする 守	全学科・短大 (短放随意)	2

講義のねらい

日本語の中・上級のさまざまな文型の用法を分析して、理解するばかりでなく、会話や作文で使えるようにしていきたい。

講義の内容・授業スケジュール

講義の進め方は、テキスト「日本語中上級文型」を使って、そこに出てくる文型や、文法事項、語彙、表現、アクセントの問題などをともに分析して進めていきたい。

履修上の留意点

授業は一方的な講義の形ではなく、教師の側が、学生に質問をしながら進めて行く。教師から教えてもらうのではなく、自分で考え、自分で準備し、積極的に参加するようにしてもらいたい。

成績評価の方法

成績評価は、筆記試験と平常点（出席、授業への参加度）の二つで評価する。

教科書

教材は、授業中にプリントを配布する。

参考書等

特になし

その他

授業は講義形式ではなく、常に教師から学生に質問をする形で行っていく。

科目名	担当者名	配当学科	単位
日本語 IV	ゆ むら せい こ 湯 村 礼 子	全学科・短大 (短放随意)	2

講義のねらい

書くことを中心に授業を進める。日常生活、大学生活に必要な文章力をさらに高めることを目的とする。

講義の内容・授業スケジュール

文・段落・文章の書き方、文章の種類などについて講義し、実践し学生に書いてもらう。書いたものについて再度見なおし進めていく。

履修上の留意点

講義・授業中の実践活動が重要なので、毎時間の出席を原則とする。

成績評価の方法

作文・レポートなど（5回程度）
授業活動（発言、授業態度、授業中の提出物 etc）

教科書

授業中にプリントを配布する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
日本語 V	石川 守 <small>いしかわ まもる</small>	全学科・短大 (短放随意)	2

講義のねらい

日本語の「基礎文法」についてより深く理解するために詳しく分析し、そこに潜む日本語文法の特徴を考え、ひいては話し、聞き、書き、読む際により正確に深く日本語が理解できるようになることを目指したい。したがって、基礎的な文法に特に自信のない学生に受講してもらいたい。

講義の内容・授業スケジュール

講義は、テキスト「日本語基礎文法」を使って、そこに出てくる項目を中心に、ともに考え分析しながら進めていきたい。始めは、初級レベルから始め、時間が許せば中級レベルのものも分析してみたい。

履修上の留意点

扱う学習項目は主に初級文法であるが、文法的な問題は基本的なものほど難しく、また深く掘り下げて分析して行くので、内容は単なる初級であると考えないでほしい。

成績評価の方法

成績評価は、筆記試験と平常点（出席、授業への参加度）の二つで評価する。

教科書

教材は、授業中にプリントを配布する。

参考書等

特になし

その他

授業は講義形式ではなく、常に教師から学生に質問をする形で行っていく。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
日本語 V	多田 羅 哲 子 <small>ただら おきこ</small>	全学科・短大 (短放随意)	2

講義のねらい

中上級の文法・表現練習及び作文演習。主としてレポート・論文等を正しく適切な表現を用いてわかり易く書くための基本的練習をする。

講義の内容・授業スケジュール

- 留学生の文章によく見られる問題箇所（たとえば「は」と「が」の使い分け、その他の助詞、自他動詞、接続表現、文末表現など）について正しく書けるよう練習する。
- より適切な表現が選べるよう中上級の文法・表現の復習をする。
- 話し言葉と書き言葉の使い分け、事実と意見の述べ方、表・グラフを使う表現等レポートを書くときに役立つ基礎的な練習をする。

履修上の留意点

平常の練習が大切なので必ず出席すること。

成績評価の方法

平常点を重視する。

教科書

プリントを配布する。

科目名	担当者名	配当学科	単位
日本語 VI	いし かわ まもる 石 川 守	全学科・短大 (短放随意)	2

講義のねらい

日本語の「会話文型」を中心に、より高度な日本語の日常会話の表現について分析する。

講義の内容・
授業スケジュール

講義は I C J (intermediate) の会話部分を用い、そこに出現する会話文型、会話特有の文型、アクセント等について分析をしながら進める。

履修上の留意点

講義は教師が一方的に講義するというのではなく、常に学生に質問をしながら進めるため、自分の意見をはっきりもってもらいたい。また、本講義は、日常会話の文型や文法的要素を分析するもので、実際の会話をしたり、会話練習をするものではない。

成績評価の方法

成績評価は、筆記試験と平常点(出席、授業への参加度)の二つで評価する。

教科書

コピーを配布する。

参考書等

特になし

その他

授業は講義形式ではなく、常に教師から学生に質問をする形で行っていく。

科目名	担当者名	配当学科	単位
日本語 VI	た たら あき こ 多田羅 哲 子	全学科・短大 (短放随意)	2

講義のねらい

読むことを中心に話す力、聴解力、作文力など日本語の総合的な能力を高める。

講義の内容・
授業スケジュール

- 今話題になっていることについて、語彙・表現・文法事項などを押さえながら、本・新聞・雑誌等の生教材を読む。
- 関連したビデオを見て、それらが実際にどう使われているかを知る。
- テーマについて話し合ったり書いたりすることで日本語を豊かにする。

履修上の留意点

授業中の活動が大切なので必ず出席すること。

成績評価の方法

平常点を重視する。

教科書

プリントを配布、ビデオを使用。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
日本事情Ⅰ 〔地理〕(後期)	こ い け か ず ゆ き 小 池 一 之	全学科・短大 (短放随意)	2

講義のねらい

この講義では、日本人が変化に富んだ日本列島の自然環境とどのように付き合ってきたか考えてみる。

講義の内容・
授業スケジュール

半年の講義の中で、重点的に触れるのは次のような点である。

- a. 稲作技術の伝来と平野の開発
- b. 江戸－東京の発展－その自然的な背景－
- c. 火山の恵みと火山災害
- d. 治山・治水事業－自然災害との闘い
- e. 「白砂青松」－代表的な日本の海岸成立の背景－

履修上の留意点

出来るだけ明瞭な日本語で講義するよう心掛けるが、学術的な用語が解りにくい場合、遠慮せずに質問すること。

成績評価の方法

平常の出席状況と課題レポートによる。

教科書

特定の教科書はないが、授業中に紹介する。

そ の 他

出来るだけプリント類を配布し、スライド、ビデオなどを多用する予定である。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
日本事情Ⅱ 〔自然〕(前期)	し み ず よ し か ず 清 水 義 和	全学科・短大 (短放随意)	2

講義のねらい

日本はアジア大陸の東端に位置する島国であり、亜寒帯の北海道から温帯の本州を通り、亜熱帯の沖縄まで約3,000kmの細長い国土を有している。国土の67%は山地であり、複雑な海岸線とあいまって多様な地形を形成している。日本は複数のプレートの境界域に当たり、世界でも有数の火山・地震地帯となっている。このような多様な環境を反映して、日本には独特の動物・植物が多数生息・生育している。

本講義では日本の自然を気候、地形・地質、生物の3分野に分けて解説する。その際に次の3つの視点に留意する：(1)アジアの自然の中での日本の位置づけ、(2)現在の状態と過去の歴史とのつながり、(3)自然と日本の文化との関係。すなわち、できるだけ時間的、空間的に広い視野から日本の自然をとらえることによって、留学生の母国の自然とのつながりも確認できるようにしたい。また、講義の最後には日本の自然破壊の歴史とその保護の在り方についても言及する。

成績評価の方法

レポート(2、3回)と出席回数に基づいて評価する。

教科書

特定の教科書はなし。参考書は適宜紹介する。

そ の 他

毎回配付する補助教材のプリントを用いて講義する。適宜スライドによる事例紹介を行なう。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
日本事情Ⅲ 〔歴史〕(後期)	みやもと ゆきこ 宮 本 由 紀 子	全学科・短大 (短放随意)	2

講義のねらい

日本の歴史を学ぶことで日本民族の持つ民族性を理解する手掛りとしたい。

講義の内容・
授業スケジュール

特に江戸時代に至る過程を講義し、鎖国制度の完成までを目安にする。

履修上の留意点

板書を中心とし、わかり安く楽しい講義をこころがけるので、ノートを取り、理解できないところは質問するなどして疑問を残さないようにすること。

成績評価の方法

出席日数を評価の参考とし、レポートで成績の評価とする。

教科書

なし

参考書等

なし

そ の 他

講義のみ

科目名	担当者名	配当学科	単 位
日本事情Ⅳ 〔思想〕(前期)	あかば ゆきこ 赤 羽 由 規 子	全学科・短大 (短放随意)	2

講義のねらい

日本人が古くから伝承してきた民俗音楽の中に、日本人の精神世界を見ていく。
民俗音楽とは、古来、人々が生きていく上で、衣食住と同じように必要としてきた音楽で、それは、例えば信仰、祭り、作業、遊びなどに伴う形で存在している。ほとんどは作者不詳であり、楽譜もなく、普通の人々の間で口頭伝承されていく性質のものである。テープやビデオを用いて、実際に音楽を視聴しながら講義を進めていきたい。

履修上の留意点

第一回目にオリエンテーションを行うので必ず出席すること。

成績評価の方法

出席数、筆記試験によって採点する。

そ の 他

その都度知らせる。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
日 本 事 情 V 〔社 会〕 (後 期)	つば い 井 坪 井	全 学 科 ・ 短 大 (短 放 随 意)	2

講義のねらい

この科目は、留学生を対象に「日本社会」を比較社会的に理解することを目的とする。日本社会を理解する方法は、第一に留学生の母国の人間関係・文化・社会と日本の人間関係・文化・社会がどう違うかをじっくり観察することである。そうした観察結果に基づき、日本の人間関係や集団・社会の特質について、日本社会の国際比較データや国際比較研究の結果も提示しながら、受講生と一緒に対話しながら楽しく学習していきたい。

講義の内容・
授業スケジュール

1. はじめにー受講上の注意と授業の進め方ー
2. イメージの中の日本ー日本及び日本人イメージー
3. 大学文化の比較ーアジア諸国と日本ー
4. 人間関係の比較ーアジア諸国と日本ー
5. 家族関係の比較ーアジア諸国と日本ー
6. 社会組織の比較ーアジア諸国と日本ー
7. 大衆文化の比較ーアジア諸国と日本ー

履修上の留意点

この科目は、身近に留学生が日頃感じている日本イメージをベースにしなが、楽しみながら日本社会の実際を比較社会的に学べるように工夫するので、気楽に受講してほしい。

成績評価の方法

平常点(50%)、課題レポート (50%)

教 科 書

授業内容は、その都度、プリントやコピーを配布するので、教科書は使わない。

参 考 書 等

金山宣夫著『比較生活文化事典』(全5巻) 大修館書店

そ の 他

留学生に理解しやすいように、統計グラフやビデオ映像も教材として利用します。多くの留学生が受講することを期待します。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
日 本 事 情 VI 〔政 治 ・ 法 律〕 (前 期)	せ き く ち ま さ お 関 口 雅 夫	全 学 科 ・ 短 大 (短 放 随 意)	2

講義のねらい

日本事情VI〔政治・法律〕は、新聞にでてくる政治と法律についての記事を利用して、受講生の日本語を読む力、日本語を正確に話す力、日本語でよい答案を書く力を高めることを目的としています。

講義の内容・
授業スケジュール

まず先生が新聞の記事を読みます。つぎに受講生におなじ記事を読んでもらいます。それから、記事の内容を検討し、全員が理解できるようにします。その後、この記事に関連して話し合いをし、おわりに、この記事の内容を正確な日本語で表現できるようにします。

履修上の留意点

かならず出席してください。

成績評価の方法

平常点により評価します。

教 科 書

最初の授業の日に受講生の日本語の能力を見て、教材を作成します。コピー代は、150円ぐらいです。

科目名	担当者名	配当学科	単位
日本事情Ⅶ 〔文学〕(前期)	おののひろし 野 寛	全学科・短大 (短放随意)	2

講義のねらい

日本語のもっとも美しい原初のかたちが、日本古来の「和歌」に見られる。その原点ともいうべきものが、日本最古の和歌集である『万葉集』である。『万葉集』をよんで、日本のことばの意味・用法をしらべ、日本人のころを探り、作歌の背景を考え、日本の歴史や社会を学んでほしいと思う。それが文字をよむことである。

講義の内容・
授業スケジュール

『万葉集』から作品を選び、詳しく解説していく。

履修上の留意点

随時、質問を書いて出してもらおうと思っている。

成績評価の方法

出席状況とレポート、または筆記試験による。

教科書

小野寛著『新選万葉集抄』 笠間書院

科目名	担当者名	配当学科	単位
日本事情Ⅷ 〔文化・芸術〕(後期)	あかばゆきこ 赤 羽 由 規 子	全学科・短大 (短放随意)	2

講義のねらい

いわゆる「伝統邦楽」といわれている、日本の古くからの和楽器による音楽や芝居の中に、日本人の義意識を探っていく。

また、日本の伝統音楽は、そもそもアジア諸国の音楽を学ぶことから始まり、そこから次第に日本人に合った独特のものを生み出していったのであり、更に明治以後には西洋音楽からも多くの触発を受け、戦後には「現代邦楽」を目差している。そのような過程をも合わせて見て行きたい。テープやビデオを用いて、わかりやすく講義を進めていく。

履修上の留意点

第一回目にオリエンテーションを行うので必ず出席すること。

成績評価の方法

出席数、筆記試験によって採点する。

参考書等

その都度知らせる。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
日 本 事 情 IX 〔経 済〕 (前 期)	せ と おか 瀬 戸 岡 ひろし 紘	全学科・短大 (短放随意)	2

講義のねらい

日本の経済事情のアウトラインをわかりやすく解説します。わかっているようで、わからないことを、なるべくいいに話します。たとえば、明治時代以来の工業化は、アジア諸国のなかでなぜ日本が先んじて成功したのか？日本の経営が今あちこちで問題にされていますが、どのようにしてそれが日本に根をおろしていったのか？就業人口に占める農業人口の割合は、日本とオーストラリアとイギリスとアメリカでは、どこが一番高いか？そして農業生産高はどうか？そして時には余談もします。たとえば、この国本当の名前ってニホンなの？ニッポンなの？それともジャパンでもいいの？など、みなさんが日本にきた以上、ぜひ知って帰りたいことを、たくさん話すことがねらいです。

講義の内容・ 授業スケジュール

以下のようなトピックを一回の講義でひとつずつとりあげます。しかし、とりあげる順序は、みなさんの希望に応じていれかえることがあります。

- 日本の工業地帯と工業
- 日本の農村と農業および日本の水産業
- 日本のサービス業および金融
- 明治維新以前の日本経済の歴史
- 明治維新以降の日本経済の歴史
- 第2次世界大戦以降の日本経済の展開
- 日本経済とアメリカ経済
- 日本経済とアジア経済
- 日本経済と政府の役割
- 日本の労働者・サラリーマンの生活
- 日本経済と社会や文化の変化
- その他

成績評価の方法

日ごろの授業態度で評価します。具体的には、出席40%、小テスト(クイズ)30%、宿題30%が目安です。

教 科 書

日本経済について書かれた本はあまりにたくさんあるので、特定の本を指定することはいたしません。しかし、授業のなかでその都度適切な本を紹介します。日々のニュースをよく聞いてください。この講義では、日ごろあなたが目にするそのものを題材として授業をすすめます。いわば、あなたの周囲にあるものそれ自体が教科書です。とくに、よい本をもとめたい人は、私に相談してください。いくらでも紹介します。

そ の 他

授業は、おおむね日本語ですすめます。しかし、その日の要点は、英語でも話します。質問は、日本語でも英語でもどちらでも受けつけます。授業のなかで、みなさんが積極的に発言することを期待しています。はじめのうち、どうしても日本語がうまくつかえなければ、英語で発言してもかまいません。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
日 本 事 情 X 〔 経 営 〕 (前 期)	あか し ひろ ゆき 明 石 博 行	全学科・短大 (短放随意)	2

講義のねらい

この講義では、日本経済の構造の変化と経済政策との関連に重きをおいて、戦時期以降の日本経済史の概説的な紹介をします。

講義の内容・
授業スケジュール

講義の構成は、以下のとおりです。
 序章 日本の資本制発展の歩みとその段階区分
 第1章 戦時体制の形成と崩壊
 第2章 占領下の戦後改革
 第3章 逆コースと日本の独立
 第4章 復興から繁栄へ
 第5章 戦後繁栄の前半期：高度成長の時代
 第6章 戦後繁栄の前半期から後半期へ：中間危機の時代
 第7章 戦後繁栄の後半期：対外摩擦とバブルの時代
 第8章 繁栄の終わりと平成不況
 終章 いま日本経済はどうなっているか

成績評価の方法

レポートによって成績評価をします。

教 科 書

教科書は使用しませんが、必要に応じて参考書を紹介します。

4 教職・資格講座

(国文科・英文科)

- (1) 教 職 課 程
- (2) 学校図書館司書教諭講座

教職・資格講座

(1) 教職課程

《教職に関する専門科目（必修）》

教育原理	(豊田千代子)	教1
教育原理	(北村三子)	教1
教育心理学	[教育方法論を含む](遠藤司)	教2
青年心理学	[教育方法論を含む](小宮山要)	教2
国語科教育法	(小林治)	教3
英語科教育法	(梅原敏弘)	教4
特別指導	(原口盛次)	教4
生活指導	(佐藤尚人)	教5
道德教育の研究	(坂本信昭)	教6
教育実習	(坂本信昭)	教6
教育実習	(北村三子)	教7

《教職に関する専門科目（選択）》

教育関係法規	(広沢明)	教8
図書館学Ⅰ	(山田節子)	教9
図書館学Ⅱ	(源昌久)	教9

(2) 学校図書館司書教諭講座

図書館学Ⅰ	(山田節子)	教10
図書館学Ⅱ	(源昌久)	教10

《教職に関する専門科目（必修）》

科目名	担当者名	配当学年	単位
教育原理	とよ た ちよ こ 豊 田 千代子	教職1必 (短国)	4

講義のねらい

1965年に、ユネスコのポール・ラングランによって「生涯教育」が提唱されて以来、教育を生涯教育・生涯学習という観点で捉えることが、教育改革の国際的動向となっている。わが国でも、今日、生涯学習の観点からの教育の見直しが課題となっている。

そこで、授業では、自分自身の成長過程で経験した教育をふり返ることをとおして、教育について考えていきたい。取り上げるテーマとしては、次のものを考えている。

講義の内容・授業スケジュール

- ・現代の教育問題
- ・「子どもの権利条約」
- ・人権教育
- ・生涯教育論
- ・教師論
- ・国際理解教育
- ・教育改革の方向性

成績評価の方法

出席点・レポート等によって、成績評価を行なう。

教科書

大学教育実践研究会編『教育を考える』（相川書房）

参考書等

篠田弘編『資料でみる教育学』（福村出版）

科目名	担当者名	配当学年	単位
教育原理	きた むら みつ こ 北 村 三 子	教職1必 (短英)	4

教職・資格講座

講義のねらい

いじめや暴力をはじめとして、教育現場には多くの解決しにくい問題が山積している。それらは単に学校だけの問題ではなく、近代社会の歪みと深く関わっている。こうした事態に対応すべく、教育学も今までの枠組みとは異なる方向を模索しつつあるが、その中でも注目すべきものは、ホリスティックな観点（全体性やつながりを重要視するもの）を回復しようとする試みであろう。この授業では、そうした立場を代表する人物の一人である、クリシュナムルティの著作を検討したい。

講義の内容・授業スケジュール

教科書として指定した文献を読み合う。

成績評価の方法

平常点。

教科書

J. クリシュナムルティ『学びと英知の始まり』（春秋社）1991年 2,600円

参考書等

授業中に指示。

科目名	担当者名	配当学年	単位
教育心理学 (教育方法論を含む)	えん とう 遠 藤 つかさ 司	教職1必 (短国・短英)	4

講義のねらい

現在の教育に関する諸問題を考えるとき、心理学の様々な知見が影響力を持ち得ていることに気づかざるをえない。その様子を概観し、将来、教職に就こうとしている人間として、教育心理学的なものの見方とはどのようなものであるのか考えることを通して、自分なりに見方を確立することをテーマとする。

講義の内容・授業スケジュール

教育心理学の中での主要なテーマを概観することが講義の主となる。中でも、「自己」の問題をテーマとして取り上げ、教育心理学の中で、「自己の成り立ち」、「自己と他者」等の問題がどのように考えられてきたか見ながら、具体的な現象から考えていくこととしたい。また、「学習」の問題にも注目し、教育心理学の中で「学ぶ」ことをどのように考えてきたか、それに伴って「教える」ことをどのように考えてきたかを見直し、「評価」の問題、「教師-生徒関係のあり方」等の問題にも触れながら、現在の学校において「学ぶ」ということを改めて問いなおしていきたい。

履修上の留意点

考えることを厭わない学生の履修を望む。

成績評価の方法

年度末試験を予定している。

参考書等

参考書等については授業中に随時紹介する。特定の教科書は用いない。

その他

講義が中心になることは否めないが、ビデオ等を用い、できるだけ実際の場面などを見ながら、実践に即して様々な問題について考える機会を作りたい。

科目名	担当者名	配当学年	単位
青年心理学 (教育方法論を含む)	こみやま 小宮山 かなめ 要	教職1必 (短国・短英)	4

講義のねらい

1. 中学・高校の教師になるために必要不可欠な青年心理学についての知識と、今日の中学生や高校生が示している、いろいろな問題行動についての理解とその指導法を習得する。
2. 現在青年期の中にある大学生自身の自己理解を深め、対人関係能力の向上と社会性の発達に役立てる。

講義の内容・授業スケジュール

1. 青年心理学の目的、課題、方法、問題点
2. 中学生の問題行動の様相
3. 青年理解と適応指導
4. 人間関係の展開と改善
5. 青年期の危機とのりこえ

成績評価の方法

授業中の小テスト60%、レポート40%

その他

授業は主として講義形式とするが、課題に対する発表討議等も加える。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
国語科教育法	こばやし 小林 治	教職1必 (短国)	4

講義のねらい

本講座の受講生は、その大半が一年後には教育実習生として、教室で生徒を前に授業という形で国語の教科指導を行なうことになる。あるいは、将来、教師として教壇に立つこともあるだろう。そのような時に、国語という科目をどのように教えることができるか、その方法と実際を学ぶための講座である。

国語という科目は大きく分けて、理解と表現という二領域があると考えられる。理解とは、論説文、文学作品などの読解、鑑賞であり、表現とは、文章表現（書く）、口頭表現（話す・聞く）に関することである。そして、この二領域を横断する要素として、考えること（思考）がある。これらの領域、要素にまたがって、様々な教材を使って生徒の総合的な国語力修得をはかることが、教科指導の目的である。しかし、教育現場において生徒一人一人は、その能力、適性、学習の進度に大きな差があり、一律には指導できない。その多様さに応じた学習指導上の工夫も必須であると言えよう。よって、本講座では従来の一斉授業の枠の中でその長所を把握し、そこにおける効率的学習のあり方を考えることを経て、個人差に応じた学習指導の工夫を試みる授業形態を考えていくことになろう。

講義の内容・ 授業スケジュール

1. 1993年度から実施された学習指導要領の解説。
2. 国語科教育の基本的な知識と方法。
3. 中学校教科書を用いた授業展開例の紹介と、その問題点の把握。
4. 実際に教育現場で行なわれている新しい指導法の紹介。
5. 指導案の作成。
6. 中学校教科書を用いての受講者一人一人の模擬授業。

履修上の留意点

受講生が教育現場で教壇に立った時に遭遇する様々な困難を想定し、それに対処できるような実践力の養成を行ないたいので、漠然とした教師への憧れや、安易な資格取得目的による受講がないよう希望する。

成績評価の方法

定期試験の結果、レポートの内容（教科指導案を含む）、模擬授業の内容等を総合し、さらに出欠状況を加味して評価する。

教科書

『改編 中学校・高等学校 国語科教育法』（おうふう）¥1,800
中学校教科書『現代の国語1』（三省堂）¥690（五月以降に購入可能）

参考書等

その都度指示する。なお、適宜、プリントを配布する。

その他

ビデオ等を使って各校の授業展開例を紹介する予定。

科目名	担当者名	配当学年	単位
英語科教育法	うめ はら とし ひろ 梅 原 敏 弘	教職1必 (短英)	4

講義のねらい

基本的な教授法及び外国語習得理論の概略と、教育実習をするために必要な具体的な知識を学んでもらう。

講義の内容・授業スケジュール

現代の英語教師に求められている資質、能力、知識とは何かという基本的な問題をまず検討し、英語教師になるために何が必要なのかを受講者自身によく考えてもらったうえで講義に入っていく。前期では外国語教育にまつわる諸問題を、現代に至るまでの教授法及び主要外国語習得理論を中心に講義をする。後期は、実際に授業風景を録画したビデオテープを見ながら、具体的な指導技術の知識を深め、学生一人一人にやってもらう模擬授業を通して、指導技術を習得してもらう。

履修上の留意点

英語教師になるのであるから英語そのものの力がないといけない。常に自分の英語力を高める努力を怠らないでほしい。

成績評価の方法

レポート(50-60%)及びその他の要素(40-50%)、例えば出席・授業への貢献度(質問、意見の発表等)・模擬授業の出来映え、などを総合的に勘案して決める。

教科書

教科書は特には指定しない。

参考書等

塩澤他『新英語科教育の展開』(英潮社)
ビデオテープ：英語教育研究シリーズ ジャパンタイム

科目名	担当者名	配当学年	単位
特別活動 (前期)	はら ぐち もり じ 次 原 口 盛 次	教職1・2必 (短国・短英)	2

講義のねらい

小・中・高校の教育課程の一領域である「特別活動」の教育的意義や目標、内容、及び方法等について、理論と実践の両面から研究を行う。特に、理論的な研究の面では、特別活動の指導理念や方法原理について、生徒指導のそれとの関連を図った研究を行う。また、実践的な面では、特別活動の内容や活動内容の取り扱い方、指導計画の作成、及び指導方法などについての具体的な研究を行い、教師としての指導力を養う。

講義の内容・授業スケジュール

①学校教育と教育課程 ②生き方教育をめざす教育改革と特別活動 ③特別活動の目標と特質
④特別活動の内容と特質 ⑤指導計画の作成と活動内容の取り扱い方 ⑥特別活動の指導の実際
⑦特別活動と生徒指導 ⑧特別活動と学校・学年・学級経営 ⑨特別活動の指導組織とその改善
⑩研修組織と活動の充実 ⑪特別活動の評価 ⑫特別活動の今後の課題

履修上の留意点

文献による理論的な研究を深めるとともに、特別活動の具体的な実践にかかわる指導計画の作成や指導内容、方法等についての研究を深め、教師としての実践力、指導力に身につけることが大切である。

成績評価の方法

レポート、試験、出席状況等を総合的に判断し評価する。

教科書

①高橋哲夫・原口盛次・井上裕吉編『特別活動研究』(教育出版)1,900円
②文部省『中学校指導書特別活動編』(ぎょうせい)80円

参考書等

宇留田敬一著『特別活動論』(第一法規)1,800円 他

その他

講義及び年間指導計画、指導案等の作成

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
生 活 指 導 (前期) (後期)	さ とう なお と 佐 藤 尚 人	教 職 1・2 必 (短国・短英)	2

講義のねらい

学校教育において、教科の学習や集団生活への参加が、一人ひとりの児童生徒でスムーズにいくよう指導することを教師は求められる。しかしながら、子どもは決して等質・均一存在ではない。画一化された教師の指導方法や対応では日々起こりうる種々の問題の解決がうまくいかない、あるいはむしろ問題を引き起こしてしまうことすらあるであろう。

本授業では、昨今教育問題として取り上げられる機会の多い「いじめ」「不登校」「非行」などについて、そのような問題行動を示す子どものこころのありようの理解や対応の仕方、さらには問題行動を未然に防ぐための教師としての心構えなどを考えてゆく。

講義の内容・
授業スケジュール

- 1 X はじめに 学校教育の歴史と目的 教師のなすべきこと
- 2 X 子どもの理解 問題行動について医学的・工学的な理解と教育的な理解
- 3 X E. H. エリクソンの発達段階・課題の考え方 (その1)
- 4 X E. H. エリクソンの発達段階・課題の考え方 (その2)
- 5 X E. H. エリクソンの発達段階・課題の考え方 (その3)
- 6 X E. H. エリクソンの発達段階・課題の考え方 (その4)
- 7 X さまざまな問題行動とその理解 「いじめ」
- 8 X さまざまな問題行動とその理解 「不登校」
- 9 X さまざまな問題行動とその理解 「非行」
- 10 X こころの病・不応 「神経症」「精神病」
- 11 X 問題行動への対応の方法「学習理論にもとづくもの」
- 12 X 問題行動への対応の方法「心理療法にもとづくもの」
- 13 X まとめ 生活指導において大切なこと

履修上の留意点

原則として出席はとらないが単位を取得することを希望する学生は毎回出席すること。さらに、授業中に質問や意見などを積極的に表明することが望ましい。

参加学生に対してはすべて公平にあつかう (さまざまな事情があっても特別扱いはしない)。

成績評価の方法

原則として定期の筆記試験 (ノート等の持ち込みは一切不可) の結果により成績を評価する。ただし、授業中の発言 (質問・意見) や宿題等の課題の提出を試験の成績にプラスして評価する。

教 科 書

特に使用しない。講義ノートをもとに授業を進めてゆく。

参 考 書 等

大貫・佐々木編著『心の健康と適応』(福村出版) 2,200円

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
道徳教育の研究 (前期) (後期)	さか もと のぶ あき 坂 本 信 昭	教 職 2 必 (短国・短英)	2

講義のねらい

道徳教育の問題は、古くて新しい問題である。「徳は教えるか」とは、ソクラテスのとり組んだ難問であったが、これは今日でもやはり難問である。これからの道徳はいかなるものであり、どんな方法で教えるべきかということは、いぜんとして新しい課題である。

本講義では、明治「学制」以降、今日にいたる道徳教育の史的変遷にそって検討し、殊に学校における道徳教育の成立過程と事情について探究する。

講義の内容・授業スケジュール

講義を中心とするが、道徳の時間における指導案（中学校）についても、具体的な検討をする。

履修上の留意点

出欠は厳密にとる。教育実習等でやむをえず欠席した場合は必ず申し出て、指示を求めること。

成績評価の方法

主として定期試験をもとに評価します。

教 科 書

教師養成研究会編『道徳教育の研究』（学共図書） 950円

そ の 他

必要な資料を適宜配布する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
教 育 実 習	さか もと のぶ あき 坂 本 信 昭	教 職 2 必 (短 国)	3

講義のねらい

失敗を未然に防ぎ、あるいはできるだけ少なくするというよりも、むしろ、不必要な先入観を捨て、持ち合わせている力で、全身で意欲的に向う姿勢に高め、教育実践の場で、間違いや失敗したことについて悩み、苦しむことを通して、自覚的に主体的に一つ一つの教育事象について考える機会にしたい。そのためには、いわゆる事前指導も大事であるが、事後指導（教育）も大事にしたいと考えている。

講義の内容・授業スケジュール

教育実習前の段階では、教育実習の意義・目標・内容（領域）に関する講義とビデオ教材なども視聴し、実習に際しての事前指導を行う。

教育実習期間中は、できるかぎり実習校を訪問したいと思っている。

教育実習後には、各自の教育実習報告、レポート作成（提出）、教育問題にかかわるビデオの視聴、ディスカッションなどから教育への理解を深め、教育とは何か——どうあるべきか——について、各自の教育観を明示できるようにし、さらに、望ましい教師像についても一緒に考えたいと思う。

履修上の留意点

授業の出欠は厳密にとる。

成績評価の方法

①実習校からの教育実習評価及び教育実習ノート、②教育実習報告（口頭報告）及び報告レポート、③ビデオ視聴のコメント（感想）、④年度末試験（または、課題レポート）によって、総合的に評価します。なお、①～④について重視する度合は、全て同グレードに考えています。

教 科 書

栗原敦雄他編『教育実習ガイド』（宣協社） ¥1,500

参 考 書 等

寺崎昌雄他編『教育実習57の質問』（学文社） ¥1,000

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
教 育 実 習	きたむらつこ 北村三子	教 職 2 必 (短 英)	3

講義のねらい

二週間にわたって行なわれる中学・高校での実習は、教員免許を得るために乗り越えなくてはならない最大の課題であろう。教生とはいえ、教師であることを求められる、責任の重い課題でもある。この授業は、その実習のための準備と、実習後、その体験を他の人々と共有し、深めることを目的とするものである。実習がスムーズに進み、また、実り多いものとなるように、講義の内容・授業のスケジュールで述べるような様々なことを試みたい。また、実習後は、教える立場から新たに見えてきた、学校や教師、生徒の問題や、それらの存立基盤としての、社会や文化の問題を、考え合いたい。

講義の内容・
授業スケジュール

実習の準備としては、全般的な諸注意、ビデオによる実習の概要把握、学習指導案の作成に関する指導、模擬授業などを行なう。実習後は、実習体験を語り合い、その中から、後期に検討すべきテーマを考えていく。夏休み明けには、それにそった資料を用意し、討議を中心とした授業を進める。具体的内容は、話し合いの上で決めたいが、今まで扱われたテーマは、いじめや体罰といった学校内での暴力、不登校、若者の文化や人間関係に関連するものなど、多岐にわたる。

履修上の留意点

実習の準備としては、教材研究を各自、よくやること。後半は、積極的に参加すること。教場を変更する場合がありますので注意すること。

成績評価の方法

実習ノート・評価表などの実習の記録、授業への参加度、最終授業時のまとめのテスト。

教 科 書

特になし。

参 考 書 等

文献・資料については、話し合いの上決定。

そ の 他

講義、ビデオ、討論など。

《教職に関する専門科目（選択）》

科目名	担当者名	配当学年	単 位
教育関係法規	ひろさわ 広 沢 あきら 明	教職1選 (短国・短英)	4

講義のねらい

憲法、教育基本法、学校教育法など教育に関する基本法規につき、具体的事例に触れながら講義を行う。校則、体罰、いじめ、内申書、日の丸、君が代、宗教、教科書検定、障害児、民族教育など今日的な教育問題について、法的観点から検討をしたい。

講義の内容・授業スケジュール

1. 校 則(1) —— 丸刈訴訟
2. " (2) —— バイク裁判
3. " (3) —— 生徒会
4. 懲 戒 (1) —— 退学・停学
5. " (2) —— 体罰・精神罰
6. 教育情報(1) —— 家庭環境調査書
7. " (2) —— 申書・指導要録
8. 教育と宗教(1) —— 日曜日訴訟
9. " (2) —— エホバの証人事件
10. 日の丸・君が代
11. 教科書裁判(1) —— 検定の事実
12. " (2) —— 法律上の争点
13. 戦後教育政策の変遷
14. 教育と平等(1) —— 民族教育
15. " (2) —— 性差別
16. " (3) —— 障害児
17. 義務教育（登校拒否を含む）
18. い じ め

履修上の留意点

ただ漠然と聴講するだけでなく、授業で取り上げたテーマにつき、自ら調べたり考えたりする前向きな姿勢を求める。

成績評価の方法

試験と出席状況によって評価する。毎回出席をとり、その結果は成績にかなり反映される。

教 科 書

広沢明『憲法と子どもの権利条約』（エイデル研究所） 2,800円

参 考 書 等

授業中に指示する。

科目名	担当者名	配当学年	単位
図書館学Ⅰ	山田節子 <small>やま だ せつ こ</small>	教職1選 (短国・短英)	4

(P.教13) 参照

科目名	担当者名	配当学年	単位
図書館学Ⅱ	源昌久 <small>みなもと しょう きゅう</small>	教職2選 (短国・短英)	4

(P.教13) 参照

教職・資格講座

(2) 学校図書館司書教諭講座

科目名	担当者名	配当学年	単位
図書館学Ⅰ	やま だ せつ こ 山 田 節 子	図書(司)1必 (短国・短英)	4

講義のねらい

人格形成期にある児童生徒たちが多くの事を学び教養や趣味を豊かに育てるために学校図書館は大切な場である。学ぶこと識ることの楽しさを体験する学校図書館の管理運営と指導面を担当する司書教諭の職務内容、またその責務及資質の向上を自覚し、自らも良き読書人として成長させ、情報化社会に即した情報整理の基本的技能を育成する。

講義の内容・授業スケジュール

- 学校図書館通論
- ①図書館学序論 図書館学とは何か 図書館の歴史 図書館の種類と特色
 - ②学校教育に於ける学校図書館の意義・役割
 - ③学校図書館の経営 経営の原則・性格 司書教諭の職務内容と学校の運営組織 児童・生徒図書委員の指導 施設と設備
 - ④学校図書館の管理と運用 意義と目的 児童・生徒・教職員に対するサービス 地域社会に対するサービス
 - ⑤資料の選択 学校図書館の資料の意義と種類 資料の選択と収集 蔵書構成と維持及び留意点
 - ⑥図書以外の資料の整理 図書以外資料の種類と特性 教育メディアとしての活用
 - ⑦児童・生徒の読書活動 意義と目的 児童・生徒の読書能力と興味の発達段階 読書指導の内容 読書活動の種類と技法 指導計画と方法 読書活動の評価と改善
 - ⑧利用指導の内容 各種資料の利用指導 教科学習と利用指導 特別教育活動と利用指導 利用指導の計画と立案・留意点 情報の種類と整理の技法 評価の改善

成績評価の方法

テストと小論文による

教科書

図書館教育研究会『新編 学校図書館通論』(学芸図書株式会社)

参考書等

全国学校図書館協議会 北嶋武彦監修『学校図書館の利用指導』(東京書籍)

科目名	担当者名	配当学年	単位
図書館学Ⅱ	みなもと しょう きゅう 源 昌 久	図書(司)2必 (短国・短英)	4

講義のねらい

本講義は、主として前期には資料分類法、後期には資料目録法を修得することを目的とする。演習を随時、実施する。

講義の内容・授業スケジュール

- 〈前期〉Ⅰ分類の概念的フレーム・ワーク、Ⅱ日本十進分類法(NDC)の解説、Ⅲデューイ十進分類法(DDC)の解説、Ⅳその他の分類法の解説、Ⅴ分類とコンピュータ
- 〈後期〉Ⅰ目録の概念的フレーム・ワーク、Ⅱ日本目録規則(NCR)1987年版改訂版の解説、Ⅲ英米目録規則(AACR 2)の解説、Ⅳ目録とコンピュータ

履修上の留意点

予習・復習をしっかりと行ってほしい。

成績評価の方法

平常点および試験の成績を併せて評価する。

教科書

- 〈前期〉『日本十進分類法 改訂9版』(日本図書館協会) セット定価6,000円
- 〈後期〉『日本目録規則 1987年版 改訂版』(日本図書館協会) 3,500円

参考書等

講義中に指示する。

その他

必要に応じて、ビデオを利用する。

Ⅱ 專 攻 科

(放射線技術科学専攻)

林 文 專 目

(如蒙平林畫彩畫性效)

専攻科（放射線技術科学専攻）

応用医療生物工学（山口彦之）	専1
放射線の生物影響（山口彦之）	専1
放射線生物工学研究（山口彦之・清水忠良）	専2
放射線生物工学特別実験（山口彦之）	専2
疾病と画像（古屋儀郎）	専3
放射線治療効果（古屋儀郎）	専3
画像医学研究（古屋儀郎・榊徳市・西尾誠示）	専4
画像医学特別実験（古屋儀郎）	専4
線量計測工学（小山正希）	専5
放射線検出器工学（小山正希）	専5
放射線計測工学研究（小山正希・青木清・佐藤昌憲）	専6
放射線計測工学特別実験（小山正希）	専6
放射線感光化学（山本裕右）	専7
放射線化学特論（山本裕右）	専7
応用放射線化学研究（山本裕右・樫尾英次・田島隆）	専8
応用放射線化学特別実験（山本裕右）	専8
放射線リスク評価学（山口彦之）	専9
最新放射線治療技術（高山誠）	専9

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
応用医療生物工学	やまぐちひこゆき 山 口 彦 之	放射線技術科学専攻	2

講義のねらい

医学研究における組換えDNA技術の使用と最近の医療技術の進歩は疾病の研究に革命をもたらしている。分子医学の発見、基礎的科学概念、応用を中心に解説する。

講義の内容・
授業スケジュール

- つぎのような内容で講義する。
- (I) 分子生物学の基礎
 - 1. ヒトゲノム
 - 2. 遺伝子の調節と発現
 - 3. 組換えDNA技術
 - 4. 細胞計測
 - (II) 医療の遺伝子工学
 - 5. DNAフィンガープリント法
 - 6. 遺伝的疾患素質
 - 7. 免疫バイオテクノロジー
 - 8. 癌の診断
 - 9. バイオマテリアル

履修上の留意点

講義の内容は、基礎から応用まで広範囲にわたる。

成績評価の方法

課題レポートで評価する。

参 考 書 等

山口彦之著『バイオテクノロジー・ノート』裳華房 ¥2,520

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
放射線の生物影響	やまぐちひこゆき 山 口 彦 之	放射線技術科学専攻	2

講義のねらい

低線量放射線による発がんに関する基礎的情報は被曝者の疫学調査からえられる。一方、低線量放射線に対する応答の外挿は、生物体に及ぼす放射線の作用を物理的、生物物理的に研究して求められた線量効果モデルを用いておこなわれる。放射線発がんの機構に関するいくつかの問題点、理論、実験的方法について概説する。

講義の内容・
授業スケジュール

- つぎのような内容で講義する。
- (I) 哺乳類細胞の構造と機能
 - (II) 発がんの主要理論
 - (III) 放射線発がんの細胞機構と分子機構
 - (IV) 放射線発がんとは化学発がんの比較

履修上の留意点

細胞生物学と分子生物学の現代手法を習得する。

成績評価の方法

課題レポートで評価する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
放射線生物工学研究	やま ぐち ひこ ゆき 山 口 彦 之 清 水 忠 良	放射線技術科学専攻	2

講義の内容・
授業スケジュール

下記の学術雑誌に掲載されている論文を取り上げて、放射線の生物作用とくに発がんリスクを中心に研究する。

- Radiation Research
- Radiation Protection Dosimetry
- British Journal of Radiology
- Journal of Radiation Research

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
放射線生物工学特別実験	やま ぐち ひこ ゆき 山 口 彦 之	放射線技術科学専攻	1

講義のねらい

突然変異検出の基本原則およびデータの解析方法などを理解するための実験法を習得する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
疾 病 と 画 像	ふる や よし ろう 古 屋 儀 郎	放射線技術科学専攻	2

講義のねらい

諸臓器の主な疾患の理解と、それぞれの画像所見の特徴を検討する。また対応する各種撮影法の利点、限界を知り、適切な検査体系の構成を考える。

講義の内容・
授業スケジュール

- ① 胸部レントゲンサイン
- ② 腹部単純撮影
- ③ 尿路系
- ④ 食道・胃
- ⑤ 十二指腸
- ⑥ 大腸、胆のう
- ⑦ 骨
- ⑧ RI
- ⑨ 画像評価

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
放 射 線 治 療 効 果	ふる や よし ろう 古 屋 儀 郎	放射線技術科学専攻	2

講義のねらい

諸臓器の悪性腫瘍のTMN分類、stage分類に関して、治療前の各種撮像法、特にCT、MRI、超音波断層法について有用性と限界を学ぶと同時に治療結果及び経過観察における画像診断の意義について検討する。

講義の内容・
授業スケジュール

主として脳、頭頸部、肺、腹部臓器、骨盤腔内臓器等全般に亘ると共に肺癌、乳癌、肝癌をとり上げる。また最近とくに画質の向上がみられる3Dについても現状を理解する。尚、放射線治療に必要な生物学、病理学について基本的な事項について学習する。

科目名	担当者名	配当学科	単位
画像医学研究	ふるや 古屋 儀郎・ にしお 西尾 誠示 さかき 徳市	放射線技術科学専攻	2

講義のねらい

主として下記の学術専門誌から関連する論文を取り上げ、各種撮像法の基礎的研究と、臨床における有用性と限界などについて研究する。

- Radiology
- American Journal of Roentgenology
- Acta Radiologica
- Radiation Medicine

科目名	担当者名	配当学科	単位
画像医学特別実験	ふるや 古屋 儀郎	放射線技術科学専攻	1

講義のねらい

各種エックス線撮影法、CT、MRI、シンチグラフィ等、撮影法、撮影条件の差による画像評価について検討する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
線 量 計 測 工 学	こ やま まさ き 小 山 正 希	放射線技術科学専攻	2

講義のねらい

照射線量、吸収線量、等価線量を定めるための測定ではまず各線量概念を明確にすることが必要である。次にこれらの線量概念を実測するための測定装置について、現時点での対応とその問題点について明らかにしこれら問題点を解決するための方針について考える。国際勧告で提示される線量概念とその同定法に関する指針に準拠し、かつ在来の測定法に必ずしもとらわれずに計測系を構成することを考えてゆく。又、同一条件下で異なる検出系、例えば電離箱型と半導体検出器との測定結果を比較することで測定対象をより明らかにするなどの手法を考えてみる。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
放 射 線 検 出 器 工 学	こ やま まさ き 小 山 正 希	放射線技術科学専攻	2

講義のねらい

測定対象を明らかにする為の測定系として、理想的なものは存在していない。従って現在用意できる測定系、特にその検出部分の持つ構造、特性を熟知し、その応答について適正な評価を下せることがきわめて重要である。ここでは通常、使用頻度の高い幾つかの検出器についてその応答性能を詳細に見ながら、各検出器の適用法について考える。

1. 代表的な型式の電離箱の応答とその評価
2. 各種半導体検出器の応答とその評価
3. シンチレーション型検出器の応答とその評価

科目名	担当者名	配当学科	単位
放射線計測工学研究	こやま まさき あおき きよし 小山 正希・青木 清 さとう まさのり 佐藤 昌憲	放射線技術科学専攻	2

講義のねらい

- Radiation Research
- Physics in Medicine & Biology
- Medical Physics
- Nuclear Instruments and Methods
- British Journal of Radiology

等の関連外国雑誌から主として医療に係わる、或は関連のある論文を主題にして放射線計測についての新しい知見と在来技術との関係などについて議論する。

科目名	担当者名	配当学科	単位
放射線計測工学特別実験	こやま まさき 小山 正希	放射線技術科学専攻	1

講義のねらい

放射線場の特性測定及び線量計測システムに関する実験を行う。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
放 射 線 感 光 化 学	やま もと ゆう すけ 山 本 裕 右	放射線技術科学専攻	2

講義のねらい

放射線の感光材料としてはフィルムが最も一般的であり広く使用されているが、本講義においては、医療分野でフィルムと組み合わせて使用される増感紙、および放射線に対する新しい感光材料として近年使用されている輝尽発光体について、放射線と物質の相互作用に注目して解説する。増感紙については、まずラジオリミネセンスについて触れ、発光機構を説明すると共に、種々の増感紙材料の化学および発光特性について解説する。また、輝尽発光体については、輝尽発光の発光機構について説明し、種々の輝尽発光体材料の化学および発光特性について解説する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
放 射 線 化 学 特 論	やま もと ゆう すけ 山 本 裕 右	放射線技術科学専攻	2

講義のねらい

本講義においては、固体の放射線化学のうち、特に、放射線と固体との相互作用を利用した放射線線量測定に関係する領域について解説する。まず、イオン結晶、共有結晶、ガラスについて放射線の固体への効果を概観し、固体に残される放射線効果と格子欠陥の関係、空孔と捕獲中心などに触れながら、放射線のエネルギーがいかにして固体中に蓄積されるか、また、蓄積されたエネルギーをいかにして開放するかを解説する。さらに、以上の事を基礎として、熱ルミネセンス、輝尽発光、エキシ電子放出現象についても言及する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
応用放射線化学研究	<small>やまもと</small> 山本 <small>たじま</small> 田島 <small>ゆうすけ</small> 裕右 <small>たかし</small> 隆 <small>かしお</small> 櫃尾 <small>えいじ</small> 英次	放射線技術科学専攻	2

講義のねらい

Journal of Luminescence, Journal of Physics, Physica status solidi, Journal of Applied Physicsなどの洋雑誌および専門書から、固体線量計、特にTLDおよび輝尽発光体に関する最近の代表的な研究論文、総説などを講読し、この分野における最新の研究状況に触れると共に、種々の研究法の詳細、および得られたデータの解釈についての理解を深める。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
応用放射線化学特別実験	<small>やま</small> 山 <small>もと</small> 本 <small>ゆう</small> 裕 <small>すけ</small> 右	放射線技術科学専攻	1

講義のねらい

熱ルミネセンス発光体(TLD)、輝尽発光体(FCRプレート)および増感紙の基本原理、基本特性および使用上の注意点等を理解するための実験を行う。

科目名	担当者名	配当学科	単位
放射線リスク評価学	やまぐち ひこゆき 山 口 彦 之	放射線技術科学専攻	2

講義のねらい

人間集団は極めて様々な放射線に被曝しており、これらのいくつかは自然環境のものである。その他のものは人の活動の結果であり、診断のための検査や治療に放射線は広く使用されている。異なる線量の放射線被曝によって、がんや遺伝的欠陥を生じるリスクの大きさは被曝線量に基づいている。医療用放射線による被曝をレビューし、評価する。

講義の内容・
授業スケジュール

つぎのような内容で講述する。

- (Ⅰ) 医療被曝の解析
- (Ⅱ) 診断用X線検査
- (Ⅲ) 放射性医薬品の診断利用
- (Ⅳ) 放射線治療における利用
- (Ⅴ) 放射性医薬品の治療への利用
- (Ⅵ) 一般公衆の被曝
- (Ⅶ) 放射線の医学利用における事故による被曝
- (Ⅷ) ヒューマンエラーの分析と防止

成績評価の方法

課題レポートで評価する。

科目名	担当者名	配当学科	単位
最新放射線治療技術	たか やま まこと 高 山 誠	放射線技術科学専攻	2

講義のねらい

医療技術の進展の中で、特に放射線治療の技術的な動向を重点として取り上げる。例えば、ガンマ・ナイフやリニアックによるラジオサージャリーなどの脳定位放射線治療の開発と現況、応用に関する技術的問題点、極小線束に対する線量評価法の現状など、その方向と展開に注目する。診療放射線技師の教育課程ではきわめて不十分であるこの分野について、その最新技術を医療全体の流れとの係わりを含め、国内および国際的な視野から講ずる。

Ⅲ 仏教科（一夜間開講）

1998 (平成10) 年度 学年暦

□は全学休業日

日	月	火	水	木	金	土
4月 (平成10年)						
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		
5月						
				1	2	
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						
6月						
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				
7月						
		1	2	3	4	
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	
8月						
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					
9月						
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

6日・7日 在校生成績発表・在籍確認
8日 入学式
9日～11日 新入生オリエンテーション
13日 前期授業開始
13日～18日 在校生成績質疑応答
20日・21日 履修届受付
30日 特別研修日 (全学休業)

1日・2日 特別研修日 (全学休業)

11日～15日 履修届訂正期間

13日～18日 中間試験および
前期終了科目定期試験
※授業平常どおり
18日 前期授業最終日
21日 夏季休業開始 (～9月15日)
23日 前期終了科目定期試験欠試験
(追試験申込) 受付締切
27日～29日 全学休業

8日～18日 全学休業

31日 前期補講期間 (～9月4日)

7日～11日 生涯スポーツ演習 (シーズン前期)
後期授業開始
17日・18日 前期終了科目定期試験成績発表
成績質疑応答および再試験申込受付
前期終了科目追再試験
(～10月3日)
※授業平常どおり

日	月	火	水	木	金	土
10月 (平成10年)						
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31
11月						
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					
12月						
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		
1月 (平成11年)						
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						
2月						
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28						
3月						
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

15日 第116回開校記念日

4日～10日 編入学試験願書受付
10日～13日 転部・転科試験
(第2部から第1部、第2部内) 願書受付
19日・20日 教職課程受講登録ガイダンス

6日 編入学試験、転部・転科試験
21日 冬季休業開始
(～11年1月7日)
21日・22日 後期補講日

8日 後期授業再開
14日 後期授業最終日
16日～22日 定期試験 (専門・教職科目)
23日～29日 定期試験 (全学共通科目)

3日 定期試験欠試験 (追試験申込)
受付締切
15日～19日 生涯スポーツ演習
(シーズン後期)
16日・17日 成績発表および再試験申込受付・
成績質疑応答
(学部4年次生・短大生)
20日～26日 追・再試験

18日 卒業者名簿発表
25日 卒業式
26日～31日 春季休業

1 專 門 教 育 科 目

仏 教 科

1 専門教育科目

基礎 仏教 学	(石井 公成)	仏1
坐 禅	(角田 泰隆・志部 憲一)	仏1
宗 学 研 究	(角田 泰隆)	仏2
禅 学 研 究	(奥野 光賢)	仏2
仏 典 研 究 I	(木村 誠司)	仏3
仏 典 研 究 II	(石井 公成)	仏3
仏 典 研 究 III	(袴谷 憲昭)	仏4
インド 仏教 史	(池田 道浩)	仏4
インド・チベット 仏教 演習	(木村 誠司)	仏5
中国 仏教 演習	(奥野 光賢)	仏5
中国 仏教 史	(奥野 光賢)	仏6
日本 仏教 史	(袴谷 憲昭)	仏6
中国 禅宗 史	(須山 長治)	仏7
日本 禅宗 史	(角田 泰隆)	仏7
仏教 語 解 説	(池田 道浩)	仏8
仏教 思想 演習	(袴谷 憲昭)	仏8
仏 典 講 読	(大西 龍峯)	仏9
禅 籍 講 読	(志部 憲一)	仏9
仏教 文 学 演習	(石井 公成)	仏10
仏教 と 文 化	(奥野 光賢)	仏10
仏教 と 現 代	(峰岸 孝哉)	仏11
外国語 仏書 演習	(木村 誠司)	仏11
中国 古 典 語	(須山 長治)	仏12
日用 経 典 概 説	(奥野 光賢)	仏12
仏 教 伝 道	(角田 泰隆)	仏13
宗 教 哲 学	(紺野 馨)	仏13
キリスト教 概 説	(紺野 馨)	仏14
書 道	(野村 宙弘)	仏14
宗 学 演 習	(角田 泰隆)	仏15
仏教 特 講 I	(荒井 裕明)	仏15
仏教 特 講 II	(三橋 正)	仏16

科目名	担当者名	配当学年	単位
基礎仏教学	石井 公成	短仏1必	4

講義のねらい

この授業は、仏教科に進学した第1年次生に対して、仏教と仏教学の基礎知識を身につけてもらうことを目的としている。つまり、仏教の基本的な教義と歴史を学ぶとともに、関心をもった分野を自分で学んでゆくための知識と方法、そして深く考えつつ追及してゆく態度を身につけることが目的である。

講義の内容・授業スケジュール

釈尊の伝記と思想から出発し、インド・中国・朝鮮・日本・チベットその他の諸国・諸地域に展開してゆく仏教史の流れ、研究動向の変化、参考文献の性質やその利用法などについて講義する。講義に当たっては、縁起の思想の変化に重点を置き、禅宗に関しては仏教史における道元禅師及び瑩山禅師の思想の意義を明らかにする。

履修上の留意点

頻繁に質問し、その応答を通じて講義を進めてゆくため、積極的に参加することが望まれる。

成績評価の方法

学年末の試験によるが、質疑に積極的に参加した者については考慮する。

教科書

教科書は用いず、コピーを配布する。

参考書等

参考文献はきわめて多いため、一覧を配布する。

科目名	担当者名	配当学年	単位
坐 禅	角田 泰隆・志部 憲一	短仏1必	4

講義のねらい

短大仏教科は「仏教とは何か」という基本的な研究の場であるとともに、曹洞宗宗侶の養成機関でもあり、曹洞宗教義の重要な実践としての坐禅の実修を必修科目としている。将来僧侶となることを希望する学生にとっては、宗門の重要な修行である坐禅の意義とその実践方法を学ぶ科目であり、一般学生にとっても坐禅という修行のほんとうの意義を知りそれを実際に体験できる科目として重要な意義をもっている。

講義の内容・授業スケジュール

この科目は、専ら坐禅を実修する。よって、教場は坐禅堂（禅研究館4階）である。坐禅を実際に修行し、曹洞宗の両祖の坐禅に関する教えを学びながら、坐禅の意義や作法を習得していただきたい。

実修時間の前半は只管打坐、後半は『普勸坐禅儀』等の提唱にあてる。提唱には指定の講本を用いるので、各自購入して持参すること。筆記用具は不用。

履修上の留意点

坐禅は修練ではない。仏行である。従って服装・態度・動作等の厳粛・整齊であることが望まれる。

成績評価の方法

科目の性格上、評価方法は出席状況に重きをおくが、それに加えて服装・態度・動作・坐相等総合的な評価をするので、充分自覚して授業に臨んでいただきたい。原則として所定の授業時間数の3分の2以上授業に出席しなかった者には、単位を認定しない。

教科書

『坐禅-講本-』（更生社）¥2,200

参考書等

なし。

その他

身体上の不自由がある者は、予め申し出て指示を受けること。

専門（仏教科）

科目名	担当者名	配当学年	単位
宗学研究	つのだたいりゅう 角田泰隆	短仏1・2選必	4

講義のねらい

本科目は曹洞宗を研究する。曹洞宗の基本的な教義及びその歴史について学ぶ。

講義の内容・
授業スケジュール

曹洞宗の両祖（道元禅師・瑩山禅師）伝をたどりながら、宗門の基本的な教義にも触れてゆく。両祖の著作である『正法眼蔵』『伝光録』も断片的に講読してゆきたい。

成績評価の方法

定期試験の筆記試験の成績と、夏季休業中の課題リポートによって評価する。ただし、原則として所定の授業時間数の3分の2以上授業に出席しなかった者には、筆記試験の成績の如何に関わらず単位は認定されない。

教科書

駒澤大学仏教学研究室編『宗教学Ⅱ』（更生社）¥2,370

参考書等

授業において紹介する

科目名	担当者名	配当学年	単位
禅学研究	おくのみつよし 奥野光賢	短仏1・2選必	4

講義のねらい

どんな分野であれ研究は山登りに似ているように思われる。予備的知識のないまま、いきなり難しい事柄に飛びついても、さしたる成果は得られないであろう。したがって、前期はこれから「禅学」を本格的に研究していく上での基本的予備知識の習得を目標としたい。その上で実際に禅に関する文献を読み進めていく予定である。

講義の内容・
授業スケジュール

前期は「禅学」に関する基本的知識の習得を目標に講義形式で授業を進める。その上で後期には禅に関するさまざまな文献を実際に講読する。

履修上の留意点

授業はプリントを配布して進める。欠席によるプリントの再配布は原則として行なわないのであらかじめ注意されたい。

成績評価の方法

出席状況も考慮しながら、学年末試験によって評価する。

教科書

特に指定せず、プリントを配布する。

参考書等

授業において適宜指示する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
仏 典 研 究 I	きむらせいし 木村誠司	短仏1・2選必	4

講義のねらい

仏教は、インドで生まれた宗教である。それ故、仏教を理解するためには、仏教以外のインド思想に関して正しい知識を持つ必要がある。本講義では、インドにおける仏教徒と非仏教徒の論争を考察し、仏教の思想的本質を探りたい。

成績評価の方法

成績評価は、筆記試験あるいは、レポートによって行う。

教 科 書

本講義では、特定の教科書は用いず、適宜資料を配布する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
仏 典 研 究 II	いし い こう せい 石井公成	短仏1・2選必	4

講義のねらい

漢訳の原始仏教経典を講読する。漢訳経典は、早い時期に翻訳されているため、現存するパーリ語などのテキストより古い内容を伝えていることも多く、資料として貴重である。パーリ語テキストやその日本語訳なども適宜参照しつつ、初期の素朴な仏教のあり方を検討してゆきたい。

講義の内容・授業スケジュール

仏教漢文の訓練もかねるため、初めは漢文の基礎を説明しながら進めてゆき、平易な経典から読む。秋からは注釈の読み方なども指導する。

履修上の留意点

仏教漢文が中心となる。必ず漢文の力がつくよう指導するが、自分から取り組もうとする姿勢が必要とされる。

成績評価の方法

年度末試験によって判定するが、授業中に熱心に取り組んでいた者については、平常点を加算する。

教 科 書

教科書は用いず、コピーを配布する。読む経典については、希望があれば考慮する。

参 考 書 等

参考書は、読む経典に応じて教場で一覧を配布する。

科目名	担当者名	配当学年	単位
仏典研究Ⅲ	はかま や のり あき 袴 谷 憲 昭	短仏1・2選必	4

講義のねらい

この授業は、日本における仏教思想の展開を具体的に検討していくための手がかりを与える、いわば演習形式のクラスである。このクラスでは、日本における仏教思想の展開に重要な役割を果たしたものは、浄土教であるとの考えから、日本の浄土思想を代表する法然理解を最優先させ、法然の主著である『選択本願念仏集』を講読する。

講義の内容・授業スケジュール

この授業は、一昨年度からの継続であるが、今年度の講読開始は、『選択本願念仏集』の第六章「末法万年の後に余行ごとく滅し特り念仏を留むるの文」あたりからになるであろう。法然の浄土思想を理解するためには、彼が依拠した善導の思想を理解すると共に、彼の浄土思想とは異なる源信のそれとの比較や、彼を猛烈に非難した明恵の思想との本質的差異の考察が必要になってこよう。演習では、講読を進めるかたわらで、上述のごとき比較検討にも注意を払っていくことにしたい。

履修上の留意点

演習形式を取るなので、常に自分で調べて発表する意欲をもってクラスに臨んでもらいたい。

成績評価の方法

できればレポートによって評価したいと願っている。

教科書

法然著・大橋俊雄校注『選択本願念仏集』（岩波文庫）500円をテキストとする。

参考書等

テキストの現代語訳等を含めて、参考書は適宜指示する。

その他

授業方法は、上述したごとく、演習形式で行うので、出欠はとらないが、できるだけ継続して参加してもらいたい。

科目名	担当者名	配当学年	単位
インド仏教史	いけ た ち ひろ 池 田 道 浩	短仏1・2選	4

講義のねらい

インド仏教の展開を理解し、また、いつの時代にも、どの地域においても、仏教に対して多くの異なった見解が存在し、論争が行われていたことを理解する。

講義の内容・授業スケジュール

インド仏教のおおまかな思想史について考察する。とくに中観派と瑜伽行派との論争については、実際にいくつかの文献を講読していきたい。

成績評価の方法

受講者多数の場合、学年末の試験あるいはレポートによって評価する。

教科書

高崎直道『仏教入門』（東京大学出版会）

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
インド・チベット 仏 教 演 習	ま き む ら せい し 木 村 誠 司	短 仏 1・2 選	4

講義のねらい

ダルマキールティ著『量評釈』は、インド・チベット仏教において、きわめて重要な論書である。本年度は、「量成就」章の冒頭から、諸注釈書も参照しながら、ていねいに読んでいきたい。

成績評価の方法

成績評価は、筆記試験あるいは、レポートによって行う。

教 科 書

テキストは、適宜配布する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
中国 仏 教 演 習	おく の みつ よし 奥 野 光 賢	短 仏 1・2 選	4

講義のねらい

この授業は純然たる「演習」科目なので、毎週当番を決めて実際に文献を講読し、読解力の養成につとめたい。

講義の内容・
授業スケジュール

本年度は鎌倉時代の碩学、凝然（1240-1321）の『八宗綱要』を講読する。『八宗綱要』は古来、簡にして要を得た仏教概論として読みつがれてきた古典的名著で、今日の研究水準から見ると部分的に誤りはあるものの、その価値はいささかも減るものではない。本演習では、その講読を通じて中国仏教各宗の歴史と基本的教義の把握を目標とする。その際、本演習はあくまで「中国仏教演習」であるので、随時中国撰述の文献も参照していく予定である。

履修上の留意点

演習科目なので、十分な事前の下調べが必要である。受講にあたっては、そのことを充分認識しておいて欲しい。下調べの方法は丁寧に指導を行う。

成績評価の方法

演習科目なので、出席とレポートによって評価する。したがって、欠席の多い学生は、成績評価の対象としない。

教 科 書

プリントを配布する。

参 考 書 等

鎌田茂雄『八宗綱要』（講談社学術文庫）、その他の参考書、受講にあたって是非揃えて欲しいもの等は開講初日に指示する。

専
門
（
仏
教
科
）

科目名	担当者名	配当学年	単位
中国仏教史	おくの野みつよし賢	短仏1・2選	4

講義のねらい

中国に展開した仏教の概説を目標とする。その際、たんなる歴史の概説にとどまることなく、特に思想的展開を跡づけることに意を用いたいと思う。

履修上の留意点

特に教科書は指定せず、プリントを配布して授業を進める。プリント配布のため受講者を確認するので、受講希望者は開講初日にならず出席すること。また、欠席によるプリントの配布は原則として行なわないのであらかじめ注意されたい。

成績評価の方法

学年末の試験によって評価する。なお、レポートの提出を求める場合もある。

教科書

特に指定しない。

参考書等

鎌田茂雄『中国仏教史辞典』（東京堂出版）¥4,800 その他、適宜授業において指示する。

科目名	担当者名	配当学年	単位
日本仏教史	はかまやのりあき袴谷憲昭	短仏1・2選	4

講義のねらい

この授業は、日本において、インド伝来で中央アジアや中国や朝鮮を経由して将来された外来思想としての仏教が、いかに展開し定着したかを、通史的に辿っていく一方で、仏教と一括されるものの中に生じた全く異質な相対立する二つの流れの相違を明確に押えていこうとするものである。後者の検討のために、本年度は特に貞慶の『興福寺奏状』を取り上げて講読してみたい。

講義の内容・授業スケジュール

授業は、以上の目的を実現するために、通史的な講義と上記テキストの講読を並行して進めていくことになるが、できれば、後者により大きなウェイトを置きたいと思っている。

履修上の留意点

参加人数の大小に大きく左右される面があるので、確定的なことは言えないが、できれば、演習形式の講読の割合を多くしたいと考えている。参加者はその点を念頭に意欲をもって授業に臨んでもらいたい。

成績評価の方法

できればレポートによって評価したいと願っている。

教科書

講義は、末木文美士『日本仏教史－思想史としてのアプローチ』（新潮文庫、560円）をテキストとし、講読は、貞慶『興福寺奏状』（岩波書店、日本思想大系15、『鎌倉旧仏教』所収、田中久夫校注）をテキストとする。前者は自分で購入すること。後者は、入手困難なものには、コピーして配布する。

参考書等

必要な参考書等の研究文献は適宜教場にて指示する。

その他

授業方法は、上述したごとく、講読を主に進めたいと思っているので、出欠はとらないが、できるだけ継続して参加してもらいたい。

科目名	担当者名	配当学年	単位
中国禅宗史	須山長治	短仏1・2選	4

講義のねらい

六祖恵能以降の禅思想史の流れを概観する。恵能寂後、禅宗は南北両派に分かれたといわれるが、江西馬祖や湖南の石頭には南北両派の問題を語る内容は見られない。特に馬祖の禅思想は中国禅のかなめとなり、次世代の禅思想に大きな影響を与えた。馬祖の時代とそれに続く禅僧たちの「示衆」や「問答」をそれぞれ点検しながら、中国禅宗史の本質的問題点を調べていきたい。

講義の内容・授業スケジュール

『四家語録』を中心として馬祖以降の中国禅宗史を考えていく。本年度は特に黄檗希運の『伝心法要』を中心に、中国禅の思想面を考察し、禅思想の理論的な部分を読み取ってきたい。また、様々な禅問答を紹介し、それらがどういう場面や状況下でなされたかも考察していきたい。

成績評価の方法

出席を重視し、試験は論文記述方式で行う。

教科書

プリントを配布する。

参考書等

『四家語録』（中文出版）、『景德伝灯録』（真善美社）、『祖堂集』（中文出版）、『伝心法要』（禅文化研究所）

科目名	担当者名	配当学年	単位
日本禅宗史	角田泰隆	短仏1・2選	4

講義のねらい

禅宗という宗派はないが、坐禅および禅定を主たる実践とする教えの流れを汲む宗派を禅宗と呼び、一般的には曹洞宗・臨済宗・黄檗宗の総称として禅宗と呼んでいる。本科目は、日本の禅宗の歴史について概説する。

講義の内容・授業スケジュール

日本の禅宗の歴史についての研究をするものであるが、その基礎知識として、まず、禅とは何かについて、インドや中国における禅の仏教史における位置と思想について、概説したい。そのうち教科書（第三部禅宗の歴史－日本篇）によりながら、日本の禅宗の歴史を講義してゆく。

成績評価の方法

定期試験の筆記試験の成績によって評価する。ただし、原則として所定の授業時間数の3分の2以上授業に出席しなかった者は、筆記試験の成績の如何に関わらず単位は認定されない。

教科書

駒澤大学仏教学研究室編『宗教学Ⅱ』（更生社）¥2,370

参考書等

授業において紹介する。

科目名	担当者名	配当学年	単 位
仏教語解説	いけ だ みち ひろ 池 田 道 浩	短仏1・2選	4

講義のねらい

多くの仏教語に触れ、その言葉に表現される仏教教理を理解する。

講義の内容・
授業スケジュール

必要に応じて多くのテキストを参照し、仏教の基礎的な概念を考察する。

成績評価の方法

受講者多数の場合、学年末の試験あるいはレポートによって評価する。

教 科 書

水野弘元『仏教要語の基礎知識』（春秋社）

科目名	担当者名	配当学年	単 位
仏教思想演習	はかま や のり あき 袴 谷 憲 昭	短仏1・2選	4

講義のねらい

この授業は、日本における仏教思想の展開を検討していくために必要な仏教思想を取り上げ、それを素材に、仏教思想とはなにかを具体的に考えていく、演習形式で進められるクラスである。本年度は、前年度に引き続き、中国唐代の善導の『観経疏』を講読する。これは、我が国の法然や親鸞に極めて重大な影響を与えた浄土思想を、彼らの尊重してやまなかった善導にまで遡って検討するためである。本年度は、恐らく、『観経疏』『散善義』の中端あたりからの講読となる。

講義の内容・
授業スケジュール

授業は講読が中心となるが、上述の目的を達成するためには、善導の思想を彼以前の隋代を中心とする学僧たちの思想と比較したり、あるいは、我が国の法然や親鸞が善導のどのような側面を強調したかを知ったりする必要がある。従って、授業では、そのような点を考慮しつつ、講読を進めたいと思っている。もし「散善義」を読了した場合には、最初に戻って「玄義分」から読み始めるであろう。

履修上の留意点

演習形式を取るので、常に自分で調べて発表する意欲をもってクラスに臨んでもらいたい。

成績評価の方法

できればレポートによって評価したいと願っている。

教 科 書

真宗学研究会編『観経四帖疏索引』（龍谷大学、永田文昌堂刊、1987年、23,690円）所収の刊本をテキストにする。ただし、高価な本につき、必要箇所をコピーして配布する。

参 考 書 等

同上テキストの訓読国訳については、国訳一切経、経疏部11（大東出版社）所収のものを参照されたい。他の必要な参考文献等は適宜教場にて指示する。

そ の 他

授業方法は、上述したごとく、演習形式で行うので、出欠はとらないが、できるだけ継続して参加してもらいたい。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
仏 典 講 読	おおにしりゅうほう 大西龍峯	短仏1・2選	4

講義のねらい

仏教は長い歴史をもち、伝承も複雑多岐にわたることから、その教えを示す仏典も多様かつ膨大なものがあります。

本講座では、仏典として今日伝承されるものの概要を示し、かつ実際にそれらの仏典の一部に触れることを目的としております。

講義の内容・
授業スケジュール

できるだけ仏典に関する知識を広げてもらうために、特定の文献をひとつ選んで通読するのではなく、むしろ傾向の異なるさまざまな文献から教材となりそうなものを取りあげて講読してみようと思います。

成績評価の方法

平常点を重視します。

教 科 書

テキスト資料等は、随時配布します。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
禅 籍 講 読	しへけんいち 志部憲一	短仏1・2選	4

講義のねらい

祖録の読み方や禅の基本的考え方を初歩から学ぶ。

講義の内容・
授業スケジュール

中国禅の大成者とされる慧能の説法記録『六祖壇経』を中心に、江戸時代の代表的曹洞禅者である天柱伝尊がその『六祖壇経』に注釈した『註法宝壇経海水一滴』を参考にしながら毎回講義の形で行う。

教 科 書

テキストは最初の授業時にプリントで配布する。

科目名	担当者名	配当学年	単 位
仏教文学演習	いし 井 こう せい 石 井 公 成	短仏1・2選	4

講義のねらい

仏教は総合的な文化体系であって文学・音楽・美術・医学・建築その他の領域にまたがっており、それぞれの国の文化に大きな影響を与えている。本講座では、仏教文学と呼ばれる作品だけでなく、経典・論書・戒律などであっても文学的に価値の高い仏教文献をとりあげ、そこに現れた思想と表現の関係について検討すると同時に、それぞれの国の文化の特徴について考察を加える。漢文・古文の文献を主とするが、現代日本語訳や英訳を用いる場合もある。

講義の内容・授業スケジュール

男女の愛情・無常・自殺・夢その他のテーマを選び、そうしたテーマにかかわる文献をいくつか比較しながら読んでゆく。テーマについては希望のものがあれば考慮する。

履修上の留意点

学生諸君への問いかけと応答を通じて検討を進めてゆくため、積極的に参加しようとする意欲が必要である。希望する文献を選んで発表してもらう機会を持つようにしたい。

成績評価の方法

期末試験とレポートによるが、討議などに積極的に参加していた者については評価する。

教科書

教科書を使用せず、コピーを配布する。

参考書等

テーマが決まった段階で、参考書や参考文献を指示する。

科目名	担当者名	配当学年	単 位
仏教と文化	おく の みつ よし 奥 野 光 賢	短仏1・2選	4

講義のねらい

あまたある仏典の中には、文学性に富んだ譬喩や説話が数多く見られる。本講義では、そうした譬喩や説話を取り上げ、それらの仏典が人々に何を伝えたかったのかを考察したい。

講義の内容・授業スケジュール

本年度は『大智度論』を中心にさまざまな『本生譚』を取り上げ、仏教が目指そうとしたもの、後世の文化に与えた影響などを考える。

履修上の留意点

授業はプリントを配布して進める。欠席によるプリントの再配布は原則として行わないので注意されたい。

成績評価の方法

出席の状況も考慮しながら、学年末の試験によって評価する。

教科書

特に指定せず、プリントを配布する。

参考書等

授業において適宜指示する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
仏 教 と 現 代	みね ぎし こう さい 峰 岸 孝 哉	短 仏 1・2 選	4

講義のねらい

仏教はインドで成立し、中国を経て六世紀には日本にも伝来し、その影響は今日に及んでいる。この間仏教はそれぞれの民族・国の歴史・社会・文化と交流し、様々な特色ある宗教文化を現出してきたわけである。日本仏教もそうしたものの一つであろう。

それだけに、仏教と歴史・社会を深く考えることは、単に仏教ばかりではなく社会の立場からも、重要な関心事でなければならないだろう。

ここに「仏教と現代」と題する本講の目的を次のように考えたい。つまり本講の題目からは、今日の「実態としての仏教」の意にも解せるし、また理念的に「現代仏教としての今日的条件」を考えることも理解できよう。そこで今年は、仏教は日本人のくらしの中の宗教として、大きな影響を及ぼしてきたことの当然の責任として、宗教的・社会的責任を負うものとする。

仏教は、これまで原則として出家教団であり、このためか社会性に欠けるとともに指摘されてきた。しかし今日ほど宗教教団の果たす宗教的・社会的役割に対するきびしい評価が求められている時代もないのではなかろうか。

以上のような問題意識から考えると、「仏教と人権」という視点は今日の仏教を考える上で重要なテーマの一つと思われる。今年はこれをめぐって日本仏教の性格を考える。

講義の内容・
授業スケジュール

明治から今日の日本仏教に限定し、特定教団の差別事象を中心に、仏教と差別についてまず学習する。今日における「人権」とは何か。そしてテキストを中心に学習する。

履修上の留意点

他人の考えではなく、自分の頭で考えることの大切さを自覚して欲しい。

成績評価の方法

レポート提出による評価

教 科 書

『差別語を考えるガイドブック』曹洞宗宗務庁編・解放出版社 1,854円

参 考 書 等

講義の進行に合わせてその都度提示する。

そ の 他

必要に応じてコピーも参考にする。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
外 国 語 仏 書 演 習	き むら せい じ 木 村 誠 司	短 仏 1・2 選	4

講義のねらい

英文で書かれた仏教文献を講読する。テキストは、最初の講義において、受講者と協議して決めるので、必ず出席することを希望する。

成績評価の方法

成績評価は、平常点によって行う。

科目名	担当者名	配当学年	単位
中国古典語	須山長治	短仏1・2選	4

講義のねらい

『老子道德経』を読んでいく。中国古来の二大思想といえば儒家と道家の思想である。孔子の『論語』の思想を『老子』と比較しつつ、『老子』の“道”の思想をじっくり読み味わってきたい。

講義の内容・授業スケジュール

『老子道德経』は全部で81章であるが、本年度は後半部から始め、毎回二章ずつ読んでいく。各章の内容把握を訓読を通して行っていきたい。

成績評価の方法

出席を重視し、試験は論文記述方式で行う。

教科書

プリントを配布する。

参考書等

福永光司訳、金谷 治訳等『老子』

科目名	担当者名	配当学年	単位
日用經典概説	おくのみつよし 奥野光賢	短仏1・2選	4

講義のねらい

この科目は、日頃、曹洞宗寺院においてよく読誦されている經典等について、その成立の背景や内容の概説を目標とする。将来、曹洞宗の宗侶となる学生諸君にとっては、曹洞宗で読誦されている經典等について学んでおくことは重要なことであろう。

講義の内容・授業スケジュール

曹洞宗において日頃読誦している經典(教典)・語録等について概説する。その際、それらの内容上のことはもちろんのこと、仏教史上における成立の背景、影響といった問題も視野に入れていくつもりである。授業に慣れた後期は各自に演習形式で発表してもらおう機会ももちたいと思う。

成績評価の方法

学年末の定期試験によって評価する。出席点はある程度は評価する。

教科書

特に指定しない。

参考書等

水野弘元編『仏典解題辞典』(春秋社)

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
仏 教 伝 道	つのだたいりゅう 角 田 泰 隆	短 仏 1・2 選	4

講義のねらい

仏教は、これを学ばなくては説くことはできないが、学んで説くことがなければその存在意義を失う。道元禅師は「弘法救生」（仏法を広め、苦悩する多くの人々を救う）の思いを常に深く心に願われていたというが、曹洞宗宗侶もやはり同様の誓願を持たなければならないであろう。そこで必要なのが伝道・教化ということである。この科目では、この伝道・教化の理念と実践について講義する。

講義の内容・授業スケジュール

仏教の伝道において、一般の人々にわかりやすく説き広めるということは容易なことではない。この科目では、まず釈尊の生涯をたどりながら、仏教伝道の基本的あり方について考え、さらに現代の宗門寺院における伝道の種々のあり方、方法等について、実際に伝道・教化に携わっている私が、その現状を紹介しながらその重要な点や問題点等について解説する。

成績評価の方法

定期試験の筆記試験の成績によって評価する。ただし、原則として所定の授業時間数の3分の2以上授業に出席しなかった者は、筆記試験の成績の如何に関わらず単位は認定されない。

教科書

なし。

参考書等

授業において紹介する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
宗 教 哲 学	こんの かのる 紺 野 馨	短 仏 1・2 選	4

講義のねらい

「宗教哲学」の標題で予想される超越者についての思索にとどまらず、民族学、文化人類学、宗教社会学、心理学等の成果を活かしつつ、「宗教現象の哲学」を内容としますが、「知る」ことよりも「考える」ことの契機となることを目標とします。

講義の内容・授業スケジュール

前期は18世紀啓蒙思想に始まる西欧の宗教についての思想を跡づけ、後期はその知見をもとにして現代日本の宗教をめぐる状況について考えます。

履修上の留意点

講義を契機として「考える」ことを望みます。したがって、講義への出席を重視します。

成績評価の方法

小論文形式の試験を行います。上記の通り、出席を重視します。

教科書

必要に応じて印刷教材を配布します。

参考書等

講義中に指示します。

科目名	担当者名	配当学年	単 位
キリスト教概説	紺野 かのる	短仏1・2選	4

講義のねらい

キリスト教の理解だけでなく、キリスト教を背景とするヨーロッパ文化の入門講義を目標とします。

講義の内容・授業スケジュール

キリスト教の前提としてのユダヤ教、新約聖書、ローマ世界のなかのキリスト教、中世キリスト教、宗教改革、近代ヨーロッパとキリスト教について逐次論じます。

履修上の留意点

特記することはありません。

成績評価の方法

期末に試験を行います。出席を重視します。

教科書

新約聖書。訳はいずれのものでも可。また必要に応じて印刷教材を配布します。

参考書等

講義中に指示します。

科目名	担当者名	配当学年	単 位
書道	野村 よしひろ	短仏1・2選	4

講義のねらい

王羲之の蘭亭序をはじめ、各種古典の臨書による、実技の指導を行う。

履修上の留意点

書道実技の為、墨、硯、筆、文鎮、下敷、半紙等の文房四宝の用意が必要。
(正しい用筆法、正しい墨のすり方等、初歩的な基礎勉強の指導と、かんたんな書道史の説明を行う)

教科書

王羲之『蘭亭序』(清雅堂) ¥360

科目名	担当者名	配当学年	単 位
宗 学 演 習	つの だ たい りゅう 角 田 泰 隆	短 仏 1・2 選	4

講義のねらい	本科目は、曹洞宗の宗旨に関わる学問研究を演習形式で行うものである。本年は、道元禅師の主著である『正法眼蔵』を演習し、『正法眼蔵』を自ら読む力を養う。
講義の内容・授業スケジュール	毎週当番を決めて、学生が研究成果を発表する。それに対して問答形式で授業を進め、テキストを読解してゆく。
履修上の留意点	演習形式を取るなので、事前の予習が必要である。予習においては、自ら辞書等にあたり、一々の文字言句を正確に解釈し、現代語訳を行ってもらおう。出版されている種々の現代語訳はなるべく用いず、自ら解釈することを目指してほしい。
成績評価の方法	演習科目であるので、授業への出席、および授業での研究成果の発表によって評価する。よって欠席の多い学生や、所定の研究成果の発表を行わなかった学生には単位を認定しない。
教科書	テキストは、コピーを配布する。
参考書等	授業において紹介する。
その他	本科目は1・2年次生を対象とした選択科目ではあるが、『正法眼蔵』は仏教および宗学の基礎知識がないと読めないなので、受講生は、「宗学研究」の単位を修得している2年次生であることが望ましい。

科目名	担当者名	配当学年	単 位
仏 教 特 講 I	あら い ひろ あき 荒 井 裕 明	短 仏 1・2 選	4

講義のねらい	『大乘莊嚴經論』を中心として、瑜伽行派(Yogācāra)の教義を考察する。
履修上の留意点	本論典には、サンスクリット語の原典、及び、チベット語訳の注釈書等も存在するが、本講義においては、漢訳(『大正新脩大藏經』所収)をテキストとし、必要に応じて原典や諸注釈書にも言及しながら、読み進めていきたい。
成績評価の方法	学年末の試験、あるいはレポートによって評価する。
教科書	プリントを配布する。
参考書等	講義の際に紹介する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
仏 教 特 講 II	みつ はし 橋 <small>ただし</small> 三 橋 正	短仏1・2選	4

講義のねらい

日本人は、ある時は神を拝み、ある時は仏を拝み、暦に基づく迷信に左右され、「仏」となって死んでいく。外国の人々から見ると実に不可解に見えるが、この中に一定の法則が見出される。本講座では一年間の講義を通じて、日本人と宗教の関わりについての様々な側面を、歴史的に解明していく。

講義の内容・
授業スケジュール

まず、日本人の在来信仰（神祇信仰）について分析し、それが仏教の伝来によって如何に変化したか、そして両者の間に如何なる使い分け（棲み分け）ができたかを考察していく。おおむね、前期は神祇信仰や神話など神道関係を中心に、後期は仏教の日本的展開を中心に論じていく予定である。また、江戸時代以前の暦についても解説し、そこから生じた様々な禁忌（タブー）が今に残っていることも指摘したい。

履修上の留意点

講義の内容が多岐にわたるので、受講生は真面目に出席し、一回ないし数回毎にまとめをしていくことが望まれる。

成績評価の方法

成績については、講義内容全般についての論述式テストを授業の最後に行ない、これを主に評価する。

教 科 書

教科書と参考書については、授業内に指示する。

そ の 他

講義が中心となるが、受講生の積極的な参加を期待したい。

2 他学部履修科目

2 他学部履修科目

商学総論(大吹勝男)	仏他1
社会政策(休講)		
国際経済論(徳永俊明)	仏他2
価格理論(荒木勝啓)	仏他3
国民所得論(吉野紀)	仏他4
銀行行論(齊藤正)	仏他5
中小企業論(和田耕治)	仏他6
人口論(休講)		
中国経済論(小杉修二)	仏他7
アメリカ経済論(休講)		
ヨーロッパ経済論(清水卓)	仏他8
貿易論(古沢紘造)	仏他9
会計監査論(飯岡透)	仏他10
管理会計論(中原章吉)	仏他11
憲法(斉藤寿)	仏他12
比較憲法(西修)	仏他13
法思想史(高橋洋城)	仏他14
日本法制史(茂野隆晴)	仏他15
西洋法制史(休講)		
英米法(金原恭子)	仏他15
経済法(岡田外司博)	仏他16
国際関係論(首藤素子)	仏他17
行政法総論(梅木崇)	仏他18
裁判法(雨宮眞也)	仏他18
法哲学(高橋洋城)	仏他19
倒産処理法(馬越道夫)	仏他20
アメリカ経営学(宮城徹)	仏他21
経営財務論(高田光明)	仏他22
経営組織論(長瀬勝彦)	仏他23
経営技術論(休講)		
公益企業論(休講)		
公管理会計論(猿山義広)	仏他24
会計監査論(休講)		
日本経済論(羽鳥茂)	仏他25
インド仏教史(池田道浩)	仏他26
日本仏教史(袴谷憲昭)	仏他26
中国禅宗史(須山長治)	仏他27
日本禅宗史(角田泰隆)	仏他27
仏教と文化(奥野光賢)	仏他28
道(野村宙弘)	仏他28

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
商 学 総 論	おお ぶき かつ お 大 吹 勝 男	二法・二営・短仏	4

講義のねらい

近年、大学においてさえも、学問が軽視される風潮にあります、そして生残りをかけ、学生集めのために実用主義を売りものにする大学もあります。また、大学は社会的要請に答えねばならないという主張のもとに、その実、社会ではなく、会社・企業のために大学が存在することを主張し、かつ君たちに会社人間になることを勧めるマスコミや評論家等がいます。そして一方で、学問に背をむけ、それらに迎合する大学人がいます。しかし、大学は入学した君たちのためにあり企業のためにあるではありません。そして、大学で学ぶことは、将来君たちが人間らしく生きるための助けになるものでなければなりません。本学もまた大学である限り、学問の場ではなければなりません。いいかえれば、大学でしか学べないこと、物事の見方、考え方を学ぶことです。さらにいうならば、実用的でないもの、すぐには役に立たないもの、これらを学ぶのが大学です。実用的なことは、その場限りのものであり、また入社してから容易に身につくものなのです。何年間かキャリアを積んだビジネスマンから聞くことは、大学時代に学問をしておくべきであったということです。諸君も、使い捨てのサラリーマンになることのないように、体系的に思考する能力を身につけて下さい。そして、社会に出て現実には困難な問題に出会った時に、学問をした人間として、大学の卒業生として、きちっと解決のできる人間になってください。本講義では、科学的経済学の立場から流通論を、そして商業論を講義するものであり、その内容からして商業経済学といいかえてもよいとおもいます。したがって、授業では、現代における流通および商業に関する諸現象を科学的に認識するために必要な流通理論（物流の基礎理論を含む）および商業資本の理論を講義しますが、それらの知識を習得するとともに、それらを学ぶ過程において体系的な思考方法を習得し、思考能力を高めてください。そのためには一年間を通して授業に出席することが必要です。また本講義は、君たちが履修するであろうマーケティングや商業政策・流通政策のための基礎理論を提供するものであります。また、商学専修の学生は、あわせて経済原論Ⅰを履修すれば、本講義の理解の助けとなるでしょう。

講義の内容・授業スケジュール

授業内容は下記の項目の通りですが、本年度は、これらの項目について講義しながら、現代企業の経営戦略において重要性を増している物流問題を考えるうえで、その基礎となる理論について特に力を入れたいと思います。

- (1) 商品論（価値論）
- (2) 生産過程論（労働過程論）
- (3) 流通過程論（資本の流通過程・流通時間・流通諸費用）
- (4) 資本の回転と流通資本
- (5) 商業資本の本質論
- (6) 商業資本の自立化論
- (7) 商業利潤論
- (8) 純粋流通費用論
- (9) 商業労働論
- (10) ホワイトカラー労働論（サラリーマン論）
- (11) 商業資本の回転と価格
- (12) 大規模商業資本論
- (13) 独占的商業資本論
- (14) 卸売排除論
- (15) 流通系列化論

成績評価の方法

評価は期末試験によるが、授業の予習をかねてレポートを課すこともありうる。また各授業項目が終る毎に、小テストを実施し、君たちの理解度を確かめ、一層の理解を深める手段とします。

期末試験は論述形式ですが、テキストの参照を認めます。しかし、この措置は、私自身、学生時代に非常に疑問に思っていたことではありますが、君たちに、受験生のような暗記の勉強を早く卒業してもらい、充分な準備をして試験に臨んでもらいたいということでもあります。いうならば、問題のわからないレポート試験とでもいえばよいかもしれません。したがって、容易に単位が取得できるという意味ではありませんから誤解のないように。

教 科 書

- 1 大吹勝男著『新版流通費用とサービス理論』梓出版社
- 2 『経済学論集』（駒沢大学経済学部発行）第20巻第2号
- 3 『経済学論集』第20巻第4号
- 4 『経済学論集』第22巻第1号
- 5 『経済学論集』第22巻第4号
- 6 『経済学論集』第26巻第1号
- 7 『経済学論集』第27巻第1号

以上、2から7までの『経済学論集』には、大吹勝男の執筆する商業資本、商業利潤および商業労働に関する論文が掲載されていますから、図書館にてコピーして利用して下さい。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
国 際 経 済 論	とく なが とし あき 徳 永 俊 明	二 法 ・ 短 仏	4

講義のねらい

学問への出発点は「私はどこにいるのか?」という問いにあります。実際、私たちはアマゾンの密林で生活しているわけではありませんし、江戸時代の農村に生きているわけでもありません。では「どこ」にいるのでしょうか。

「世界の中にいる」と言っても、「日本にいる」と言ってみても、これらは答えになりません。どのような世界なのか、どのような日本にいるのか——少なくともこれをつかまなければ先の問いに対する答えにはなりません。今日の世界社会、今日の日本社会の〈内容〉を理解しなければなりません。

ところで、世界経済は、今日、世界社会・日本社会の〈土台〉をなしているものです。世界経済という〈土台〉なしには、世界社会も日本社会も成り立ちません。世界と日本を理解するカギは世界経済を理解することにあります。この講義では、このような位置にある世界経済の〈基本構造〉の解明をめざします。ただし、私の力量からして“社会主義”経済に十分言及することはできません。資本主義世界経済に限定して検討します。

この講義のキーワードは〈階級的支配関係〉と〈民族的支配関係〉です。世界経済は、資本主義という社会の誕生とともに成立し始め、資本主義社会の〈土台〉として、またその〈産物〉として推移してきました。資本主義社会は、言うまでもなく、〈階級的支配関係〉を命綱としていますが、同時に、世界の諸民族の間の〈民族的支配関係〉をもう一本の命綱としていることが重要な特徴です。これら二つの支配・従属の関係は資本主義社会のいわば2本柱をなすものです。そして、〈民族的支配関係〉こそ世界経済の〈基本構造〉として機能してきたのです。そこで、この講義では、この〈民族的支配関係〉の問題を座標軸にして世界経済の基本的な理論と歴史、現状そして展望を検討したいと思います。

〈国際化〉の問題がいよいよ重大になっているいま、多くの諸君の主体的な受講を期待します。

講義の内容・授業スケジュール

〈講義のテーマ(予定)〉

前期は、世界経済の歴史を跡づけ、今日の世界経済の歴史的段階を確認します。

後期は、歴史的知識を念頭において、今日=第2次世界大戦後の世界経済の〈基本構造〉を形づくっている主な柱を一つずつ検討します。

前期——世界経済の歴史的推移

- (1) 〈講義の趣旨〉および〈講義テーマ〉の説明
- (2) 資本の本源的蓄積と重商主義植民地体制
- (3) 産業革命と自由貿易植民地体制
- (4) 帝国主義と帝国主義植民地体制
- (5) 第1次世界大戦と世界経済
- (6) 戦間期の世界経済

後期——今日の世界経済

- (1) 第2次世界大戦と世界経済
- (2) 「アメリカ中心体制」
- (3) 新植民主義と世界経済
貿易・国際通貨制度・資本輸出——(「援助」と多国籍企業)・〈南北問題〉と新国際経済秩序
- (4) 世界経済の現段階
- (5) 日本経済と世界経済
- (6) われわれの選択

〈講義の方法〉

教場では毎回資料をプリントして配布し、それを説明するという形で講義をすすめます。

成績評価の方法

成績は世界経済の基本事項、世界経済の“枝葉”ではなく、“幹”の理解度をミニ・レポート(3回予定)および学年末レポートで評価します。(追・再試験は行いません。)

参考書等

講義の中で適宜紹介します。

その他

私の研究室は第2研究館4階、電話は直通03-3418-9353です。気軽に立ち寄って下さい。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
価 格 理 論	あら き よし ひろ 荒 木 勝 啓	二法・二営・短仏	4

講義のねらい

価格理論の目的は、経済の中でマイクロ主体が互いに競争と最適化を行うことにより、市場および経済一般がどのような方向に向かうかを研究することである。もし競争が理想的に行われ、情報や資源移動の完全性が保証されるならば、市場はパレート最適と呼ばれるある種の理想状態に達し、価格は自然に社会的厚生を最大化する水準に定められる。しかし例えば市場参加者が2という少数者で行われるならば、たとえ同様の競争自体が行われても、結果はクールノー・ナッシュ均衡とよばれるような、完全競争とは異なった市場均衡に到達するであろう。またその競争のあり方によっては同じ2という参加者の競争から、シュタッケルベルク均衡と呼ばれるさらに異なった均衡状態が作り出されることになる。その点はもはやパレート最適からはほど遠い点である。

このように、価格理論は、一般に「物価水準」と呼ばれているような現実のデータとしての価格というよりも、経済の市場の枠組みやマイクロ主体の行動様式に関する様々な想定から導出されるas if パフォーマンスとしての価格決定を調べる科目である。従ってその分析のためにはどこまでも「最適化」手法がつかまとう。しかも経済学の場合最適化はほとんどの場合「制約付き最適化」である。

制約のないところに経済は成立しない。近代経済学を生み出した限界革命の旗手であるカール・メンガーは次のように述べる。「村にわき出る泉があり、その水をだれでもが飲めるならば、その水をめぐる経済現象は生じないであろう。しかし、旅人が増えて村人が水を自由に飲めなくなったときから泉の水に経済現象が生じ始める。」

以上のように価格理論では内容の理解がほぼ制約付き最適化手法の理解如何にかかっているといてもよい。従って講義のかなりの部分がそのための準備と練習に当てられると期待したい。

講義の内容・授業スケジュール

- (1) 価格理論で学ぶこと
- (2) 多変数関数と曲面
- (3) 微分、変微分、全微分
- (4) 対数関数の微分と成長理論
- (5) 生産関数、コブ・ダグラス生産関数
- (6) ベクトルの直交と勾配ベクトル
- (7) 制約付き最適化問題のグラフィカルな理解
- (8) ラグランジュ乗数法
- (9) 加重限界効用均等の法則
- (10) 練習問題
- (11) 代替効果と所得効果の計算
- (12) 需要曲線と需要の価格弾力性
- (13) パレート最適、ボックスダイアグラム
- (14) MR曲線
- (15) 独占均衡
- (16) 消費者余剰と生産者余剰、独占均衡の死重的損失
- (17) 費用曲線と供給曲線
- (18) 生産関数から短期費用関数の導出
- (19) 生産関数から長期費用関数の導出
- (20) クールノー・ナッシュ均衡
- (21) クールノー・ナッシュ均衡解の練習問題
- (22) 等利潤曲線
- (23) シュタッケルベルク均衡解
- (24) シュタッケルベルク均衡解の練習問題
- (25) 共謀解

成績評価の方法

試験はノート・教科書・参考書持ち込み可

教科書

浅野・荒木・浅田『エコノミックス』成溪堂

科目名	担当者名	配当学科	単位
国民所得論	よしの吉野 おさむ紀	二法・二営・短仏	4

講義のねらい

わが国は法人企業だけで277万(平成3年)あり、就業者6,400万人のうち約68%にあたる4,380万人がここで働いている。この生産活動からさまざまな財(商品)やサービスが産出されてくるが、その種類や数量たるや膨大なものとなる。この大きさを1年という単位期間内で集計し、金額表示にしたものが大雑把に言ってGDP(国内総生産)にあたる。生産された財・サービスは、誰かが貨幣を支払って支出・購入してくれるからこそ、また次の年の生産活動を実現可能にしてくれる。その誰かは、一つは4,070万に昇る家計世帯であり、二つには他の企業であり、その他に政府もあり、日本からの輸出を引き受けてくれる海外の購入者であったりもする。ここには、財・サービスの売渡しの見返りにあたる円や外貨で支払われる貨幣の流れがみられる。これを称して経済循環とよぶが、わが国の1年間の規模は平成5暦年のGDPによって466兆円に達すると評価されている。

一つの国民経済を眺めようとすれば、このように大きな集計量と接することが不可欠となる。このことは、数限りない取引が日々結ばれていることを考えればむしろ当然と言えよう。こうした取引関係は複雑に入り込んでおり、その1つ1つを追跡すると、国民経済全体という大きな森の中に迷い込むことにもなりかねない。そこで、森の上に舞い上がって、これらの取引を上空から眺める工夫が生まれてくる。このような視点に立つ経済の分析手法が、巨視的(マクロ)分析とよばれ、経済全体の活動の成果を集計量でとらえようと編み出された国民経済計算の整備とともに発展してきたのである。ここでは、無数の複雑に絡みあった諸取引を、いくつかの類似した性質を共有するグループ(経済主体)毎に分け、それぞれの取引額を記録し、そして経済主体のさまざまな取引相互間の依存関係を説明しようとするところに狙いがさだめられている。

講義の内容・授業スケジュール

1. 「国民経済計算の話」……………5回
GDP、GNPなどの経済指標や消費、投資、輸出入などの国民経済全体をとらえる単位を理解することと、さまざまな諸取引間の相互関係を日本経済の循環図を通してとらえることが主題である。
《参考》経済企画庁「平成6年日本経済の循環図」(配布資料)
2. 「総需要・均衡産出量・均衡所得」……………4回
いわゆる単純なケインズ派の所得決定理論が、モデル分析に則って説明され、次の第3講で活躍するIS曲線の基礎理解を得ることが目標となる。このテーマの終了後、練習問題を解くレポートが課せられる。解答は配布され、解説は授業の中で行なわれる。
《参考》中谷巖『入門マクロ経済学』(日本評論社)第3章
3. 「貨幣・利子および同時均衡」……………8回
この段階で貨幣の果たす役割が明示的に導入され、前講までの主題との接合がはかられて、IS曲線とLM曲線を主な武器とする分析が進められてゆく。モデルを用いた説明が中心となるが、日本経済の現況との関連が説明の中に登場する機会も増えてゆくであろう。また、利子率に触れるとき、預貯金の利率に加えて有価証券の利回りにも馴染んでもらうことになるであろう。その他、国家公務員、地方公務員、国税専門官などの専門科目試験の例題を示す事もある。本テーマの終了時にも、簡単な練習問題がレポートの課題として課せられる。正解と解説は授業中で示す。
《参考》伊達邦春(編)『マクロ経済学』(八千代出版)第9章
4. 「金融政策、財政政策」……………4回
前講までの内容が理解されれば、金融政策と財政政策の発動によって、望ましい所得水準を達成するプロセスは比較的容易に理解できるものと思われる。その上で、国内のおよび国際的クラウディング・アウト効果を取り扱われる。アメリカのベトナム戦争時に生じた国内的クラウディング・アウト効果に関するケース・スタディは興味をよぶのであるまいか。
《参考》ドーンブッシュ・フィッシャー『マクロ経済学(上)』(CAP出版)第4章
5. 「労働市場を組み込んだ総需要・総供給分析」……………5回
ここまで扱われてきたのは、財・サービスの市場と貨幣市場であったが、これに労働市場が明示的に組み合わされる。さらに物価の変動が重要なテーマとして加わる。

成績評価の方法

基本的には期末試験による。2回の練習問題に対するレポートは一定の評価対象となりうる。

教科書

R. J. ゴードン『現代マクロエコノミクス(上)』(多賀出版)

科目名	担当者名	配当学科	単位
銀行論	さいとう 藤 正	二法・二営・短仏	4

講義のねらい

近年、経済の様々な分野で「規制緩和」、すなわち自由化が喧伝され、金融業においても橋本内閣の「6大改革」の重要な柱として金融ビッグバン構想が展開されている。官僚的規制には様々な問題が指摘できるが、モラルを欠いた「自由化」がそのまま認められることにはならない。とりわけ銀行は「預金通貨の供給」を通じて経済社会の決済システムを担っており、その安定性（信用秩序の維持）なしには経済社会の安定も達成されないという意味で、他の産業と異なる独自の「社会的責任」が存在する。相次ぐ経営破綻の増加、数々の金融スキャンダル、巨額の不良債権など信用秩序の動揺は、「野放しの自由化」が銀行を収益至上主義に陥らせ、その結果経済社会に対して多大な否定的な影響を及ぼすことの例証である。また、「堅実で、比較的高賃金」というイメージで、就職先としての人気も高いとされる銀行の職場は現在、自由化の下での競争激化に伴う「経営合理化」によって、サービス残業、苛酷なノルマなど、「長時間・過密労働」がさらに強められるとともに、出向・転籍が常態化し、健康と将来への不安を抱く行員が増えている。

このように銀行を取り巻く状況は内外ともに問題が多いと言わざるをえないが、しかし、銀行は依然として「貨幣の供給」及び決済システムを担う唯一の主体であり、社会的に不可欠の役割を果たしているがゆえに、今こそ銀行の健全なあり方が強く望まれるのである。

本講義では銀行の基礎理論を踏まえたうえで、戦後の日本経済の展開に果たした銀行の役割を具体的に検証し、今後のあるべき姿を考えてみたい。

講義の内容・授業スケジュール

- 1) 前期は銀行の基礎理論を中心に講義する。
 - ① ここでは古代からすでに存在した「金貸し業者」や「高利貸」と「銀行」との違いがどこにあるのかを検討しながら、「銀行」の基本的機能及び経済社会（メーカー、商社、消費者、さらに国家など）との関連を明らかにする。
 - ② 銀行が、一方で預金を受け入れ、他方で貸出を行っていることは広く知られている。だが、銀行は受け入れた預金をそのまま現金で貸し出すわけではなく、受け入れた預金を基礎として、貸し出す際に「信用貨幣」（預金通貨）を創造する。現代社会では、エレクトロニクス技術の進展に伴い、ファームバンキングやホームバイキング、さらには電子マネーといった「キャッシュレス社会」現象がみられるが、それは銀行を頂点とした信用（債権債務）関係の高度な発展であると同時に、返済の確実性を前提に成り立っていることを忘れてはならない。
- 2) 後期は戦後日本経済に果たした銀行の役割を、時期毎に検証し、将来の銀行制度の望ましいあり方について検討する。
 - ① まず、専門的金融機関制度あるいは分業主義といわれる戦後日本の金融制度の特殊性とそれぞれの専門機関（普通銀行、中小企業金融専門機関、証券会社、保険会社など）の果たした役割の理解を目指す。
 - ② 時期区分は、おおまかに高度成長期、スタグフレーション期、自由化以後、とし、欧米の動向も参照しながら、それぞれの時期にどのような「銀行理論」が展開されたのかを併せて紹介する。
 - ③ とりわけ、現代の銀行制度が抱えている主要な問題を浮かび上がらせる契機となったのが、80年代後半の「バブル経済」と90年代以後の「バブル崩壊」である。戦後銀行制度の構造的転換という視角からこの時期の諸問題を検証する。
 - ④ 以上を通して現在日本の銀行が抱える問題を理論的にも制度的にも的確にとらえ、金融ビッグバン構想について検討を加えながら、望ましい銀行制度のあり方についての理解を深めたい。

履修上の留意点

成績は、基本的には前期試験（レポートに変更の場合もある）と後期試験によって理解度を評価するが、出席状況、授業態度における積極性も十分加味する。また、履修にあたっては、「独自の銀行観」の習得を目指すことを望む。

教科書

教科書は特に指定しないが、最初の講義で紹介する。また、毎回レジメを配布し、それに沿って講義する。

参考書等

- 谷田・野田・久留間編『現代金融の制度と理論』熊野・龍編『現代日本の金融』いずれも大月書店 1992年
- 日本銀行『新版 わが国の金融制度』

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
中 小 企 業 論	わ だ こう じ 和 田 耕 治	二法・二営・短仏	4

講義のねらい

中小企業は異質多元の存在であるといわれている。それら特質は、大企業でないということを除けば、千差万別である。とはいえ、わが国においては、中小企業研究の歴史は古く、その蓄積には、膨大なものがある。本講義では、今までの中小企業研究の蓄積を踏えつつ、今日における中小企業の現状とその課題を考察する。

講義の内容・
授業スケジュール

年間二十数回程度の講義のなかで以下の点に触れながら授業を進める。

- ① 中小企業とは
- ② わが国における中小企業研究
- ③ 中小企業問題と中小企業政策
- ④ 下請分業構造の変化と中小製造業
- ⑤ 大規模小売店舗法の規制緩和と中小商業
- ⑥ 創業支援とベンチャービジネス
- ⑦ 中小企業従業者の労働と福祉
- ⑧ 地域経済と中小企業

成績評価の方法

夏休みのレポートと学年末試験で成績の評価を行なう。

教 科 書

教科書は、とくに使用しないが、5～6月に発行される中小企業庁『中小企業白書』は各自で購入すること。

そ の 他

授業では、必要に応じて、OHPやビデオを使用する。

科目名	担当者名	配当学科	単位
中国経済論	小杉修二	二法・二営・短仏	4

講義のねらい

- この講義は中国の長期的動態をとらえる。
現在の中国は対外開放、経済成長と生活の向上の結合、経済改革の試み等、新たな活気が見えつつあるようになった。また、企業自主権の拡大、株式会社、個人営業の公認、失業・倒産の制度化、「1国2制度」「6・4天安門事件」等々話題に事欠かない状況である。
本講義ではこのような目前的変化をとらえると同時に、より長い視野と射程で問題を論じることとする。即ち、本講義のキー・ワードは、超大国志向、社会主義、発展途上国である。この三点で中国は画期的動態を論ずる。
- この講義は3つのキー・ワードで歴史的に中国を解明する。
前期授業のはじめに、キー・ワードを3週間分けて説明する。ここでは、地域研究が本来もっている特徴である、問題のさまざまな面をとらえる、ということと、そのうち比重の大きい側面は何であるかをつかむ、といった点に留意する。特に、私独自の見方である中国の超大国志向について詳しく説明する。
2につづいて、中国経済の解明に取組むが、それは一言でいえば歴史的方法をとる。すなわち、中華人民共和国の成立(1949年)から今日までを、3つの特徴的な時期に分けて、(1)ソ連モデル(1949～57年)、(2)毛沢東モデル(1958～78年)、(3)鄧小平モデル(1978～)として、それぞれの時期の特質とその変化の原因を説明する。
このような方法をとるのは、今現在の目先の出来事も何かの方向へ向かって動いている分だけ、その方向というものは、あまりに近くで見ているとわかりにくいものだからである。つまり、現在および将来というものは、過去の何らかの延長であると考えられるからである。それが単純な延長である場合もあろうし、新しい条件に合った微修正の延長である場合もあろうし、また全く過去の否定的総括に立った展開である場合もあろう。その場合も、過去の何が否定的に総括されたのかを知らねば、将来への延長線は引かれないうであろう。そこで歴史的方法をとるわけである。
上記の3つのモデルを超大国志向、社会主義、発展途上国の3つのキー・ワードを軸にして説明していくが、そこでの中国は著しく軍事大国志向、経済成長志向である。世界の他の国々がそのような志向性をもっての中で、また、中国が途上国であることからして、やむを得ない面もあるが、世界が環境問題で行き詰まりつつある中で、このような志向性のもつ問題点を相対化し得る見方をもてるように留意したいと思う。

講義の内容・授業スケジュール

授業の進め方は、教科書に沿った講義とビデオ上映による説明の二本立てで行っている。教科書は専門家向けに書かれており、自明のことや初歩的なことは書かれていない。したがって、中国経済に全くの初心者であると思われる学部学生に対しては、自明とされていることや、初歩的な知識の説明を補いながら講義を行う。
また、何分にも外国のことなのでイメージがわきにくいといった問題があるので、年に数回、中国関係のビデオを見る。新日鉄宝山製鉄所、天津の用水路、長春第1自動車工場、江南億元郷、天安門激動の40年等。

履修上の留意点

受験勉強の本質は正解当てクイズである。しかし、このような方法は実社会では通用しない場合が多いし、正解も変わっていく。諸君が物事(中国経済)を自前の頭で理解し判断できるための勉強が高等教育の場である。そのために、無数にいる専門家の意見の比較、優劣判定、取捨選択、時間による検証、といった作業が必要になる。その前提になるのが、各専門家の学説の正解な理解である(学説の受入とは異なる)。テストは基準となる一つの学説(とりあえず、私の説)の正確な理解ができたかどうかを見るものである。

学習が正解当てクイズに終わるかどうかは諸君の学習意欲にも係わっている。教科書の脚注引用文献や同第5章「諸学説の検討」あるいは授業中にその都度指摘する文献を積極的に読むことを希望する。

教科書

小杉修二著『増補 現代中国の国家目的と経済建設—超大国志向・低開発経済・社会主義』(龍溪書舎) ¥4,000

科目名	担当者名	配当学科	単位
ヨーロッパ経済論	しみず たくし 清水 卓	二法・二営・短仏	4

講義のねらい

ヨーロッパ経済論は、資本主義世界経済を創り出し、その主導者として、ここ数百年、世界の近代化を進めてきたヨーロッパ経済の現状分析を通して、今後の日本と世界経済の展望について考察することを課題とします。

1980年代末のソ連を盟主とする「共産主義」体制の崩壊以降、世界は、市場原理による経済運営と自由貿易体制の時代に入っている。このアングロサクソンの新自由主義経済システムが地球人類のかかえる諸問題にとって有効である否かを、ヨーロッパ諸国の現状をふまえて検討する。

現在、欧州連合（EU）諸国では、1999年経済通貨同盟＝EUの単一通貨の実現をめざしている。通貨統合はアメリカドルから自立した強く安定した欧州通貨を創出し、欧州経済統合の完成を目指している。実現には現状のEU諸国の通貨価値の安定が前提となるが、この安定のため、EU各国とも緊縮財政政策を余儀なくされ、有効な景気対策が打ち出せないのである。歳出削減は、教育、社会保障制度の水準低下となって現れており、企業民営化やリストラによる失業率の高止まりと相俟って社会的緊張を引き起こしている。99年1月には実施段階に入る予定の単一通貨ユーロ、東欧、中欧諸国へのEU拡大、それに伴うEU機構の再編など、統合過程の動きに注目していきたい。

講義の内容・授業スケジュール

【前期予定】

第二次世界大戦と戦後ヨーロッパ
 アメリカ体制下のヨーロッパ
 欧州統合への歩み－ECSCからEECへ
 ヨーロッパの経済成長－そのメカニズム
 市場統合の展開－関税同盟の理論と現実
 農業共同市場の確立－ドイツの工業・フランスの農業
 経済成長の限界－スタグフレーション
 経済危機下のEC－統合の停滞と前進
 サッチャーとミッテラン－新自由主義の台頭
 1992年市場統合－非関税障壁の克服
 経済通貨同盟－単一通貨ユーロの行方
 前期試験

【後期予定】（受講生の希望を取り入れて、テーマを変更することがあります。）

ヨーロッパの多様性－地理・民族・文化
 ヨーロッパの近代と現代－覇権から「衰退」
 欧州連合－欧州統合の歩み
 EUと農業－多様性
 EUの産業－強さと弱さ
 EUの機構と財政－超国家か国家連合か
 EUと地域政策－地域格差の克服
 EUの拡大－東欧、中欧諸国の加盟に伴う諸問題
 EUの対外関係－日本との比較
 欧州の平和問題－ポスト冷戦と民族問題
 後期試験

履修上の留意点

ヨーロッパ経済論は、一つの体系的理論を敷衍する科目ではありません。ヨーロッパの多様性について認識を深め、経済社会の現実に向け、経済や社会的諸問題の解決には様々な視点が可能であるのだということを確認してもらいたいと思います。

成績評価の方法

成績評価は、試験点数を基本とし、出席回数にも若干配慮します。なお、再試験は、行わないので注意して下さい。

教科書

教科書はありません。ただし、日経文庫『EUの知識』は有益でしょう。

参考書等

参考書については、授業中に紹介します。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
貿 易 論	ふる さわ こう ぞう 古 沢 紘 造	二法・二営・短仏	4

講義のねらい

オゾン層破壊、熱帯林破壊、温暖化、酸性雨、放射能汚染など地球を取り巻く環境はますます深刻になっています。一方、私たち生命体は水・大気・土壌の汚染により生存を脅かされるどころまできています。本講義では、こうした危機的状況を踏まえ、生命系の経済学の立場に立って、貿易問題、さらには国際分業のあり方について深く考えてみたいと思います。その中で、経済学、生態学、倫理学からなる総合的視角の重要性を認識しつつ、私たちの生活のありようを問うことにも力を注ぎたい。

生命系の経済学とは、人格をもった人間としてのニーズ、環境、資源、地球のすべての生態との共存、などを基準とした主體的な指標の確立と、それを実現し保証する政策と運動を具体的に提出する経済学です。詳しくはポール・エキンズ編著『生命系の経済学』（御茶の水書房）を読まれるとよいでしょう。

講義の内容・授業スケジュール

- I 生産・消費と貿易
 1. 農産物と貿易
 2. 水産物と貿易
 3. 林産物と貿易
 4. 鉱物資源と貿易
 5. 工業製品と貿易
- II 政治・経済・社会と貿易
 1. 開発援助と貿易
 2. 環境と貿易
 3. 公正と貿易
 4. 地域統合と貿易
 5. 総括：貿易と暮らしを問う

具体的な内容については、最初の講義のときに話したい。

成績評価の方法

ペーパーテスト、レポート、討論、報告発表など、できれば多面的な評価を試みたい。答案やレポートを書くとき、論点を明確にし、自分の考えをしっかりと出すように努力してもらいたい。思考の跡がうかがえないものは評価の対象とはならないでしょう。

教科書

とくにこれといった教科書は使いません。専門用語などむずかしいことは、その都度説明しますので、授業に出てもらえれば内容は充分理解できると思います。

その他

講義の中で特に興味をもち、もし少し掘り下げてみたいことがありましたら、遠慮なく相談に来て下さい。参考になる本など教えます（研究室、第2研究館 4階34号室）。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
会 計 監 査 論	飯 岡 透	二 法 ・ 短 仏	4

講義のねらい

会計監査の目的は、企業の作成した財務諸表がその企業の財務状態や経営成績を適正に表示しているかどうかについて、監査人が意見を表明することであり、企業規模の拡大、利害関係者の多様化、企業活動の複雑化、一部企業における不正問題の発生などに伴い、近年、その役割はますます重要になってきている。そこで、この講義では、こうした会計監査の発展過程、制度、社会的役割などを中心に会計監査について受講者の理解を深めることを目的としている。

講義の内容・授業スケジュール

この講義での授業内容とそのスケジュールは次のとおりである。

〔前期〕

4月 会計監査の目的と種類

- (1) 会計監査の目的
- (2) 会計監査の種類
- (3) 監査基準の必要性とその構造

5月 わが国監査制度の展開

- (1) 第2次世界大戦前におけるわが国監査制度の展開
- (2) 第2次世界大戦後におけるわが国監査制度の展開

監査人の要件と責任

- (1) 監査人の要件
- (2) 監査人の選任と解任
- (3) 監査人の職務権限と責任

6月 監査要点と監査手続の選択適用

- (1) 監査要点の意義と種類
- (2) 通常実施すべき監査手続とその内容

7月 監査証拠の種類と内容

- (1) 監査証拠の意義と分類
- (2) 十分な監査証拠と合理的な基礎

〔後期〕

9月 内部統制と監査リスク

- (1) 内部統制の構成要素
- (2) 内部統制の評価
- (3) 監査リスクと重要性

10月 監査計画と組織的監査

- (1) 監査契約と予備調査
- (2) 監査計画の目的とその設定
- (3) 組織的監査の重要性と審査機能の整備
- (4) 他の監査人の監査結果の利用

11月 監査調書の目的と種類

- (1) 監査調書の目的と作成要件
 - (2) 監査調書の種類と保存
- 経営者確認書の意義と記載内容
- (1) 経営者確認書の意義と目的
 - (2) 経営者確認書の記載内容

12月 監査報告書と監査概要書

- (1) 監査報告書の意義と機能
- (2) 監査報告書の種類
- (3) 短形式監査報告書の記載内容
- (4) 特記事項の記載内容
- (5) 監査概要書の目的と記載内容

1月 この講義の総括と年度末試験の説明

なお、以上スケジュールは、学会出張や大学祭などにより変更することがある。

履修上の留意点

会計監査は、財務諸表の適正性についての意見表明を目的とするものであるから、会計学総論、簿記論及び財務会計論の講義を履修し、財務諸表について十分に理解していることが望まれる。

成績評価の方法

レポート（30%）及び年度末のテスト（70%）の結果によって評価する。

教科書

飯岡・市村・島崎共著『会計監査概論』中央経済社 ￥3,500

参考書等

飯岡透著『中間財務情報制度論』中央経済社 ￥3,800

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
管 理 会 計 論	なか はら しょう きち 中 原 章 吉	二 法 ・ 短 仏	4

講義のねらい

「管理会計」という分野は、多くの人にとって、大学に入って初めてお目にかかるものです。どの分野でも、ある段階に達するまでには、何段もの階段を一段一段昇ってゆかねばなりません。この「管理会計論」は、その二段目にあたる科目です。一段目の科目は「会計学総論」です。

「管理会計論」は、企業の「ことば」である会計、その知識体系である会計学の学習に必須な会計学の主要な2領域である「財務会計」と「管理会計」のうちの一つであるということができると思います。「財務会計」が企業の外への「ことば」であるのに対して、「管理会計」は企業の内での「ことば」です。

講義の内容・
授業スケジュール

前期は、管理会計の本質、体系その中での「意思決定会計」と「業績管理会計」をキーとして管理会計の基礎的概念を説明すると共に予算管理や原価管理との関連についても講義していきたいと思ひます。

後期は、管理会計の豊富な各論のなかから、「財務諸表分析」と「付加価値管理会計」をキーとして管理会計の問題点を検討します。「財務諸表分析」については、その企業の健康診断としての役割を、方法とその留意点、収益性の分析、生産性の分析、安全性の分析、総括的方法を内容として説明します。「付加価値管理会計」については、経営計画とくに要員計画と付加価値会計、経営管理のための付加価値生産性を内容として説明します。

履修上の留意点

「会計学総論」を選択しなかった経済学専修の学生は会計学の入門書を読んでおく講義が理解しやすいと思ひます。例えば、『企業会計の基礎知識』（創成社）

教 科 書

講義の際、指示します。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
憲 法	さいとう ひさし 齊藤 寿	二経・二営・短仏	4

講義のねらい

「憲法原理の究明」

1年間・全体を通して、極めて楽しい雰囲気の中で、憲法原理の究明を、興味深く行います。特にこの講義は、理論とともに生きた事例と判例を重視しながら行います。

講義の内容・
授業スケジュール

- 第1回 憲法概念—権力と国家と憲法—について
- 第2回 近代憲法と現代憲法の基本原理について
- 第3回 明治憲法の成立と特質について
- 第4回 日本国憲法の成立と制定法理について
- 第5回 日本国憲法の動向について
- 第6回 日本国憲法の体系と基本原理について
- 第7回 天皇の地位と権能について
- 第8回 国民の基本的人権について
- 第9回 平等権規定の態様と原理について
- 第10回 精神的自由権規定の態様と原理について
- 第11回 経済的自由権規定の態様と原理について
- 第12回 人身的自由権規定の態様と原理について
- 第13回 人身保護権規定の態様と原理について
- 第14回 救済権規定の態様と原理について
- 第15回 参政権規定の態様と原理について
- 第16回 社会権規定の態様と原理について
- 第17回 新しい人権について
- 第18回 国民の義務について
- 第19回 平和主義と日本国憲法について
- 第20回 統治機構と権力分立制について
- 第21回 国会の地位と構成と権能について
- 第22回 内閣の組織と権能と責任について
- 第23回 裁判所の地位と構成と権能について
- 第24回 憲法訴訟原理と違憲審査制について
- 第25回 財政の原則と予算と決算について
- 第26回 住民自治と団体自治の原理について
- 第27回 憲法保障の意義と方法について
- 第28回 国法の諸形式について
- 第29回 試 験

履修上の留意点

※学生への要望

この講義は、楽しくかつ役に立つ講義です。私といっしょになって、「憲法」を楽しく研究してみてください。

—私が、みなさんを、「水飲み場」へ、道案内します。

目には火を、顔には光をいだいて、ついてきて下さい。

Rouse up, O, Young Men of the New Age! (目覚めよ、新時代の若者たちよ!) —との、イギリスの詩人、ウィリアム・ブレイクの叫びを、この際、みなさんに送らしましょう。

成績評価の方法

試験の成績とレポートの成績を合わせて、学年の成績とします。

教 科 書

拙著の中から、講義の際、選択・指示します。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
比 較 憲 法	にし 西 おきむ 修	二経・二営・短仏	4

講義のねらい

何年か前に発表された日米教育比較に関する米側専門家の報告書によると、日本の大学教育は完全に失敗していると診断しています。「授業は貧弱で、大学生はいたって不勉強」というのがその結論です。日本の大学改革が叫ばれているいま、このような診断が誤りであることを証明する必要があります。

私は、次のような授業方針でのぞみますので、了承されたい。

- ① 私の教師になってからのモットーは「授業は休まず、遅く始めず、早く終わらず」というものです。したがって、受講生諸君は講義には必ず出席し、かつ授業時間に遅れないように。
- ② あらかじめ講義計画（シラバス）を立て、その計画にそって授業を進めます。この講義計画は別に配布しますが、キーポイントと参考文献が示してあるので、理解を深めるのに役立ちます。
- ③ 授業中の私語・遅刻は、他人の迷惑になるので、絶対に慎んでほしい。
- ④ 成績は平常点を重視。私が独自に作成した出席カードを利用し（質問欄あり）、双方向性を大切にした授業内容にします。
- ⑤ 授業内容は、コピーの配布、ビデオ、スライド、OHPなどの活用をはかり、できるかぎり理解を容易にするよう工夫をこらします。

講義の内容・ 授業スケジュール

取り扱う主な項目は、以下のとおり。

- ① 比較憲法の意義、効用
- ② 世界の憲法はいま
- ③ アジアの憲法
- ④ イギリス憲法の特徴
- ⑤ アメリカ大統領の選挙のしくみ
- ⑥ ドイツ憲法と日本国憲法の比較
- ⑦ フランス憲法体制の特異性
- ⑧ 社会主義憲法の生成、発展、そして終焉（?）
- ⑨ 中国憲法と台湾憲法
- ⑩ 韓国憲法と北朝鮮憲法
- ⑪ イスラム教諸国の憲法体制
- ⑫ 国際憲法学の確立に向けて

成績評価の方法

成績評価の目安は、おおむね以下のとおり。

前期試験30%、後期試験40%、出席・レポート30%。

要するに、講義内容を生き活きたものにし、受講者から知的関心を引き出し、知的満足感をもって終了するというのが、最大のねらいです。

教 科 書

開講時、参考書などともにシラバスで指示。

科目名	担当者名	配当学科	単位
法思想史	たか 高 はし 橋 ひろ 洋 き 城	二経・二営・短仏	4

講義のねらい

西欧の様々な法思想を跡づけ再吟味する営みを通じて、近代法の環境の中で自明のものと考えられている思考のワクを相対化し、批判する視点を持つためのきっかけとしたい。こうした作業は、揺れ動く現代の法状況へ対峙してゆくのに必要であると思われる。

講義の内容・授業スケジュール

重点をおくトピックとしては、ヨーロッパ法思想の核となったギリシャの法思想、ローマ法原理、キリスト教思想、中世自然法論、近代法の基礎理論とも言うべき自然権論や社会契約思想、これを批判的に受け継ぐドイツ啓蒙期の法思想などを予定している。基本的には、時代を順に追い、代表的な思想家と思索を共にする形で述べていくことになるが、同時に、国家、所有、人権等々、重要な概念枠組の変遷一連続と断絶に焦点を当て、近代という時代が獲得したものと忘却したものを、明らかにできればと思う。そのために、狭い意味での法学理論史の枠にとらわれすぎることなく、各々の思想家とその時代の人間観やコスモロジーの中に法理解を位置づけて検討してみたい。なお、時間の都合上、最大限順調に講義が進んだとしても、19世紀前半の法思想までをカバーするのが精一杯だと思う。19、20世紀以降の法・社会哲学理論ないし（狭い意味での）法理論の諸潮流については、法哲学講義の方で取り扱う。

成績評価の方法

定期的記述試験（後期終了後1回）を主たる評価基準とするが、その他に、講義で紹介した思想家の著作を読んでレポートを提出してもらい、評価の一助とする。

参考書等

参考書として、三島淑臣『法思想史』[新版]、青林書院（¥4,854）。あえて教科書指定とはしないが、是非座右に置き、講義の理解を深めるために使用されたい。

その他

講義の概要、参考資料を必要に応じて配布する。

科目名	担当者名	配当学科	単位
日本法制史	しげの たかの はる 茂野隆晴	二経・二営・短仏	4

講義のねらい

歴史学には、単に歴史(学)と呼ばれる一般史のほか、多くの個別史がある。これは医学における医学史のごとくで、一つの学問には必ずその史学がある。

法学を学ぶ者にとって最も身近な史学が法制史(Legal History, Rechtsgeschichte)である。本学には西洋法制史と日本法制史とが設置されている。わたくしの講義は、日本法制史であるが、それは、「日本国民の法生活の歴史的考察」(隈崎渡博士の定義)である。とするならば、法制史が過去における国家の制定法規を羅列して、その解釈に留まるものではないことが明らかであろう。

ともあれ、法学教育において、法制史などの基礎法学を学ぶということは、実定法の理解をより深化させるとともに、リーガル・マインドの形成に有用であり、さらには、法学教育の総合化を図るのに有用であるはずである。

講義の内容・授業スケジュール

夏休み前までに上古、中古、中世までの3期を概説する。その進み具合は、従って比較的早い。それというのも、特にその後の近世法に時間を掛けるようにしたからに他ならない。

夏休み後は近世法について主にみるが、近代法、現代法についても成る丈ふれるようにし、比較法的な効果を挙げられるようにしたい。

講義では、諸種の事例を挙げ成る可く平易に講述していきたい。特に近世法の知識は、歌舞伎などの伝統芸や多くの時代小説や時代劇などの理解に少なからず役立つことも多いことであろうから、一層の興味が湧くようにしたい。

成績評価の方法

出席回数を平常点とし重視する。敢て、期末試験では頑張り具合がみられるようにし、頑張りを最重視し採点する。

教科書

大久保治男・茂野隆晴著『日本法制史』(高文堂出版社) 3,000円
大久保治男・茂野隆晴編『日本法制史板書』(芦書房) 未定

参考書等

石井良助著『刑罰の歴史』(明石書店 1,600円)

科目名	担当者名	配当学科	単位
英米法	きんばら きょうこ 金原恭子	二経・二営・短仏	4

講義のねらい

大陸法とは異なる英米法という法伝統が、どのような歴史と内容をもつものなのかを概観する。

講義の内容・授業スケジュール

英米法の中でも特にアメリカ法に重点を置きつつ、①英米法の歴史、②アメリカ法の多元性、③法の支配とアメリカの違憲立法審査制、④英米両国の司法制度、⑤判例法主義、の各テーマを取り上げて論ずる。

成績評価の方法

学年末の筆記試験で成績評価を行う。

教科書

田中英夫著『英米法総論上・下』東京大学出版会、各¥3,200くらい。

参考書等

田中英夫編集代表『BASIC 英米法辞典』東京大学出版会、約¥2,900

その他

授業は基本的には講義形式で行う。

科目名	担当者名	配当学科	単位
経済法	おかだとしひろ 岡田外司博	二営・短仏	4

講義のねらい

独占禁止法は、企業の経済活動に関する世界共通のルールとしてますます重要になりつつあるのみならず、実は私達の生活にも深く関わっている。ところが、独占禁止法の条文を見ると、一般になじみのうすい抽象的な用語が並んでいて難解であり、その理解は決して容易ではない。そこで、本講義では、最初数回は理論的問題にも触れるが、その後は独禁法の規制の内容とその実際の解釈運用について、具体的事例を多くふまえてできるだけわかりやすく解説することを目標にしたいと考えている。

講義の内容・授業スケジュール

講義は2回に1枚プリントを配布し、そのプリントに書かれた設問にこちらの方で答えて行くという方法をとる。そして、1年間で独占禁止法の全領域をカバーするものとなっている。

履修上の留意点

プリントを受け取らずに講義を聴いても意味がないので、出席は取らないが、講義に出席して少くともプリントを受け取ることを勧める。また、教科書は薄いものなので、できれば、4～5月中にざっと一通り読んでおいて頂きたい。

成績評価の方法

試験（後期1回のみ）によって判定する。

教科書

厚谷襄児「独占禁止法入門」（日本経済新聞社）

参考書等

教科書として指定しないが、多くの具体的事例を含むものとして、講義でしばしば引用することがあるので、『独禁法審決・判例百選（第五版）』（有斐閣）の購入が望ましい（ただし、必ずしも購入する必要はない）。その他の参考書については、初回の講義の時に簡単に紹介する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
国 際 関 係 論	しほ とう もと こ 首 藤 素 子	二経・二営・短仏	4

講義のねらい

現代の国際関係が抱える課題について、知識と理解を深めることを目的とする。

講義の内容・
授業スケジュール

次のような項目をほぼ3週分の授業を割当てながら進める予定。

1. 国際政治理論の展開
国際政治の冷戦後の新たな視座
2. 冷戦後の大地域主義の生成
3. 地域紛争と安全保障の課題
国連の安全保障分野の機能
地域紛争と地域組織の機能
4. 国連の開発戦略と南北格差の問題
近代化理論の変遷と従属論の影響
世銀・IMFの機能と問題
5. 国際政治と人権保障の制度化
人権保障の法的枠組の展開と課題
人権と人権NGOと国際社会
6. 1970年代以降の経済のグローバル化
政策協調と国際交渉の多様化
Global Governance の課題
7. 経済発展と途上国の政治体制
権威主義的政治体制と民主化の課題
8. 地球環境と国際関係の課題
地球環境問題の現状と政策的対応
「発展の権利」と「持続可能な発展」
人口問題の現状と課題

成績評価の方法

定期試験および課題提出物により評価する。

教 科 書

とくに毎時間使用するというわけではないが、次の文献を入手し、授業に関連する項目を各人で勉強しつつ、授業に出席することを勧める。

細谷千博監修、横山・野林編『国際政治の21世紀像』 有信堂 1997年（第2版） ¥2,987

参 考 書 等

講義の内容ごとに参考文献等を指示する。

科目名	担当者名	配当学科	単位
行政法総論	梅木 崇 <small>うめ き たかし</small>	二経・二営・短仏	4

講義のねらい

(1)行政とはなにか。(2)行政はだれが、だれに対して行うか。(3)行政はどのようにして行われるか。(4)行政によって損害を被った場合、どのように救済されるか。

これらの点について、従来から行われてきた行政法の内容を体系的に講義する。法に関する学問のうち、もっとも理解しにくいとされる行政法であるから、できるかぎり具体的な例を引きながら講義をすすめたい。諸君の将来の希望として公務員になることがあげられるので、そのための資料を提供することにも努める。単位の取得よりも、その将来の目的達成のために必要な、国あるいは地方の公務員試験の問題を頭におきながら講義をすすめる。その際に実際に行なわれた問題〔択一式 公務員試験における行政法の割合は相当におおきい。それも択一式に重点がおかれている〕そのものの検討も、講義の進捗にあわせて、時間が許せば、行ってみたいと思っている。

教科書

教科書としては、原田尚彦、小高剛編『行政法入門』（有斐閣新書 最新版）をもちいる。ただし、公務員試験の対策としては、これでは不足で、原田『行政法要論』（全訂三版）または塩野宏『行政法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ』程度のもは用意する必要がある。

その他

なお、講義を行なうにあたって、講義者の著作も随時参照するつもりである。最近、公務員試験は、国家二種、都道府県、市町村を問わず、相当な難関になっている。それに合格するための知識はどろなわ式では獲得できない。したがって、相当早期から、その準備にかかる必要がある。しかし、そのための方法があり、それを習得すれば成果はあげられるものである。目的をはっきりもって大学生活をおくるべきであるが、公務員試験への合格は、それに値するものである。講義者の経験からいって、努力した者は、必ずといってよいくらい合格し、それぞれの分野で活躍している。ただし、学ぶ気のない者が、成功するわけがない。

科目名	担当者名	配当学科	単位
裁判法	雨宮 眞也 <small>あめ みや まさ や</small>	二経・二営・短仏	4

講義のねらい

主として、わが国の裁判制度について、その組織と運用の実情を理解させることをもって、この講義の目的とします。

裁判とは、社会関係における利害の衝突、紛争を解決し調整する規律を定めるための、法的な権威を有する第三者の判定です。

社会関係の複雑化と国民の権利意識の高まりとに従いがい、現代社会において裁判の果たすべき役割は、年々その比重を増してきています。

裁判制度の現にある姿を明らかにするとともに、そのあるべき姿を求めるため、特に、裁判の本質、裁判の構造、裁判の論理、裁判と法律の解釈、裁判と事実認定、裁判の機能、判例の成立と意義等の諸論点について、重点を置いて講義します。

裁判における裁判官の思考プロセスにも触れ、法的思考の何たるかをも明らかにしたいと考えています。

講義の内容・授業スケジュール

講義は、後掲の教科書に従って進めて行きます。

まず、「総論」として、裁判の本質、裁判の歴史、現代社会のかかえる裁判制度上の諸問題等について講義します。

次に「裁判組織論」として、裁判制度の基本原則、最高裁判所を頂点とする各種裁判所の組織・権限等について講義します。

さらに「裁判作用論」として、裁判の心理過程、裁判の種類と効力、民事・刑事・行政の各種裁判手続等について講義します。

最後に「司法関係諸制度」として、検察、弁護士、公証人等の諸制度につき講義します。

履修上の留意点

教科書を予め読んで、疑問点を把握しておいて下さい。

成績評価の方法

期末試験における論文式テストにより評価します。

教科書

兼子一・竹下守夫著『裁判法』（改訂版）有斐閣

科目名	担当者名	配当学科	単位
法 哲 学	たか 高 はし 橋 ひろ 洋 き 城	二経・二営・短仏	4

講義のねらい

・法哲学は、「法学」の基礎的一分野であると同時に、「哲学」でもある。法制度や法的思考をめぐる基礎理論や根本的諸問題を考察しながら、法と関わりつつ生きる人間という存在者を、どのように把握していけばよいのかという視点を常に持って、一緒に考えてゆきたい。

・法哲学は出来上がった知識の体系ではない。各人が一人一人で考える、その手がかりになるに過ぎない。しかし、一人で内省しているだけでは自ずからその思考の広がりにも限界がある。法と人間・社会の関わりにおいて、どのような問題があり、どのような考え方が提起されているのか、さまざまな議論に触れることで、各自の思考の自由度を広げてもらうことが目標である。

講義の内容・授業スケジュール

まずは現在、法や法的思考をめぐる論じられている様々なトピック、たとえば、法と道徳、正義、強制との関係、権利概念のさまざまな捉え方などを取り上げて検討していくが、その際のやり方としては、できるだけ、現象として現れている具体的な問題の紹介・検討から入り、その根底にある根源的な思考や原理を洗い出し問うていく、という方式をとりたいと考えている。具体的にはたとえば、生命倫理・環境倫理と法、人間の自由と所有権、裁判や法解釈学の意味の検討等を考えている。その中で、法実証主義や自由法論などの法に対する見方、人格や権利に対する様々な哲学的立場などを紹介し、実定法学その他の学習の中でも生かされるような視座の獲得を目標としたい。なお、講義の中では、実定法の議論の参照のみならず、他の人文・社会科学、とりわけ哲学、倫理学、社会学などの知見にもしばしば言及することになるであろう。

成績評価の方法

レポートによって評価（前・後期2回提出）。その他は未定だが、たとえば授業時間内に小論を書いてもらうこともありうる。

教科書

教科書は特に指定しない。ただし講義を補う意味で、何らかの法哲学の概説的著作を手許に置いて常時参照されることを希望する。どのようなものがあるかについては、講義の初期の段階で紹介する。なお、法思想史の背景的知識を前提に話さなければならないことも多いので、できれば法思想史関係の概説書も各自入手し、自学自習に役立ててもらいたい。

参考書等

その他の参考文献については、講義の進行過程でテーマに応じてそのつど紹介する。

その他

「講義のねらい」で述べた通り、法哲学という学においては知識の獲得・整理が目標ではないのだから、講義ならびに概説書だけでなく、こちらから指示する参考文献を含め、様々な著作、思考、問題に自ら直接あたり、自分なりの思索を行うつもりでのぞんで欲しい。

科目名	担当者名	配当学科	単位
倒産処理法	馬越道夫	二経・二営・短仏	4

講義のねらい

倒産処理法とは破産法・和議法・商法上の会社整理清算，特別清算に関する法規・会社更生法など倒産に関する諸法規の総称である。ここに倒産とは債務者が経済的に破綻し債務の弁済が極めて困難になった状況をさす。倒産処理法には主たる目的が異なる二種の法規が存在する。一つは債務者の財産を清算し債権者への平等弁済を図る制度であり（例・破産法），他の一つは債務者の財産を全面的に清算することなく，取引関係を整理し企業の再建を計る制度である（例・会社更生法）。

講義の内容・授業スケジュール

講義のねらいはかかる倒産処理法の特徴をふまえ判例を挙げ具体的に講義したい。
 4月・5月 倒産処理法一般について概説
 6月・7月・9月・10月 破産法
 11月・12月・1月 会社更生法・その他
 授業時間ごとに、その時間の講義の要旨を記載したプリント（レジュメ）を渡します。

履修上の留意点

受講者は民法・民事訴訟法の基礎知識を履修していることが望ましい。

教科書

桜井孝一編 馬越道夫著『演習ノート破産法』法学書院発行 ￥1,800

参考書等

石川明著『破産法』日本評論社発行 ￥2,800

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
アメリカ経営学	みやぎ 城 徹	二経・二法・短仏	4

講義のねらい

世界の経営学をリードしているのは、いうまでもなく、アメリカ経営学とドイツ経営学である。そして、日本の経営学の研究・教育は、第2次大戦前はドイツ経営学から、大戦後はアメリカ経営学から圧倒的な支配的影響を受けて発展してきた。ところが、特に1960年代以降になると、ドイツ経営学にもアメリカ経営学の影響が顕著に見られるようになった。

学生諸君は、必須科目である「経営学概説」や「経営学」などの授業を通じて、無意識のうちに、アメリカとドイツの経営学にかんする基礎知識をある程度身につけていることを前提とした上で、経営学徒のメッカ、アメリカ経営学をその最先端の理論的・経験的研究の基本的成果を踏まえて全般的に講義するが、主として、下記の授業計画の8つの要目について検討する。

講義の内容・授業スケジュール

マイクと板書。教科書は指定しない。

この授業は1週1回90分で年間30週の時間数（ただし、期末試験日を入れて）から成る。最初の授業時間は、この科目を選択するか否かを判断するために下見に来ている学生諸君に、アメリカ経営学の1年間の授業の概要を説明する。原則として、下記の授業計画の要目をそれぞれカッコン内の授業回数（合計29回）で完結する予定である。

なお、この授業回数は一応の目安であり、授業時間が祝祭日に当る場合は授業の進展状況によって若干変更することがある。

1998年度『アメリカ経営学』授業計画

- I 1年間の授業の概要(1)
- II 経営学の対象と方法(2)
- III 意思決定と権力（パワー）(8)
- IV 戦略（特に提携、グループ、ファミリー）(4)
- V コンティンジェンシー理論(4)
- VI 取引コスト理論(6)
- VII プロパティ・ライツ理論(2)
- VIII プリンシパル・エージェント理論(2)

成績評価の方法

期末筆記試験。なお、学生諸君の理解度と教育効果を確かめるために、期末試験以外に、小試験をおこない、その結果を評価の対象に加味することがある。

《期末試験の出題形式》

複数の問題から1題選択して論述する。詳細は試験前の授業で説明する。

参 考 書 等

- 1 宮城徹『企業の政治理論序説』（税務経理協会）1983、1997
- 2 宮城徹「企業制度とプロパティ・ライツ理論」『商学研究科紀要』（早大、第20号）1985
- 3 宮城徹「情報と企業経営の理論的諸問題」日本経営学会編『情報化の進展と企業経営』（千倉書房）1987
- 4 宮城徹「経営者論」鈴木英寿編『経営学総論』（第2版）（成文堂）1989、1998
- 5 宮城徹「経営学の歴史」藤芳誠一編『新版・新時代の経営学』（学文社）1993

ここでは紙幅の関係で上記の授業内容に直接関連のある私の著書・論文だけを参考文献の一部として掲げておいたが、その他の文献については適宜紹介してゆく。

科目名	担当者名	配当学科	単位
経営財務論	たか だ みつ あき 高 田 光 明	二法・短仏	4

講義のねらい

〔財務の意味〕

経営財務は、企業という組織体の財務を研究する学問分野である。企業は、社会が必要とする財貨やサービスを生産し販売するという活動を営む報酬として、利益を獲得しようとする組織体である。このような活動では、機械、建物、原材料などの財貨が必要となるし、労働力も不可欠である。企業は、その活動を営むに際し、これらの財貨を取得しなければならないし、働き手も雇用しなければならないわけであり、そのために元手となる資本を必要とする。

この元手としての資本を集めることを、資本の調達という。そして、現金の状態では通常は調達する資本で、企業は、上記の財貨や労働力などを取得し、これらの生産要素により、新たな財貨やサービスを生産して販売するという営業活動を遂行し、その結果として資本が自己増殖することを目指す。このことが資本の運用であり、企業の営業活動を通じた資本の自己増殖分が利益である。企業の財務とは、現在では、企業による以上のような資本の調達と運用をいっている。

〔資本調達の位置〕

企業が資本を調達するのは、調達資本をできるだけ効率的に運用して自己増殖させ、利益を生み出すためである。その意味では、資本の運用あつての調達であるといつてよい。しかしながら、企業は、用途に合った種類の資本を、必要とする額だけ必要ときに調達できなければ、資本の運用を意図したように行い難くなる。資本運用の効率性は、企業が、資本の運用に合わせた調達をいかに行えるかに制約される。資本の運用がうまくいくかどうかの出発点は、資本をどのように調達するかにあるといえる。

資本の調達問題は、経営財務において、依然として重要な位置を占めていることに変わりがない。資本の運用あつての調達であるからといつて、そのことは、資本の調達面の意義が小さくなることをけつして意味してはいないのである。この授業では、以上のような問題意識のもとで、資本の調達を中心に、必要に応じて資本の運用面と関連させながら講義するつもりである。

講義の内容・授業スケジュール

基礎知識を体系的に理解し、この学問の基本的考え方を身に付けられるようにするために、まず基礎的・総論的事項について次の順番で講義していく。

1. 経営財務の領域
2. 資本と資産
3. 資本の分類
4. 資本の運用形態
5. 流動・固定分類法の重要性
6. 資金

履修上の留意点

経営財務論を理解する上で必要となる最小限の会計的知識も授業では説明する。しかし、簿記学と会計学を前もって履修してあることが望ましい。

教科書

中原章吉編著『経営財務と管理会計』（中央経済社）

参考書等

染谷恭次郎著『資金計画の手引き』（日経文庫）

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
経 営 組 織 論	なが 長 瀬 かつ 勝 ひこ 彦	二経・二法・短仏	4

講義のねらい

この講義で論じるのは、第1に企業組織がどのように構成されているのか、第2に環境の中でどのように運動しているのか、第3に個人や小集団が組織とどのように関わっているのかである。組織というものには形があるわけでもなければ色が付いているわけでもない、目に見えない存在である。それなのに私たちは会社がどうだとか学校がどうしたとか当然のように会話を交わしているし、社会では「法人」として人間並みの位置づけをされている部分もある。天然資源から自動車やコンピュータをつくったり、巨大ビルや橋を建築することは個人では何百年かかってもできないが、組織はやってのける。企業組織の活動によって生活が豊かで便利になることは否定しようがない。しかし一方で自然環境を破壊して私たちの生活を脅かすという側面も併せ持っているのである。また、人間は組織の中で高く評価されるとうれしく思うし、「会社人間」といわれるように組織と一体化する人もいる。組織の側も構成員に対していろいろ便益を与えてくれるが、景気が悪くなると手のひらを返したように嫌がらせをしたり、さらには退職を迫ったりする。こんなにも社会にも個人の心にも大きなプレゼンスを示す経営組織について、じっくり考えてみようではないか。

授業の展開としては、抽象的な理論や学説の紹介は程々に留め、現代の組織が直面している問題をなるべく多く取り上げて議論していく。

講義の内容・授業スケジュール

取り上げる予定の主な項目は以下の通りである。ただし授業の回数と項目番号は一致しない。

1. 企業組織の階層（トップ、ミドルなど）
2. 企業組織の部門化（単純な部門化、時間帯による部門化、地域別部門化、職能別部門化、事業部制組織、マトリクス組織など）
3. 新規事業開発と組織内組織（社内ベンチャー、プロジェクトチームなど）
4. 事業の国際化と組織
5. ラインとスタッフ
6. コンティンジェンシー理論（機械的組織と有機的組織など）
7. 組織文化と組織開発
8. 組織と戦略
9. 組織のリストラクチャリング（本社のスリム化、分社化、アウトソーシングなど）
10. 新しい人事・処遇制度（専門職制度、職能資格制度、役職定年制度、年俸制度、出向制度など）
11. 情報化と組織（航空会社のコンピュータ予約システムなど）
12. 企業間関係（企業集団と系列、ネットワーク組織、戦略提携など）
13. 個人と組織（モチベーション理論、規範と同調など）

履修上の留意点

私語等授業の妨げになる行為は厳禁する。また、授業時間内にレポート作成を課すことがあるが、その場合は遅刻者は教室に入室できない。禁止行為は厳正に対処され、またそれは最終的な成績評価や単位認定にも当然反映されるので注意すること。

成績評価の方法

成績評価は基本的に定期試験による。不定期に実施する授業時間内レポートの評価点をそれに加える。いわゆる出席点はつけない。

教科書

講義を通じての教科書は使用しない。

参考書等

各分野の参考図書を随時紹介する。
高橋伸夫編著『組織文化の経営学』中央経済社 その他

その他

講義においては受講者諸君にできるだけ頭を使ってもらうために発言を促すことがあるので、積極的な参加を希望する。また適宜ビデオ教材を使用するので、教場変更に注意すること。

科目名	担当者名	配当学科	単位
管理会計論	さる 猿 やま 山 よし 義 ひろ 広	二法・短仏	4

講義のねらい

この講義では、すでに「簿記学」の単位を修得していることを前提として、企業における管理会計の基本思考と計算体系を学びます。なお、講義における重点項目は、次の3つです。

- ① 近年の日商簿記検定における「工業簿記」「原価計算」の出題傾向として、管理会計的な問題が増加しつつあり、この傾向は今後も続くと思われるので、その対策。
- ② 従来の管理会計論ではあまり深く検討されてこなかったマーケティング管理会計やゼロベース予算についての解説。
- ③ 最近の管理会計手法である活動基準原価計算（Activity-Based Costing: ABC）の解説。

講義の内容・授業スケジュール

- I 管理会計の体系
- II 管理会計における原価概念と利益概念
 1. 原価態様
 2. 全部原価計算と直接原価計算
 3. 分権管理のための原価概念と利益概念
- III 利益計画
 1. 利益計画の手続
 2. 損益分岐点分析とCVP分析
 3. 短期利益計画のための価格分析
 4. 短期利益計画のための営業費分析
 5. 長期利益計画
- IV 原価管理
 1. 標準原価計算
 2. 原価企画
 3. 活動基準原価計算
- V 予算管理
 1. 予算の機能
 2. 予算の体系
 3. 予算編成の手続
 4. 参加型予算とゼロベース予算
 5. 資本予算

履修上の留意点

「管理会計論」は計算科目なので、かならず電卓を持参すること。

成績評価の方法

以下のような課題による夏休み中のレポートと期末試験によって評価します。

- ① レポートの課題
「短期利益計画の枠組みを用いて、価格プロモーションと広告プロモーションそれぞれの限界を指摘しなさい。」
- ② 期末試験
 - 問題1 「変動予算による製造間接費の差異分析」（計算問題）
 - 問題2 「管理会計における長期的思考について」（論述問題）

教科書

適宜、プリント配布します。

参考書等

より体系的に勉強したいという人のためには、櫻井通晴著『管理会計』（同文館）。
計算問題については、日商簿記検定の「工業簿記」「原価計算」のテキスト。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
日 本 経 済 論	は とり しげる 羽 鳥 茂	二 法 ・ 短 仏	4

講義のねらい

日本経済の現状と将来展望をさまざまな角度から明らかにし、課題とその対策について考えてみたい。オーソドックスな日本経済論の枠を超えた新しい研究領域についてもわかり易く紹介したいと思っている。

講義の内容・
授業スケジュール

- (i) 日本経済の全体像
- (ii) 戦後日本の経済成長
- (iii) 戦後日本の景気循環
- (iv) 日本経済のストック化
- (v) 雇用の変動と日本的雇用慣行
- (vi) 企業経営と産業組織
- (vii) 日本の企業システムを考える
- (viii) 円レートの変動と日本経済
- (ix) 経常収支と貿易の動向
- (x) 公的年金と社会保障を考える
- (xi) 日本版ビッグ・バンを考える
- (xii) 地球環境問題の経済学

履修上の留意点

講義は各テーマごとに1～3回程度を予定しているが、下記の教科書を予習して授業に出席することを望む。

成績評価の方法

成績評価は、学年末の定期試験で行う。

教 科 書

小峰隆夫『最新日本経済入門』 日本評論社 1997年

参 考 書 等

参考書等については開講時に指示し、適時に資料をコピーして配布することで授業内容の理解を深められるようにする。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
インド仏教史	いけ だ みち ひろ 池 田 道 浩	二経・二営	4

講義のねらい

インド仏教の展開を理解し、また、いつの時代にも、どの地域においても、仏教に対して多くの異なった見解が存在し、論争が行われていたことを理解する。

講義の内容・授業スケジュール

インド仏教のおおまかな思想史について考察する。特に中観派と瑜伽行派との論争については、実際にいくつかの文献を講読していきたい。

成績評価の方法

受講者多数の場合、学年末の試験あるいはレポートによって評価する。

教 科 書

高橋直道『仏教入門』（東京大学出版会）

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
日本仏教史	はかま や のり あき 袴 谷 憲 昭	二経・二営	4

講義のねらい

この授業は、日本において、インド伝来で中央アジアや中国や朝鮮を経由して将来された外来思想としての仏教が、いかに展開し定着したかを、通史的に辿っていく一方で、仏教と一括されるものの中に生じた全く異質な相対立する二つの流れの相違を明確に押えていこうとするものである。後者の検討のために、本年度は特に貞慶の『興福寺奏状』を取り上げて講読してみたい。

講義の内容・授業スケジュール

授業は、以上の目的を実現するために、通史的な講義と上記テキストの講読を並行して進めていくことになるが、できれば、後者により大きなウエイトを置きたいと思っている。

履修上の留意点

参加人数の大小に大きく左右される面があるので、確定的なことは言えないが、できれば、演習形式の講読の割合を多くしたいと考えている。参加者はその点を念頭に意欲をもって授業に臨んでもらいたい。

成績評価の方法

できればレポートによって評価したいと願っている。

教 科 書

講義は、末木文美士『日本仏教史－思想史としてのアプローチ－』（新潮文庫、560円）をテキストとし、講読は、貞慶『興福寺奏状』（岩波書店、日本思想大系15、『鎌倉旧仏教』所収、田中久夫校注）をテキストとする。前者は自分で購入すること。後者は、入手困難なものには、コピーして配布する。

参 考 書 等

必要な参考書等の研究文献は適宜教場にて指示する。

そ の 他

授業方法は、上述したごとく、講読を主に進めたいと思っているので、出欠はとらないが、できるだけ継続して参加してもらいたい。

科目名	担当者名	配当学科	単位
中国禅宗史	須山長治	二経・二営	4

講義のねらい	六祖恵能以降の禅思想史の流れを概観する。恵能寂後、禅宗は南北両派に分かれたといわれるが、江西馬祖や湖南の石頭には南北両派の問題を語る内容は見られない。特に馬祖の禅思想は中国禅のかなめとなり、次世代の禅思想に大きな影響を与えた。馬祖の時代とそれに続く禅僧たちの「示衆」や「問答」をそれぞれ点検しながら、中国禅宗史の本質的問題点を調べていきたい。
講義の内容・授業スケジュール	『四家語録』を中心として馬祖以降の中国禅宗史を考えていく。本年度は特に黄檗希運の『伝心法要』を中心に、中国禅の思想面を考察し、禅思想の理論的な部分を読み取っていききたい。また、様々な禅問答を紹介し、それらがどういう場面や状況下でなされたのかも考察していきたい。
成績評価の方法	出席を重視し、試験は論文記述方式で行う。
教科書	プリントを配布する。
参考書等	『四家語録』（中文出版）、『景德伝灯録』（真善美社）、『祖堂集』（中文出版）、『伝心法要』（禅文化研究所）

科目名	担当者名	配当学科	単位
日本禅宗史	角田泰隆	二経・二営	4

講義のねらい	禅宗という宗派はないが、坐禅および禅定を主たる実践とする教えの流れを汲む宗派を禅宗と呼び、一般的には曹洞宗・臨済宗・黄檗宗の総称として禅宗と呼んでいる。本科目は、日本の禅宗の歴史について概説する。
講義の内容・授業スケジュール	日本の禅宗の歴史についての研究をするものであるが、その基礎知識として、まず、禅とは何かについて、インドや中国における禅の仏教史における位置と思想について、概説したい。そのうち教科書（第三部禅宗の歴史－日本篇）によりながら、日本の禅宗の歴史を講義してゆく。
成績評価の方法	定期試験の筆記試験の成績によって評価する。ただし、原則として所定の授業時間数の3分の2以上授業に出席しなかった者は、筆記試験の成績の如何に関わらず単位は認定されない。
教科書	駒澤大学仏教学研究室編『宗教学Ⅱ』（更生社）¥2,370
参考書等	授業において紹介する。

科目名	担当者名	配当学科	単位
仏教と文化	おくの野みつよし 奥野光賢	二経・二宮	4

講義のねらい

あまたある仏典の中には、文学性に富んだ譬喩や説話が数多く見られる。本講義では、そうした譬喩や説話を取り上げ、それらの仏典が人々に何を伝えたかったのかを考察したい。

講義の内容・授業スケジュール

本年度は『大智度論』を中心にさまざまな『本生譚』を取り上げ、仏教が目指そうとしたもの、後世の文化に与えた影響などを考える。

履修上の留意点

授業はプリントを配布して進める。欠席によるプリントの再配布は原則として行わないので注意されたい。

成績評価の方法

出席の状況も考慮しながら、学年末の試験によって評価する。

教科書

特に指定せず、プリントを配布する。

参考書等

授業において適宜指示する。

科目名	担当者名	配当学科	単位
書道	のむらよしひろ 野村宙弘	二経・二宮	4

講義のねらい

王羲之の蘭亭序をはじめ、各種古典の臨書による、実技の指導を行う。

履修上の留意点

書道実技の為、墨、硯、筆、文鎮、下敷、半紙等の文房四宝の用意が必要。
(正しい用筆法、正しい墨のすり方等、初歩的な基礎勉強の指導と、かんたんな書道史の説明を行う)

教科書

王羲之『蘭亭序』(清雅堂) ¥360

3 仏教学部開設科目

3 仏教学部開設科目

パ ー リ 語 初 級 (片 山 一 良)	仏他 33
サ ン ス ク リ ッ ト 語 初 級 (金 沢 篤)	仏他 33
チ ベ ッ ト 語 初 級 (松 本 史 朗)	仏他 34
仏 教 美 術 (中 島 亮 一)	仏他 34
詩 偈 (山 口 晴 通)	仏他 35
原 始 仏 教 (片 山 一 良)	仏他 35
宗 教 史 (長 谷 部 八 朗)	仏他 36
イ ン ド 仏 教 文 化 史 (奈 良 康 明)	仏他 37
浄 土 学 概 論 (廣 川 堯 敏)	仏他 38
真 宗 学 概 論 (休 講)		
真 言 学 概 論 (向 井 隆 健)	仏他 38
日 蓮 教 学 概 論 (休 講)		

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
パ ー リ 語 初 級	かた やま いち ろう 片 山 一 良	短 仏 1・2 選	4

講義のねらい

パーリ語は、原始仏教を学ぶ者にとって不可欠な「聖典語」である。本講は、パーリ語文法の確実な習得につとめ、原始仏典の正しい読解をめざすものである。

講義の内容・
授業スケジュール

前期は、文法全体について講義し、後半は、『箭喩経』(Cula-Malunkya-sutta)を直接に読みたいと思う。

履修上の留意点

習得に丁寧であることが望まれる。

成績評価の方法

成績評価は、レポート(夏期)および年度末テストによる。

教 科 書

テキストはコピーにて配布する。

参 考 書 等

水野弘元『パーリ語辞典』(春秋社)

そ の 他

随時、テープ等を使用する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
サ ン ス ク リ ッ ト 語 初 級	かな ざわ あつし 金 沢 篤	短 仏 1・2 選	4

講義のねらい

仏教などインド起源の宗教・哲学や文化・歴史を本格的に学ぶために不可欠の語学であるサンスクリット語の入門。

講義の内容・
授業スケジュール

定評ある以下の初等文法書に沿って、サンスクリット語の特徴・概要を知ると共に、適宜練習問題などをふんだんに実習して、サンスクリット文解読のための実際の・基礎的な力を養う。

履修上の留意点

予習・復習を怠らず、常に主体的・積極的に授業に参加することが望ましい。

成績評価の方法

平常点と期末・年度末の筆記試験。

教 科 書

J・ゴンダ著『サンスクリット語初等文法』(春秋社)

参 考 書 等

辻直四郎著『サンスクリット文法』(岩波書店)

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
チベット語初級	まつもと しろう 松 本 史 朗	短仏1・2選	4

講義のねらい

チベット語は、仏教思想の研究には不可欠な言語である。何故ならば、チベット語に訳された仏典、及び、チベット人仏教者が著した仏典を学ぶことがなければ、インド仏教の思想的研究は不可能であると、今日では考えられているからである。本講義のねらいは、このような仏教研究の目的のために、チベット語の文法を習得してもらうことである。

講義の内容・授業スケジュール

講義のスケジュールは、教科書に従い、チベット文字の習得から、名詞・形容詞・副詞・動詞・助詞・助動詞への説明へと進み、最後に、簡単な読みもの（チベット人の著作）を読んで、文法的知識を確実なものとする。

履修上の留意点

チベット文字を習得するまで、困難ではあるが、頑張ってもらいたい。

成績評価の方法

年度末の試験により、成績を評価する。

教 科 書

開講日初日に指示するので、必ず出席すること。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
仏 教 美 術	なかじま りょういち 中 島 亮 一	短仏1・2選	4

講義のねらい

アジアにおける仏教美術の発生、伝播、現状までを、インド・中国（朝鮮も含む）・日本の三ブロックに分け、それぞれの民族・信仰の相関関係を分析し、様式史（図像・技法など）、精神史（信仰思想など）の両面から考察する。

講義の内容・授業スケジュール

先ずインドにおける釈尊なきあとの仏塔崇拝から仏像の起源をさぐり、石窟芸術の発生からシルクロードを経て中国での受容、変遷を辿り、中国から日本への直接、間接（朝鮮）の伝来の跡をスライド、資料などで観察する。それぞれの建築・彫刻・絵画・工芸の様式、信仰内容を多角的に考察するとともに、仏教美術衰退の原因も考える。

履修上の留意点

この講義は専門的に進めれば敬遠され、さりとて安易に流せば軽蔑されがちなので、各自自分のレベルに合わせて、予習、復習に努めてほしい。

成績評価の方法

スライド上映の度に感想文を求め、理解度を確認すると共に、平常点として加算する。

教 科 書

佐和隆研編『仏像案内』吉川弘文館 1,900円

参 考 書 等

適宜指示する。

科目名	担当者名	配当学科	単位
詩 偈	やまぐち はるみち 山口 晴 通	短仏1・2選	4

講義のねらい

中国および日本の漢詩は、我々の精神生活において、はかり知れないほどの、大きな影響を与えている。

ことに禅門にあっては、出家在家を問わず、参禅修行における心情吐露の表現方法として、また、禅門の教義宣揚の方法として、活用されているのである。

この意味において、古来より現代に至るまでの、漢詩と偈頌を概観することは、現在及び将来にわたって、大きな意義が存することと思う。

講義の内容・授業スケジュール

漢詩と偈頌を鑑賞しながら、除々に初歩的な作詩法の学習へと展開する。たとえ一詩でも自分が実際に作ってみると、他人の作った詩をみる眼が違ってくるものである。坐禅と同様に実践することが大切である。詩禅一如とも言われる所以がそこにある。

履修上の留意点

授業中、時には質疑応答を交わしながら進展させる。したがって学生諸君には、積極的に自らの意旨を標示し、学習効果を高めるよう努力して欲しい。

成績評価の方法

諸君の学習態度如何により、成績は自ずから評価されるものである。

教科書

山口晴通著『詩偈指南』（曹洞宗宗務庁） 1,000円

参考書等

漢詩や偈頌を学習するには、漢和辞典は必須のものである。その種類については、授業当初に指示説明する。勿論、己に漢和辞典を所有している学生は、当日、持参してみるとよい。

その他

「詩は志なり」とは古来から言われていることである。志のある学生諸君と共に、研鑽していく所存である。

科目名	担当者名	配当学科	単位
原始仏教	かた やま いち ろう 片 山 一 良	短仏1・2選	4

講義のねらい

仏教の源泉を原始仏教という。大乘であれ小乗であれ、そのすべては後代の呼び名に過ぎず、いずれの考えも原始仏教から出発している。釈尊が示されたものは、縁起、四諦の教え、あるいは無常・苦・無我という三相の見方であった。戒律を保ちまもることに始まり、少欲知足の生活をつねに教え導かれた。そこには智慧と慈悲の教えがあるのみで、何ら飾りは見られない。

本講義では、このような原始仏教の教えを具体的に示し、またこの教えを通して「仏教」とは何かを考えたい。

講義の内容・授業スケジュール

前期は、仏伝を紹介し、縁起・四諦などの基本的思想について、後期は、中道ないし戒律の実践について見ることにする。

履修上の留意点

受講生は、まず、従来の「仏教」に対する先入見を排除し、原始仏典を直接読むことが望ましい。

成績評価の方法

成績評価は、レポート（夏期）および年度末テストによる。

教科書

テキストはとくに使用しない。

参考書等

参考資料は適宜指示する。

その他

随時、資料プリントを配布する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
宗 教 史	はせべ 八 郎 長谷部 八 郎	短 仏 1・2 選	4

講義のねらい

本講義では、仏教を中心に日本宗教史の概説を行う予定である。

講義の内容・
授業スケジュール

前期は古代、中世を、後期には近世、近代を扱う計画である。古代では、とくに天台宗、真言宗の展開に焦点を当てる。中世は、鎌倉仏教、神道流派の形成に着目する。また、修験道から本山派、当山派が興り、組織化を進めたことにも触れたい。近世では、徳川幕府の宗教政策との関連で、諸宗教が歩んだ道を、とりわけ一向宗や日蓮宗不受不施派、隠れキリシタンなどの禁圧された宗教に注目しつつある。また、修験系や法華系の講社が多数出現した社会的背景を探る。そして、近代においては、神仏分離、廃仏毀釈の打撃から仏教がどのように復興していったかをみる。また、新宗教の歴史にも言及したい。

成績評価の方法

未定である。なお、授業時に1、2回小論文を書いてもらい、評価に加算することも考えている。

教 科 書

教科書は用いない。板書を中心に進めるので、ノートの充実を望む。

参 考 書 等

参考書は、授業時に必要に応じて紹介する予定である。

科目名	担当者名	配当学科	単位
インド仏教文化史	な ら やす あき 奈 良 康 明	短仏1・2選	4

講義のねらい

インド仏教を「教理」としてではなく、「文化」としてとらえて、検討したい。ここに「文化」とは生活様式、行動様式としての文化であり、「仏教徒」という社会を構成する人々（出家修行者および在家信者を含む）が、事実として、何を考え、どのように生活していたかをさぐる。したがって、悟りのレベルにある修行や教理、悟りに基づく倫理的生き方などは、無論、仏教である。同時に、功徳を積んで良き後生を願う観念や行動、六道輪廻の理解、通過儀礼、祖先崇拝、呪術、祈願儀礼、占星等も仏教徒の生活「文化」である。両者は宗教的レベルと機能を異にするが故に、相互補完の形で共存し、その共存のあり方が興味ある研究対象である。又、インド仏教（徒）はそれを生み、育てたヒンドゥー世界とどうかかわり、如何に位置づけられるか、も興味ある研究テーマである。資料は梵語、パーリ（そして漢訳）語の経・律典と碑文、考古学的遺品等が中心となる。文献学的操作を経て得られた結果は、当時の仏教徒の現実の生活文化と、教理が主張するところとは大きなギャップのあることを示しているし、この構造は中国、韓国、日本ないし東南アジアのテラヴァーダの仏教文化でも同様である。そして、このギャップこそが仏教（宗教）教団の社会への定着・発展のダイナミズムとしてとらえられるべきものである。

以上の問題意識のもとに平成10年度は、おおよそ次のテーマにしたがって講義したい。

講義の内容・授業スケジュール

1. 仏教を「文化」としてとらえるとはどういうことか
「仏教」をどうとらえるか
「文化」とは何か；
仏教（宗教）の二つのレベル；「世間」（自我充足）と出世間（自己凝視）
仏教文化の「表層」と「基層」
仏教文化研究の方法論；M. Spiro, M. Ames, 他
2. 古代インドにおける仏教文化とヒンドゥー文化
民族宗教としてのヒンドゥー教（世界）
ヒンドゥー教の特徴：神観念・宗派・特定の教義のないこと・ダルマ
カースト・ヴァルナ制度と仏教
古代インドの仏教徒とヒンドゥー教徒の関係（特にカーストをめぐる）
3. 仏教文化における業・輪廻思想の意味
古代インドにおける業・輪廻思想の成立
業思想の構造と機能（含む 死後世界の構造と機能）
一般的業論の「自覚的業論」への昇華
懺悔の思想と実践
業と果報の関係
業の止滅と改変
4. 功徳観念の文化史的発展
善業と功徳（punya）・悪業と悪徳（papa）
「作功徳→生天」の図式の倫理的・宗教的意味
功徳観念の「出世間レベル」への関係付けないし昇華
功徳の廻向（adesana）と廻向（parinamana）
死者儀礼・祖先崇拝儀礼における功徳観念
「生天」観念の発展と解脱の関係
5. 「餓鬼」（preta）研究
ヒンドゥー教におけるブレータと祖霊祭
古代インド仏典にみる「餓鬼世界」の住人としての餓鬼
古代インド仏典にみる死者儀礼と関わる餓鬼
『ベータヴァットゥ』『ヴィマーナヴァットゥ』における餓鬼供養の構造と意味
テラヴァーダ仏教における餓鬼観念の変遷と儀礼
中国、日本における餓鬼供養の構造と変遷

科目名	担当者名	配当学科	単 位
浄土学概論	ひろ かわ たか とし 廣 川 堯 敏	短仏1・2選	4

講義のねらい

従来の伝統的立場からではなく、新たな比較思想論の視点から、法然浄土教に光をあてて、その教学上の諸問題を解明したい。

講義の内容・授業スケジュール

まず法然房源空の生涯とその著作解題、および浄土宗二祖聖光・三祖良忠の伝記について概論的な説明をした上で、法然における宗教心の開発と発展・人間観・神秘体験・阿弥陀物観・自力他力論・選択思想・念仏の現代的意義・罪悪観・浄土教倫理等の諸問題について順次講述したい。

履修上の留意点

法然の伝記について基礎的な知識を持った上で受講すること。

成績評価の方法

レポート、出席点、受講態度等を総合して判定する。

教科書

毎回プリントを用意する。

参考書等

諸戸素純『法然上人の現代的理解』S.39 (知恩院浄土宗学研究所)、高橋弘次『法然浄土教の諸問題』H.6、再刊(山喜房)、藤本浄彦『法然浄土教思想論攷』S.63 (平楽寺書店)、田村円澄『法然』S.34 (吉川弘文館)

科目名	担当者名	配当学科	単 位
真言学概論	むか い りゅう けん 向 井 隆 健	短仏1・2選	4

講義のねらい

平安時代の仏教の巨匠・真言宗の祖師である弘法大師空海が展開した教義を学ぶ。

講義の内容・授業スケジュール

テキストにそって進むが要点は次の通りである。宗名、秘密、本宗の聖典、顕教と密教、十住心の大要、三大、本宗の教主、曼荼羅、五智、四種法身、発菩提心、持戒、灌頂、即身成仏、護摩、祈り等である。

履修上の留意点

授業時に指示する。その他もみよ。

成績評価の方法

授業に7割以上出席した者で、授業態度良好かつ試験等に合格したものに単位を認める。

教科書

新仏教綱要第一巻『真言宗綱要』(真言宗豊山派宗務所) 1,900円

参考書等

必要に応じて指示する。

その他

授業の方法は講義形式であるが、朗読してもらうので予習してくることを望む。